（様式４）

一般社団法人　薬学教育評価機構

（　調　書　）

薬学教育評価　基礎資料

（平成２６年５月１日現在）

兵庫医療大学薬学部

薬学教育評価　基礎資料

（目次）

	資料概要	ページ
基礎資料１	学年別授業科目	1
基礎資料２	修学状況（在籍学生数・休学退学者数・学士課程修了状況）	8
基礎資料３	薬学教育モデル・コアカリキュラム等のＳＢＯs に該当する科目	11
基礎資料４	カリキュラムマップ	60
基礎資料５	語学教育の要素	62
基礎資料６	４年次の実務実習事前学習スケジュール	63
基礎資料７	学生受入状況について	71
基礎資料８	教員・事務職員数	72
基礎資料９	専任教員年齢構成	73
基礎資料10	専任教員の担当授業科目および時間数	74
基礎資料11	卒業研究の配属状況	84
基礎資料12	講義室等の数と面積	85
基礎資料13	学生閲覧室等の規模	86
基礎資料14	図書、資料の所蔵数及び受け入れ状況	87
基礎資料15	専任教員の教育・研究業績	88

（基礎資料１－１）学年別授業科目

	1　年　次								
	科目名	前期・後期	1クラスあたりの人数	開講クラス数	履修者数	授業方法			単位数
教養教育・語学教育	医療概論	前期	163	1	163	コ			1
	化学入門	前期	159	1	159	コ			2
	（選）韓国語a、d、e、f	前期・後期	15～20	4	69	コ			2
	基礎英語A～K	前期	13～15	11	159	コ			2
	（選）教育学	前期	72	1	72	コ			2
	（選）芸術学	前期	31	1	31	コ			2
	健康スポーツ科学Iα、β	前期	80	2	160	コ	技		1
	（選）社会学	前期	45	1	45	コ			2
	（選）心理学	前期	96	1	96	コ			2
	数理科学入門	前期	162	1	162	コ			2
	生物学入門AB、CD	前期	80～81	2	161	コ			2
	（選）中国語a、d、e、f	前期・後期	11～28	4	94	演			2
	（選）哲学	前期	20	1	20	コ			2
	（選）人間発達学	前期	60	1	60	コ			2
	英語会話A～K	後期	13～18	11	163	コ			2
	化学	後期	159	1	159	コ			2
	健康スポーツ科学II（理論を含む）γ、δ	後期	79～81	2	160	コ	技		1
	生物学	後期	160	1	160	コ			2
	生命・医療倫理学	後期	159	1	159	コ			2
	（選）統計学	後期	21	1	21	コ			2
	物理学	後期	176	1	176	コ			2
	（選）法学（日本国憲法を含む）	後期	9	1	9	コ			2
	（選）臨床心理学（カウンセリング論を含む）	後期	13	1	13	コ			2
薬学専門教育	薬学入門	前期	159	1	159	コ	演	実	1
	漢方医学入門	後期	159	1	159	コ			1
	生物化学I　（物質生化学）	後期	176	1	176	コ			2
	生理化学I　（細胞生理学）	後期	170	1	170	コ			1
	物理化学I（熱力学）	後期	187	1	187	コ			2
	無機・錯体化学	後期	161	1	161	コ			1
	有機化学I　（基礎とアルカン等）	後期	175	1	175	コ			2
実習	早期臨床体験実習	前期	165	1	165	実			1
演習	アカデミックリテラシー	前期	160	1	160	演			2
	計算演習AB、CD	前期	81	2	162	演			1
	科学計算演習	後期	159	1	159	演	コ		1
単位数の合計						（必須科目）			36
						（選択科目）			22
						合計			58

（凡例）
講義＝コ　PBL/SGD＝S　演習＝演
実習＝実　実技＝技

［注］
1　教養教育・語学教育は、基本的に履修者がいる科目について記入してください。
2　上記の「科目の識別」にそって、該当する科目に「色」を付してください。

ヒューマニズム教育・医療倫理教育
教養教育科目
語学教育科目
医療安全教育科目
生涯学習の意欲醸成科目
コミュニケーション能力および自己表現能力を身につけるための科目

3　選択科目については、頭に「(択)」と記してください。
4　実習は１組（実習グループ）の人数を記入してください。
5　表には下の「授業方法」にそって、主な方法を最大３種類まで記入してください。下記の２つ以外は、大学独自で凡例を設定して作成してください。
「授業方法」の表記：講義＝コ、　PBL/SGD＝S
6　行は適宜加除し、記入してください。

（基礎資料１－２）学年別授業科目

	２　年　次								
	科目名	前期・後期	１クラスあたりの人数	開講クラス数	履修者数	授業方法			単位数
教養教育・語学教育	（選）科学英語	前期	9	1	9	演			2
	医療コミュニケーション	通年	156	1	156	コ	体験学習		1
	（選）応用英語	後期	1	1	1	コ			2
薬学専門教育	衛生化学I （環境衛生学）	前期	162	1	162	コ			2
	生物化学II （分子生物学）	前期	169	1	169	コ			2
	生理化学II （造血器系等の生理学）AB、CD	前期	80～90	2	170	コ			2
	微生物学	前期	156	1	156	コ			2
	物理化学II （物質の変化）AB、CD	前期	90～97	2	187	コ			2
	分析化学I （基礎と理論）	前期	155	1	155	コ			2
	薬用資源学AB、CD	前期	89～90	2	179	コ			2
	有機化学II （芳香族化合物等）AB、CD	前期	96～104	2	200	コ			2
	衛生化学II （栄養・食品衛生学）	後期	172	1	172	コ			2
	公衆衛生学	後期	179	1	179	コ			2
	生物化学III （代謝生化学）	後期	194	1	194	コ			2
	病原微生物学	後期	189	1	189	コ			2
	物理化学III （物質の構造）	後期	191	1	191	コ			2
	分析化学II （応用）	後期	169	1	169	コ			2
	免疫学I （基礎と理論）	後期	186	1	186	コ			2
	有機化学III （アミン等）	後期	210	1	210	コ			2
実習	物理化学実習AB、CD	前期	72～83	2	155	実			1.5
	分析化学実習AB、CD	前期	72～83	2	155	実			1.5
	生物薬学実習AB、CD	後期	73～83	2	156	実			1.5
	有機化学実習AB、CD	後期	73～83	2	156	実			1.5
演習	チーム医療概論	後期	164	1	164	演			1
単位数の合計						（必須科目）			40
						（選択科目）			4
						合計			44

（凡例）
講義＝コ　PBL/SGD＝S　演習＝演
実習＝実　実技＝技

［注］
1　教養教育・語学教育は、基本的に履修者がいる科目について記入してください。
2　上記の「科目の識別」にそって、該当する科目に「色」を付してください。

ヒューマニズム教育・医療倫理教育
教養教育科目
語学教育科目
医療安全教育科目
生涯学習の意欲醸成科目
コミュニケーション能力および自己表現能力を身につけるための科目

3　選択科目については、頭に「(択)」と記してください。
4　実習は１組（実習グループ）の人数を記入してください。
5　表には下の「授業方法」にそって、主な方法を最大３種類まで記入してください。下記の２つ以外は、大学独自で凡例を設定して作成してください。
「授業方法」の表記：講義＝コ、　PBL/SGD＝S
6　行は適宜加除し、記入してください。

（基礎資料１－３）学年別授業科目

	３　年　次								
	科目名	前期・後期	１クラスあたりの人数	開講クラス数	履修者数	授業方法			単位数
教養教育・語学教育	看護論	前期	120	1	120	コ			1
	総合リハビリテーション論	前期	135	1	135	コ	演		1
薬学専門教育	生理化学III （神経系等の生理学）	前期	139	1	139	コ			2
	天然薬物学AB、CD	前期	63～72	2	135	コ			2
	病理学概論	前期	149	1	149	コ			2
	免疫学II （疾患と応用）	前期	132	1	132	コ			2
	薬学英語a、b	前期	43～84	2	127	コ	E-learning		1
	薬剤学I （基礎）AB、CD	前期	68～76	2	144	コ			2
	薬物治療学I （基礎と血液・造血器疾患等）	前期	142	1	142	コ			2
	薬物動態学I （生体内運命）	前期	139	1	139	コ			2
	薬理学I （基礎と神経系）	前期	173	1	173	コ			2
	医薬品化学	後期	149	1	149	コ			2
	毒性学	後期	122	1	122	コ			1
	放射化学	後期	123	1	123	コ			1
	薬剤学II （応用）	後期	137	1	137	コ			1
	薬物治療学II （心臓・血管系疾患等）	後期	142	1	142	コ			2
	薬物動態学II （薬動学とTDM）	後期	122	1	122	コ			2
	薬理学II （循環器系等）	後期	157	1	157	コ			2
実習	衛生薬学実習AB、CD	前期	56～64	2	120	実			1.5
	生理・解剖学実習AB、CD	前期	56～64	2	120	実			1.5
	天然薬物学実習AB、CD	前期	56～64	2	120	実			1.5
	薬剤・薬物動態学実習AB、CD	後期	56～64	2	120	実			1.5
	薬理学実習AB、CD	後期	56～64	2	120	実			1.5
演習	チュートリアルAB、CD	前期	56～64	2	120	演			1
単位数の合計						（必須科目）			38.5
						（選択科目）			
						合計			38.5

（凡例）
講義＝コ　PBL/SGD＝S　演習＝演
実習＝実　実技＝技

［注］
1　教養教育・語学教育は、基本的に履修者がいる科目について記入してください。
2　上記の「科目の識別」にそって、該当する科目に「色」を付してください。

ヒューマニズム教育・医療倫理教育
教養教育科目
語学教育科目
医療安全教育科目
生涯学習の意欲醸成科目
コミュニケーション能力および自己表現能力を身につけるための科目

3　選択科目については、頭に「(択)」と記してください。
4　実習は１組（実習グループ）の人数を記入してください。
5　表には下の「授業方法」にそって、主な方法を最大３種類まで記入してください。下記の２つ以外は、大学独自で凡例を設定して作成してください。
「授業方法」の表記：講義＝コ、　PBL/SGD＝S
6　行は適宜加除し、記入してください。

（基礎資料１－４）学年別授業科目

	4　年　次								
	科目名	前期・後期	１クラスあたりの人数	開講クラス数	履修者数	授業方法			単位数
教養教育・語学教育	医療社会保障論	前期	129	1	129	コ			2
薬学専門教育	医薬品安全性学	前期	129	1	129	コ			2
	医薬品開発学	前期	129	1	129	コ			2
	医薬品情報学	前期	129	1	129	コ			2
	医療英語	前期	130	1	130	コ			1
	感染症治療学	前期	142	1	142	コ			1
	漢方治療学	前期	131	1	131	コ			1
	ゲノム科学と医薬品開発I　（基礎）	前期	130	1	130	コ			1
	（選）国際保健医療論	前期	16	1	16	コ			1
	コミュニティーファーマシー	前期	129	1	129	コ			2
	（選）最先端機器分析科学	前期	106	1	106	コ			1
	（選）循環器系薬物治療学	前期	80	1	80	コ			1
	（選）新興再興感染症	前期	35	1	35	コ			1
	診察法・診断学	前期	130	1	130	コ			1
	（選）新薬局論（薬学教育改革のエンドポイント）	前期	99	1	99	コ			1
	（選）創薬化学	前期	64	1	64	コ			1
	（選）糖鎖生物学	前期	107	1	107	コ			1
	（選）糖鎖創薬学	前期	36	1	36	コ			1
	薬物治療学III　（精神疾患等）	前期	131	1	131	コ			2
	臨床ゲノム薬理学	前期	132	1	132	コ			1
	臨床検査学	前期	131	1	131	コ			1
	実務実習事前学習	通年	133	1	133	コ	S	演	4
	医療安全管理	後期	131	1	131	コ			1
	化学療法学	後期	134	1	134	コ			1
	（選）漢方方剤学	後期	17	1	17	コ			1
	（選）機能食品学	後期	0	1	0	コ	演		1
	（選）救急・災害医療	後期	14	1	14	コ			1
	（選）ゲノム科学と医薬品開発II　（応用）	後期	1	1	1	コ			1
	（選）香粧品科学	後期	11	1	11	コ			1
	（選）生物有機化学	後期	19	1	19	コ			1
	製剤科学	後期	129	1	129	コ			1
	（選）セルフメディケーション	後期	3	1	3	コ			1
	（選）先端医療薬剤学	後期	14	1	14	コ			1
	（選）ペット医薬品学	後期	50	1	50	コ			1
	薬剤経済学	後期	131	1	131	コ	演		1
	薬物治療学IV　（応用）	後期	131	1	131	コ			2
	（選）ライフステージ対応薬物治療学	後期	3	1	3	コ			1
	（選）臨床漢方治療学	後期	16	1	16	コ			1
	（選）臨床薬効評価学	後期	5	1	5	コ			1
実習									
演習	チーム医療論演習	前期	131	1	131	演			1
単位数の合計						（必須科目）			30
						（選択科目）			20
						合計			50

（凡例）
講義＝コ　PBL/SGD＝S　演習＝演
実習＝実　実技＝技

［注］
1　教養教育・語学教育は、基本的に履修者がいる科目について記入してください。
2　上記の「科目の識別」にそって、該当する科目に「色」を付してください。

ヒューマニズム教育・医療倫理教育
教養教育科目
語学教育科目
医療安全教育科目
生涯学習の意欲醸成科目
コミュニケーション能力および自己表現能力を身につけるための科目

3　選択科目については、頭に「(択)」と記してください。

4　実習は１組（実習グループ）の人数を記入してください。

5　表には下の「授業方法」にそって、主な方法を最大３種類まで記入してください。下記の２つ以外は、大学独自で凡例を設定して作成してください。

「授業方法」の表記：講義＝コ、　PBL/SGD＝S

6　行は適宜加除し、記入してください。

（基礎資料１－５）学年別授業科目

	５　年　次								
	科目名	前期・後期	１クラスあたりの人数	開講クラス数	履修者数	授業方法			単位数
教養教育・語学教育									
薬学専門教育									
実習	研究実習	通年	101	1	101	実			10
	病院実務実習	通年	100	1	100	実	演	コ	10
	薬局実務実習	通年	101	1	101	実	演	コ	10
演習	処方解析演習	前期	100	1	100	演	コ		1
単位数の合計						（必須科目）			31
						（選択科目）			0
						合計			31

（凡例）
講義＝コ　PBL/SGD＝Ｓ　演習＝演
実習＝実　実技＝技

［注］
1　教養教育・語学教育は、基本的に履修者がいる科目について記入してください。
2　上記の「科目の識別」にそって、該当する科目に「色」を付してください。

ヒューマニズム教育・医療倫理教育
教養教育科目
語学教育科目
医療安全教育科目
生涯学習の意欲醸成科目
コミュニケーション能力および自己表現能力を身につけるための科目

3　選択科目については、頭に「(択)」と記してください。
4　実習は１組（実習グループ）の人数を記入してください。
5　表には下の「授業方法」にそって、主な方法を最大３種類まで記入してください。下記の２つ以外は、大学独自で凡例を設定して作成してください。
「授業方法」の表記：講義＝コ、　PBL/SGD＝Ｓ
6　行は適宜加除し、記入してください。

（基礎資料１－６）学年別授業科目

	６　年　次								
	科目名	前期・後期	１クラスあたりの人数	開講クラス数	履修者数	授業方法			単位数
教養教育・語学教育									
薬学専門教育	薬事関係法規・薬事制度	前期	134	1	134	コ			1
実習	（選）研究研修	通年	128	1	128	実			10
	（選）チーム医療研修	通年	6	1	6	実	演		10
演習									
単位数の合計						（必須科目）			1
						（選択科目）			20
						合計			21

（凡例）
講義＝コ　PBL/SGD＝Ｓ　演習＝演
実習＝実　実技＝技

［注］　１　教養教育・語学教育は、基本的に履修者がいる科目について記入してください。

２　上記の「科目の識別」にそって、該当する科目に「色」を付してください。

ヒューマニズム教育・医療倫理教育
教養教育科目
語学教育科目
医療安全教育科目
生涯学習の意欲醸成科目
コミュニケーション能力および自己表現能力を身につけるための科目

３　選択科目については、頭に「(択)」と記してください。

４　実習は１組（実習グループ）の人数を記入してください。

５　表には下の「授業方法」にそって、主な方法を最大３種類まで記入してください。下記の２つ以外は、大学独自で凡例を設定して作成してください。

「授業方法」の表記：講義＝コ、　PBL/SGD＝Ｓ

６　行は適宜加除し、記入してください。

（基礎資料１－７）学年別授業科目

（基礎資料1－1）から（基礎資料1－6）までの結果から下記の（1）および（2）を記入してください。

（１）下表の「合計科目数」および「単位数」を記入してください。

科目の識別	合計科目数	合計単位数
ヒューマニズム教育・医療倫理教育	9	17
教養教育科目	14	23
語学教育科目	8	14
医療安全教育科目	7	13
生涯学習の意欲醸成科目	3	4
コミュニケーション能力および自己表現能力を身につけるための科目	1	1

（２）学年別授業科目の表から前期と後期の単数を合算して記入してください。

学　　年	単位数		
	必須科目	選択科目	合計
１　年　次	36	22	58
２　年　次	40	4	44
３　年　次	38.5	0	38.5
４　年　次	30	20	50
５　年　次	31	0	31
６　年　次	1	20	21
合計	176.5	66	242.5

（基礎資料２－１）在籍学生数

			１年次	２年次	３年次	４年次	５年次	６年次	合計	
入学年度における	入学定員数		150	150	150	150	150	150	900	A
	編入定員数		0	0	0	0	0	0	0	B
	入学者数		159	171	159	171	150	150	960	
基準日における	各学年の在籍学生数		168	202	162	133	101	174	940	C
	編入学生数（内）※		0	0	0	0	0	0	0	D
	留年者数（内）		9	45	40	4	1	40	139	
	留年者の入学年度	平成19年度	0	0	0	0	0	12	12	
		平成20年度	0	0	0	1	1	28	30	
		平成21年度	0	0	3	1	0	0	4	
		平成22年度	0	1	20	2	0	0	23	
		平成23年度	0	9	17	0	0	0	26	
		平成24年度	1	35	0	0	0	0	36	
		平成25年度	8	0	0	0	0	0	8	
		平成26年度	0	0	0	0	0	0	0	

C／（A＋B）	1.04
D／B	0

※ 編入生すべての編入した学年を、別添でご提出ください。

［注］　１　「C／（A＋B）」と「D／B」については、小数点以下第３位を四捨五入し、小数点以下第２位まで表示してください。

２　「編入学生数（内）」および「留年者数（内）」は、「各学年の在籍学生数」の内数を記入してください。

３　平成26年度以外は年度末の現状を記入してください。

（基礎資料２－２）休学者数、留年者数、退学者数および編入学者数

平成26年度版 ハンドブック P108 様式4（基礎資料2-2） 改定

	平成21年度				平成22年度				平成23年度				平成24年度				平成25年度				平成26年度			
総在籍学生数	500				631				772				913				919				940			
	休学者数	留年者数	退学者数	編入学者数	休学者数	留年者数	退学者数	編入学者数	休学者数	留年者数	退学者数	編入学者数	休学者数	留年者数	退学者数	編入学者数	休学者数	留年者数	退学者数	編入学者数	休学者数	留年者数	退学者数	編入学者数
１年次	6	10	9	0	1	11	6	0	1	22	9	0	1	8	13	0	1	9	12	0	3	－	0	－
２年次	2	35	2	0	3	25	12	0	4	53	17	0	2	32	4	0	3	45	24	0	2	－	0	－
３年次	0	6	0	0	2	9	1	0	2	9	3	0	1	5	1	0	0	40	4	0	0	－	0	－
４年次					0	1	0	0	0	1	1	0	0	3	0	0	0	4	0	0	0	－	0	－
５年次									0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	－	0	
６年次													0	21	0	0	1	40	0	0	1	－	0	－
合計	8	51	11	0	6	46	19	0	7	85	30	0	4	69	18	0	5	139	40	0	6	0	0	0

［注］　平成26年度以外は年度末の現状を記入してください。

（基礎資料2－3） 学士課程修了状況

		平成23年度 （平成24年3月卒業）	平成24年度 （平成25年3月卒業）	平成25年度 （平成26年3月卒業）	平成26年度 （平成27年3月卒業）	平成27年度 （平成28年3月卒業）	平成28年度 （平成29年3月卒業）
卒業者総数		名	125 名	117 名	96 名	名	名
卒業者の入学年度内訳	平成18年度入学者	名	名	名	名	名	名
	平成19年度入学者	名	125 名	11 名	1 名	名	名
	平成20年度入学者	名	名	106 名	13 名	名	名
	平成21年度入学者	名	名	名	82 名	名	名
	平成22年度入学者	名	名	名	名	名	名
	平成23年度入学者	名	名	名	名	名	名

入学者総数		卒業率（%）
平成18年度	－ 名	#VALUE!
平成19年度	178 名	70.2%
平成20年度	193 名	54.9%
平成21年度	150 名	54.7%
平成22年度	150 名	0.0%
平成23年度	171 名	0.0%

（基礎資料３－１）薬学教育モデル・コアカリキュラムのＳＢＯｓに該当する科目

［注］ １ 薬学教育モデル・コアカリキュラムのＳＢＯｓに該当する科目名を実施学年の欄に記入してください。

２ 同じ科目名が連続する場合はセルを結合して記入することもできます。

薬学教育モデル・コアカリキュラム（ＳＢＯs）		該当科目					
		１年	２年	３年	４年	５年	６年
A 全学年を通して：ヒューマニズムについて学ぶ							
（1）生と死							
【生命の尊厳】							
1）人の誕生、成長、加齢、死の意味を考察し、討議する。（知識・態度）	A(1)-1-1	生命・医療倫理学 早期臨床体験実習					
2）誕生に関わる倫理的問題（生殖技術、クローン技術、出生前診断など）の概略と問題点を説明できる。	A(1)-1-2						
3）医療に関わる倫理的問題を列挙し、その概略と問題点を説明できる。	A(1)-1-3						
4）死に関わる倫理的問題（安楽死、尊厳死、脳死など）の概略と問題点を説明できる。	A(1)-1-4	生命・医療倫理学 医療概論 早期臨床体験実習			救急・災害医療（選）		
5）自らの体験を通して、生命の尊さと医療の関わりについて討議する。（態度）	A(1)-1-5	アカデミックリテラシー 生命・医療倫理学 早期臨床体験実習					
【医療の目的】							
1）予防、治療、延命、QOLについて説明できる。	A(1)-2-1	生命・医療倫理学 早期臨床体験実習			救急・災害医療（選）		
【先進医療と生命倫理】							
1）医療の進歩（遺伝子診断、遺伝子治療、移植・再生医療、難病治療など）に伴う生命観の変遷を概説できる。	A(1)-3-1	生命・医療倫理学 医療概論 早期臨床体験実習			先端医療薬剤学（選）		
（2）医療の担い手としてのこころ構え							
【社会の期待】							
1）医療の担い手として、社会のニーズに常に目を向ける。（態度）	A(2)-1-1	アカデミックリテラシー 医療概論 早期臨床体験実習	チーム医療概論		国際保健医療論（選） 新薬局論（薬学教育改革のエンドポイント）（選） ﾁｰﾑ医療論演習		
2）医療の担い手として、社会のニーズに対応する方法を提案する。（知識・態度）	A(2)-1-2						
3）医療の担い手にふさわしい態度を示す。（態度）	A(2)-1-3	アカデミックリテラシー 早期臨床体験実習			国際保健医療論（選） チーム医療論演習		
【医療行為に関わるこころ構え】							
1）ヘルシンキ宣言の内容を概説できる。	A(2)-2-1	生命・医療倫理学 早期臨床体験実習	チーム医療概論		臨床薬効評価学（選） チーム医療論演習		
2）医療の担い手が守るべき倫理規範を説明できる。	A(2)-2-2	生命・医療倫理学 医療概論 早期臨床体験実習			ﾁｰﾑ医療論演習		
3）インフォームド・コンセントの定義と必要性を説明できる。	A(2)-2-3				臨床薬効評価学（選） チーム医療論演習		
4）患者の基本的権利と自己決定権を尊重する。（態度）	A(2)-2-4	生命・医療倫理学 早期臨床体験実習			チーム医療論演習		
5）医療事故回避の重要性を自らの言葉で表現する。（態度）	A(2)-2-5				チーム医療論演習		
【研究活動に求められるこころ構え】							
1）研究に必要な独創的考え方、能力を醸成する。	A(2)-3-1	早期臨床体験実習	チーム医療概論		チーム医療論演習		
2）研究者に求められる自立した態度を身につける。（態度）	A(2)-3-2				チーム医療論演習		
3）他の研究者の意見を理解し、討論する能力を身につける。（態度）	A(2)-3-3				チーム医療論演習		

薬学教育モデル・コアカリキュラム（SBOs）		該当科目					
		1年	2年	3年	4年	5年	6年
【医薬品の創製と供給に関わるこころ構え】							
1）医薬品の創製と供給が社会に及ぼす影響に常に目を向ける。（態度）	A(2)-4-1	早期臨床体験実習	チーム医療概論		国際保健医療論（選） 臨床薬効評価学（選）		
2）医薬品の使用に関わる事故回避の重要性を自らの言葉で表現する。（態度）	A(2)-4-2				国際保健医療論（選）		
【自己学習・生涯学習】							
1）医療に関わる諸問題から、自ら課題を見出し、それを解決する能力を醸成する。（知識・技能・態度）	A(2)-5-1	アカデミックリテラシー 早期臨床体験実習	チーム医療概論	ﾁｭｰﾄﾘｱﾙ	国際保健医療論（選）		
2）医療の担い手として、生涯にわたって自ら学習する大切さを認識する。（態度）	A(2)-5-2						
（3）信頼関係の確立を目指して							
【コミュニケーション】							
1）言語的および非言語的コミュニケーションの方法を概説できる。	A(3)-1-1	アカデミックリテラシー 早期臨床体験実習	医療ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ チーム医療概論		救急・災害医療（選）		
2）意思、情報の伝達に必要な要素を列挙できる。	A(3)-1-2						
3）相手の立場、文化、習慣などによって、コミュニケーションのあり方が異なることを例示できる。	A(3)-1-3				国際保健医療論（選）		
【相手の気持ちに配慮する】							
1）対人関係に影響を及ぼす心理的要因を概説できる。	A(3)-2-1	アカデミックリテラシー 早期臨床体験実習	医療ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ チーム医療概論				
2）相手の心理状態とその変化に配慮し、適切に対応する。（知識・態度）	A(3)-2-2						
3）対立意見を尊重し、協力してよりよい解決法を見出すことができる。〔技能）	A(3)-2-3			ﾁｭｰﾄﾘｱﾙ			
【患者の気持ちに配慮する】							
1）病気が患者に及ぼす心理的影響について説明できる。	A(3)-3-1	アカデミックリテラシー 医療概論 早期臨床体験実習	医療ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ チーム医療概論				
2）患者の心理状態を把握し、配慮する。（知識・態度）	A(3)-3-2						
3）患者の家族の心理状態を把握し、配慮する。（知識・態度）	A(3)-3-3						
4）患者やその家族の持つ価値観が多様であることを認識し、柔軟に対応できるよう努力する。（態度）	A(3)-3-4	ｱｶﾃﾞﾐｯｸﾘﾃﾗｼｰ 早期臨床体験実習			国際保健医療論（選）		
5）不自由体験などの体験学習を通して、患者の気持ちについて討議する。（知識・態度）	A(3)-3-5		チーム医療概論				
【チームワーク】							
1）チームワークの重要性を例示して説明できる。	A(3)-4-1	アカデミックリテラシー 医療概論 早期臨床体験実習	チーム医療概論		国際保健医療論（選）		
2）チームに参加し、協調的態度で役割を果たす。（態度）	A(3)-4-2	アカデミックリテラシー 早期臨床体験実習		ﾁｭｰﾄﾘｱﾙ			
3）自己の能力の限界を認識し、必要に応じて他者に援助を求める。（態度）	A(3)-4-3						
【地域社会の人々との信頼関係】							
1）薬の専門家と地域社会の関わりを列挙できる。	A(3)-5-1	早期臨床体験実習	チーム医療概論		国際保健医療論（選）		
2）薬の専門家に対する地域社会のニーズを収集し、討議する。（態度）	A(3)-5-2						
B　イントロダクション							
（1）薬学への招待							
【薬学の歴史】							
1）薬学の歴史的な流れと医療において薬学が果たしてきた役割を概説できる。	B(1)-1-1	薬学入門					
2）薬剤師の誕生と変遷の歴史を概説できる。	B(1)-1-2						

薬学教育モデル・コアカリキュラム（ＳＢＯs）		該　当　科　目					
		１年	２年	３年	４年	５年	６年
【薬剤師の活動分野】							
１）薬剤師の活動分野（医療機関、製薬企業、衛生行政など）について概説できる。	B(1)-2-1	医療概論 薬学入門			国際保健医療論（選）		
２）薬剤師と共に働く医療チームの職種を挙げ、その仕事を概説できる。	B(1)-2-2						
３）医薬品の適正使用における薬剤師の役割について概説できる。	B(1)-2-3	薬学入門					
４）医薬品の創製における薬剤師の役割について概説できる。	B(1)-2-4						
５）疾病の予防および健康管理における薬剤師の役割について概説できる。	B(1)-2-5		公衆衛生学		新薬局論（薬学教育改革のエンドポイント）（選）		
【薬について】							
１）「薬とは何か」を概説できる。	B(1)-3-1	薬学入門					
２）薬の発見の歴史を具体例を挙げて概説できる。	B(1)-3-2						
３）化学物質が医薬品として治療に使用されるまでの流れを概説できる。	B(1)-3-3						
４）種々の剤形とその使い方について概説できる。	B(1)-3-4						
５）一般用医薬品と医療用医薬品の違いを概説できる。	B(1)-3-5						
【現代社会と薬学との接点】							
１）先端医療を支える医薬品開発の現状について概説できる。	B(1)-4-1	薬学入門			国際保健医療論（選）		
２）麻薬、大麻、覚せい剤などを乱用することによる健康への影響を概説できる。	B(1)-4-2						
３）薬害について具体例を挙げ、その背景を概説できる。	B(1)-4-3	生命・医療倫理学 薬学入門					
【日本薬局方】							
１）日本薬局方の意義と内容について概説できる。	B(1)-5-1	薬学入門					
【総合演習】							
１）医療と薬剤師の関わりについて考えを述べる。（態度）	B(1)-6-1	薬学入門			新薬局論（薬学教育改革のエンドポイント）（選）		
２）身近な医薬品を日本薬局方などを用いて調べる。（技能）	B(1)-6-2						
（２）早期体験学習							
１）病院における薬剤師および他の医療スタッフの業務を見聞し、その重要性について自分の意見をまとめ、発表する。	B(2)-1-1	アカデミックリテラシー 早期臨床体験実習 薬学入門					
２）開局薬剤師の業務を見聞し、その重要性について自分の意見をまとめ、発表する。（知識・態度）	B(2)-1-2						
３）製薬企業および保健衛生、健康に関わる行政機関の業務を見聞し、社会において果たしている役割について討議する。（知識・態度）	B(2)-1-3	アカデミックリテラシー 早期臨床体験実習					
４）保健、福祉の重要性を具体的な体験に基づいて発表する。（知識・態度）	B(2)-1-4						
C　薬学専門教育							
[物理系薬学を学ぶ]							
C1　物質の物理的性質							
（１）物質の構造							
【化学結合】							
１）化学結合の成り立ちについて説明できる。	C1(1)-1-1	有機化学Ⅰ（基礎とアルカン等）	物理化学Ⅲ（物質の構造）				
２）軌道の混成について説明できる。	C1(1)-1-2						
３）分子軌道の基本概念を説明できる。	C1(1)-1-3						
４）共役や共鳴の概念を説明できる。	C1(1)-1-4						

薬学教育モデル・コアカリキュラム（ＳＢＯs）		該当科目					
		１年	２年	３年	４年	５年	６年
【分子間相互作用】							
１）静電相互作用について例を挙げて説明できる。	C1(1)-2-1	有機化学Ⅰ（基礎とアルカン等）	物理化学Ⅱ（物質の変化） 物理化学Ⅲ（物質の構造）				
２）ファンデルワールス力について例を挙げて説明できる。	C1(1)-2-2		物理化学Ⅲ（物質の構造）				
３）双極子間相互作用について例を挙げて説明できる。	C1(1)-2-3						
４）分散力について例を挙げて説明できる。	C1(1)-2-4						
５）水素結合について例を挙げて説明できる。	C1(1)-2-5						
６）電荷移動について例を挙げて説明できる。	C1(1)-2-6						
７）疎水性相互作用について例を挙げて説明できる。	C1(1)-2-7						
【原子・分子】							
１）電磁波の性質および物質との相互作用を説明できる。	C1(1)-3-1		分析化学Ⅱ（応用） 物理化学Ⅲ（物質の構造）				
２）分子の振動、回転、電子遷移について説明できる。	C1(1)-3-2		物理化学Ⅲ（物質の構造）				
３）スピンとその磁気共鳴について説明できる。	C1(1)-3-3						
４）分子の分極と双極子モーメントについて説明できる。	C1(1)-3-4	有機化学Ⅰ（基礎とアルカン等）					
５）代表的な分光スペクトルを測定し、構造との関連を説明できる。（知識・技能）	C1(1)-3-5		物理化学実習				
６）偏光および旋光性について説明できる。	C1(1)-3-6	有機化学Ⅰ（基礎とアルカン等）	物理化学Ⅲ（物質の構造）				
７）散乱および干渉について説明できる。	C1(1)-3-7						
８）結晶構造と回折現象について説明できる。	C1(1)-3-8		物理化学実習 物理化学Ⅲ（物質の構造）				
【放射線と放射能】							
１）原子の構造と放射壊変について説明できる。	C1(1)-4-1		衛生化学Ⅰ（環境衛生学）	放射化学			
２）電離放射線の種類を列挙し、それらの物質との相互作用について説明できる。	C1(1)-4-2						
３）代表的な放射性核種の物理的性質について説明できる。	C1(1)-4-3						
４）核反応および放射平衡について説明できる。	C1(1)-4-4						
５）放射線の測定原理について説明できる。	C1(1)-4-5						
（２）物質の状態 Ⅰ							
【総論】							
１）ファンデルワールスの状態方程式について説明できる。	C1(2)-1-1	物理化学Ⅰ（熱力学）					
２）気体の分子運動とエネルギーの関係について説明できる。	C1(2)-1-2						
３）エネルギーの量子化とボルツマン分布について説明できる。	C1(2)-1-3						
【エネルギー】							
１）系、外界、境界について説明できる。	C1(2)-2-1	物理化学Ⅰ（熱力学）					
２）状態関数の種類と特徴について説明できる。	C1(2)-2-2						
３）仕事および熱の概念を説明できる。	C1(2)-2-3						
４）定容熱容量および定圧熱容量について説明できる。	C1(2)-2-4						
５）熱力学第一法則について式を用いて説明できる。	C1(2)-2-5						
６）代表的な過程（変化）における熱と仕事を計算できる。（知識、技能）	C1(2)-2-6						
７）エンタルピーについて説明できる。	C1(2)-2-7						
８）代表的な物理変化、化学変化に伴う標準エンタルピー変化を説明し、計算できる。（知識、技能）	C1(2)-2-8						
９）標準生成エンタルピーについて説明できる。	C1(2)-2-9						

薬学教育モデル・コアカリキュラム（SBOs）		該当科目					
		1年	2年	3年	4年	5年	6年
【自発的な変化】							
1）エントロピーについて説明できる。	C1(2)-3-1	物理化学Ⅰ（熱力学）					
2）熱力学第二法則について説明できる。	C1(2)-3-2						
3）代表的な物理変化、化学変化に伴うエントロピー変化を計算できる。〔知識、技能〕	C1(2)-3-3						
4）熱力学第三法則について説明できる。	C1(2)-3-4						
5）自由エネルギーについて説明できる。	C1(2)-3-5						
6）熱力学関数の計算結果から、自発的な変化の方向と程度を予測できる。（知識、技能）	C1(2)-3-6						
7）自由エネルギーの圧力と温度による変化を、式を用いて説明できる。	C1(2)-3-7						
8）自由エネルギーと平衡定数の温度依存性（van' t Hoffの式）について説明できる。	C1(2)-3-8						
9）共役反応について例を挙げて説明できる。	C1(2)-3-9						
（3）物質の状態 II							
【物理平衡】							
1）相変化に伴う熱の移動（Clausius-Clapeyronの式など）について説明できる。	C1(3)-1-1						
2）相平衡と相律について説明できる。	C1(3)-1-2						
3）代表的な状態図（一成分系、二成分系、三成分系相図）について説明できる。	C1(3)-1-3						
4）物質の溶解平衡について説明できる。	C1(3)-1-4		物理化学Ⅱ（物質の変化） 物理化学Ⅲ（物質の構造）				
5）溶液の束一的性質（浸透圧、沸点上昇、凝固点降下など）について説明できる。	C1(3)-1-5	無機・錯体化学	物理化学Ⅱ（物質の変化）				
6）界面における平衡について説明できる。	C1(3)-1-6		物理化学実習				
7）吸着平衡について説明できる。	C1(3)-1-7		物理化学Ⅲ（物質の構造）				
8）代表的な物理平衡を観測し、平衡定数を求めることができる。（技能）	C1(3)-1-8		物理化学実習				
【溶液の化学】							
1）化学ポテンシャルについて説明できる。	C1(3)-2-1		物理化学Ⅱ（物質の変化）				
2）活量と活量係数について説明できる。	C1(3)-2-2						
3）平衡と化学ポテンシャルの関係を説明できる。	C1(3)-2-3						
4）電解質のモル伝導度の濃度変化を説明できる。	C1(3)-2-4		物理化学Ⅱ（物質の変化） 物理化学実習				
5）イオンの輸率と移動度について説明できる。	C1(3)-2-5		物理化学Ⅱ（物質の変化）				
6）イオン強度について説明できる。	C1(3)-2-6						
7）電解質の活量係数の濃度依存性（Debye-Hückel の式）について説明できる。	C1(3)-2-7						
【電気化学】							
1）代表的な化学電池の種類とその構成について説明できる。	C1(3)-3-1		物理化学Ⅱ（物質の変化）				
2）標準電極電位について説明できる。	C1(3)-3-2						
3）起電力と標準自由エネルギー変化の関係を説明できる。	C1(3)-3-3						
4）Nernstの式が誘導できる。	C1(3)-3-4						
5）濃淡電池について説明できる。	C1(3)-3-5						
6）膜電位と能動輸送について説明できる。	C1(3)-3-6	生理化学Ⅰ（細胞生理学）					

薬学教育モデル・コアカリキュラム（ＳＢＯs）		該当科目					
		１年	２年	３年	４年	５年	６年
（４）物質の変化							
【反応速度】							
１）反応次数と速度定数について説明できる。	C1(4)-1-1	科学計算演習					
２）微分型速度式を積分型速度式に変換できる。（知識・技能）	C1(4)-1-2		物理化学Ⅱ（物質の変化）				
３）代表的な反応次数の決定法を列挙し、説明できる。	C1(4)-1-3						
４）代表的な(擬)一次反応の反応速度を測定し、速度定数を求めることができる。（技能）	C1(4)-1-4		物理化学実習				
５）代表的な複合反応（可逆反応、平行反応、連続反応など）の特徴について説明できる。	C1(4)-1-5		物理化学Ⅱ（物質の変化）				
６）反応速度と温度との関係（Arrheriusの式）を説明できる。	C1(4)-1-6		物理化学Ⅱ（物質の変化） 物理化学実習				
７）衝突理論について概説できる。	C1(4)-1-7						
８）遷移状態理論について概説できる。	C1(4)-1-8		物理化学Ⅱ（物質の変化）				
９）代表的な触媒反応（酸・塩基触媒反応など）について説明できる。	C1(4)-1-9						
10）酵素反応、およびその拮抗阻害と非拮抗阻害の機構について説明できる。	C1(4)-1-10						
【物質の移動】							
１）拡散および溶解速度について説明できる。	C1(4)-2-1		物理化学Ⅱ（物質の変化）				
２）沈降現象について説明できる。	C1(4)-2-2		物理化学Ⅱ（物質の変化）				
３）流動現象および粘度について説明できる。	C1(4)-2-3						
C2　化学物質の分析							
（１）化学平衡							
【酸と塩基】							
１）酸・塩基平衡を説明できる。	C2(1)-1-1	化学 科学計算演習	分析化学Ⅰ（基礎と理論）				
２）溶液の水素イオン濃度（pH）を測定できる。（技能）	C2(1)-1-2	化学	分析化学実習				
３）溶液のpHを計算できる。（知識・技能）	C2(1)-1-3	化学 科学計算演習 無機・錯体化学	分析化学Ⅰ（基礎と理論）				
４）緩衝作用について具体例を挙げて説明できる。	C2(1)-1-4	化学 科学計算演習					
５）代表的な緩衝液の特徴とその調製法を説明できる。	C2(1)-1-5						
６）化学物質のpHによる分子形、イオン形の変化を説明できる。	C2(1)-1-6	科学計算演習					
【各種の化学平衡】							
１）錯体・キレート生成平衡について説明できる。	C2(1)-2-1	無機・錯体化学	分析化学Ⅰ（基礎と理論）				
２）沈殿平衡（溶解度と溶解度積）について説明できる。	C2(1)-2-2						
３）酸化還元電位について説明できる。	C2(1)-2-3			衛生薬学実習			
４）酸化還元平衡について説明できる。	C2(1)-2-4						
５）分配平衡について説明できる。	C2(1)-2-5						
６）イオン交換について説明できる。	C2(1)-2-6						

薬学教育モデル・コアカリキュラム（ＳＢＯs）		該当科目					
		１年	２年	３年	４年	５年	６年
（２）化学物質の検出と定量							
【定性試験】							
１）代表的な無機イオンの定性反応を説明できる。	C2(2)−1−1		分析化学Ⅰ（基礎と理論）				
２）日本薬局方収載の代表的な医薬品の確認試験を列挙し、その内容を説明できる。	C2(2)−1−2						
３）日本薬局方収載の代表的な医薬品の純度試験を列挙し、その内容を説明できる。	C2(2)−1−3						
【定量の基礎】							
１）実験値を用いた計算および統計処理ができる。（技能）	C2(2)−2−1						
２）医薬品分析法のバリデーションについて説明できる。	C2(2)−2−2		分析化学Ⅰ（基礎と理論）				
３）日本薬局方収載の重量分析法の原理および操作法を説明できる。	C2(2)−2−3						
４）日本薬局方収載の容量分析法について列挙できる。	C2(2)−2−4						
５）日本薬局方収載の生物学的定量法の特徴を説明できる。	C2(2)−2−5						
【容量分析】							
１）中和滴定の原理、操作法および応用例を説明できる。	C2(2)−3−1		分析化学Ⅰ（基礎と理論） 分析化学実習				
２）非水滴定の原理、操作法および応用例を説明できる。	C2(2)−3−2		分析化学Ⅰ（基礎と理論）				
３）キレート滴定の原理、操作法および応用例を説明できる。	C2(2)−3−3		分析化学Ⅰ（基礎と理論） 分析化学実習				
４）沈殿滴定の原理、操作法および応用例を説明できる。	C2(2)−3−4						
５）酸化還元滴定の原理、操作法および応用例を説明できる。	C2(2)−3−5						
６）電気滴定（電位差滴定、電気伝導度滴定など）の原理、操作法および応用例を説明できる。	C2(2)−3−6		分析化学Ⅰ（基礎と理論） 分析化学Ⅱ（応用）				
７）日本薬局方収載の代表的な医薬品の容量分析を実施できる。（技能）	C2(2)−3−7		分析化学Ⅰ（基礎と理論）				
【金属元素の分析】							
１）原子吸光光度法の原理、操作法および応用例を説明できる。	C2(2)−4−1		分析化学Ⅱ（応用）	衛生薬学実習			
２）発光分析法の原理、操作法および応用例を説明できる。	C2(2)−4−2						
【クロマトグラフィー】							
１）クロマトグラフィーの種類を列挙し、それぞれの特徴と分離機構を説明できる。	C2(2)−5−1		分析化学Ⅱ（応用）	衛生薬学実習			
２）クロマトグラフィーで用いられる代表的な検出法と装置を説明できる。	C2(2)−5−2						
３）薄層クロマトグラフィー、液体クロマトグラフィーなどのクロマトグラフィーを用いて代表的な化学物質を分離分析できる。（知識・技能）	C2(2)−5−3						
（３）分析技術の臨床応用							
【分析の準備】							
１）代表的な生体試料について、目的に即した前処理と適切な取扱いができる。（技能）	C2(3)−1−1						
２）臨床分析における精度管理および標準物質の意義を説明できる。	C2(3)−1−2						

薬学教育モデル・コアカリキュラム（ＳＢＯs）		該当科目					
		１年	２年	３年	４年	５年	６年
【分析技術】							
１）臨床分析の分野で用いられる代表的な分析法を列挙できる。	C2(3)-2-1						
２）免疫反応を用いた分析法の原理、実施法および応用例を説明できる。	C2(3)-2-2		分析化学Ⅱ（応用）				
３）酵素を用いた代表的な分析法の原理を説明し、実施できる。（知識・技能）	C2(3)-2-3		分析化学Ⅱ（応用） 分析化学実習				
４）電気泳動法の原理を説明し、実施できる。（知識・技能）	C2(3)-2-4		分析化学実習				
５）代表的なセンサーを列挙し、原理および応用例を説明できる。	C2(3)-2-5						
６）代表的なドライケミストリーについて概説できる。	C2(3)-2-6						
７）代表的な画像診断技術（X線検査、CTスキャン、MRI、超音波、核医学検査など）について概説できる。	C2(3)-2-7		衛生化学Ⅰ（環境衛生学）	放射化学	最先端機器分析科学（選）		
８）画像診断薬（造影剤、放射性医薬品など）について概説できる。	C2(3)-2-8		衛生化学Ⅰ（環境衛生学） 分析化学Ⅱ（応用）				
９）薬学領域で繁用されるその他の分析技術（バイオイメージング、マイクロチップなど）について概説できる。	C2(3)-2-9						
【薬毒物の分析】							
１）毒物中毒における生体試料の取扱いについて説明できる。	C2(3)-3-1						
２）代表的な中毒原因物質（乱用薬物を含む）のスクリーニング法を列挙し、説明できる。	C2(3)-3-2						
３）代表的な中毒原因物質を分析できる。（技能）	C2(3)-3-3			衛生薬学実習			
C3　生体分子の姿・かたちをとらえる							
（１）生体分子を解析する手法							
【分光分析法】							
１）紫外可視吸光度測定法の原理を説明し、生体分子の解析への応用例について説明できる。	C3(1)-1-1		分析化学Ⅱ（応用）				
２）蛍光光度法の原理を説明し、生体分子の解析への応用例について説明できる。	C3(1)-1-2		分析化学Ⅱ（応用） 分析化学実習				
３）赤外・ラマン分光スペクトルの原理と、生体分子の解析への応用例について説明できる。	C3(1)-1-3		分析化学Ⅱ（応用）				
４）電子スピン共鳴（ESR）スペクトル測定法の原理と、生体分子の解析への応用例について説明できる。	C3(1)-1-4						
５）旋光度測定法（旋光分散）、円偏光二色性測定法の原理と、生体分子の解析への応用例について説明できる。	C3(1)-1-5		分析化学Ⅱ（応用） 物理化学Ⅲ（物質の構造）				
６）代表的な生体分子（核酸、タンパク質）の紫外および蛍光スペクトルを測定し、構造上の特徴と関連付けて説明できる。（知識・技能）	C3(1)-1-6						
【核磁気共鳴スペクトル】							
１）核磁気共鳴スペクトル測定法の原理を説明できる。	C3(1)-2-1		分析化学Ⅱ（応用）				
２）生体分子の解析への核磁気共鳴スペクトル測定法の応用例について説明できる。	C3(1)-2-2						
【質量分析】							
１）質量分析法の原理を説明できる。	C3(1)-3-1		分析化学Ⅱ（応用）				
２）生体分子の解析への質量分析の応用例について説明できる。	C3(1)-3-2						
【X線結晶解析】							
１）X線結晶解析の原理を概説できる。	C3(1)-4-1		物理化学実習 物理化学Ⅲ（物質の構造） 分析化学Ⅱ（応用）				
２）生体分子の解析へのX線結晶解析の応用例について説明できる。	C3(1)-4-2		物理化学実習				

薬学教育モデル・コアカリキュラム（ＳＢＯs）		該当科目					
		１年	２年	３年	４年	５年	６年
【相互作用の解析法】							
１）生体分子間相互作用の解析法を概説できる。	C3(1)-5-1						
（２）生体分子の立体構造と相互作用							
【立体構造】							
１）生体分子（タンパク質、核酸、脂質など）の立体構造を概説できる。	C3(2)-1-1		物理化学実習		先端医療薬剤学（選）		
２）タンパク質の立体構造の自由度について概説できる。	C3(2)-1-2						
３）タンパク質の立体構造を規定する因子（疎水性相互作用、静電相互作用、水素結合など）について、具体例を用いて説明できる。	C3(2)-1-3		物理化学実習				
４）タンパク質の折りたたみ過程について概説できる。	C3(2)-1-4						
５）核酸の立体構造を規定する相互作用について、具体例を挙げて説明できる。	C3(2)-1-5						
６）生体膜の立体構造を規定する相互作用について、具体例を挙げて説明できる。	C3(2)-1-6						
【相互作用】							
１）鍵と鍵穴モデルおよび誘導適合モデルについて、具体例を挙げて説明できる。	C3(2)-2-1		物理化学実習				
２）転写・翻訳、シグナル伝達における代表的な生体分子間相互作用について、具体例を挙げて説明できる。	C3(2)-2-2						
３）脂質の水中における分子集合構造（膜、ミセル、膜タンパク質など）について説明できる。	C3(2)-2-3		物理化学実習				
４）生体高分子と医薬品の相互作用における立体構造的要因の重要性を、具体例を挙げて説明できる。	C3(2)-2-4						
C4　化学物質の性質と反応							
（１）化学物質の基本的性質							
【基本事項】							
１）基本的な化合物を命名し、ルイス構造式で書くことができる。	C4(1)-1-1	有機化学Ⅰ（基礎とアルカン等）					
２）薬学領域で用いられる代表的化合物を慣用名で記述できる。	C4(1)-1-2						
３）有機化合物の性質に及ぼす共鳴の影響について説明できる。	C4(1)-1-3						
４）有機反応における結合の開裂と生成の様式について説明できる。	C4(1)-1-4						
５）基本的な有機反応（置換、付加、脱離、転位）の特徴を概説できる。	C4(1)-1-5	有機化学Ⅰ（基礎とアルカン等					
６）ルイス酸・塩基を定義することができる。	C4(1)-1-6						
７）炭素原子を含む反応中間体（カルボカチオン、カルバニオン、ラジカル、カルベン）の構造と性質を説明できる。	C4(1)-1-7						
８）反応の進行を、エネルギー図を用いて説明できる。	C4(1)-1-8		有機化学Ⅱ（芳香族化合物等）				
９）有機反応を、電子の動きを示す矢印を用いて説明できる。	C4(1)-1-9						
【有機化合物の立体構造】							
１）構造異性体と立体異性体について説明できる。	C4(1)-2-1						
２）キラリティーと光学活性を概説できる。	C4(1)-2-2						
３）エナンチオマーとジアステレオマーについて説明できる。	C4(1)-2-3						
４）ラセミ体とメソ化合物について説明できる。	C4(1)-2-4	有機化学Ⅰ（基礎とアルカン等					
５）絶対配置の表示法を説明できる。	C4(1)-2-5						
６）Fischer投影式とNewman投影式を用いて有機化合物の構造を書くことができる。	C4(1)-2-6						
７）エタンおよびブタンの立体配座と安定性について説明できる。	C4(1)-2-7						

薬学教育モデル・コアカリキュラム（SBOs）		該当科目					
		1年	2年	3年	4年	5年	6年
【無機化合物】							
1）代表的な典型元素を列挙し、その特徴を説明できる。	C4(1)-3-1	無機・錯体化学					
2）代表的な遷移元素を列挙し、その特徴を説明できる。	C4(1)-3-2						
3）窒素酸化物の名称、構造、性質を列挙できる。	C4(1)-3-3						
4）イオウ、リン、ハロゲンの酸化物、オキソ化合物の名称、構造、性質を列挙できる。	C4(1)-3-4						
5）代表的な無機医薬品を列挙できる。	C4(1)-3-5						
【錯体】							
1）代表的な錯体の名称、構造、基本的性質を説明できる。	C4(1)-4-1	無機・錯体化学					
2）配位結合を説明できる。	C4(1)-4-2						
3）代表的なドナー原子、配位基、キレート試薬を列挙できる。	C4(1)-4-3						
4）錯体の安定度定数について説明できる。	C4(1)-4-4						
5）錯体の安定性に与える配位子の構造的要素（キレート効果）について説明できる。	C4(1)-4-5						
6）錯体の反応性について説明できる。	C4(1)-4-6						
7）医薬品として用いられる代表的な錯体を列挙できる。	C4(1)-4-7						
（2）有機化合物の骨格							
【アルカン】							
1）基本的な炭化水素およびアルキル基をIUPACの規則に従って命名することができる。	C4(2)-1-1	化学 有機化学Ⅰ（基礎とアルカン等					
2）アルカンの基本的な物性について説明できる。	C4(2)-1-2	化学					
3）アルカンの構造異性体を図示し、その数を示すことができる。	C4(2)-1-3						
4）シクロアルカンの環の歪みを決定する要因について説明できる。	C4(2)-1-4	有機化学Ⅰ（基礎とアルカン等					
5）シクロヘキサンのいす形配座と舟形配座を図示できる。	C4(2)-1-5						
6）シクロヘキサンのいす形配座における水素の結合方向（アキシアル、エクアトリアル）を図示できる。	C4(2)-1-6						
7）置換シクロヘキサンの安定な立体配座を決定する要因について説明できる。	C4(2)-1-7						
【アルケン・アルキンの反応性】							
1）アルケンへの代表的なシン型付加反応を列挙し、反応機構を説明できる。	C4(2)-2-1		有機化学Ⅲ（アミン等）				
2）アルケンへの臭素の付加反応の機構を図示し、反応の立体特異性（アンチ付加）を説明できる。	C4(2)-2-2	有機化学Ⅰ（基礎とアルカン等					
3）アルケンへのハロゲン化水素の付加反応の位置選択性（Markovnikov 則）について説明できる。	C4(2)-2-3						
4）カルボカチオンの級数と安定性について説明できる。	C4(2)-2-4						
5）共役ジエンへのハロゲンの付加反応の特徴について説明できる。	C4(2)-2-5						
6）アルケンの酸化的開裂反応を列挙し、構造解析への応用について説明できる。	C4(2)-2-6						
7）アルキンの代表的な反応を列挙し、説明できる。	C4(2)-2-7						
【芳香族化合物の反応性】							
1）代表的な芳香族化合物を列挙し、その物性と反応性を説明できる。	C4(2)-3-1	化学	有機化学Ⅱ（芳香族化合物等） 有機化学Ⅲ（アミン等）				
2）芳香族性（Hückel則）の概念を説明できる。	C4(2)-3-2	有機化学Ⅰ（基礎とアルカン等					
3）芳香族化合物の求電子置換反応の機構を説明できる。	C4(2)-3-3	化学					
4）芳香族化合物の求電子置換反応の反応性および配向性に及ぼす置換基の効果を説明できる。	C4(2)-3-4	有機化学Ⅰ（基礎とアルカン等					
5）芳香族化合物の代表的な求核置換反応について説明できる。	C4(2)-3-5						

薬学教育モデル・コアカリキュラム（SBOs）		該当科目					
		1年	2年	3年	4年	5年	6年
（3）官能基							
【概説】							
1）代表的な官能基を列挙し、個々の官能基を有する化合物をIUPACの規則に従って命名できる。	C4(3)-1-1		有機化学Ⅱ（芳香族化合物等） 有機化学Ⅲ（アミン等）				
2）複数の官能基を有する化合物をIUPACの規則に従って命名できる。	C4(3)-1-2						
3）生体内高分子と薬物の相互作用における各官能基の役割を説明できる。	C4(3)-1-3						
4）代表的な官能基の定性試験を実施できる。（技能）	C4(3)-1-4		有機化学Ⅱ（芳香族化合物等） 有機化学Ⅲ（アミン等）				
5）官能基の性質を利用した分離精製を実施できる。（技能）	C4(3)-1-5						
6）日常生活で用いられる化学物質を官能基別に列挙できる。	C4(3)-1-6		有機化学Ⅱ（芳香族化合物等） 有機化学Ⅲ（アミン等）				
【有機ハロゲン化合物】							
1）有機ハロゲン化合物の代表的な性質と反応を列挙し、説明できる。	C4(3)-2-1	有機化学Ⅰ（基礎とアルカン等	有機化学Ⅱ（芳香族化合物等）				
2）求核置換反応（S_N1および S_N2反応）の機構について、立体化学を含めて説明できる。	C4(3)-2-2						
3）ハロゲン化アルキルの脱ハロゲン化水素の機構を図示し、反応の位置選択性（Saytzeff則）を説明できる。	C4(3)-2-3						
【アルコール・フェノール・チオール】							
1）アルコール類の代表的な性質と反応を列挙し、説明できる。	C4(3)-3-1		有機化学Ⅱ（芳香族化合物等）				
2）フェノール類の代表的な性質と反応を列挙し、説明できる。	C4(3)-3-2						
3）フェノール類、チオール類の抗酸化作用について説明できる。	C4(3)-3-3						
【エーテル】							
1）エーテル類の代表的な性質と反応を列挙し、説明できる。	C4(3)-4-1		有機化学Ⅱ（芳香族化合物等）				
2）オキシラン類の開環反応における立体特異性と位置選択性を説明できる。	C4(3)-4-2						
【アルデヒド・ケトン・カルボン酸】							
1）アルデヒド類およびケトン類の性質と、代表的な求核付加反応を列挙し、説明できる。	C4(3)-5-1		有機化学Ⅱ（芳香族化合物等）				
2）カルボン酸の代表的な性質と反応を列挙し、説明できる。	C4(3)-5-2						
3）カルボン酸誘導体（酸ハロゲン化物、酸無水物、エステル、アミド、ニトリル）の代表的な性質と反応を列挙し、説明できる。	C4(3)-5-3						
【アミン】							
1）アミン類の代表的な性質と反応を列挙し、説明できる。	C4(3)-6-1		有機化学Ⅲ（アミン等）				
2）代表的な生体内アミンを列挙し、構造式を書くことができる。	C4(3)-6-2						
【官能基の酸性度・塩基性度】							
1）アルコール、チオール、フェノール、カルボン酸などの酸性度を比較して説明できる。	C4(3)-7-1		有機化学Ⅱ（芳香族化合物等） 有機化学Ⅲ（アミン等）				
2）アルコール、フェノール、カルボン酸、およびその誘導体の酸性度に影響を及ぼす因子を列挙し、説明できる。	C4(3)-7-2						
3）含窒素化合物の塩基性度を説明できる。	C4(3)-7-3		有機化学Ⅲ（アミン等）				
（4）化学物質の構造決定							
【総論】							
1）化学物質の構造決定に用いられる機器分析法の特徴を説明できる。	C4(4)-1-1			天然薬物学			

薬学教育モデル・コアカリキュラム（SBOs）		該当科目					
		1年	2年	3年	4年	5年	6年
【^{1}H NMR】							
1）NMRスペクトルの概要と測定法を説明できる。	C4(4)-2-1			天然薬物学			
2）化学シフトに及ぼす構造的要因を説明できる。	C4(4)-2-2						
3）有機化合物中の代表的水素原子について、おおよその化学シフト値を示すことができる。	C4(4)-2-3						
4）重水添加による重水素置換の方法と原理を説明できる。	C4(4)-2-4						
5）^{1}H NMRの積分値の意味を説明できる。	C4(4)-2-5						
6）^{1}H NMRシグナルが近接プロトンにより分裂（カップリング）する理由と、分裂様式を説明できる。	C4(4)-2-6						
7）^{1}H NMRのスピン結合定数から得られる情報を列挙し、その内容を説明できる。	C4(4)-2-7						
8）代表的化合物の部分構造を^{1}H NMR から決定できる。（技能）	C4(4)-2-8			天然薬物学 天然薬物学実習			
【^{13}C NMR】							
1）^{13}C NMRの測定により得られる情報の概略を説明できる。	C4(4)-3-1						
2）代表的な構造中の炭素について、おおよその化学シフト値を示すことができる。	C4(4)-3-2						
【IRスペクトル】							
1）IRスペクトルの概要と測定法を説明できる。	C4(4)-4-1			天然薬物学			
2）IRスペクトル上の基本的な官能基の特性吸収を列挙し、帰属することができる。（知識・技能）	C4(4)-4-2			天然薬物学実習 天然薬物学			
【紫外可視吸収スペクトル】							
1）化学物質の構造決定における紫外可視吸収スペクトルの役割を説明できる。	C4(4)-5-1			天然薬物学			
【マススペクトル】							
1）マススペクトルの概要と測定法を説明できる。	C4(4)-6-1			天然薬物学			
2）イオン化の方法を列挙し、それらの特徴を説明できる。	C4(4)-6-2						
3）ピークの種類（基準ピーク、分子イオンピーク、同位体ピーク、フラグメントピーク）を説明ができる。	C4(4)-6-3			天然薬物学			
4）塩素原子や臭素原子を含む化合物のマススペクトルの特徴を説明できる。	C4(4)-6-4						
5）代表的なフラグメンテーションについて概説できる。	C4(4)-6-5						
6）高分解能マススペクトルにおける分子式の決定法を説明できる。	C4(4)-6-6						
7）基本的な化合物のマススペクトルを解析できる。（技能）	C4(4)-6-7			天然薬物学実習			
【比旋光度】							
1）比旋光度測定法の概略を説明できる。	C4(4)-7-1						
2）実測値を用いて比旋光度を計算できる。（技能）	C4(4)-7-2						
3）比旋光度と絶対配置の関係を説明できる。	C4(4)-7-3						
4）旋光分散と円二色性について、原理の概略と用途を説明できる。	C4(4)-7-4						
【総合演習】							
1）代表的な機器分析法を用いて、基本的な化合物の構造決定ができる。〔技能〕	C4(4)-8-1			天然薬物学			

薬学教育モデル・コアカリキュラム（SBOs）		該当科目					
		1年	2年	3年	4年	5年	6年
C5　ターゲット分子の合成							
（1）官能基の導入・変換							
1）アルケンの代表的な合成法について説明できる。	C5(1)-1-1		有機化学Ⅲ（アミン等）	医薬品化学			
2）アルキンの代表的な合成法について説明できる。	C5(1)-1-2						
3）有機ハロゲン化合物の代表的な合成法について説明できる。	C5(1)-1-3		有機化学Ⅱ（芳香族化合物等）				
4）アルコールの代表的な合成法について説明できる。	C5(1)-1-4						
5）フェノールの代表的な合成法について説明できる。	C5(1)-1-5						
6）エーテルの代表的な合成法について説明できる。	C5(1)-1-6						
7）アルデヒドおよびケトンの代表的な合成法について説明できる。	C5(1)-1-7						
8）カルボン酸の代表的な合成法について説明できる。	C5(1)-1-8						
9）カルボン酸誘導体（エステル、アミド、ニトリル、酸ハロゲン化物、酸無水物）の代表的な合成法について説明できる。	C5(1)-1-9						
10）アミンの代表的な合成法について説明できる。	C5(1)-1-10		有機化学Ⅲ（アミン等）				
11）代表的な官能基選択的反応を列挙し、その機構と応用例について説明できる。	C5(1)-1-11						
12）代表的な官能基を他の官能基に変換できる。（技能）	C5(1)-1-12		有機化学実習 有機化学Ⅲ（アミン等）				
（2）複雑な化合物の合成							
【炭素骨格の構築法】							
1）Diels-Alder反応の特徴を具体例を用いて説明できる。	C5(2)-1-1		有機化学Ⅲ（アミン等）				
2）転位反応を用いた代表的な炭素骨格の構築法を列挙できる。	C5(2)-1-2						
3）代表的な炭素酸のpKaと反応性の関係を説明できる。	C5(2)-1-3			医薬品化学			
4）代表的な炭素-炭素結合生成反応（アルドール反応、マロン酸エステル合成、アセト酢酸エステル合成、Michael付加、Mannich反応、Grignard反応、Wittig反応など）について概説できる。	C5(2)-1-4						
【位置および立体選択性】							
1）代表的な位置選択的反応を列挙し、その機構と応用例について説明できる。	C5(2)-2-1		有機化学Ⅲ（アミン等）				
2）代表的な立体選択的反応を列挙し、その機構と応用例について説明できる。	C5(2)-2-2						
【保護基】							
1）官能基毎に代表的な保護基を列挙し、その応用例を説明できる。	C5(2)-3-1		有機化学Ⅲ（アミン等）	医薬品化学			
【光学活性化合物】							
1）光学活性化合物を得るための代表的な手法（光学分割、不斉合成など）を説明できる。	C5(2)-4-1		有機化学Ⅲ（アミン等）	医薬品化学			
【総合演習】							
1）課題として与えられた化合物の合成法を立案できる。（知識・技能）	C5(2)-5-1			医薬品化学			
2）課題として与えられた医薬品を合成できる。（技能）	C5(2)-5-2		有機化学実習				
3）反応廃液を適切に処理する。（技能・態度）	C5(2)-5-3						
C6　生体分子・医薬品を化学で理解する							
（1）生体分子のコアとパーツ							
【生体分子の化学構造】							
1）タンパク質の高次構造を規定する結合（アミド基間の水素結合、ジスルフィド結合など）および相互作用について説明できる。	C6(1)-1-1						
2）糖類および多糖類の基本構造を概説できる。	C6(1)-1-2						
3）糖とタンパク質の代表的な結合様式を示すことができる。	C6(1)-1-3	化学					

薬学教育モデル・コアカリキュラム（SBOs）		該当科目					
		1年	2年	3年	4年	5年	6年
4）核酸の立体構造を規定する化学結合、相互作用について説明できる。	C6(1)-1-4						
5）生体膜を構成する脂質の化学構造の特徴を説明できる。	C6(1)-1-5						
【生体内で機能する複素環】							
1）生体内に存在する代表的な複素環化合物を列挙し、構造式を書くことができる。	C6(1)-2-1						
2）核酸塩基の構造を書き、水素結合を形成する位置を示すことができる。	C6(1)-2-2						
3）複素環を含む代表的な補酵素（フラビン、NAD、チアミン、ピリドキサール、葉酸など）の機能を化学反応性と関連させて説明できる。	C6(1)-2-3						
【生体内で機能する錯体・無機化合物】							
1）生体内に存在する代表的な金属イオンおよび錯体の機能について説明できる。	C6(1)-3-1	無機・錯体化学					
2）活性酸素の構造、電子配置と性質を説明できる。	C6(1)-3-2						
3）一酸化窒素の電子配置と性質を説明できる。	C6(1)-3-3						
【化学から観る生体ダイナミクス】							
1）代表的な酵素の基質結合部位が有する構造上の特徴を具体例を挙げて説明できる。	C6(1)-4-1						
2）代表的な酵素（キモトリプシン、リボヌクレアーゼなど）の作用機構を分子レベルで説明できる。	C6(1)-4-2						
3）タンパク質リン酸化におけるATPの役割を化学的に説明できる。	C6(1)-4-3						
（2）医薬品のコアとパーツ							
【医薬品のコンポーネント】							
1）代表的な医薬品のコア構造（ファーマコフォア）を指摘し、分類できる。	C6(2)-1-1			医薬品化学			
2）医薬品に含まれる代表的な官能基を、その性質によって分類し、医薬品の効果と結びつけて説明できる。	C6(2)-1-2						
【医薬品に含まれる複素環】							
1）医薬品として複素環化合物が繁用される根拠を説明できる。	C6(2)-2-1			医薬品化学			
2）医薬品に含まれる代表的な複素環化合物を指摘し、分類することができる。	C6(2)-2-2						
3）代表的な芳香族複素環化合物の性質を芳香族性と関連づけて説明できる。	C6(2)-2-3						
4）代表的芳香族複素環の求電子試薬に対する反応性および配向性について説明できる。	C6(2)-2-4						
5）代表的芳香族複素環の求核試薬に対する反応性および配向性について説明できる。	C6(2)-2-5						
【医薬品と生体高分子】							
1）生体高分子と非共有結合的に相互作用しうる官能基を列挙できる。	C6(2)-3-1				先端医療薬剤学（選）		
2）生体高分子と共有結合で相互作用しうる官能基を列挙できる。	C6(2)-3-2						
3）分子模型、コンピューターソフトなどを用いて化学物質の立体構造をシミュレートできる。（知識・技能）	C6(2)-3-3						
【生体分子を模倣した医薬品】							
1）カテコールアミンアナログの医薬品を列挙し、それらの化学構造を比較できる。	C6(2)-4-1			医薬品化学			
2）アセチルコリンアナログの医薬品を列挙し、それらの化学構造を比較できる。	C6(2)-4-2						
3）ステロイドアナログの医薬品を列挙し、それらの化学構造を比較できる。	C6(2)-4-3						
4）核酸アナログの医薬品を列挙し、それらの化学構造を比較できる。	C6(2)-4-4						
5）ペプチドアナログの医薬品を列挙し、それらの化学構造を比較できる。	C6(2)-4-5						

薬学教育モデル・コアカリキュラム（ＳＢＯs）		該当科目					
		１年	２年	３年	４年	５年	６年
【生体内分子と反応する医薬品】							
１）アルキル化剤とDNA塩基の反応を説明できる。	C6(2)-5-1						
２）インターカレーターの作用機序を図示し、説明できる。	C6(2)-5-2						
３）β-ラクタムを持つ医薬品の作用機序を化学的に説明できる。	C6(2)-5-3						
C7　自然が生み出す薬物							
（１）薬になる動植鉱物							
【生薬とは何か】							
１）代表的な生薬を列挙し、その特徴を説明できる。	C7(1)-1-1						
２）生薬の歴史について概説できる。	C7(1)-1-2			天然薬物学			
３）生薬の生産と流通について概説できる。	C7(1)-1-3						
【薬用植物】							
１）代表的な薬用植物の形態を観察する。（技能）	C7(1)-2-1						
２）代表的な薬用植物の学名、薬用部位、薬効などを列挙できる。	C7(1)-2-2			天然薬物学			
３）代表的な生薬の産地と基原植物の関係について、具体例を挙げて説明できる。	C7(1)-2-3						
４）代表的な薬用植物を形態が似ている植物と区別できる。（技能）	C7(1)-2-4						
５）代表的な薬用植物に含有される薬効成分を説明できる。	C7(1)-2-5			天然薬物学			
【植物以外の医薬資源】							
１）動物、鉱物由来の医薬品について具体例を挙げて説明できる。	C7(1)-3-1			天然薬物学			
【生薬成分の構造と生合成】							
１）代表的な生薬成分を化学構造から分類し、それらの生合成経路を概説できる。	C7(1)-4-1		薬用資源学				
２）代表的なテルペノイドの構造を生合成経路に基づいて説明し、その基原植物を挙げることができる。	C7(1)-4-2						
３）代表的な強心配糖体の構造を生合成経路に基づいて説明し、その基原植物を挙げることができる。	C7(1)-4-3						
４）代表的なアルカロイドの構造を生合成経路に基づいて説明し、その基原植物を挙げることができる。	C7(1)-4-4						
５）代表的なフラボノイドの構造を生合成経路に基づいて説明し、その基原植物を挙げることができる。	C7(1)-4-5						
６）代表的なフェニルプロパノイドの構造を生合成経路に基づいて説明し、その基原植物を挙げることができる。	C7(1)-4-6						
７）代表的なポリケチドの構造を生合成経路に基づいて説明し、その基原植物を挙げることができる。	C7(1)-4-7						
【農薬、香粧品としての利用】							
１）天然物質の農薬、香粧品などの原料としての有用性について、具体例を挙げて説明できる。	C7(1)-5-1		薬用資源学		香粧品科学（選）		
【生薬の同定と品質評価】							
１）日本薬局方の生薬総則および生薬試験法について説明できる。	C7(1)-6-1						
２）代表的な生薬を鑑別できる。（技能）	C7(1)-6-2			天然薬物学実習			
３）代表的な生薬の確認試験を実施できる。（技能）	C7(1)-6-3						
４）代表的な生薬の純度試験を実施できる。（技能）	C7(1)-6-4						
５）生薬の同定と品質評価法について概説できる。	C7(1)-6-5						

薬学教育モデル・コアカリキュラム（SBOs）		該当科目					
		1年	2年	3年	4年	5年	6年
（2）薬の宝庫としての天然物							
【シーズの探索】							
1）医薬品として使われている天然有機化合物およびその誘導体を、具体例を挙げて説明できる。	C7(2)-1-1		薬用資源学				
2）シーズの探索に貢献してきた伝統医学、民族植物学を例示して概説できる。	C7(2)-1-2				香粧品科学（選）		
3）医薬原料としての天然物質の資源確保に関して問題点を列挙できる。	C7(2)-1-3						
【天然物質の取扱い】							
1）天然物質の代表的な抽出法、分離精製法を列挙し、実施できる。（技能）	C7(2)-2-1			天然薬物学実習			
2）代表的な天然有機化合物の構造決定法について具体例を挙げて概説できる。	C7(2)-2-2			天然薬物学 天然薬物学実習			
【微生物が生み出す医薬品】							
1）抗生物質とは何かを説明し、化学構造に基づいて分類できる。	C7(2)-3-1						
【発酵による医薬品の生産】							
1）微生物による抗生物質（ペニシリン、ストレプトマイシンなど）生産の過程を概説できる。	C7(2)-4-1				香粧品科学（選）		
【発酵による有用物質の生産】							
1）微生物の生産する代表的な糖質、酵素を列挙し、利用法を説明できる。	C7(2)-5-1				香粧品科学（選）		
（3）現代医療の中の生薬・漢方薬							
【漢方医学の基礎】							
1）漢方医学の特徴について概説できる。	C7(3)-1-1	漢方医学入門			漢方治療学		
2）漢方薬と民間薬、代替医療との相違について説明できる。	C7(3)-1-2						
3）漢方薬と西洋薬の基本的な利用法の違いを概説できる。	C7(3)-1-3						
4）漢方処方と「証」との関係について概説できる。	C7(3)-1-4						
5）代表的な漢方処方の適応症と配合生薬を説明できる。	C7(3)-1-5			天然薬物学実習			
6）漢方処方に配合されている代表的な生薬を例示し、その有効成分を説明できる。	C7(3)-1-6						
7）漢方エキス製剤の特徴を煎液と比較して列挙できる。	C7(3)-1-7						
【漢方処方の応用】							
1）代表的な疾患に用いられる生薬及び漢方処方の応用、使用上の注意について概説できる。	C7(3)-2-1				漢方治療学		
2）漢方薬の代表的な副作用や注意事項を説明できる。	C7(3)-2-2						
[生物系薬学を学ぶ]							
C8　生命体の成り立ち							
（1）ヒトの成り立ち							
【概論】							
1）ヒトの身体を構成する臓器の名称、形態および体内での位置を説明できる。	C8(1)-1-1		生理化学Ⅱ（造血器系等の生理学）	生理・解剖学実習			
2）ヒトの身体を構成する各臓器の役割分担について概説できる。	C8(1)-1-2						
【神経系】							
1）中枢神経系の構成と機能の概要を説明できる。	C8(1)-2-1			生理化学Ⅲ（神経系等の生理学） 生理・解剖学実習			
2）体性神経系の構成と機能の概要を説明できる。	C8(1)-2-2						
3）自律神経系の構成と機能の概要を説明できる。	C8(1)-2-3						

薬学教育モデル・コアカリキュラム（SBOs）		該当科目					
		1年	2年	3年	4年	5年	6年
【骨格系・筋肉系】							
1）主な骨と関節の名称を挙げ、位置を示すことができる。	C8(1)-3-1			生理化学Ⅲ（神経系等の生理学） 生理・解剖学実習			
2）主な骨格筋の名称を挙げ、位置を示すことができる。	C8(1)-3-2						
【皮膚】							
1）皮膚について機能と構造を関連づけて説明できる。	C8(1)-4-1			生理化学Ⅲ（神経系等の生理学） 生理・解剖学実習	香粧品科学（選）		
【循環器系】							
1）心臓について機能と構造を関連づけて説明できる。	C8(1)-5-1		生理化学Ⅱ（造血器系等の生理学）	生理・解剖学実習	ペット医薬品学（選）		
2）血管系について機能と構造を関連づけて説明できる。	C8(1)-5-2						
3）リンパ系について機能と構造を関連づけて説明できる。	C8(1)-5-3						
【呼吸器系】							
1）肺、気管支について機能と構造を関連づけて説明できる。	C8(1)-6-1		生理化学Ⅱ（造血器系等の生理学）	生理・解剖学実習			
【消化器系】							
1）胃、小腸、大腸などの消化管について機能と構造を関連づけて説明できる。	C8(1)-7-1		生理化学Ⅱ（造血器系等の生理学）	生理・解剖学実習			
2）肝臓、膵臓、胆嚢について機能と構造を関連づけて説明できる。	C8(1)-7-2						
【泌尿器系】							
1）腎臓、膀胱などの泌尿器系臓器について機能と構造を関連づけて説明できる。	C8(1)-8-1			生理化学Ⅲ（神経系等の生理学） 生理・解剖学実習	ペット医薬品学（選）		
【生殖器系】							
1）精巣、卵巣、子宮などの生殖器系臓器について機能と構造を関連づけて説明できる。	C8(1)-9-1			生理化学Ⅲ（神経系等の生理学） 生理・解剖学実習			
【内分泌系】							
1）脳下垂体、甲状腺、副腎などの内分泌系臓器について機能と構造を関連づけて説明できる。	C8(1)-10-1			生理化学Ⅲ（神経系等の生理学） 生理・解剖学実習			
【感覚器系】							
1）眼、耳、鼻などの感覚器について機能と構造を関連づけて説明できる。	C8(1)-11-1			生理化学Ⅲ（神経系等の生理学） 生理・解剖学実習			
【血液・造血器系】							
1）骨髄、脾臓、胸腺などの血液・造血器系臓器について機能と構造を関連づけて説明できる。	C8(1)-12-1		生理化学Ⅱ（造血器系等の生理学）	生理・解剖学実習			
（2） 生命体の基本単位としての細胞							
【細胞と組織】							
1）細胞集合による組織構築について説明できる。	C8(2)-1-1	生理化学Ⅰ（細胞生理学）		生理・解剖学実習			
2）臓器、組織を構成する代表的な細胞の種類を列挙し、形態的および機能的特徴を説明できる。	C8(2)-1-2						
3）代表的な細胞および組織を顕微鏡を用いて観察できる。（技能）	C8(2)-1-3						
【細胞膜】							
1）細胞膜の構造と性質について説明できる。	C8(2)-2-1	生理化学Ⅰ（細胞生理学）		生理・解剖学実習			
2）細胞膜を構成する代表的な生体分子を列挙し、その機能を説明できる。	C8(2)-2-2						
3）細胞膜を介した物質移動について説明できる。	C8(2)-2-3						
【細胞内小器官】							
1）細胞内小器官（核、ミトコンドリア、小胞体、リソソーム、ゴルジ体、ペルオキシソームなど）の構造と機能を説明できる。	C8(2)-3-1	生物化学Ⅰ（物質生化学） 生理化学Ⅰ（細胞生理学）		生理・解剖学実習			

薬学教育モデル・コアカリキュラム（SBOs）		該当科目					
		1年	2年	3年	4年	5年	6年
【細胞の分裂と死】							
1）体細胞分裂の機構について説明できる。	C8(2)-4-1	生物化学Ⅰ（物質生化学） 生理化学Ⅰ（細胞生理学		生理・解剖学実習	医薬品安全性学		
2）生殖細胞の分裂機構について説明できる。	C8(2)-4-2	生理化学Ⅰ（細胞生理学	生物化学Ⅱ（分子生物学）				
3）アポトーシスとネクローシスについて説明できる。	C8(2)-4-3						
4）正常細胞とがん細胞の違いを対比して説明できる。	C8(2)-4-4						
【細胞間コミュニケーション】							
1）細胞間の接着構造、主な細胞接着分子の種類と特徴を説明できる。	C8(2)-5-1	生理化学Ⅰ（細胞生理学		生理・解剖学実習			
2）主な細胞外マトリックス分子の種類、分布、性質を説明できる。	C8(2)-5-2						
（3）生体の機能調節							
【神経・筋の調節機構】							
1）神経系の興奮と伝導の調節機構を説明できる。	C8(3)-1-1			生理化学Ⅲ（神経系等の生理学） 生理・解剖学実習			
2）シナプス伝達の調節機構を説明できる。	C8(3)-1-2						
3）神経系、感覚器を介するホメオスタシスの調節機構の代表例を列挙し、概説できる。	C8(3)-1-3						
4）筋収縮の調節機構を説明できる。	C8(3)-1-4						
【ホルモンによる調節機構】							
1）主要なホルモンの分泌機構および作用機構を説明できる。	C8(3)-2-1			生理化学Ⅲ（神経系等の生理学） 生理・解剖学実習			
2）血糖の調節機構を説明できる。	C8(3)-2-2						
【循環・呼吸系の調節機構】							
1）血圧の調節機構を説明できる。	C8(3)-3-1		生理化学Ⅱ（造血器系等の生理学）	生理・解剖学実習			
2）肺および組織におけるガス交換を説明できる。	C8(3)-3-2						
3）血液凝固・線溶系の機構を説明できる。	C8(3)-3-3						
【体液の調節機構】							
1）体液の調節機構を説明できる。	C8(3)-4-1			生理化学Ⅲ（神経系等の生理学） 生理・解剖学実習			
2）尿の生成機構、尿量の調節機構を説明できる。	C8(3)-4-2						
【消化・吸収の調節機構】							
1）消化、吸収における神経の役割について説明できる。	C8(3)-5-1		生理化学Ⅱ（造血器系等の生理学）	生理・解剖学実習			
2）消化、吸収におけるホルモンの役割について説明できる。	C8(3)-5-2						
【体温の調節機構】							
1）体温の調節機構を説明できる。	C8(3)-6-1			生理・解剖学実習			
（4）小さな生き物たち							
【総論】							
1）生態系の中での微生物の役割について説明できる。	C8(4)-1-1		微生物学 病原微生物学				
2）原核生物と真核生物の違いを説明できる。	C8(4)-1-2						

薬学教育モデル・コアカリキュラム（ＳＢＯs）		該当科目					
		１年	２年	３年	４年	５年	６年
【細菌】							
１）細菌の構造と増殖機構を説明できる。	C8(4)-2-1		微生物学 病原微生物学				
２）細菌の系統的分類について説明でき、主な細菌を列挙できる。	C8(4)-2-2						
３）グラム陽性菌と陰性菌、好気性菌と嫌気性菌の違いを説明できる。	C8(4)-2-3			衛生薬学実習			
４）マイコプラズマ、リケッチア、クラミジア、スピロヘータ、放線菌についてその特性を説明できる。	C8(4)-2-4						
５）腸内細菌の役割について説明できる。	C8(4)-2-5		微生物学 病原微生物学				
６）細菌の遺伝子伝達（接合、形質導入、形質転換）について説明できる。	C8(4)-2-6		微生物学				
【細菌毒素】							
１）代表的な細菌毒素の作用を説明できる。	C8(4)-3-1		微生物学 病原微生物学				
【ウイルス】							
１）代表的なウイルスの構造と増殖過程を説明できる。	C8(4)-4-1		病原微生物学 微生物学				
２）ウイルスの分類法について概説できる。	C8(4)-4-2						
３）代表的な動物ウイルスの培養法、定量法について説明できる。	C8(4)-4-3		微生物学				
【真菌・原虫・その他の微生物】							
１）主な真菌の性状について説明できる。	C8(4)-5-1		病原微生物学 微生物学				
２）主な原虫、寄生虫の生活史について説明できる。	C8(4)-5-2						
【消毒と滅菌】							
１）滅菌、消毒、防腐および殺菌、静菌の概念を説明できる。	C8(4)-6-1		微生物学				
２）主な消毒薬を適切に使用する。（技能・態度）　（OSCEの対象）	C8(4)-6-2			衛生薬学実習			
３）主な滅菌法を実施できる。（技能）　（OSCEの対象）	C8(4)-6-3						
【検出方法】							
１）グラム染色を実施できる。（技能）	C8(4)-7-1			衛生薬学実習			
２）無菌操作を実施できる。（技能）	C8(4)-7-2						
３）代表的な細菌または真菌の分離培養、純培養を実施できる。（技能）	C8(4)-7-3		微生物学				
４）細菌の同定に用いる代表的な試験法（生化学的性状試験、血清型別試験、分子生物学的試験）について説明できる。	C8(4)-7-4						
５）代表的な細菌を同定できる。（技能）	C8(4)-7-5						
C9　生命をミクロに理解する							
（１）細胞を構成する分子							
【脂質】							
１）脂質を分類し、構造の特徴と役割を説明できる。	C9(1)-1-1	生物化学Ⅰ（物質生化学）	薬用資源学				
２）脂肪酸の種類と役割を説明できる。	C9(1)-1-2						
３）脂肪酸の生合成経路を説明できる。	C9(1)-1-3		薬用資源学 生物化学Ⅲ（代謝生化学）				
４）コレステロールの生合成経路と代謝を説明できる。	C9(1)-1-4						

薬学教育モデル・コアカリキュラム（ＳＢＯs）		該当科目					
		１年	２年	３年	４年	５年	６年
【糖質】							
１）グルコースの構造、性質、役割を説明できる。	C9(1)-2-1	生物化学Ⅰ（物質生化学）	薬用資源学				
２）グルコース以外の代表的な単糖、および二糖の種類、構造、性質、役割を説明できる。	C9(1)-2-2						
３）代表的な多糖の構造と役割を説明できる。	C9(1)-2-3						
４）糖質の定性および定量試験法を実施できる。（技能）	C9(1)-2-4		生物薬学実習				
【アミノ酸】							
１）アミノ酸を列挙し、その構造に基づいて性質を説明できる。	C9(1)-3-1	生物化学Ⅰ（物質生化学）	薬用資源学				
２）アミノ酸分子中の炭素および窒素の代謝について説明できる。	C9(1)-3-2		薬用資源学 生物化学Ⅲ（代謝生化学）				
３）アミノ酸の定性および定量試験法を実施できる。（技能）	C9(1)-3-3		生物薬学実習				
【ビタミン】							
１）水溶性ビタミンを列挙し、各々の構造、基本的性質、補酵素や補欠分子として関与する生体内反応について説明できる。	C9(1)-4-1	生物化学Ⅰ（物質生化学）					
２）脂溶性ビタミンを列挙し、各々の構造、基本的性質と生理機能を説明できる。	C9(1)-4-2		薬用資源学				
３）ビタミンの欠乏と過剰による症状を説明できる。	C9(1)-4-3						
（２）生命情報を担う遺伝子							
【ヌクレオチドと核酸】							
１）核酸塩基の代謝（生合成と分解）を説明できる。	C9(2)-1-1	生物化学Ⅰ（物質生化学）	生物化学Ⅱ（分子生物学）				
２）DNAの構造について説明できる。	C9(2)-1-2		生物化学Ⅱ（分子生物学）				
３）RNAの構造について説明できる。	C9(2)-1-3		微生物学				
【遺伝情報を担う分子】							
１）遺伝子発現に関するセントラルドグマについて概説できる。	C9(2)-2-1		生物化学Ⅱ（分子生物学） 微生物学		先端医療薬剤学（選）		
２）DNA鎖とRNA鎖の類似点と相違点を説明できる。	C9(2)-2-2						
３）ゲノムと遺伝子の関係を説明できる。	C9(2)-2-3						
４）染色体の構造を説明できる。	C9(2)-2-4						
５）遺伝子の構造に関する基本的用語（プロモーター、エンハンサー、エキソン、イントロンなど）を説明できる。	C9(2)-2-5						
６）RNAの種類と働きについて説明できる。	C9(2)-2-6						
【転写と翻訳のメカニズム】							
１）DNAからRNAへの転写について説明できる。	C9(2)-3-1		生物化学Ⅱ（分子生物学） 微生物学				
２）転写の調節について、例を挙げて説明できる。	C9(2)-3-2						
３）RNAのプロセシングについて説明できる。	C9(2)-3-3						
４）RNAからタンパク質への翻訳の過程について説明できる。	C9(2)-3-4						
５）リボソームの構造と機能について説明できる。	C9(2)-3-5						
【遺伝子の複製・変異・修復】							
１）DNAの複製の過程について説明できる。	C9(2)-4-1		生物化学Ⅱ（分子生物学） 微生物学				
２）遺伝子の変異（突然変異）について説明できる。	C9(2)-4-2						
３）DNAの修復の過程について説明できる。	C9(2)-4-3						

薬学教育モデル・コアカリキュラム（ＳＢＯｓ）		該当科目					
		１年	２年	３年	４年	５年	６年
【遺伝子多型】							
１）一塩基変異（SNPs）が機能におよぼす影響について概説できる。	C9(2)-5-1		生物化学Ⅱ（分子生物学） 微生物学				
（３）生命活動を担うタンパク質							
【タンパク質の構造と機能】							
１）タンパク質の主要な機能を列挙できる。	C9(3)-1-1						
２）タンパク質の一次、二次、三次、四次構造を説明できる。	C9(3)-1-2	生物化学Ⅰ（物質生化学）					
３）タンパク質の機能発現に必要な翻訳後修飾について説明できる。	C9(3)-1-3						
【酵素】							
１）酵素反応の特性を一般的な化学反応と対比させて説明できる。	C9(3)-2-1	生物化学Ⅰ（物質生化学）					
２）酵素を反応様式により分類し、代表的なものについて性質と役割を説明できる。	C9(3)-2-2						
３）酵素反応における補酵素、微量金属の役割を説明できる。	C9(3)-2-3						
４）酵素反応速度論について説明できる。	C9(3)-2-4						
５）代表的な酵素活性調節機構を説明できる。	C9(3)-2-5		微生物学				
６）代表的な酵素の活性を測定できる。（技能）	C9(3)-2-6		生物薬学実習				
【酵素以外の機能タンパク質】							
１）細胞内外の物質や情報の授受に必要なタンパク質（受容体、チャネルなど）の構造と機能を概説できる。	C9(3)-3-1	生物化学Ⅰ（物質生化学） 生理化学Ⅰ（細胞生理学					
２）物質の輸送を担うタンパク質の構造と機能を概説できる。	C9(3)-3-2						
３）血漿リポタンパク質の種類と機能を概説できる。	C9(3)-3-3	生物化学Ⅰ（物質生化学）					
４）細胞内で情報を伝達する主要なタンパク質を列挙し、その機能を概説できる。	C9(3)-3-4	生物化学Ⅰ（物質生化学）					
５）細胞骨格を形成するタンパク質の種類と役割について概説できる。	C9(3)-3-5	生理化学Ⅰ（細胞生理学					
【タンパク質の取扱い】							
１）タンパク質の定性、定量試験法を実施できる。（技能）	C9(3)-4-1		生物薬学実習				
２）タンパク質の分離、精製と分子量の測定法を説明し、実施できる。（知識・技能）	C9(3)-4-2						
３）タンパク質のアミノ酸配列決定法を説明できる。	C9(3)-4-3						
（４）生体エネルギー							
【栄養素の利用】							
１）食物中の栄養成分の消化・吸収、体内運搬について概説できる。	C9(4)-1-1		生物化学Ⅲ（代謝生化学）				
【ATPの産生】							
１）ATPが高エネルギー化合物であることを、化学構造をもとに説明できる。	C9(4)-2-1		微生物学 生物化学Ⅲ（代謝生化学）				
２）解糖系について説明できる。	C9(4)-2-2						
３）クエン酸回路について説明できる。	C9(4)-2-3						
４）電子伝達系（酸化的リン酸化）について説明できる。	C9(4)-2-4						
５）脂肪酸のβ酸化反応について説明できる。	C9(4)-2-5		生物化学Ⅲ（代謝生化学）				
６）アセチルCoAのエネルギー代謝における役割を説明できる。	C9(4)-2-6						
７）エネルギー産生におけるミトコンドリアの役割を説明できる。	C9(4)-2-7		微生物学 生物化学Ⅲ（代謝生化学）				
８）ATP産生阻害物質を列挙し、その阻害機構を説明できる。	C9(4)-2-8		生物化学Ⅲ（代謝生化学）				
９）ペントースリン酸回路の生理的役割を説明できる。	C9(4)-2-9		微生物学 生物化学Ⅲ（代謝生化学）				
10）アルコール発酵、乳酸発酵の生理的役割を説明できる。	C9(4)-2-10						

薬学教育モデル・コアカリキュラム（SBOs）		該当科目					
		1年	2年	3年	4年	5年	6年
【飢餓状態と飽食状態】							
1）グリコーゲンの役割について説明できる。	C9(4)-3-1		生物化学Ⅲ（代謝生化学）				
2）糖新生について説明できる。	C9(4)-3-2						
3）飢餓状態のエネルギー代謝（ケトン体の利用など）について説明できる。	C9(4)-3-3						
4）余剰のエネルギーを蓄えるしくみを説明できる。	C9(4)-3-4						
5）食餌性の血糖変動について説明できる。	C9(4)-3-5						
6）インスリンとグルカゴンの役割を説明できる。	C9(4)-3-6						
7）糖から脂肪酸への合成経路を説明できる。	C9(4)-3-7						
8）ケト原性アミノ酸と糖原性アミノ酸について説明できる。	C9(4)-3-8						
（5）生理活性分子とシグナル分子							
【ホルモン】							
1）代表的なペプチド性ホルモンを挙げ、その産生臓器、生理作用および分泌調節機構を説明できる。	C9(5)-1-1		生物化学Ⅲ（代謝生化学）				
2）代表的なアミノ酸誘導体ホルモンを挙げ、その構造、産生臓器、生理作用および分泌調節機構を説明できる。	C9(5)-1-2						
3）代表的なステロイドホルモンを挙げ、その構造、産生臓器、生理作用および分泌調節機構を説明できる。	C9(5)-1-3						
4）代表的なホルモン異常による疾患を挙げ、その病態を説明できる。	C9(5)-1-4						
【オータコイドなど】							
1）エイコサノイドとはどのようなものか説明できる。	C9(5)-2-1		生物化学Ⅲ（代謝生化学）				
2）代表的なエイコサノイドを挙げ、その生合成経路を説明できる。	C9(5)-2-2						
3）代表的なエイコサノイドを挙げ、その生理的意義（生理活性）を説明できる。	C9(5)-2-3						
4）主な生理活性アミン（セロトニン、ヒスタミンなど）の生合成と役割について説明できる。	C9(5)-2-4						
5）主な生理活性ペプチド（アンギオテンシン、ブラジキニンなど）の役割について説明できる。	C9(5)-2-5						
6）一酸化窒素の生合成経路と生体内での役割を説明できる。	C9(5)-2-6						
【神経伝達物質】							
1）モノアミン系神経伝達物質を列挙し、その生合成経路、分解経路、生理活性を説明できる。	C9(5)-3-1		生物化学Ⅲ（代謝生化学）				
2）アミノ酸系神経伝達物質を列挙し、その生合成経路、分解経路、生理活性を説明できる。	C9(5)-3-2						
3）ペプチド系神経伝達物質を列挙し、その生合成経路、分解経路、生理活性を説明できる。	C9(5)-3-3						
4）アセチルコリンの生合成経路、分解経路、生理活性を説明できる。	C9(5)-3-4						
【サイトカイン・増殖因子・ケモカイン】							
1）代表的なサイトカインを挙げ、それらの役割を概説できる。	C9(5)-4-1			生理化学Ⅲ（神経系等の生理学）			
2）代表的な増殖因子を挙げ、それらの役割を概説できる。	C9(5)-4-2				先端医療薬剤学（選）		
3）代表的なケモカインを挙げ、それらの役割を概説できる。	C9(5)-4-3		薬用資源学				
【細胞内情報伝達】							
1）細胞内情報伝達に関与するセカンドメッセンジャーおよびカルシウムイオンなどを、具体例を挙げて説明できる。	C9(5)-5-1	生理化学Ⅰ（細胞生理学）	生物化学Ⅱ（分子生物学） 薬用資源学				
2）細胞膜受容体からGタンパク系を介して細胞内へ情報を伝達する主な経路について概説できる。	C9(5)-5-2						
3）細胞膜受容体タンパク質などのリン酸化を介して情報を伝達する主な経路について概説できる。	C9(5)-5-3						
4）代表的な細胞内（核内）受容体の具体例を挙げて説明できる。	C9(5)-5-4		生物化学Ⅱ（分子生物学）				

薬学教育モデル・コアカリキュラム（ＳＢＯｓ）		該当科目					
		１年	２年	３年	４年	５年	６年
（６）遺伝子を操作する							
【遺伝子操作の基本】							
１）組換えDNA技術の概要を説明できる。	C9(6)-1-1		微生物学 生物化学Ⅱ（分子生物学）		先端医療薬剤学（選）		
２）細胞からDNAを抽出できる。（技能）	C9(6)-1-2		生物薬学実習				
３）DNAを制限酵素により切断し、電気泳動法により分離できる。（技能）	C9(6)-1-3						
４）組換えDNA実験指針を理解し守る。（態度）	C9(6)-1-4						
５）遺伝子取扱いに関する安全性と倫理について配慮する。（態度）	C9(6)-1-5						
【遺伝子のクローニング技術】							
１）遺伝子クローニング法の概要を説明できる。	C9(6)-2-1		生物化学Ⅱ（分子生物学） 微生物学				
２）cDNAとゲノミックDNAの違いについて説明できる。	C9(6)-2-2						
３）遺伝子ライブラリーについて説明できる。	C9(6)-2-3						
４）PCR法による遺伝子増幅の原理を説明し、実施できる。（知識・技能）	C9(6)-2-4		生物化学Ⅱ（分子生物学） 生物薬学実習 微生物学				
５）RNAの逆転写と逆転写酵素について説明できる。	C9(6)-2-5		生物化学Ⅱ（分子生物学） 微生物学				
６）DNA塩基配列の決定法を説明できる。	C9(6)-2-6						
７）コンピューターを用いて特徴的な塩基配列を検索できる。（技能）	C9(6)-2-7						
【遺伝子機能の解析技術】							
１）細胞（組織）における特定のDNAおよびRNAを検出する方法を説明できる。	C9(6)-3-1		生物化学Ⅱ（分子生物学） 微生物学				
２）外来遺伝子を細胞中で発現させる方法を概説できる。	C9(6)-3-2				先端医療薬剤学（選）		
３）特定の遺伝子を導入した動物、あるいは特定の遺伝子を破壊した動物の作成法を概説できる。	C9(6)-3-3						
４）遺伝子工学の医療分野での応用について例を挙げて説明できる。	C9(6)-3-4						
C10 生体防御							
（１）身体をまもる							
【生体防御反応】							
１）自然免疫と獲得免疫の特徴とその違いを説明できる。	C10(1)-1-1		免疫学Ⅰ（基礎と理論） 微生物学				
２）異物の侵入に対する物理的、生理的、化学的バリアーについて説明できる。	C10(1)-1-2						
３）補体について、その活性化経路と機能を説明できる。	C10(1)-1-3		免疫学Ⅰ（基礎と理論）				
４）免疫反応の特徴（自己と非自己、特異性、記憶）を説明できる。	C10(1)-1-4						
５）クローン選択説を説明できる。	C10(1)-1-5						
６）体液性免疫と細胞性免疫を比較して説明できる。	C10(1)-1-6		微生物学 免疫学Ⅰ（基礎と理論）				
【免疫を担当する組織・細胞】							
１）免疫に関与する組織と細胞を列挙できる。	C10(1)-2-1		免疫学Ⅰ（基礎と理論）				
２）免疫担当細胞の種類と役割を説明できる。	C10(1)-2-2						
３）食細胞が自然免疫で果たす役割を説明できる。	C10(1)-2-3						
４）免疫反応における主な細胞間ネットワークについて説明できる。	C10(1)-2-4						

薬学教育モデル・コアカリキュラム（ＳＢＯs）		該当科目					
		１年	２年	３年	４年	５年	６年
【分子レベルで見た免疫のしくみ】							
１）抗体分子の種類、構造、役割を説明できる。	C10(1)-3-1		免疫学Ⅰ（基礎と理論）				
２）MHC抗原の構造と機能および抗原提示経路での役割について説明できる。	C10(1)-3-2						
３）T細胞による抗原の認識について説明できる。	C10(1)-3-3						
４）抗体分子およびT細胞抗原受容体の多様性を生み出す機構（遺伝子再構成）を概説できる。	C10(1)-3-4						
５）免疫系に関わる主なサイトカイン、ケモカインを挙げ、その作用を説明できる。	C10(1)-3-5						
（２）免疫系の破綻・免疫系の応用							
【免疫系が関係する疾患】							
１）アレルギーについて分類し、担当細胞および反応機構を説明できる。	C10(2)-1-1			免疫学Ⅱ（疾患と応用）			
２）炎症の一般的症状、担当細胞および反応機構について説明できる。	C10(2)-1-2						
３）代表的な自己免疫疾患の特徴と成因について説明できる。	C10(2)-1-3						
４）代表的な免疫不全症候群を挙げ、その特徴と成因を説明できる。	C10(2)-1-4						
【免疫応答のコントロール】							
１）臓器移植と免疫反応の関わり（拒絶反応、免疫抑制剤など）について説明できる。	C10(2)-2-1	医療概論		免疫学Ⅱ（疾患と応用）	先端医療薬剤学（選） 医薬品安全性学		
２）細菌、ウイルス、寄生虫などの感染症と免疫応答との関わりについて説明できる.	C10(2)-2-2		微生物学		医薬品安全性学		
３）腫瘍排除に関与する免疫反応について説明できる。	C10(2)-2-3						
４）代表的な免疫賦活療法について概説できる。	C10(2)-2-4						
【予防接種】							
１）予防接種の原理とワクチンについて説明できる。	C10(2)-3-1		微生物学	免疫学Ⅱ（疾患と応用）			
２）主なワクチン（生ワクチン、不活化ワクチン、トキソイド、混合ワクチン）について基本的特徴を説明できる。	C10(2)-3-2		微生物学 公衆衛生学				
３）予防接種について，その種類と実施状況を説明できる。	C10(2)-3-3		公衆衛生学				
【免疫反応の利用】							
１）モノクローナル抗体とポリクローナル抗体の作製方法を説明できる。	C10(2)-4-1			免疫学Ⅱ（疾患と応用）			
２）抗原抗体反応を利用した代表的な検査方法の原理を説明できる。	C10(2)-4-2		微生物学				
３）沈降、凝集反応を利用して抗原を検出できる。（技能）	C10(2)-4-3		生物薬学実習				
４）ELISA法、ウエスタンブロット法などを用いて抗原を検出、判定できる。（技能）	C10(2)-4-4						
（３）感染症にかかる							
【代表的な感染症】							
１）主なDNAウイルス（△サイトメガロウイルス、△EBウイルス、ヒトヘルペスウイルス、△アデノウイルス、△パルボウイルスB19、B型肝炎ウイルス）が引き起こす代表的な疾患について概説できる。	C10(3)-1-1		微生物学 公衆衛生学				
２）主なRNAウイルス（△ポリオウイルス、△コクサッキーウイルス、△エコーウイルス、△ライノウイルス、Ａ型肝炎ウイルス、C型肝炎ウイルス、インフルエンザウイルス、△麻疹ウイルス、△ムンプスウイルス）が引き起こす代表的な疾患について概説できる。	C10(3)-1-2						
３）レトロウイルス（HIV、HTLV）が引き起こす疾患について概説できる。	C10(3)-1-3						
４）グラム陽性球菌（ブドウ球菌、レンサ球菌）の細菌学的特徴とそれが引き起こす代表的な疾患について概説できる。	C10(3)-1-4		微生物学				
５）グラム陰性球菌（淋菌、△髄膜炎菌）の細菌学的特徴とそれが引き起こす代表的な疾患について概説できる。	C10(3)-1-5						

薬学教育モデル・コアカリキュラム（SBOs）		該当科目					
		1年	2年	3年	4年	5年	6年
6）グラム陽性桿菌（破傷風菌、△ガス壊疽菌、ボツリヌス菌、△ジフテリア菌、△炭疽菌）の細菌学的特徴とそれが引き起こす代表的な疾患について概説できる。	C10(3)-1-6		公衆衛生学 病原微生物学				
7）グラム陰性桿菌（大腸菌、赤痢菌、サルモネラ菌、△チフス菌、△ペスト菌、コレラ菌、△百日咳菌、腸炎ビブリオ菌、緑膿菌、△ブルセラ菌、レジオネラ菌、△インフルエンザ菌）の細菌学的特徴とそれが引き起こす代表的な疾患について概説できる。	C10(3)-1-7						
8）グラム陰性スピリルム属病原菌（ヘリコバクター・ピロリ菌）の細菌学的特徴とそれが引き起こす代表的な疾患について概説できる。	C10(3)-1-8		微生物学 公衆衛生学				
9）抗酸菌（結核菌、非定型抗酸菌）の細菌学的特徴とそれが引き起こす代表的な疾患について概説できる。	C10(3)-1-9						
10）スピロヘータ、マイコプラズマ、リケッチア、クラミジアの微生物学的特徴とそれが引き起こす代表的な疾患について概説できる。	C10(3)-1-10		微生物学 病原微生物学				
11）真菌（アスペルギルス、クリプトコックス、カンジダ、△ムーコル）の微生物学的特徴とそれが引き起こす代表的な疾患について概説できる。	C10(3)-1-11						
12）代表的な原虫、寄生虫の代表的な疾患について概説できる。	C10(3)-1-12						
13）プリオン感染症の病原体の特徴と発症機序について概説できる。	C10(3)-1-13						
【感染症の予防】							
1）院内感染について、発生要因、感染経路、原因微生物、およびその防止対策を概説できる。	C10(3)-2-1		微生物学 公衆衛生学 病原微生物学		国際保健医療論（選）		
[健康と環境]							
C11 健康							
（1）栄養と健康							
【栄養素】							
1）栄養素（三大栄養素、ビタミン、ミネラル）を列挙し、それぞれの役割について説明できる。	C11(1)-1-1		衛生化学Ⅱ（栄養・食品衛生学）				
2）各栄養素の消化、吸収、代謝のプロセスを概説できる。	C11(1)-1-2				救急・災害医療（選）		
3）脂質の体内運搬における血漿リポタンパク質の栄養学的意義を説明できる。	C11(1)-1-3						
4）食品中のタンパク質の栄養的な価値（栄養価）を説明できる。	C11(1)-1-4						
5）エネルギー代謝に関わる基礎代謝量、呼吸商、エネルギー所要量の意味を説明できる。	C11(1)-1-5				救急・災害医療（選）		
6）栄養素の栄養所要量の意義について説明できる。	C11(1)-1-6						
7）日本における栄養摂取の現状と問題点について説明できる。	C11(1)-1-7						
8）栄養素の過不足による主な疾病を列挙し、説明できる。	C11(1)-1-8				救急・災害医療（選）		
【食品の品質と管理】							
1）食品が腐敗する機構について説明できる。	C11(1)-2-1		衛生化学Ⅱ（栄養・食品衛生学）				
2）油脂が変敗する機構を説明し、油脂の変質試験を実施できる。（知識・技能）	C11(1)-2-2			衛生薬学実習			
3）食品の褐変を引き起こす主な反応とその機構を説明できる。	C11(1)-2-3						
4）食品の変質を防ぐ方法（保存法）を説明できる。	C11(1)-2-4						
5）食品成分由来の発がん物質を列挙し、その生成機構を説明できる。	C11(1)-2-5						
6）代表的な食品添加物を用途別に列挙し、それらの働きを説明できる。	C11(1)-2-6						
7）食品添加物の法的規制と問題点について説明できる。	C11(1)-2-7						
8）主な食品添加物の試験法を実施できる。（技能）	C11(1)-2-8			衛生薬学実習			
9）代表的な保健機能食品を列挙し、その特徴を説明できる。	C11(1)-2-9						
10）遺伝子組換え食品の現状を説明し、その問題点について討議する。（知識・態度）	C11(1)-2-10						

薬学教育モデル・コアカリキュラム（ＳＢＯs）		該当科目					
		１年	２年	３年	４年	５年	６年
【食中毒】							
１）食中毒の種類を列挙し、発生状況を説明できる。	C11(1)-3-1		微生物学 衛生化学Ⅱ（栄養・食品衛生学）				
２）代表的な細菌性・ウイルス性食中毒を列挙し、それらの原因となる微生物の性質、症状、原因食品および予防方法について説明できる。	C11(1)-3-2			衛生薬学実習			
３）食中毒の原因となる自然毒を列挙し、その原因物質、作用機構、症状の特徴を説明できる。	C11(1)-3-3		衛生化学Ⅱ（栄養・食品衛生学）				
４）代表的なマイコトキシンを列挙し、それによる健康障害について概説できる。	C11(1)-3-4						
５）化学物質（重金属、残留農薬など）による食品汚染の具体例を挙げ、ヒトの健康に及ぼす影響を説明できる。	C11(1)-3-5				ペット医薬品学（選）		
（２）社会・集団と健康							
【保健統計】							
１）集団の健康と疾病の現状を把握する上での人口統計の意義を概説できる。	C11(2)-1-1		公衆衛生学				
２）人口静態と人口動態について説明できる。	C11(2)-1-2						
３）国勢調査の目的と意義を説明できる。	C11(2)-1-3						
４）死亡に関する様々な指標の定義と意義について説明できる。	C11(2)-1-4						
５）人口の将来予測に必要な指標を列挙し、その意義について説明できる。	C11(2)-1-5						
【健康と疾病をめぐる日本の現状】							
１）死因別死亡率の変遷について説明できる。	C11(2)-2-1						
２）日本における人口の推移と将来予測について説明できる。	C11(2)-2-2		公衆衛生学				
３）高齢化と少子化によりもたらされる問題点を列挙し、討議する。（知識・態度）	C11(2)-2-3						
【疫学】							
１）疾病の予防における疫学の役割を説明できる。	C11(2)-3-1		公衆衛生学		国際保健医療論（選）		
２）疫学の三要因（病因、環境要因、宿主要因）について説明できる。	C11(2)-3-2						
３）疫学の種類（記述疫学、分析疫学など）とその方法について説明できる。	C11(2)-3-3						
４）患者・対照研究の方法の概要を説明し、オッズ比を計算できる。（知識・技能）	C11(2)-3-4						
５）要因・対照研究（コホート研究）の方法の概要を説明し、相対危険度、寄与危険度を計算できる。（知識・技能）	C11(2)-3-5						
６）医薬品の作用・副作用の調査における疫学的手法の有用性を概説できる。	C11(2)-3-6				国際保健医療論（選）		
７）疫学データを解釈する上での注意点を列挙できる。	C11(2)-3-7						
（３）疾病の予防							
【健康とは】							
１）健康と疾病の概念の変遷と、その理由を説明できる。	C11(3)-1-1		公衆衛生学		国際保健医療論（選）		
２）世界保健機構（WHO）の役割について概説できる。	C11(3)-1-2		微生物学 公衆衛生学				
【疾病の予防とは】							
１）疾病の予防について、一次、二次、三次予防という言葉を用いて説明できる。	C11(3)-2-1		公衆衛生学				
２）疾病の予防における予防接種の意義について説明できる。	C11(3)-2-2						
３）新生児マススクリーニングの意義について説明し、代表的な検査項目を列挙できる。	C11(3)-2-3						
４）疾病の予防における薬剤師の役割について討議する。（態度）	C11(3)-2-4				国際保健医療論（選）		

薬学教育モデル・コアカリキュラム（ＳＢＯs）		該当科目					
		１年	２年	３年	４年	５年	６年
【感染症の現状とその予防】							
１）現代における感染症（日和見感染、院内感染、国際感染症など）の特徴について説明できる。	C11(3)-3-1		微生物学 公衆衛生学 病原微生物学		新興再興感染症（選） 国際保健医療論（選）		
２）新興感染症および再興感染症について代表的な例を挙げて説明できる。	C11(3)-3-2						
３）一、二、三類感染症および代表的な四類感染症を列挙し、分類の根拠を説明できる。	C11(3)-3-3		微生物学 公衆衛生学				
４）母子感染する疾患を列挙し、その予防対策について説明できる。	C11(3)-3-4		微生物学 公衆衛生学 病原微生物学				
５）性行為感染症を列挙し、その予防対策と治療について説明できる。	C11(3)-3-5		微生物学 病原微生物学				
６）予防接種法と結核予防法の定める定期予防接種の種類を挙げ、接種時期などを説明できる。	C11(3)-3-6		微生物学 公衆衛生学				
【生活習慣病とその予防】							
１）生活習慣病の種類とその動向について説明できる。	C11(3)-4-1		公衆衛生学		国際保健医療論（選）		
２）生活習慣病のリスク要因を列挙できる。	C11(3)-4-2						
３）食生活と喫煙などの生活習慣と疾病の関わりについて説明できる。	C11(3)-4-3						
【職業病とその予防】							
１）主な職業病を列挙し、その原因と症状を説明できる。	C11(3)-5-1		公衆衛生学				
C12　環境							
（１）化学物質の生体への影響							
【化学物質の代謝・代謝的活性化】							
１）代表的な有害化学物質の吸収、分布、代謝、排泄の基本的なプロセスについて説明できる。	C12(1)-1-1			毒性学			
２）第一相反応が関わる代謝、代謝的活性化について概説できる。	C12(1)-1-2						
３）第二相反応が関わる代謝、代謝的活性化について概説できる。	C12(1)-1-3						
【化学物質による発がん】							
１）発がん性物質などの代謝的活性化の機構を列挙し、その反応機構を説明できる。	C12(1)-2-1			毒性学			
２）変異原性試験（Ames試験など）の原理を説明し、実施できる。（知識・技能）	C12(1)-2-2			毒性学 衛生薬学実習			
３）発がんのイニシエーションとプロモーションについて概説できる。	C12(1)-2-3			毒性学	化学療法学		
４）代表的ながん遺伝子とがん抑制遺伝子を挙げ、それらの異常とがん化との関連を説明できる。	C12(1)-2-4						
【化学物質の毒性】							
１）化学物質の毒性を評価するための主な試験法を列挙し、概説できる。	C12(1)-3-1			毒性学	医薬品安全性学		
２）肝臓、腎臓、神経などに特異的に毒性を示す主な化学物質を列挙できる。	C12(1)-3-2						
３）重金属、農薬、PCB、ダイオキシンなどの代表的な有害化学物質の急性毒性、慢性毒性の特徴について説明できる。	C12(1)-3-3			毒性学 衛生薬学実習			
４）重金属や活性酸素による障害を防ぐための生体防御因子について具体例を挙げて説明できる。	C12(1)-3-4			毒性学			
５）毒性試験の結果を評価するのに必要な量-反応関係、閾値、無毒性量（NOAEL）などについて概説できる。	C12(1)-3-5						
６）化学物質の安全摂取量（1日許容摂取量など）について説明できる。	C12(1)-3-6						
７）有害化学物質による人体影響を防ぐための法的規制（化審法など）を説明できる。	C12(1)-3-7						
８）環境ホルモン（内分泌撹乱化学物質）が人の健康に及ぼす影響を説明し、その予防策を提案する。（態度）	C12(1)-3-8						
【化学物質による中毒と処置】							
１）代表的な中毒原因物質の解毒処置法を説明できる。	C12(1)-4-1			毒性学 衛生薬学実習	医薬品安全性学		
２）化学物質の中毒量、作用器官、中毒症状、救急処置法、解毒法を検索することができる。（技能）	C12(1)-4-2						

薬学教育モデル・コアカリキュラム（ＳＢＯs）		該当科目					
		１年	２年	３年	４年	５年	６年
【電離放射線の生体への影響】							
１）人に影響を与える電離放射線の種類を列挙できる。	C12(1)-5-1		衛生化学Ⅰ（環境衛生学）	放射化学			
２）電離放射線被曝における線量と生体損傷の関係を体外被曝と体内被曝に分けて説明できる。	C12(1)-5-2						
３）電離放射線および放射性核種の標的臓器・組織を挙げ、その感受性の差異を説明できる。	C12(1)-5-3						
４）電離放射線の生体影響に変化を及ぼす因子（酸素効果など）について説明できる。	C12(1)-5-4						
５）電離放射線を防御する方法について概説できる。	C12(1)-5-5						
６）電離放射線の医療への応用について概説できる。	C12(1)-5-6						
【非電離放射線の生体への影響】							
１）非電離放射線の種類を列挙できる。	C12(1)-6-1		衛生化学Ⅰ（環境衛生学）	毒性学			
２）紫外線の種類を列挙し、その特徴と生体に及ぼす影響について説明できる。	C12(1)-6-2						
３）赤外線の種類を列挙し、その特徴と生体に及ぼす影響について説明できる。	C12(1)-6-3						
（２）生活環境と健康							
【地球環境と生態系】							
１）地球環境の成り立ちについて概説できる。	C12(2)-1-1						
２）生態系の構成員を列挙し、その特徴と相互関係を説明できる。	C12(2)-1-2						
３）人の健康と環境の関係を人が生態系の一員であることをふまえて討議する。（態度）	C12(2)-1-3		衛生化学Ⅰ（環境衛生学） 微生物学		国際保健医療論（選）		
４）地球規模の環境問題の成因、人に与える影響について説明できる。	C12(2)-1-4						
５）食物連鎖を介した化学物質の生物濃縮について具体例を挙げて説明できる。	C12(2)-1-5						
６）化学物質の環境内動態と人の健康への影響について例を挙げて説明できる。	C12(2)-1-6						
７）環境中に存在する主な放射性核種（天然、人工）を挙げ、人の健康への影響について説明できる。	C12(2)-1-7		衛生化学Ⅰ（環境衛生学）	放射化学			
【水環境】							
１）原水の種類を挙げ、特徴を説明できる。	C12(2)-2-1						
２）水の浄化法について説明できる。	C12(2)-2-2						
３）水の塩素処理の原理と問題点について説明できる。	C12(2)-2-3			衛生薬学実習			
４）水道水の水質基準の主な項目を列挙し、測定できる。（知識・技能）	C12(2)-2-4		衛生化学Ⅰ（環境衛生学）				
５）下水処理および排水処理の主な方法について説明できる。	C12(2)-2-5						
６）水質汚濁の主な指標を水域ごとに列挙し、その意味を説明できる。	C12(2)-2-6						
７）ＤＯ，ＢＯＤ，ＣＯＤを測定できる。（技能）	C12(2)-2-7			衛生薬学実習			
８）富栄養化の原因とそれによってもたらされる問題点を挙げ、対策を説明できる。	C12(2)-2-8						
【大気環境】							
１）空気の成分を説明できる。	C12(2)-3-1						
２）主な大気汚染物質を列挙し、その推移と発生源について説明できる。	C12(2)-3-2		衛生化学Ⅰ（環境衛生学）				
３）主な大気汚染物質の濃度を測定し、健康影響について説明できる。（知識・技能）	C12(2)-3-3			衛生薬学実習			
４）大気汚染に影響する気象要因（逆転層など）を概説できる。	C12(2)-3-4						

薬学教育モデル・コアカリキュラム（ＳＢＯs）		該　当　科　目					
		１年	２年	３年	４年	５年	６年
【室内環境】							
１）室内環境を評価するための代表的な指標を列挙し、測定できる。（知識・技能）	C12(2)-4-1		衛生化学Ⅰ（環境衛生学）	衛生薬学実習			
２）室内環境と健康との関係について説明できる。	C12(2)-4-2						
３）室内環境の保全のために配慮すべき事項について説明できる。	C12(2)-4-3						
４）シックハウス症候群について概説できる。	C12(2)-4-4						
【廃棄物】							
１）廃棄物の種類を列挙できる。	C12(2)-5-1		衛生化学Ⅰ（環境衛生学）				
２）廃棄物処理の問題点を列挙し、その対策を説明できる。	C12(2)-5-2						
３）医療廃棄物を安全に廃棄、処理する。（技能・態度）	C12(2)-5-3			衛生薬学実習			
４）マニフェスト制度について説明できる。	C12(2)-5-4						
５）PRTR法について概説できる。	C12(2)-5-5						
【環境保全と法的規制】							
１）典型七公害とその現状、および四大公害について説明できる。	C12(2)-6-1		衛生化学Ⅰ（環境衛生学）				
２）環境基本法の理念を説明できる。	C12(2)-6-2						
３）大気汚染を防止するための法規制について説明できる。	C12(2)-6-3						
４）水質汚濁を防止するための法規制について説明できる。	C12(2)-6-4						
[薬と疾病]							
C13 薬の効くプロセス							
【薬の作用】							
１）薬物の用量と作用の関係を説明できる。	C13(1)-1-1			薬理学Ⅰ（基礎と神経系）			
２）アゴニストとアンタゴニストについて説明できる。	C13(1)-1-2						
３）薬物の作用するしくみについて、受容体、酵素およびチャネルを例に挙げて説明できる。	C13(1)-1-3						
４）代表的な薬物受容体を列挙し、刺激あるいは阻害された場合の生理反応を説明できる。	C13(1)-1-4						
５）薬物の作用発現に関連する代表的な細胞内情報伝達系を列挙し、活性化された場合の生理反応を説明できる。	C13(1)-1-5						
６）薬効に個人差が生じる要因を列挙できる。	C13(1)-1-6				医薬品安全性学		
７）代表的な薬物相互作用の機序について説明できる。	C13(1)-1-7						
８）薬物依存性について具体例を挙げて説明できる。	C13(1)-1-8			薬理学Ⅰ（基礎と神経系）			
【薬の運命】							
１）薬物の体内動態（吸収、分布、代謝、排泄）と薬効発現の関わりについて説明できる。	C13(1)-2-1				医薬品安全性学		
２）薬物の代表的な投与方法（剤形、投与経路）を列挙し、その意義を説明できる。	C13(1)-2-2						
３）経口投与された製剤が吸収されるまでに受ける変化（崩壊、分散、溶解など）を説明できる。	C13(1)-2-3						
４）薬物の生体内分布における循環系の重要性を説明できる。	C13(1)-2-4						
５）生体内の薬物の主要な排泄経路を、例を挙げて説明できる。	C13(1)-2-5						
【薬の副作用】							
１）薬物の主作用と副作用（有害作用）、毒性との関連について説明できる。	C13(1)-3-1			薬理学Ⅰ（基礎と神経系）	医薬品安全性学		
２）副作用と有害事象の違いについて説明できる。	C13(1)-3-2						

薬学教育モデル・コアカリキュラム（ＳＢＯs）		該　当　科　目					
		１年	２年	３年	４年	５年	６年
【動物実験】							
１）動物実験における倫理について配慮する。（態度）	C13(1)-4-1			薬理学実習			
２）代表的な実験動物を適正に取り扱うことができる。（技能）	C13(1)-4-2						
３）実験動物での代表的な薬物投与法を実施できる。（技能）	C13(1)-4-3						
（２）薬の効き方Ⅰ							
【中枢神経系に作用する薬】							
１）代表的な全身麻酔薬を挙げ、その薬理作用、機序、主な副作用について説明できる。	C13(2)-1-1			薬理学Ⅰ（基礎と神経系）			
２）代表的な催眠薬を挙げ、その薬理作用、機序、主な副作用について説明できる。	C13(2)-1-2						
３）代表的な鎮痛薬を挙げ、その薬理作用、機序、主な副作用について説明できる。	C13(2)-1-3						
４）代表的な中枢神経疾患（てんかん、パーキンソン病、アルツハイマー病など）の治療薬を挙げ、その薬理作用、機序、主な副作用について説明できる。	C13(2)-1-4				ペット医薬品学（選）		
５）代表的な精神疾患（統合失調症、うつ病など）の治療薬を挙げ、その薬理作用、機序、主な副作用について説明できる。	C13(2)-1-5						
６）中枢神経に作用する代表的な薬物の効果を測定できる。	C13(2)-1-6			薬理学実習			
【自律神経系に作用する薬】							
１）交感神経系に作用し、その支配器官の機能を修飾する代表的な薬物を挙げ、薬理作用、機序、主な副作用について説明できる。	C13(2)-2-1			薬理学Ⅰ（基礎と神経系）			
２）副交感神経系に作用し、その支配器官の機能を修飾する代表的な薬物を挙げ、薬理作用、機序、主な副作用について説明できる。	C13(2)-2-2						
３）神経節に作用する代表的な薬物を挙げ、薬理作用、機序、主な副作用について説明できる。	C13(2)-2-3						
４）自律神経系に作用する代表的な薬物の効果を測定できる。（技能））△技能であるからCBTには馴染まない	C13(2)-2-4			薬理学実習			
【知覚神経系・運動神経系に作用する薬】							
１）知覚神経に作用する代表的な薬物（局所麻酔薬など）を挙げ、薬理作用、機序、主な副作用について説明できる。	C13(2)-3-1			薬理学Ⅰ（基礎と神経系）			
２）運動神経系に作用する代表的な薬物を挙げ、薬理作用、機序、主な副作用について説明できる。	C13(2)-3-2						
３）知覚神経、運動神経に作用する代表的な薬物の効果を測定できる。（技能））	C13(2)-3-3			薬理学実習			
【循環器系に作用する薬】							
１）代表的な抗不整脈薬を挙げ、薬理作用、機序、主な副作用について説明できる。	C13(2)-4-1			薬理学Ⅱ（循環器系等）			
２）代表的な心不全治療薬を挙げ、薬理作用、機序、主な副作用について説明できる。	C13(2)-4-2						
３）代表的な虚血性心疾患治療薬を挙げ、薬理作用、機序、主な副作用について説明できる。	C13(2)-4-3						
４）代表的な高血圧治療薬を挙げ、薬理作用、機序、主な副作用について説明できる。	C13(2)-4-4						
【呼吸器系に作用する薬】							
１）代表的な呼吸興奮薬を挙げ、薬理作用、機序、主な副作用について説明できる。	C13(2)-5-1			薬理学Ⅱ（循環器系等）			
２）代表的な鎮咳・去痰薬を挙げ、薬理作用、機序、主な副作用について説明できる。	C13(2)-5-2						
３）代表的な気管支喘息治療薬を挙げ、薬理作用、機序、主な副作用について説明できる。	C13(2)-5-3						
【化学構造】							
１）上記の薬物のうち代表的なものについて基本構造を示すことができる。	C13(2)-6-1			薬理学Ⅱ（循環器系等）			

薬学教育モデル・コアカリキュラム（ＳＢＯs）		該当科目					
		１年	２年	３年	４年	５年	６年
（３）薬の効き方II							
【ホルモンと薬】							
１）ホルモンの分泌異常に用いられる代表的治療薬の薬理作用、機序、主な副作用を説明できる。	C13(3)-1-1			薬理学Ⅱ（循環器系等）			
２）代表的な糖質コルチコイド代用薬の薬理作用、機序、臨床応用および主な副作用について説明できる。	C13(3)-1-2						
３）代表的な性ホルモン代用薬および抗菌薬の薬理作用、機序、臨床応用および主な副作用について説明できる。	C13(3)-1-3						
【消化器系に作用する薬】							
１）代表的な胃・十二指腸潰瘍治療薬を挙げ、薬理作用、機序、主な副作用について説明できる。	C13(3)-2-1			薬理学Ⅱ（循環器系等）			
２）その他の消化性疾患に対する代表的治療薬を挙げ、薬理作用、機序、主な副作用について説明できる。	C13(3)-2-2						
３）代表的な催吐薬と制吐薬を挙げ、作用機序および主な副作用について説明できる。	C13(3)-2-3						
４）代表的な肝臓疾患治療薬を挙げ、薬理作用、機序、主な副作用について説明できる。	C13(3)-2-4						
５）代表的な膵臓疾患治療薬を挙げ、薬理作用、機序、主な副作用について説明できる。	C13(3)-2-5						
【腎に作用する薬】							
１）利尿薬を作用機序別に分類し、臨床応用および主な副作用について説明できる。	C13(3)-3-1			薬理学Ⅱ（循環器系等）			
【血液・造血器系に作用する薬】							
１）代表的な止血薬を挙げ、作用機序と主な副作用について説明できる。	C13(3)-4-1			薬理学Ⅱ（循環器系等）			
２）代表的な抗血栓薬を挙げ、作用機序と主な副作用について説明できる。	C13(3)-4-2						
３）代表的な造血薬を挙げ、作用機序と主な副作用について説明できる。	C13(3)-4-3						
【代謝系に作用する薬】							
１）代表的な糖尿病治療薬を挙げ、作用機序と主な副作用について説明できる。	C13(3)-5-1			薬理学Ⅱ（循環器系等）	ペット医薬品学（選）		
２）代表的な高脂血症治療薬を挙げ、作用機序と主な副作用について説明できる。	C13(3)-5-2						
３）代表的な高尿酸血症・痛風治療薬を挙げ、作用機序と主な副作用について説明できる。	C13(3)-5-3						
４）カルシウム代謝調節・骨代謝に関連する代表的な治療薬をあげ、薬理作用、機序、主な副作用について説明できる。	C13(3)-5-4						
【炎症・アレルギーと薬】							
１）代表的な炎症治療薬を挙げ、作用機序および主な副作用について説明できる。	C13(3)-6-1			薬理学Ⅱ（循環器系等）			
２）慢性関節リウマチの代表的な治療薬を挙げ、作用機序および主な副作用について説明できる。	C13(3)-6-2						
３）アレルギーの代表的な治療薬を挙げ、作用機序、臨床応用、および主な副作用について説明できる。	C13(3)-6-3						
【化学構造】							
１）上記の薬物のうち代表的なものについて基本構造を示すことができる。	C13(3)-7-1			薬理学Ⅱ（循環器系等）			
（４）薬物の臓器への到達と消失							
【吸収】							
１）薬物の主な吸収部位を列挙できる。	C13(4)-1-1			薬物動態学Ⅰ（生体内運命） 薬物動態学Ⅱ（薬動学とＴＤＭ）			
２）消化管の構造、機能と薬物吸収の関係を説明できる。	C13(4)-1-2						
３）受動拡散（単純拡散）、促進拡散の特徴を説明できる。	C13(4)-1-3						
４）能動輸送の特徴を説明できる。	C13(4)-1-4						
５）非経口投与後の薬物吸収について部位別に説明できる。	C13(4)-1-5						
６）薬物の吸収に影響する因子を列挙し説明できる。	C13(4)-1-6						
【分布】							
１）薬物が生体内に取り込まれた後、組織間で濃度差が生じる要因を説明できる。	C13(4)-2-1			薬物動態学Ⅰ（生体内運命） 薬物動態学Ⅱ（薬動学とＴＤＭ）			
２）薬物の脳への移行について、その機構と血液-脳関門の意義を説明できる。	C13(4)-2-2						
３）薬物の胎児への移行について、その機構と血液 - 胎盤関門の意義を説明できる。	C13(4)-2-3						

薬学教育モデル・コアカリキュラム（ＳＢＯs）		該　当　科　目					
		１年	２年	３年	４年	５年	６年
４）薬物の体液中での存在状態（血漿タンパク結合など）を組織への移行と関連づけて説明できる。	C13(4)-2-4			薬物動態学Ⅰ（生体内運命） 薬剤・薬物動態学実習 薬物動態学Ⅱ（薬動学とＴＤＭ）			
５）薬物分布の変動要因（血流量、タンパク結合性、分布容積など）について説明できる。	C13(4)-2-5			薬物動態学Ⅰ（生体内運命） 薬物動態学Ⅱ（薬動学とＴＤＭ）			
６）分布容積が著しく大きい代表的な薬物を列挙できる。	C13(4)-2-6						
７）代表的な薬物のタンパク結合能を測定できる。（技能）	C13(4)-2-7			薬物動態学Ⅰ（生体内運命） 薬剤・薬物動態学実習 薬物動態学Ⅱ（薬動学とＴＤＭ）			
【代謝】							
１）薬物分子の体内での化学的変化とそれが起こる部位を列挙して説明できる。	C13(4)-3-1			薬物動態学Ⅰ（生体内運命） 薬物動態学Ⅱ（薬動学とＴＤＭ）			
２）薬物代謝が薬効に及ぼす影響について説明できる。	C13(4)-3-2						
３）薬物代謝様式とそれに関わる代表的な酵素を列挙できる。	C13(4)-3-3						
４）シトクロムP-450の構造、性質、反応様式について説明できる。	C13(4)-3-4	科学計算演習		薬物動態学Ⅰ（生体内運命） 薬剤・薬物動態学実習 薬物動態学Ⅱ（薬動学とＴＤＭ）			
５）薬物の酸化反応について具体的な例を挙げて説明できる。	C13(4)-3-5						
６）薬物の還元・加水分解、抱合について具体的な例を挙げて説明できる。	C13(4)-3-6			薬物動態学Ⅰ（生体内運命） 薬物動態学Ⅱ（薬動学とＴＤＭ）			
７）薬物代謝酵素の変動要因（誘導、阻害、加齢、SNPsなど）について説明できる。	C13(4)-3-7						
８）初回通過効果について説明できる。	C13(4)-3-8						
９）肝および固有クリアランスについて説明できる。	C13(4)-3-9						
【排泄】							
１）腎における排泄機構について説明できる。	C13(4)-4-1			薬物動態学Ⅰ（生体内運命） 薬物動態学Ⅱ（薬動学とＴＤＭ）			
２）腎クリアランスについて説明できる。	C13(4)-4-2						
３）糸球体ろ過速度について説明できる。	C13(4)-4-3						
４）胆汁中排泄について説明できる。	C13(4)-4-4						
５）腸肝循環を説明し、代表的な腸肝循環の薬物を列挙できる。	C13(4)-4-5			薬物動態学Ⅰ（生体内運命） 薬物動態学Ⅱ（薬動学とＴＤＭ）			
６）唾液・乳汁中への排泄について説明できる。	C13(4)-4-6						
７）尿中排泄率の高い代表的な薬物を列挙できる。	C13(4)-4-7						
【相互作用】							
１）薬物動態学に起因する相互作用の代表的な例を挙げ、回避のための方法を説明できる。	C13(4)-5-1			薬物動態学Ⅰ（生体内運命） 薬物動態学Ⅱ（薬動学とＴＤＭ）	医薬品安全性学		
２）薬効に起因する相互作用の代表的な例を挙げ、回避のための方法を説明できる。	C13(4)-5-2						
（５）薬物動態の解析							
【薬動学】							
１）薬物動態に関わる代表的なパラメーターを列挙し、概説できる。	C13(5)-1-1			薬物動態学Ⅰ（生体内運命） 薬物動態学Ⅱ（薬動学とＴＤＭ）			
２）薬物の生物学的利用能の意味とその計算法を説明できる。	C13(5)-1-2			薬物動態学Ⅱ（薬動学とＴＤＭ）			
３）線形1-コンパートメントモデルを説明し、これに基づいた計算ができる。（知識・技能）	C13(5)-1-3	科学計算演習		薬物動態学Ⅰ（生体内運命） 薬剤・薬物動態学実習 薬物動態学Ⅱ（薬動学とＴＤＭ）			

薬学教育モデル・コアカリキュラム（ＳＢＯｓ）		該当科目					
		１年	２年	３年	４年	５年	６年
４）線形2-コンパートメントモデルを説明し、これに基づいた計算ができる。（知識・技能）	C13(5)-1-4			薬物動態学Ⅱ（薬動学とＴＤＭ）			
５）線形コンパートメントモデルと非線形コンパートメントモデルの違いを説明できる。	C13(5)-1-5						
６）生物学的半減期を説明し、計算できる。（知識・技能）	C13(5)-1-6						
７）全身クリアランスについて説明し、計算できる。（知識・技能）	C13(5)-1-7						
８）非線形性の薬物動態について具体例を挙げて説明できる。	C13(5)-1-8						
９）モデルによらない薬物動態の解析法を列挙し説明できる。	C13(5)-1-9			薬物動態学Ⅱ（薬動学とＴＤＭ）			
10）薬物の肝および腎クリアランスの計算ができる。（技能）	C13(5)-1-10						
11）点滴静注の血中濃度計算ができる。（技能）	C13(5)-1-11			薬剤・薬物動態学実習 薬物動態学Ⅱ（薬動学とＴＤＭ）			
12）連続投与における血中濃度計算ができる。（技能）	C13(5)-1-12			薬物動態学Ⅱ（薬動学とＴＤＭ）			
【TDM（Therapeutic Drug Monitoring）】							
１）治療的薬物モニタリング（TDM）の意義を説明できる。	C13(5)-2-1			薬物動態学Ⅱ（薬動学とＴＤＭ）			
２）TDMが必要とされる代表的な薬物を列挙できる。	C13(5)-2-2						
３）薬物血中濃度の代表的な測定法を実施できる。（技能）	C13(5)-2-3						
４）至適血中濃度を維持するための投与計画について、薬動学的パラメーターを用いて説明できる。	C13(5)-2-4						
５）代表的な薬物についてモデルデータから投与計画をシミュレートできる。（技能）	C13(5)-2-5			薬物動態学Ⅱ（薬動学とＴＤＭ）			
C14　薬物治療							
（１）体の変化を知る							
【症候】							
１）以下の症候について、生じる原因とそれらを伴う代表的疾患を説明できる。発熱、頭痛、発疹、黄疸、チアノーゼ、脱水、浮腫、悪心・嘔吐、嚥下障害、腹痛・下痢、便秘、腹部膨満、貧血、出血傾向、胸痛、心悸亢進・動悸、高血圧、低血圧、ショック、呼吸困難、咳、口渇、月経異常、痛み、意識障害、運動障害、知覚障害、記憶障害、しび　れ、けいれん、血尿、頻尿、排尿障害、視力障害、聴力障害、めまい	C14(1)-1-1				診察法・診断学 救急・災害医療（選）		
【症候と臨床検査値】							
１）代表的な肝臓機能検査を列挙し、その検査値の異常から推測される主な疾病を挙げることができる。	C14(1)-2-1				医薬品安全性学 臨床検査学 救急・災害医療（選） ペット医薬品学（選）		
２）代表的な腎臓機能検査を列挙し、その検査値の異常から推測される主な疾病を挙げることができる。	C14(1)-2-2				医薬品安全性学 臨床検査学 救急・災害医療（選）		
３）代表的な呼吸機能検査を列挙し、その検査値の異常から推測される主な疾病を挙げることができる。	C14(1)-2-3						
４）代表的な心臓機能検査を列挙し、その検査値の異常から推測される主な疾病を挙げることができる。	C14(1)-2-4				医療品安全性学 臨床検査学 ペット医薬品（選）		
５）代表的な血液および血液凝固検査を列挙し、その検査値の異常から推測される主な疾病を挙げることができる。	C14(1)-2-5				医薬品安全性学 臨床検査学 救急・災害医療（選）		
６）代表的な内分泌・代謝疾患に関する検査を列挙し、その検査値の異常から推測される主な疾病を挙げることができる。	C14(1)-2-6				臨床検査学		
７）感染時および炎症時に認められる代表的な臨床検査値の変動を述べることができる。	C14(1)-2-7				臨床検査学 救急・災害医療（選）		
８）悪性腫瘍に関する代表的な臨床検査を列挙し、推測される腫瘍部位を挙げることができる。	C14(1)-2-8						
９）尿および糞便を用いた代表的な臨床検査を列挙し、その検査値の異常から推測される主な疾病を挙げることができる。	C14(1)-2-9				医薬品安全性学 救急・災害医療（選）		
10）動脈血ガス分析の検査項目を列挙し、その検査値の臨床的意義を説明できる。	C14(1)-2-10				臨床検査学 救急・災害医療（選）		
11）代表的なバイタルサインを列挙できる。	C14(1)-2-11						

薬学教育モデル・コアカリキュラム（ＳＢＯs）		該当科目					
		１年	２年	３年	４年	５年	６年
（２）疾患と薬物治療（心臓疾患等）							
【薬物治療の位置づけ】							
１）代表的な疾患における薬物治療と非薬物治療（外科手術、食事療法など）の位置づけを説明できる。	C14(2)-1-1			薬物治療学Ⅰ（基礎と血液・造血器疾患等） 薬物治療学Ⅱ（心臓・血管系疾患等）			
２）適切な治療薬の選択について、薬効薬理、薬物動態に基づいて判断できる。（知識・技能）	C14(2)-1-2						
【心臓・血管系の疾患】							
１）心臓および血管系における代表的な疾患を挙げることができる。	C14(2)-2-1			薬物治療学Ⅱ（心臓・血管系疾患等）	医薬品安全性学 薬物治療学Ⅳ（応用） 循環器系薬物治療学（選）		
２）不整脈の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。	C14(2)-2-2						
３）心不全の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。	C14(2)-2-3				医薬品安全性学 薬物治療学Ⅳ（応用） 循環器系薬物治療学（選） ペット医薬品学（選）		
４）高血圧の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。	C14(2)-2-4				医薬品安全性学 薬物治療学Ⅳ（応用） 循環器系薬物治療学（選）		
５）虚血性心疾患の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。	C14(2)-2-5						
６）以下の疾患について概説できる。閉塞性動脈硬化症、心原性ショック	C14(2)-2-6				薬物治療学Ⅳ（応用） 循環器系薬物治療学（選） 救急・災害医療（選）		
【血液・造血器の疾患】							
１）血液・造血器における代表的な疾患を挙げることができる。	C14(2)-3-1			薬物治療学Ⅰ（基礎と血液・造血器疾患等）	医薬品安全性学 薬物治療学Ⅳ（応用）		
２）貧血の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。	C14(2)-3-2						
３）白血病の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。	C14(2)-3-3						
４）播種性血管内凝固症候群（DIC）の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。	C14(2)-3-4				医薬品安全性学 薬物治療学Ⅳ（応用） 救急・災害医療（選）		
５）以下の疾患について概説できる。血友病、悪性リンパ腫、紫斑病、白血球減少症、血栓・塞栓	C14(2)-3-5				医薬品安全性学 薬物治療学Ⅳ（応用）		
【消化器系疾患】							
１）消化器系の部位別（食道、胃・十二指腸、小腸･大腸、胆道、肝臓、膵臓）に代表的な疾患を挙げることができる。	C14(2)-4-1			薬物治療学Ⅰ（基礎と血液・造血器疾患等）	医薬品安全性学 薬物治療学Ⅳ（応用）		
２）消化性潰瘍の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。	C14(2)-4-2						
３）腸炎の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。	C14(2)-4-3						
４）肝炎・肝硬変の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。	C14(2)-4-4						
５）膵炎の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。	C14(2)-4-5						
６）以下の疾患について概説できる。食道癌、胃癌、肝癌、大腸癌、胃炎、薬剤性肝障害、胆石症、虫垂炎、クローン病	C14(2)-4-6						
【総合演習】							
１）指定された疾患例について必要な情報を収集し、適切な薬物治療法を考案することができる。（技能）	C14(2)-5-1						
（３）疾患と薬物治療（腎臓疾患等）							
【腎臓・尿路の疾患】							
１）腎臓および尿路における代表的な疾患を挙げることができる。	C14(3)-1-1			薬物治療学Ⅱ（心臓・血管系疾患等）	医薬品安全性学 薬物治療学Ⅳ（応用） ペット医薬品学（選）		
２）腎不全の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。	C14(3)-1-2						
３）ネフローゼ症候群の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。	C14(3)-1-3						
４）以下の疾患について概説できる。糸球体腎炎、糖尿病性腎症、尿路感染症、薬剤性腎症、尿路結石	C14(3)-1-4						

薬学教育モデル・コアカリキュラム（ＳＢＯs）		該　当　科　目					
		１年	２年	３年	４年	５年	６年
【生殖器疾患】							
１）男性および女性生殖器に関する代表的な疾患を挙げることができる。	C14(3)-2-1			薬物治療学Ⅰ（基礎と血液・造血器疾患等）	医薬品安全性学 薬物治療学Ⅳ（応用）		
２）前立腺肥大症の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。	C14(3)-2-2						
３）以下の疾患について概説できる。前立腺癌、異常妊娠、異常分娩、不妊、子宮癌、子宮内膜症	C14(3)-2-3						
【呼吸器・胸部の疾患】							
１）肺と気道に関する代表的な疾患を挙げることができる。	C14(3)-3-1			薬物治療学Ⅱ（心臓・血管系疾患等）	医薬品安全性学 薬物治療学Ⅳ（応用）		
２）閉塞性気道疾患（気管支喘息、肺気腫）の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。	C14(3)-3-2						
３）以下の疾患について概説できる。上気道炎（かぜ症候群）、インフルエンザ、慢性閉塞性肺疾患、肺炎、肺結核、肺癌、乳癌	C14(3)-3-3						
【内分泌系疾患】							
１）ホルモンの産生臓器別に代表的な疾患を挙げることができる。	C14(3)-4-1			薬物治療学Ⅱ（心臓・血管系疾患等）	薬物治療学Ⅳ（応用）		
２）甲状腺機能異常症の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。	C14(3)-4-2						
３）クッシング症候群の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。	C14(3)-4-3						
４）尿崩症の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。	C14(3)-4-4						
５）以下の疾患について概説できる。上皮小体機能異常症、、アルドステロン症、アジソン病	C14(3)-4-5						
【代謝性疾患】							
１）糖尿病とその合併症の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。	C14(3)-5-1			薬物治療学Ⅱ（心臓・血管系疾患等）	薬物治療学Ⅳ（応用） ペット医薬品学（選）		
２）高脂血症の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。	C14(3)-5-2				薬物治療学Ⅳ（応用）		
３）高尿酸血症・痛風の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。	C14(3)-5-3						
【神経・筋の疾患】							
１）神経・筋に関する代表的な疾患を挙げることができる。	C14(3)-6-1			薬物治療学Ⅱ（心臓・血管系疾患等）	医薬品安全性学 薬物治療学Ⅳ（応用）		
２）脳血管疾患の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。	C14(3)-6-2						
３）てんかんの病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。	C14(3)-6-3				医薬品安全性学 薬物治療学Ⅳ（応用） ペット医薬品学（選）		
４）パーキンソン病の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。	C14(3)-6-4				医薬品安全性学 薬物治療学Ⅳ（応用）		
５）アルツハイマー病の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。	C14(3)-6-5						
６）以下の疾患について概説できる。重症筋無力症、脳炎・髄膜炎、熱性けいれん、脳腫瘍、一過性脳虚血発作、脳血管性痴呆	C14(3)-6-6						
【総合演習】							
１）指定された疾患例について必要な情報を収集し、適切な薬物治療法を考案することができる。	C14(3)-7-1						
（４）疾患と薬物治療（精神疾患等）							
【精神疾患】							
１）代表的な精神疾患を挙げることができる。	C14(4)-1-1				薬物治療学Ⅲ（精神疾患等） 薬物治療学Ⅳ（応用）		
２）統合失調症の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。	C14(4)-1-2						
３）うつ病、躁うつ病の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。	C14(4)-1-3						
４）以下の疾患を概説できる。神経症、心身症、薬物依存症、アルコール依存症	C14(4)-1-4						
【耳鼻咽喉の疾患】							
１）耳鼻咽喉に関する代表的な疾患を挙げることができる。	C14(4)-2-1				医薬品安全性学 薬物治療学Ⅲ（精神疾患等） 薬物治療学Ⅳ（応用）		
２）めまいの病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。	C14(4)-2-2						
３）以下の疾患を概説できる。メニエール病、アレルギー性鼻炎、花粉症、副鼻腔炎、中耳炎	C14(4)-2-3						

薬学教育モデル・コアカリキュラム（ＳＢＯs）		該当科目					
		１年	２年	３年	４年	５年	６年
【皮膚疾患】							
１）皮膚に関する代表的な疾患を挙げることができる。	C14(4)-3-1				医薬品安全性学 薬物治療学Ⅲ（精神疾患等） 薬物治療学Ⅳ（応用） 香粧品科学（選）		
２）アトピー性皮膚炎の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。	C14(4)-3-2				医薬品安全性学 薬物治療学Ⅳ（応用） 香粧品科学（選）		
３）皮膚真菌症の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。	C14(4)-3-3				医薬品安全性学 薬物治療学Ⅲ（精神疾患等） 薬物治療学Ⅳ（応用） 香粧品科学（選）		
４）以下の疾患を概説できる。蕁麻疹、薬疹、水疱症、乾癬、接触性皮膚炎、光線過敏症	C14(4)-3-4						
【眼疾患】							
１）眼に関する代表的な疾患を挙げることができる。	C14(4)-4-1				医薬品安全性学 薬物治療学Ⅲ（精神疾患等） 薬物治療学Ⅳ（応用）		
２）緑内障の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。	C14(4)-4-2						
３）白内障の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。	C14(4)-4-3						
４）以下の疾患を概説できる。結膜炎、網膜症	C14(4)-4-4						
【骨・関節の疾患】							
１）骨、関節に関する代表的な疾患を挙げることができる。	C14(4)-5-1				医薬品安全性学 薬物治療学Ⅲ（精神疾患等） 薬物治療学Ⅳ（応用）		
２）骨粗鬆症の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。	C14(4)-5-2						
３）慢性関節リウマチの病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。	C14(4)-5-3						
４）以下の疾患を概説できる。変形性関節症、骨軟化症	C14(4)-5-4						
【アレルギー・免疫疾患】							
１）代表的なアレルギー・免疫に関する疾患を挙げることができる。	C14(4)-6-1				医薬品安全性学 薬物治療学Ⅲ（精神疾患等） 薬物治療学Ⅳ（応用）		
２）アナフィラキシーショックの病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。	C14(4)-6-2						
３）自己免疫疾患（全身性エリテマトーデスなど）の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。	C14(4)-6-3						
４）後天性免疫不全症の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。	C14(4)-6-4						
【移植医療】							
１）移植に関連した病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。	C14(4)-7-1	医療概論			薬物治療学Ⅲ（精神疾患等）		
【緩和ケアと長期療養】							
１）癌性疼痛に対して使用される薬物を列挙し、使用上の注意について説明できる。	C14(4)-8-1				薬物治療学Ⅲ（精神疾患等） 薬物治療学Ⅳ（応用）	処方解析演習	
２）長期療養に付随する合併症を列挙し、その薬物治療について説明できる。	C14(4)-8-2						
【総合演習】							
１）指定された疾患例について必要な情報を収集し、適切な薬物治療法を考案することができる。（技能）	C14(4)-9-1						
（５）病原微生物・悪性新生物と戦う							
【感染症】							
１）主な感染症を列挙し、その病態と原因を説明できる。	C14(5)-1-1		微生物学 公衆衛生学		感染症治療学 化学療法学		

薬学教育モデル・コアカリキュラム（SBOs）		該当科目					
		1年	2年	3年	4年	5年	6年
【抗菌薬】							
1）抗菌薬を作用点に基づいて分類できる。	C14(5)-2-1		微生物学	衛生薬学実習	化学療法学 感染症治療学		
2）代表的な抗菌薬の基本構造を示すことができる。	C14(5)-2-2						
3）代表的なβ-ラクタム系抗菌薬を抗菌スペクトルに基づいて分類し、有効な感染症を列挙できる。	C14(5)-2-3						
4）テトラサイクリン系抗菌薬の抗菌スペクトルと、有効な感染症を列挙できる。	C14(5)-2-4						
5）マクロライド系抗菌薬の抗菌スペクトルと、有効な感染症を列挙できる。	C14(5)-2-5						
6）アミノ配糖体系抗菌薬を抗菌スペクトルに基づいて分類し、有効な感染症を列挙できる。	C14(5)-2-6						
7）ピリドンカルボン酸系抗菌薬の抗菌スペクトルと、有効な感染症を列挙できる。	C14(5)-2-7						
8）サルファ薬（ST合剤を含む）の有効な感染症を列挙できる。	C14(5)-2-8						
9）代表的な抗結核薬を列挙し、作用機序を説明できる。	C14(5)-2-9						
10）細菌感染症に関係する代表的な生物学的製剤を挙げ、その作用機序を説明できる。	C14(5)-2-10		微生物学		化学療法学 感染症治療学		
11）代表的な抗菌薬の使用上の注意について説明できる。	C14(5)-2-11						
12）特徴的な組織移行性を示す抗菌薬を列挙できる。	C14(5)-2-12						
【抗原虫・寄生虫薬】							
1）代表的な抗原虫・寄生虫薬を列挙し、作用機序および臨床応用を説明できる。	C14(5)-3-1		微生物学		化学療法学 感染症治療学 ペット医薬品学（選）		
【抗真菌薬】							
1）代表的な抗真菌薬を列挙し、作用機序および臨床応用を説明できる。	C14(5)-4-1		微生物学		化学療法学 感染症治療学 ペット医薬品学（選）		
【抗ウイルス薬】							
1）代表的な抗ウイルス薬を列挙し、作用機序および臨床応用を説明できる。	C14(5)-5-1		微生物学		化学療法学 感染症治療学		
2）抗ウイルス薬の併用療法において考慮すべき点を挙げ、説明できる。	C14(5)-5-2						
【抗菌薬の耐性と副作用】							
1）主要な化学療法薬の耐性獲得機構を説明できる。	C14(5)-6-1		微生物学		化学療法学 感染症治療学		
2）主要な化学療法薬の主な副作用を列挙し、その症状を説明できる。	C14(5)-6-2				化学療法学 感染症治療学 ペット医薬品学（選）		
【悪性腫瘍の病態と治療】							
1）悪性腫瘍の病態生理、症状、治療について概説できる。	C14(5)-7-1				薬物治療学Ⅲ（精神疾患等） 薬物治療学Ⅳ（応用） 化学療法学		
2）悪性腫瘍の治療における薬物治療の位置づけについて概説できる。	C14(5)-7-2						
3）化学療法薬が有効な悪性腫瘍を、治療例を挙げて説明できる。	C14(5)-7-3						
【抗悪性腫瘍薬】							
1）代表的な抗悪性腫瘍薬を列挙できる。	C14(5)-8-1				薬物治療学Ⅲ（精神疾患等） 薬物治療学Ⅳ（応用） 化学療法学 ペット医薬品学（選）		
2）代表的なアルキル化薬を列挙し、作用機序を説明できる。	C14(5)-8-2						
3）代表的な代謝拮抗薬を列挙し、作用機序を説明できる。	C14(5)-8-3						
4）代表的な抗腫瘍抗生物質を列挙し、作用機序を説明できる。	C14(5)-8-4						
5）抗腫瘍薬として用いられる代表的な植物アルカロイドを列挙し、作用機序を説明できる。	C14(5)-8-5						
6）抗腫瘍薬として用いられる代表的なホルモン関連薬を列挙し、作用機序を説明できる。	C14(5)-8-6						
7）代表的な白金錯体を挙げ、作用機序を説明できる。	C14(5)-8-7						
8）代表的な抗悪性腫瘍薬の基本構造を示すことができる。	C14(5)-8-8						

薬学教育モデル・コアカリキュラム（ＳＢＯｓ）		該　当　科　目					
		１年	２年	３年	４年	５年	６年
【抗悪性腫瘍薬の耐性と副作用】							
１）主要な抗悪性腫瘍薬に対する耐性獲得機構を説明できる。	C14(5)-9-1				薬物治療学Ⅲ（精神疾患等） 薬物治療学Ⅳ（応用） 化学療法学 ペット医薬品学（選）		
２）主要な抗悪性腫瘍薬の主な副作用を列挙し、その症状を説明できる。	C14(5)-9-2						
３）副作用軽減のための対処法を説明できる。	C14(5)-9-3						
C15　薬物治療に役立つ情報							
（１）医薬品情報							
【情報】							
１）医薬品として必須の情報を列挙できる。	C15(1)-1-1				医薬品情報学		
２）医薬品情報に関わっている職種を列挙し、その役割を説明できる。	C15(1)-1-2						
３）医薬品の開発過程で得られる情報の種類を列挙できる。	C15(1)-1-3						
４）医薬品の市販後に得られる情報の種類を列挙できる。	C15(1)-1-4						
５）医薬品情報に関係する代表的な法律と制度について概説できる。	C15(1)-1-5						
【情報源】							
１）医薬品情報源の一次資料、二次資料、三次資料について説明できる。	C15(1)-2-1				医薬品情報学		
２）医薬品情報源として代表的な二次資料、三次資料を列挙し、それらの特徴を説明できる。	C15(1)-2-2						
３）厚生労働省、製薬企業などの発行する資料を列挙し、それらの特徴を説明できる。	C15(1)-2-3						
４）医薬品添付文書（医療用、一般用）の法的位置づけと用途を説明できる。	C15(1)-2-4						
５）医薬品添付文書（医療用、一般用）に記載される項目を列挙し、その必要性を説明できる。	C15(1)-2-5						
６）医薬品インタビューフォームの位置づけと用途を説明できる。	C15(1)-2-6				医薬品安全性学 医薬品情報学		
７）医療用医薬品添付文書と医薬品インタビューフォームの使い分けができる。（技能）	C15(1)-2-7				医薬品情報学		
【収集・評価・加工・提供・管理】							
１）目的（効能効果、副作用、相互作用、薬剤鑑別、妊婦への投与、中毒など）に合った適切な情報源を選択し、必要な情報を検索、収集できる。（技能）	C15(1)-3-1				医薬品情報学		
２）医薬品情報を質的に評価する際に必要な基本的項目を列挙できる。	C15(1)-3-2						
３）医薬品情報を目的に合わせて適切に加工し、提供できる。（技能）	C15(1)-3-3						
４）医薬品情報の加工、提供、管理の際に、知的所有権、守秘義務に配慮する。（知識・態度）	C15(1)-3-4						
５）主な医薬品情報の提供手段を列挙し、それらの特徴を説明できる。	C15(1)-3-5						
【データベース】							
１）代表的な医薬品情報データベースを列挙し、それらの特徴を説明できる。	C15(1)-4-1				医薬品情報学		
２）医学・薬学文献データベース検索におけるキーワード、シソーラスの重要性を理解し、適切に検索できる。（知識・技能）	C15(1)-4-2						
３）インターネットなどを利用して代表的な医薬品情報を収集できる。（技能）	C15(1)-4-3						
【EBM（Evidence-Based Medicine）】							
１）EBMの基本概念と有用性について説明できる。	C15(1)-5-1	医療概論			医薬品情報学		
２）EBM実践のプロセスを概説できる。	C15(1)-5-2						
３）臨床研究法（ランダム化比較試験、コホート研究、症例対照研究など）の長所と短所を概説できる。	C15(1)-5-3		公衆衛生学				
４）メタアナリシスの概念を理解し、結果を評価できる。（知識・技能）	C15(1)-5-4						
５）真のエンドポイントと代用のエンドポイントの違いを説明できる。	C15(1)-5-5						
６）臨床適用上の効果指標（オッズ比、必要治療数、相対危険度など）について説明できる。	C15(1)-5-6		公衆衛生学				
【総合演習】							
１）医薬品の採用、選択に当たって検討すべき項目を列挙できる。	C15(1)-6-1				医薬品情報学		
２）医薬品に関する論文を評価、要約し、臨床上の問題を解決するために必要な情報を提示できる。（知識・技能）	C15(1)-6-2						

薬学教育モデル・コアカリキュラム（ＳＢＯs）		該　当　科　目					
		１年	２年	３年	４年	５年	６年
（２）患者情報							
【情報と情報源】							
１）薬物治療に必要な患者基本情報を列挙できる。	C15(2)-1-1				医薬品情報学 診察法・診断学		
２）患者情報源の種類を列挙し、それぞれの違いを説明できる。	C15(2)-1-2						
【収集・評価・管理】							
１）問題志向型システム（POS）を説明できる。	C15(2)-2-1				医薬品情報学 診察法・診断学		
２）薬歴、診療録、看護記録などから患者基本情報を収集できる。（技能）	C15(2)-2-2						
３）患者、介護者との適切なインタビューから患者基本情報を収集できる。（技能）	C15(2)-2-3						
４）得られた患者情報から医薬品の効果および副作用などを評価し、対処法を提案する。（知識・技能）	C15(2)-2-4						
５）SOAPなどの形式で患者記録を作成できる。（技能）	C15(2)-2-5						
６）チーム医療において患者情報を共有することの重要性を感じとる。（態度）	C15(2)-2-6						
７）患者情報の取扱いにおいて守秘義務を遵守し、管理の重要性を説明できる。（知識・態度）	C15(2)-2-7						
（３）テーラーメイド薬物治療を目指して							
【遺伝的素因】							
１）薬物の作用発現に及ぼす代表的な遺伝的素因について、例を挙げて説明できる。	C15(3)-1-1				医薬品安全性学 臨床ゲノム薬理学		
２）薬物動態に影響する代表的な遺伝的素因について、例を挙げて説明できる。	C15(3)-1-2						
３）遺伝的素因を考慮した薬物治療について、例を挙げて説明できる。	C15(3)-1-3						
【年齢的要因】							
１）新生児、乳児に対する薬物治療で注意すべき点を説明できる。	C15(3)-2-1				医薬品安全性学 ライフステージ対応薬物治療学（選）		
２）幼児、小児に対する薬物治療で注意すべき点を説明できる。	C15(3)-2-2						
３）高齢者に対する薬物治療で注意すべき点を説明できる。	C15(3)-2-3						
【生理的要因】							
１）生殖、妊娠時における薬物治療で注意すべき点を説明できる。	C15(3)-3-1				医薬品安全性学 ライフステージ対応薬物治療学（選）		
２）授乳婦に対する薬物治療で注意すべき点を説明できる。	C15(3)-3-2				医薬品安全性学 ライフステージ対応薬物治療学（選）		
３）栄養状態の異なる患者（肥満など）に対する薬物治療で注意すべき点を説明できる。	C15(3)-3-3				医薬品安全性学 ライフステージ対応薬物治療学（選）		
【合併症】							
１）腎臓疾患を伴った患者における薬物治療で注意すべき点を説明できる。	C15(3)-4-1				医薬品安全性学 ペット医薬品科学（選） ライフステージ対応薬物治療学（選）		
２）肝臓疾患を伴った患者における薬物治療で注意すべき点を説明できる。	C15(3)-4-2						
３）心臓疾患を伴った患者における薬物治療で注意すべき点を説明できる。	C15(3)-4-3						
【投与計画】							
１）患者固有の薬動学的パラメーターを用いて投与設計ができる。（知識・技能）	C15(3)-5-1						
２）ポピュレーションファーマコキネティクスの概念と応用について概説できる。	C15(3)-5-2						
３）薬動力学的パラメーターを用いて投与設計ができる。（知識・技能）	C15(3)-5-3						
４）薬物作用の日内変動を考慮した用法について概説できる。	C15(3)-5-4						

薬学教育モデル・コアカリキュラム（ＳＢＯｓ）		該当科目					
		１年	２年	３年	４年	５年	６年
[医薬品をつくる]							
C16　製剤化のサイエンス							
（１）製剤材料の性質							
【物質の溶解】							
１）溶液の濃度と性質について説明できる。	C16(1)-1-1			薬剤学Ⅰ（基礎）			
２）物質の溶解とその速度について説明できる。	C16(1)-1-2						
３）溶解した物質の膜透過速度について説明できる。	C16(1)-1-3						
４）物質の溶解に対して酸・塩基反応が果たす役割を説明できる。	C16(1)-1-4			薬剤学Ⅰ（基礎） 薬剤・薬物動態学実習			
【分散系】							
１）界面の性質について説明できる。	C16(1)-2-1			薬剤学Ⅰ（基礎）	香粧品科学（選）		
２）代表的な界面活性剤の種類と性質について説明できる。	C16(1)-2-2						
３）乳剤の型と性質について説明できる。	C16(1)-2-3						
４）代表的な分散系を列挙し、その性質について説明できる。	C16(1)-2-4						
５）分散粒子の沈降現象について説明できる。	C16(1)-2-5						
【製剤材料の物性】							
１）流動と変形（レオロジー）の概念を理解し、代表的なモデルについて説明できる。	C16(1)-3-1			薬剤学Ⅰ（基礎）			
２）高分子の構造と高分子溶液の性質について説明できる。	C16(1)-3-2			薬剤学Ⅰ（基礎） 薬剤・薬物動態学実習	先端医療薬剤学（選）		
３）製剤分野で汎用される高分子の物性について説明できる。	C16(1)-3-3			薬剤学Ⅰ（基礎） 薬剤学Ⅱ（応用）			
４）粉体の性質について説明できる。	C16(1)-3-4			薬剤学Ⅰ（基礎） 薬剤・薬物動態学実習			
５）製剤材料としての分子集合体について説明できる。	C16(1)-3-5			薬剤学Ⅰ（基礎）	先端医療薬剤学（選）		
６）薬物と製剤材料の安定性に影響する要因、安定化方法を列挙し、説明できる。	C16(1)-3-6						
７）粉末Ｘ線回折測定法の原理と利用法について概略を説明できる。	C16(1)-3-7		物理化学実習				
８）製剤材料の物性を測定できる。（技能）	C16(1)-3-8			薬剤学Ⅰ（基礎） 薬剤・薬物動態学実習			
（２）剤形をつくる							
【代表的な製剤】							
１）代表的な剤形の種類と特徴を説明できる。	C16(2)-1-1			薬剤学Ⅱ（応用）	香粧品科学（選）		
２）代表的な固形製剤の種類と性質について説明できる。	C16(2)-1-2						
３）代表的な半固形製剤の種類と性質について説明できる。	C16(2)-1-3						
４）代表的な液状製剤の種類と性質について説明できる。	C16(2)-1-4						
５）代表的な無菌製剤の種類と性質について説明できる。	C16(2)-1-5						
６）エアゾール剤とその類似製剤について説明できる。	C16(2)-1-6						
７）代表的な製剤添加物の種類と性質について説明できる。	C16(2)-1-7						
８）代表的な製剤の有効性と安全性評価法について説明できる。	C16(2)-1-8			薬剤学Ⅰ（基礎）	製剤科学 香粧品科学（選）		
【製剤化】							
１）製剤化の単位操作および汎用される製剤機械について説明できる。	C16(2)-2-1			薬剤学Ⅱ（応用）			
２）単位操作を組み合わせて代表的製剤を調製できる。（技能）	C16(2)-2-2			薬剤・薬物動態学実習			
３）汎用される容器、包装の種類や特徴について説明できる。	C16(2)-2-3			薬剤学Ⅱ（応用）			
【製剤試験法】							
１）日本薬局方の製剤に関連する試験法を列挙できる。	C16(2)-3-1			薬剤学Ⅱ（応用）			
２）日本薬局方の製剤に関連する代表的な試験法を実施し、品質管理に適用できる。（技能）	C16(2)-3-2			薬剤・薬物動態学実習			

薬学教育モデル・コアカリキュラム（ＳＢＯｓ）		該　当　科　目					
		１年	２年	３年	４年	５年	６年
（３）DDS（Drug Delivery System：薬物送達システム）							
【DDSの必要性】							
１）従来の医薬品製剤の有効性、安全性、信頼性における主な問題点を列挙できる。	C16(3)-1-1				製剤科学 先端医療薬剤学（選）		
２）DDSの概念と有用性について説明できる。	C16(3)-1-2						
【放出制御型製剤】							
１）放出制御型製剤（徐放性製剤を含む）の利点について説明できる。	C16(3)-2-1				製剤科学		
２）代表的な放出制御型製剤を列挙できる。	C16(3)-2-2						
３）代表的な徐放性製剤における徐放化の手段について説明できる。	C16(3)-2-3						
４）徐放性製剤に用いられる製剤材料の種類と性質について説明できる。	C16(3)-2-4						
５）経皮投与製剤の特徴と利点について説明できる	C16(3)-2-5						
６）腸溶製剤の特徴と利点について説明できる。	C16(3)-2-6						
【ターゲティング】							
１）ターゲティングの概要と意義について説明できる。	C16(3)-3-1				製剤科学 先端医療薬剤学（選）		
２）代表的なドラッグキャリアーを列挙し、そのメカニズムを説明できる。	C16(3)-3-2				製剤科学		
【プロドラッグ】							
１）代表的なプロドラッグを列挙し、そのメカニズムと有用性について説明できる。	C16(3)-4-1				製剤科学		
【その他のDDS】							
１）代表的な生体膜透過促進法について説明できる。	C16(3)-5-1				製剤科学		
C17　医薬品の開発と生産							
（１）医薬品開発と生産のながれ							
【医薬品開発のコンセプト】							
１）医薬品開発を計画する際に考慮すべき因子を列挙できる。	C17(1)-1-1				医薬品開発学 香粧品科学（選）		
２）疾病統計により示される日本の疾病の特徴について説明できる。	C17(1)-1-2						
【医薬品市場と開発すべき医薬品】							
１）医療用医薬品で日本市場および世界市場での売上高上位の医薬品を列挙できる。	C17(1)-2-1				医薬品開発学 香粧品科学（選）		
２）新規医薬品の価格を決定する要因について概説できる。	C17(1)-2-2						
３）ジェネリック医薬品の役割について概説できる。	C17(1)-2-3				香粧品科学（選）		
４）希少疾病に対する医薬品（オーファンドラッグ）開発の重要性について説明できる。	C17(1)-2-4						
【非臨床試験】							
１）非臨床試験の目的と実施概要を説明できる。	C17(1)-3-1				医薬品開発学 医薬品安全性学		
【医薬品の承認】							
１）臨床試験の目的と実施概要を説明できる。	C17(1)-4-1				臨床薬効評価学（選）		
２）医薬品の販売承認申請から、承認までのプロセスを説明できる。	C17(1)-4-2				医薬品開発学 臨床薬効評価学（選）		
３）市販後調査の制度とその意義について説明できる。	C17(1)-4-3	科学計算演習			医薬品開発学		
４）医薬品開発における国際的ハーモナイゼーション（ICH）について概説できる。	C17(1)-4-4				医薬品開発学 臨床薬効評価学（選）		
【医薬品の製造と品質管理】							
１）医薬品の工業的規模での製造工程の特色を開発レベルのそれと対比させて概説できる。	C17(1)-5-1				医薬品開発学		
２）医薬品の品質管理の意義と、薬剤師の役割について説明できる。	C17(1)-5-2						
３）医薬品製造において環境保全に配慮すべき点を列挙し、その対処法を概説できる。	C17(1)-5-3						

薬学教育モデル・コアカリキュラム（ＳＢＯs）		該当科目					
		１年	２年	３年	４年	５年	６年
【規範】							
１）GLP（Good Laboratory Practice）、GMP（Good Manufacturing Practice）、GCP（Good Clinical Practice）、GPMSP（Good Post-Marketing Surveillance Practice）の概略と意義について説明できる。	C17(1)-6-1				医薬品開発学 医薬品安全性学		
【特許】							
１）医薬品の創製における知的財産権について概説できる。	C17(1)-7-1				医薬品開発学 国際保健医療論（選）		
【薬害】							
１）代表的な薬害の例（サリドマイド、スモン、非加熱血液製剤、ソリブジンなど）について、その原因と社会的背景を説明し、これらを回避するための手段を討議する。（知識・態度）	C17(1)-8-1				医薬品安全性学		
（２）リード化合物の創製と最適化							
【医薬品創製の歴史】							
１）古典的な医薬品開発から理論的な創薬への歴史について説明できる。	C17(2)-1-1	有機化学Ⅰ（基礎とアルカン等）			創薬化学（選） 生物有機化学（選）		
【標的生体分子との相互作用】							
１）医薬品開発の標的となる代表的な生体分子を列挙できる。	C17(2)-2-1	有機化学Ⅰ（基礎とアルカン等）			医薬品開発学 創薬化学（選） 生物有機化学（選）		
２）医薬品と標的生体分子の相互作用を、具体例を挙げて立体化学的観点から説明できる。	C17(2)-2-2	有機化学Ⅰ（基礎とアルカン等）					
３）立体異性体と生物活性の関係について具体例を挙げて説明できる。	C17(2)-2-3	有機化学Ⅰ（基礎とアルカン等）			創薬化学（選） 生物有機化学（選）		
４）医薬品の構造とアゴニスト活性、アンタゴニスト活性との関係について具体例を挙げて説明できる。	C17(2)-2-4	有機化学Ⅰ（基礎とアルカン等）					
【スクリーニング】							
１）スクリーニングの対象となる化合物の起源について説明できる。	C17(2)-3-1	有機化学Ⅰ（基礎とアルカン等）			医薬品開発学 創薬化学（選） 生物有機化学（選）		
２）代表的なスクリーニング法を列挙し、概説できる。	C17(2)-3-2	有機化学Ⅰ（基礎とアルカン等）					
【リード化合物の最適化】							
１）定量的構造活性相関のパラメーターを列挙し、その薬理活性に及ぼす効果について概説できる。	C17(2)-4-1	有機化学Ⅰ（基礎とアルカン等）			医薬品開発学 創薬化学（選） 生物有機化学（選）		
２）生物学的等価性（バイオアイソスター）の意義について概説できる。	C17(2)-4-2	有機化学Ⅰ（基礎とアルカン等）			創薬化学（選） 生物有機化学（選）		
３）薬物動態を考慮したドラッグデザインについて概説できる。	C17(2)-4-3	有機化学Ⅰ（基礎とアルカン等）					
（３）バイオ医薬品とゲノム情報							
【組換え体医薬品】							
１）組換え体医薬品の特色と有用性を説明できる。	C17(3)-1-1				医薬品開発学 ゲノム科学と医薬品開発Ⅰ（基礎）		
２）代表的な組換え体医薬品を列挙できる。	C17(3)-1-2				ゲノム科学と医薬品開発Ⅰ（基礎）		
３）組換え体医薬品の安全性について概説できる。	C17(3)-1-3						
【遺伝子治療】							
１）遺伝子治療の原理、方法と手順、現状、および倫理的問題点を概説できる。（知識・態度）	C17(3)-2-1				ゲノム科学と医薬品開発Ⅰ（基礎）		
【細胞を利用した治療】							
１）再生医療の原理、方法と手順、現状、および倫理的問題点を概説できる。（知識・態度）	C17(3)-3-1				ゲノム科学と医薬品開発Ⅰ（基礎）		

薬学教育モデル・コアカリキュラム（ＳＢＯs）		該　当　科　目					
		１年	２年	３年	４年	５年	６年
【ゲノム情報の創薬への利用】							
１）ヒトゲノムの構造と多様性を説明できる。	C17(3)-4-1				医薬品開発学 ゲノム科学と医薬品開発Ⅰ（基礎） 臨床ゲノム薬理学		
２）バイオインフォマティクスについて概説できる。	C17(3)-4-2		微生物学		ゲノム科学と医薬品開発Ⅰ（基礎）		
３）遺伝子多型（欠損、増幅）の解析に用いられる方法（ゲノミックサザンブロット法など）について概説できる。	C17(3)-4-3				ゲノム科学と医薬品開発Ⅰ（基礎） 臨床ゲノム薬理学		
４）ゲノム情報の創薬への利用について、創薬ターゲットの探索の代表例（イマチニブなど）を挙げ、ゲノム創薬の流れについて説明できる。	C17(3)-4-4				医薬品開発学 ゲノム科学と医薬品開発Ⅰ（基礎） 臨床ゲノム薬理学		
【疾患関連遺伝子】							
１）代表的な疾患（癌、糖尿病など）関連遺伝子について説明できる。	C17(3)-5-1				ゲノム科学と医薬品開発Ⅰ（基礎）		
２）疾患関連遺伝子情報の薬物療法への応用例を挙げ、概説できる。	C17(3)-5-2						
（４）治験							
【治験の意義と業務】							
１）治験に関してヘルシンキ宣言が意図するところを説明できる。	C17(4)-1-1						
２）医薬品創製における治験の役割を説明できる。	C17(4)-1-2				医薬品開発学		
３）治験（第Ⅰ、Ⅱ、およびⅢ相）の内容を説明できる。	C17(4)-1-3						
４）公正な治験の推進を確保するための制度を説明できる。	C17(4)-1-4						
５）治験における被験者の人権の保護と安全性の確保、および福祉の重要性について討議する。（態度）	C17(4)-1-5						
６）治験業務に携わる各組織の役割と責任を概説できる。	C17(4)-1-6						
【治験における薬剤師の役割】							
１）治験における薬剤師の役割（治験薬管理者など）を説明できる。	C17(4)-2-1				医薬品開発学		
２）治験コーディネーターの業務と責任を説明できる。	C17(4)-2-2						
３）治験に際し、被験者に説明すべき項目を列挙できる。	C17(4)-2-3						
４）インフォームド・コンセントと治験情報に関する守秘義務の重要性について討議する。（態度）	C17(4)-2-4						
（５）バイオスタティスティクス							
【生物統計の基礎】							
１）帰無仮説の概念を説明できる。	C17(5)-1-1						
２）パラメトリック検定とノンパラメトリック検定の使い分けを説明できる。	C17(5)-1-2						
３）主な二群間の平均値の差の検定法（t-検定、Mann-Whitney U検定）について、適用できるデータの特性を説明し、実施できる。（知識・技能）	C17(5)-1-3						
４）χ2検定の適用できるデータの特性を説明し、実施できる。（知識・技能）	C17(5)-1-4						
５）最小二乗法による直線回帰を説明でき、回帰係数の有意性を検定できる。（知識・技能）	C17(5)-1-5						
６）主な多重比較検定法（分散分析、Dunnett検定、Tukey検定など）の概要を説明できる。	C17(5)-1-6						
７）主な多変量解析の概要を説明できる。	C17(5)-1-7						
【臨床への応用】							
１）臨床試験の代表的な研究デザイン（症例対照研究、コホート研究、ランダム化比較試験）の特色を説明できる。	C17(5)-2-1		公衆衛生学				
２）バイアスの種類をあげ、特徴を説明できる。	C17(5)-2-2						
３）バイアスを回避するための計画上の技法（盲検化、ランダム化）について説明できる。	C17(5)-2-3						
４）リスク因子の評価として、オッズ比、相対危険度および信頼区間について説明し、計算できる。（知識・技能）	C17(5)-2-4						
５）基本的な生存時間解析法（Kaplan-Meier曲線など）の特徴を説明できる。	C17(5)-2-5						

薬学教育モデル・コアカリキュラム（SBOs）		該当科目					
		1年	2年	3年	4年	5年	6年
C13　薬学と社会							
（1）薬剤師を取り巻く法律と制度							
【医療の担い手としての使命】							
1）薬剤師の医療の担い手としての倫理的責任を自覚する。（態度）	C18(1)-1-1						
2）医療過誤、リスクマネージメントにおける薬剤師の責任と義務を果たす。（態度）	C18(1)-1-2						
【法律と制度】							
1）薬剤師に関連する法令の構成を説明できる。	C18(1)-2-1				医療安全管理		薬事関係法規・薬事制度
2）薬事法の重要な項目を列挙し、その内容を説明できる。	C18(1)-2-2				香粧品科学（選）		
3）薬剤師法の重要な項目を列挙し、その内容を説明できる。	C18(1)-2-3						
4）薬剤師に関わる医療法の内容を説明できる。	C18(1)-2-4		微生物学		医療安全管理		
5）医師法、歯科医師法、保健師助産師看護師法などの関連法規と薬剤師の関わりを説明できる。	C18(1)-2-5						
6）医薬品による副作用が生じた場合の被害救済について、その制度と内容を概説できる。	C18(1)-2-6						
7）製造物責任法を概説できる。	C18(1)-2-7				香粧品科学（選）		
【管理薬】							
1）麻薬及び向精神薬取締法を概説し、規制される代表的な医薬品を列挙できる。	C18(1)-3-1						薬事関係法規・薬事制度
2）覚せい剤取締法を概説し、規制される代表的な医薬品を列挙できる。	C18(1)-3-2						
3）大麻取締法およびあへん法を概説できる。	C18(1)-3-3						
4）毒物及び劇物取締法を概説できる。	C18(1)-3-4						
【放射性医薬品】							
1）放射性医薬品の管理、取扱いに関する基準（放射性医薬品基準など）および制度について概説できる。	C18(1)-4-1						
2）代表的な放射性医薬品を列挙し、その品質管理に関する試験法を概説できる。	C18(1)-4-2						
（2）社会保障制度と薬剤経済							
【社会保障制度】							
1）日本における社会保障制度のしくみを説明できる。	C18(2)-1-1				医療社会保障論 薬剤経済学		
2）社会保障制度の中での医療保険制度の役割を概説できる。	C18(2)-1-2						
3）介護保険制度のしくみを説明できる。	C18(2)-1-3						
4）高齢者医療保健制度のしくみを説明できる。	C18(2)-1-4						
【医療保険】							
1）医療保険の成り立ちと現状を説明できる。	C18(2)-2-1	医療概論			医療社会保障論 薬剤経済学		
2）医療保険のしくみを説明できる。	C18(2)-2-2						
3）医療保険の種類を列挙できる。	C18(2)-2-3						
4）国民の福祉健康における医療保険の貢献と問題点について概説できる。	C18(2)-2-4						
【薬剤経済】							
1）国民医療費の動向を概説できる。	C18(2)-3-1	医療概論			薬剤経済学		
2）保険医療と薬価制度の関係を概説できる。	C18(2)-3-2						
3）診療報酬と薬価基準について説明できる。	C18(2)-3-3						
4）医療費の内訳を概説できる。	C18(2)-3-4						
5）薬物治療の経済評価手法を概説できる。	C18(2)-3-5						
6）代表的な症例をもとに、薬物治療を経済的な観点から解析できる。（知識・技能）	C18(2)-3-6						

薬学教育モデル・コアカリキュラム（ＳＢＯs）		該　当　科　目					
		１年	２年	３年	４年	５年	６年
（3）コミュニティーファーマシー							
【地域薬局の役割】							
１）地域薬局の役割を列挙できる。	C18(3)-1-1				コミュニティーファーマシー 新薬局論（薬学教育改革のエンドポイント）（選）		
２）在宅医療および居宅介護における薬局と薬剤師の役割を説明できる。	C18(3)-1-2						
３）学校薬剤師の役割を説明できる。	C18(3)-1-3				コミュニティーファーマシー		
【医薬分業】							
１）医薬分業のしくみと意義を説明できる。	C18(3)-2-1				コミュニティーファーマシー 新薬局論（薬学教育改革のエンドポイント）（選）		
２）医薬分業の現状を概説し、将来像を展望する。（知識・態度）	C18(3)-2-2						
３）かかりつけ薬局の意義を説明できる。	C18(3)-2-3						
【薬局の業務運営】							
１）保険薬剤師療養担当規則および保険医療養担当規則を概説できる。	C18(3)-3-1				コミュニティーファーマシー		
２）薬局の形態および業務運営ガイドラインを概説できる。	C18(3)-3-2				コミュニティーファーマシー 新薬局論（薬学教育改革のエンドポイント）（選）		
３）医薬品の流通のしくみを概説できる。	C18(3)-3-3				コミュニティーファーマシー		
４）調剤報酬および調剤報酬明細書（レセプト）について説明できる。	C18(3)-3-4				コミュニティーファーマシー 新薬局論（薬学教育改革のエンドポイント）（選）		
【OTC薬・セルフメディケーション】							
１）地域住民のセルフメディケーションのために薬剤師が果たす役割を討議する。（態度）	C18(3)-4-1				セルフメディケーション		
２）主な一般用医薬品（OTC薬）を列挙し、使用目的を説明できる。	C18(3)-4-2						
３）漢方薬、生活改善薬、サプリメント、保健機能食品について概説できる。	C18(3)-4-3						

（基礎資料３－２）実務実習モデル・コアカリキュラムのＳＢＯｓに該当する科目

［注］　１　実務実習モデル・コアカリキュラムのＳＢＯｓに該当する科目名または実習項目名を実施学年の欄に記入してください。

２　同じ科目名・項目名が連続する場合はセルを結合して記入することもできます。

３　「（７）の事前学習のまとめ」において大学でＳＢＯsの設定がある場合は、記入してください。必要ならば、行を適宜追加してください。

実務実習モデル・コアカリキュラム（実務実習事前学習）ＳＢＯｓ	該当科目		
	３年	４年	５年
Ｄ　実務実習教育			
（Ｉ）実務実習事前学習			
（１）事前学習を始めるにあたって			
《薬剤師業務に注目する》			
1.　医療における薬剤師の使命や倫理などについて概説できる。		実務実習事前学習	
2.　医療の現状をふまえて、薬剤師の位置づけと役割、保険調剤について概説できる。			
3.　薬剤師が行う業務が患者本位のファーマシューティカルケアの概念にそったものであることについて討議する。（態度）			
《チーム医療に注目する》			
4.　医療チームの構成や各構成員の役割、連携と責任体制を説明できる。		実務実習事前学習	
5.　チーム医療における薬剤師の役割を説明できる。			
6.　自分の能力や責任範囲の限界と他の医療従事者との連携について討議する。（態度）			
《医薬分業に注目する》			
7.　医薬分業の仕組みと意義を概説できる。		実務実習事前学習	
（２）処方せんと調剤			
《処方せんの基礎》			
1.　処方せんの法的位置づけと機能について説明できる。		実務実習事前学習	
2.　処方オーダリングシステムを概説できる。			
3.　処方せんの種類、特徴、必要記載事項について説明できる。			
4.　調剤を法的根拠に基づいて説明できる。			
5.　代表的な処方せん例の鑑査における注意点を説明できる。（知識・技能）			
6.　不適切な処方せんの処置について説明できる。			
《医薬品の用法・用量》			
7.　代表的な医薬品の用法・用量および投与計画について説明できる。		実務実習事前学習	
8.　患者に適した剤形を選択できる。（知識・技能）			
9.　患者の特性（新生児、小児、高齢者、妊婦など）に適した用法・用量について説明できる。			
10.　患者の特性に適した用量を計算できる。（技能）			
11.　病態（腎、肝疾患など）に適した用量設定について説明できる。			

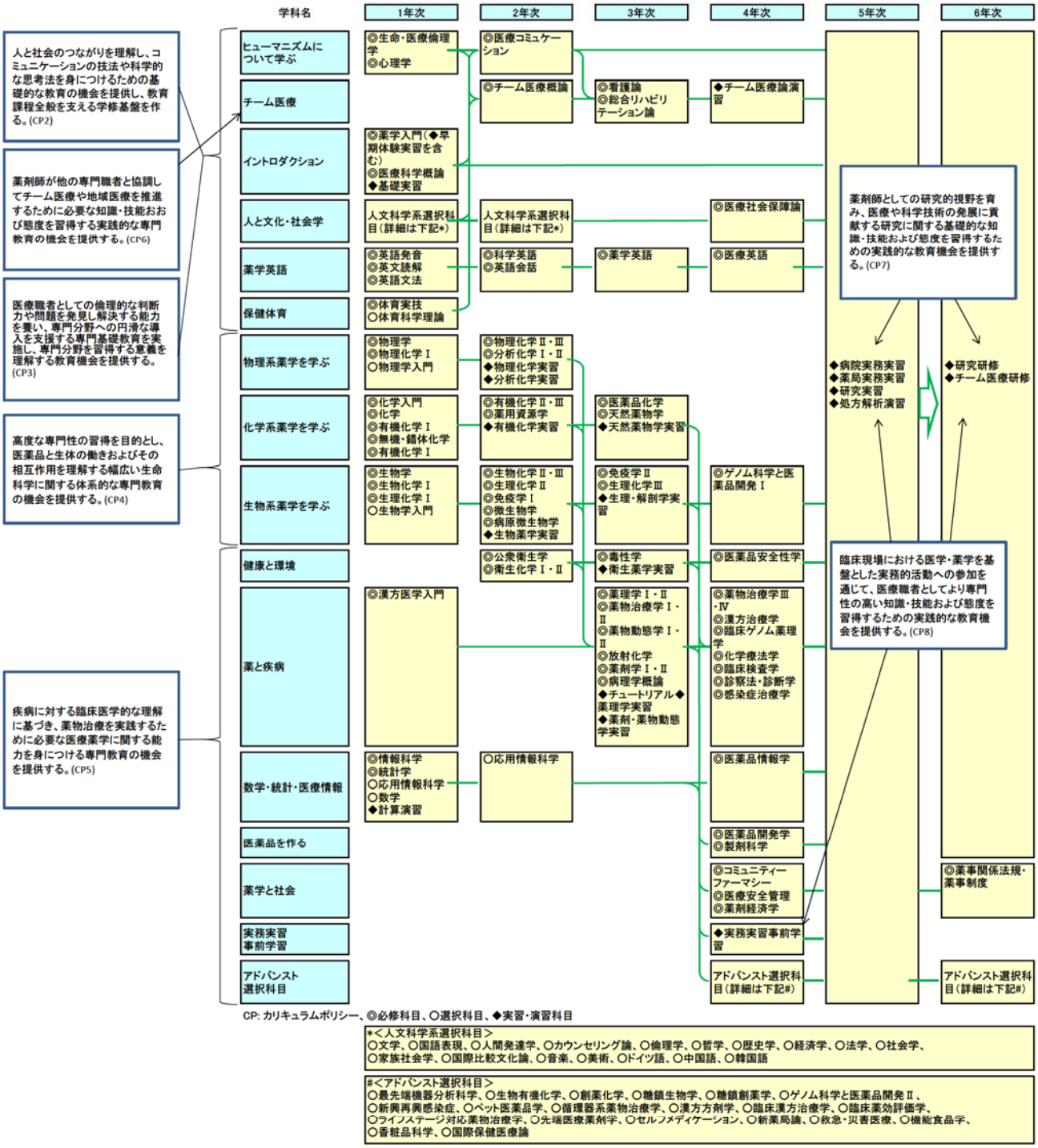
実務実習モデル・コアカリキュラム（実務実習事前学習）ＳＢＯｓ	該当科目		
	３年	４年	５年
《服薬指導の基礎》			
12.　服薬指導の意義を法的、倫理的、科学的根拠に基づいて説明できる。		実務実習事前学習	
《調剤室業務入門》			
13.　代表的な処方せん例の鑑査をシミュレートできる。（技能）		実務実習事前学習	
14.　処方せん例に従って、計数調剤をシミュレートできる。（技能）			
15.　処方せん例に従って、計量調剤をシミュレートできる。（技能）			
16.　調剤された医薬品の鑑査をシミュレートできる。（技能）			
17.　処方せんの鑑査の意義とその必要性について討議する。（態度）			
（３）疑義照会			
《疑義照会の意義と根拠》			
1.　疑義照会の意義について、法的根拠を含めて説明できる。		実務実習事前学習	
3.　特定の配合によって生じる医薬品の性状、外観の変化を観察する。（技能）			
4.　不適切な処方せん例について、その理由を説明できる。			
《疑義照会入門》			
5.　処方せんの問題点を解決するための薬剤師と医師の連携の重要性を討議する。（態度）		実務実習事前学習	
6.　代表的な医薬品について効能・効果、用法・用量を列挙できる。			
7.　代表的な医薬品について警告、禁忌、副作用を列挙できる。			
8.　代表的な医薬品について相互作用を列挙できる。			
9.　疑義照会の流れを説明できる。			
10.　疑義照会をシミュレートする。（技能・態度）			
（４）医薬品の管理と供給			
《医薬品の安定性に注目する》			
1.　医薬品管理の意義と必要性について説明できる。		実務実習事前学習	
2.　代表的な剤形の安定性、保存性について説明できる。			
《特別な配慮を要する医薬品》			
3.　毒薬・劇薬の管理および取扱いについて説明できる。		実務実習事前学習	
4.　麻薬、向精神薬などの管理と取扱い（投薬、廃棄など）について説明できる。			
5.　血漿分画製剤の管理および取扱いについて説明できる。			
6.　輸血用血液製剤の管理および取扱いについて説明できる。			
7.　代表的な生物製剤の種類と適応を説明できる。			
8.　生物製剤の管理と取扱い（投薬、廃棄など）について説明できる。			
9.　麻薬の取扱いをシミュレートできる。（技能）			
10.　代表的な放射性医薬品の種類と用途を説明できる。			
11.　放射性医薬品の管理と取扱い（投薬、廃棄など）について説明できる。			

実務実習モデル・コアカリキュラム（実務実習事前学習）ＳＢＯｓ	該当科目		
	３年	４年	５年
《製剤化の基礎》			
12.　院内製剤の意義、調製上の手続き、品質管理などについて説明できる。		実務実習事前学習	
13.　薬局製剤の意義、調製上の手続き、品質管理などについて説明できる。			
14.　代表的な院内製剤を調製できる。（技能）			
15.　無菌操作の原理を説明し、基本的な無菌操作を実施できる。（知識・技能）			
16.　抗悪性腫瘍剤などの取扱いにおけるケミカルハザード回避の基本的手技を実施できる。（技能）			
《注射剤と輸液》			
17.　注射剤の代表的な配合変化を列挙し、その原因を説明できる。		実務実習事前学習	
18.　代表的な配合変化を検出できる。（技能）			
19.　代表的な輸液と経管栄養剤の種類と適応を説明できる。			
20.　体内電解質の過不足を判断して補正できる。（技能）			
《消毒薬》			
21.　代表的な消毒薬の用途、使用濃度を説明できる。		実務実習事前学習	
22.　消毒薬調製時の注意点を説明できる。			
（５）リスクマネージメント			
《安全管理に注目する》			
1.　薬剤師業務の中で起こりやすい事故事例を列挙し、その原因を説明できる。		実務実習事前学習	
2.　誤りを生じやすい投薬例を列挙できる。			
3.　院内感染の回避方法について説明できる，			
《副作用に注目する》			
4.　代表的な医薬品の副作用の初期症状と検査所見を具体的に説明できる。		実務実習事前学習	
《リスクマネージメント入門》			
5.　誤りを生じやすい調剤例を列挙できる。		実務実習事前学習	
6.　リスクを回避するための具体策を提案する。（態度）			
7.　事故が起こった場合の対処方法について提案する。（態度）			
（６）服薬指導と患者情報			
《服薬指導に必要な技能と態度》			
1.　患者の基本的権利、自己決定権、インフォームド・コンセント、守秘義務などについて具体的に説明できる。		実務実習事前学習	
2.　代表的な医薬品の服薬指導上の注意点を列挙できる。			
3.　代表的な疾患において注意すべき生活指導項目を列挙できる。			
4.　インフォームド・コンセント、守秘義務などに配慮する。（態度）			
5.　適切な言葉を選び、適切な手順を経て服薬指導する。（技能・態度）			
6.　医薬品に不安、抵抗感を持つ理由を理解し、それを除く努力をする。（知識・態度）			
7.　患者接遇に際し、配慮しなければならない注意点を列挙できる。			

実務実習モデル・コアカリキュラム（実務実習事前学習）ＳＢＯｓ	該　当　科　目		
	３年	４年	５年
《患者情報の重要性に注目する》			
8.　服薬指導に必要な患者情報を列挙できる。		実務実習事前学習	
9.　患者背景、情報（コンプライアンス、経過、診療録、薬歴など）を把握できる。（技能）			
10.　医師、看護師などとの情報の共有化の重要性を説明できる。			
《服薬指導入門》			
11.　代表的な医薬品について、適切な服薬指導ができる。（知識・技能）		実務実習事前学習	
12.　共感的態度で患者インタビューを行う。（技能・態度）			
13.　患者背景に配慮した服薬指導ができる。（技能）			
14.　代表的な症例についての服薬指導の内容を適切に記録できる。（技能）			
（７）事前学習のまとめ			

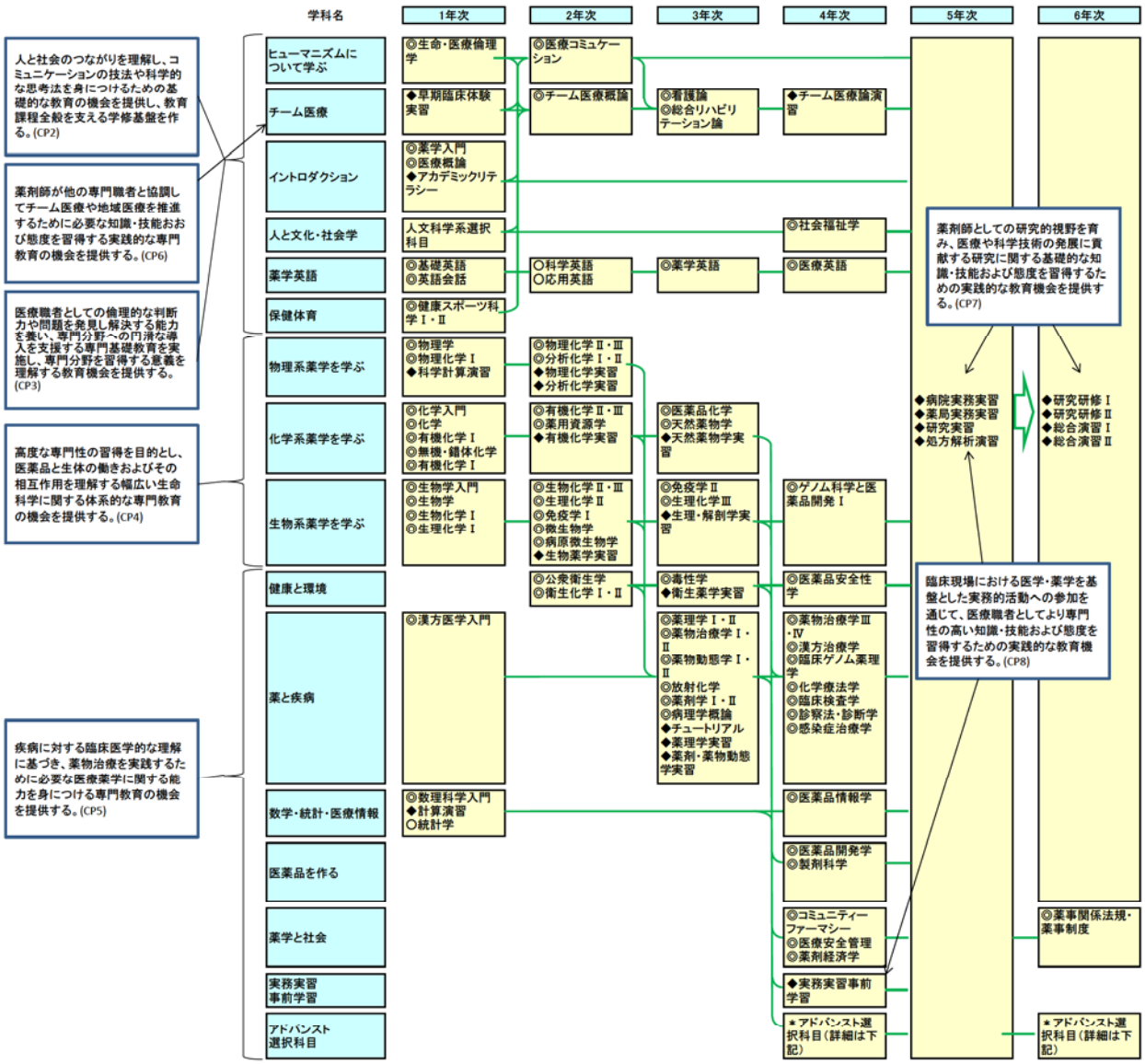
（基礎資料4）カリキュラムマップ（平成19年～24年）

薬学部医療薬学科のカリキュラムは「基礎分野・専門基礎分野・専門分野に関する授業科目と実習科目を有機的に連携させ、薬学部教育課程で修得するべき知識・技能および態度を網羅するとともに、人と社会の健康と幸福に広く貢献できる力を育むための教育課程を編成し提供する。」ものである（CP1）。このカリキュラムマップはそれをどのように達成するかの道筋を示したものである。



（基礎資料4）カリキュラムマップ（平成25年～26年）

薬学部医療薬学科のカリキュラムは「基礎分野・専門基礎分野・専門分野に関する授業科目と実習科目を有機的に連携させ、薬学部教育課程で修得するべき知識・技能および態度を網羅するとともに、人と社会の健康と幸福に広く貢献できる力を育むための教育課程を編成し提供する。」ものである(CP1)。このカリキュラムマップはそれをどのように達成するかの道筋を示したものである。



CP: カリキュラムポリシー、◎必修科目、○選択科目、◆実習・演習科目

＊＜人文科学系選択科目＞
○心理学、○哲学、○人間発達学、○芸術学、○社会学、○臨床心理学、○教育学、○法学、○中国語、○韓国語

＊＜アドバンスト選択科目＞
○最先端機器分析科学、○生物有機化学、○創薬化学、○糖鎖生物学、○糖鎖創薬学、○ゲノム科学と医薬品開発Ⅱ、
○新興再興感染症、○ペット医薬品学、○循環器系薬物治療学、○漢方方剤学、○臨床漢方治療学、○臨床薬効評価学、
○ライフステージ対応薬物治療学、○先端医療薬剤学、○セルフメディケーション、○新薬局論、○救急・災害医療、○機能食品学、
○香粧品科学、○国際保健医療論

（基礎資料５）語学教育の要素

科目名	開講年生	要素			
		読み	書き	聞く	話す
基礎英語	1	○	○	○	○
英語会話	1			○	○
科学英語	2	○	○	○	○
応用英語	2	○	○	○	○
医療英語	4	○	○	○	○
薬学英語	3	○	○	○	○
韓国語	1	○	○	○	○
中国語	1	○	○	○	○

［注］　要素欄の該当するものに○印をお付けください。

（基礎資料６）４年次の実務実習事前学習のスケジュール

平成２６年４月							
（週）	（曜日）	（日）	１時限	２時限	３時限	４時限	５時限
第１週	月						
	火						
	水						
	木						
	金						
第２週	月						
	火						
	水						
	木						
	金	4月11日			ガイダンス	ｓ101講義	ｓ102講義
第３週	月						
	火						
	水	4月16日			s201講義	ｓ501講義	ｓ502講義
	木						
	金	4月18日			ｓ103　SGD		
第４週	月						
	火						
	水	4月23日			ｓ104講義	ｓ105講義	
	木						
	金	4月25日			ｓ506　SGD		
第５週	月						
	火						
	水						
	木						
	金						

平成２６年５月							
（週）	（曜日）	（日）	１時限	２時限	３時限	４時限	５時限
第１週	月						
	火						
	水						
	木						
	金						
第２週	月	祭日					
	火	祭日					
	水	5月7日			s106　SGD		在宅医療
	木						
	金	5月9日			s 507　SGD		
第３週	月						
	火						
	水	5月14日			s 107講義	s 504講義	
	木						
	金	5月16日			s 202講義・演習	s203講義・演習	
第４週	月						
	火						
	水	5月21日			s505演習		
	木						
	金	5月23日			s301講義	s303講義	
第５週	月						
	火						
	水	5月28日			s305講義		
	木						
	金	5月30日			s304　SGD		

平成２６年６月							
（週）	（曜日）	（日）	１時限	２時限	３時限	４時限	５時限
第１週	月						
	火						
	水						
	木						
	金	6月6日			s205講義		
第２週	月	6月9日			s401講義	s402講義	
	火						
	水	6月11日			s204講義・演習		
	木						
	金	6月13日			s412講義	s412演習	
第３週	月	6月16日			s208講義・演習		
	火						
	水	6月18日			s206講義		s207講義
	木						
	金	6月20日			s207講義・演習	s601講義	s604講義
第４週	月	6月23日			s403講義	s404講義	s405講義
	火						
	水	6月25日			s406実習		
	木						
	金	6月27日			s302実習		
第５週	月	6月30日			s408講義	s409講義	s209講義
	火						
	水						
	木						
	金						

平成２６年７月							
（週）	（曜日）	（日）	１時限	２時限	３時限	４時限	５時限
第１週	月						
	火						
	水	7月2日			s410実習		
	木						
	金	7月4日			s306 SGD		
第２週	月	7月7日			s411実習		
	火						
	水	7月9日			s210実習		
	木						
	金	7月11日			s210実習		
第３週	月	7月14日			s603ロールプレイ		
	火						
	水	7月16日			s602講義		
	木						
	金	7月18日			s605講義・演習		
第４週	月	祭日					
	火						
	水						
	木						
	金						
第５週	月						
	火						
	水						
	木						
	金						

平成２６年９月							
（週）	（曜日）	（日）	１時限	２時限	３時限	４時限	５時限
第１週	月						
	火						
	水						
	木						
	金						
第２週	月						
	火						
	水						
	木						
	金						
第３週	月	祭日					
	火						
	水						
	木						
	金						
第４週	月	9月22日			後期授業オリエンテーション		
	火	祭日					
	水	9月24日			s606、SGD		
	木						
	金						
第５週	月	9月29日			s306講義		
	火						
	水						
	木						
	金						

平成２６年１０月							
（週）	（曜日）	（日）	１時限	２時限	３時限	４時限	５時限
第１週	月						
	火						
	水	10月1日			s411実習		
	木						
	金						
第２週	月	10月6日			s606、SGD		
	火						
	水	10月8日			s413実習		
	木						
	金						
第３週	月	祭日					
	火						
	水	10月15日			s210実習		
	木						
	金						
第４週	月	10月20日			s210実習		
	火						
	水	10月22日			s211実習		
	木						
	金						
第５週	月	10月27日			s606、SGD		
	火						
	水	10月29日			s306講義		
	木						
	金						

平成２６年１１月							
（週）	（曜日）	（日）	１時限	２時限	３時限	４時限	５時限
第１週	月						
	火						
	水						
	木						
	金						
第２週	月	祭日					
	火						
	水						
	木						
	金						
第３週	月	11月10日			s701演習		
	火						
	水	11月12日			s701演習		
	木						
	金						
第４週	月	11月17日			s701演習		
	火						
	水	11月19日			s701演習		
	木						
	金	11月21日			s701演習		
第５週	月	祭日					
	火						
	水	11月26日			s701演習		
	木						
	金						

平成２６年１２月							
（週）	（曜日）	（日）	１時限	２時限	３時限	４時限	５時限
第１週	月	12月1日			s701演習		
	火	12月2日			s701演習		
	水	12月3日			s701演習		
	木	12月4日			s701演習		
	金						
	日	12月7日	ＯＳＣＥ				
第２週	月						
	火						
	水	12月10日			c503講義	c414講義	
	木						
	金						
第３週	月	12月15日			s407講義	医療関係法令	
	火						
	水	12月17日			薬局管理	一般用医薬	
	木						
	金						
第４週	月						
	火						
	水						
	木						
	金						
第５週	月						
	火						
	水						
	木						
	金						

［注］　１　４年次の実務実習事前学習のスケジュールを例示に従い、実務実習モデル・コアカリキュラムの「学習方略」で用いられているLS番号（主となる）と学習方法を記入してください。表は月ごとに作成し、シートが足りない場合はシートのコピーで適宜追加し、作成してください。

２　大学行事、祭日等は、簡潔に記入してください。（例示：学祭、OSCE、予備日、祝日）

３　**上記１の内容が記載されていれば、大学独自の様式の表を提出することができます。**

（基礎資料７）学生受入状況について

	学科名	入試の種類		平成22年度入試（21年度実施）	平成23年度入試（22年度実施）	平成24年度入試（23年度実施）	平成25年度入試（24年度実施）	平成26年度入試（25年度実施）	平成27年度入試（26年度実施）	募集定員数に対する入学者数の比率（６年間の平均）
薬学部	医療薬学科	一般入試	受験者数	283	381	419	595	836	907	
			合格者数	215	238	170	136	169	206	
			入学者数(A)	107	111	80	71	71	82	
			募集定員数(B)	100	90	90	85	85	85	
			A/B*100(%)	107	123	89	84	84	98	
		大学入試センター入試	受験者数	46	41	71	69	86	64	
			合格者数	21	21	20	25	23	15	
			入学者数(A)	0	5	2	6	5	6	
			募集定員数(B)	6	5	5	10	10	10	
			A/B*100(%)	0	100	40	60	50	60	
		ＡＯ入試	受験者数							
			合格者数							
			入学者数(A)							
			募集定員数(B)							
			A/B*100(%)							
		附属校推薦	受験者数							
			合格者数							
			入学者数(A)							
			募集定員数(B)							
			A/B*100(%)							
		指定校推薦	受験者数	4	5	2	12	9	7	
			合格者数	4	5	2	12	9	7	
			入学者数(A)	4	5	2	12	9	6	
			募集定員数(B)	10	10	10	10	10	10	
			A/B*100(%)	40	50	20	120	90	60	
		公募推薦入試	受験者数	88	189	155	201	383	371	
			合格者数	51	89	100	110	114	100	
			入学者数(A)	39	50	75	82	74	59	
			募集定員数(B)	34	45	45	45	45	45	
			A/B*100(%)	115	111	167	182	164	131	
		社会人入試	受験者数							
			合格者数							
			入学者数(A)							
			募集定員数(B)							
			A/B*100(%)							
		留学生入試	受験者数							
			合格者数							
			入学者数(A)							
			募集定員数(B)							
			A/B*100(%)							
		帰国生徒入試	受験者数							
			合格者数							
			入学者数(A)							
			募集定員数(B)							
			A/B*100(%)							
			受験者数							
			合格者数							
			入学者数(A)							
			募集定員数(B)							
			A/B*100(%)							
学　科　計			受験者数	421	616	647	877	1,314	1,349	
			合格者数	291	353	292	283	315	328	
			入学者数(A)	150	171	159	171	159	153	107
			募集定員数(B)	150	150	150	150	150	150	
			A/B*100(%)	100	114	106	114	106	102	

［注］　１　「編入学試験」は、この表には記入しないでください。

２　実施している全種類の入試が網羅されるように「入試の種類」の名称を記入し、適宜欄を設けて記入してください。
なお、該当しない入試方法の欄は削除してください。

３　入試の種類ごとに「募集定員数(B)に対する入学者数(A)」の割合を算出してください。

４　「留学生入試」に交換留学生は含めないでください。

５　各入学（募集）定員が若干名の場合は「若干名」と記入してください。

６　６年制が複数学科で構成されている場合は、「学部合計」欄を設けて記入してください。

７　薬科学科との一括入試の場合は、欄外に「（備考）〇年次に・・・・・を基に学科を決定する。なお、薬学科の定員は△△△名」と注を記入してください。

（基礎資料８）教員・事務職員数

①設置基準において、必要な６年制薬学科の教員数 ＊１	31 名
②設置基準において、必要な実務家教員数 ＊２	5 名

＊１　大学設置基準　第２条別表第一、イ備考四

＊２　大学設置基準　別表第一、イ十号

（教員の部）	教授	准教授	専任講師	助教	助手	備考
教養教育						
語学教育						
薬学基礎教育						
専門薬学教育	16	4	7	10	5	
実務実習教育	2	0	5（3）	0	1	見なし:3
小計	18	4	12（3）	10	6	
専任教員数	44（　3　）					

（事務職員の部）	局長	部長	課長	事務員	その他の職種	備考
大学業務関連	0	1	7	62(25)	6(3)	医療職
法人業務関連						
小計	0	1	7	62(25)	6(3)	
事務職員数	76　（　28　）					

［注］　１　主に担当する科目（業務）で算出し、重複しないように注意してください。

２　該当する場合は、（　）内に実務家教員、見なし教員または特任等の数を記入し、「備考」欄にその内訳を記入してください。（例示：6(2)＝６名のうち２名が特任）

３　該当する場合は、（　）内に臨時・嘱託事務職員数を記入してください。（例示：3(1)＝３名のうち１名が嘱託事務職員）

４　「その他の職種」の欄に記入した数については、「備考」にその職種名を記入してください。

５　専任教務補助員（例えば､いわゆる副手、実験補助員等）、ティーチング・アシスタント（ＴＡ）、リサーチ・アシスタント（ＲＡ）については、「備考」欄にその各々の名称と人数を記入してください。

（基礎資料９）専任教員年齢構成

職位	70歳代	60歳代	50歳代	40歳代	30歳代	20歳代	計
教　授	0	2	15（1）	1	0	0	18（1）
	0%	11.1%	83.3%	5.6%	0%	0%	100%
准教授	0	1	1	2	0	0	4
	0%	25%	25%	50%	0%	0%	100%
専任講師	0	1（1）	3（1）	5（2）	3	0	12（4）
	0%	8.3%	25.0%	41.7%	25.0%	0%	100%
助教	0	0	0	2(1)	8（4）	0	10（5）
	0%	0%	0%	20%	80%	0%	100%
合計	0	4(1)	19（2）	10(3)	11（4）	0	44（10）
	0%	9.1%	43.2%	22.7%	25.0%	0%	100%

定年年齢 （教授、准教授及び講師）	65	歳
定年年齢 （上記以外）	63	歳

［注］１　上段には人数、下段には%を記入してください。

２　（　　）に女性の数を記入してください。（例示：2(1)＝２名のうち１名が女性）

３　「定年年齢」には、規定された定年退職年齢を記入してください。

（基礎資料10）専任教員の担当授業科目および時間数

所属学科	所属講座等	職名	ふりがな 氏名	（性別）	（年齢）	就職年月日	現職就任年月日	授業科目 科目名	毎週授業時間数 講義 前期	講義 後期	演習 前期	演習 後期	実験・実習・実技 前期	実験・実習・実技 後期	実験・実習・実技 通年	計 前期	計 後期	計 通年	年間平均毎週授業時間数	最終学歴及び学位称号
医療薬学科	薬理学	教授	にしやま　のぶよし 西山　信好	男	55	2007/4/1	2007/4/1	アカデミックリテラシー			0.2					0.2	0.0			東京大学 東京大学大学院 薬学系研究科 博士課程　修了 博士（薬学）
								薬学入門			0.3					0.3	0.0			
								薬理学Ⅰ（基礎と神経系）	1.5							1.5	0.0			
								薬理学実習AB						2.7		0.0	2.7			
								薬理学実習CD						2.7		0.0	2.7			
								機能食品学		0.8						0.0	0.8			
								薬剤経済学		0.8						0.0	0.8			
								病院実務実習							0.4	0.0	0.0	0.4		
								薬局実務実習							0.4	0.0	0.0	0.4		
								計	1.5	1.6	0.5	0.0	0.0	5.4	0.8	2.0	7.0	0.8	5.3	
医療薬学科	生体分析化学	教授	まえだ　はつお 前田初男	男	54	2007/4/1	2007/4/1	薬学入門			0.1					0.1	0.0			大阪大学大学院 薬学研究科 博士後期課程修了 博士（薬学）
								無機・錯体化学		0.8						0.0	0.8			
								分析化学Ⅰ（基礎と理論）	1.5							1.5	0.0			
								分析化学実習AB					3.0			3.0	0.0			
								分析化学実習CD（ABと合同9回分を引いた数）					2.1			2.1	0.0			
								分析化学Ⅱ（応用）		1.5						0.0	1.5			
								最先端機器分析科学	0.8							0.8	0.0			
								病院実務実習							0.4	0.0	0.0	0.4		
								薬局実務実習							0.4	0.0	0.0	0.4		
								計	2.3	2.3	0.1	0.0	5.1	0.0	0.8	7.5	2.3	0.8	5.7	
医療薬学科	臨床ゲノム薬理学	教授	あずま　じゅんいち 東　純一	男	69	2009/4/1	2009/4/1	薬学入門			0.2					0.2	0.0			大阪大学 医学部 学士（医学）
								薬学概論	0.1							0.1	0.0			
								臨床ゲノム薬理学	0.8							0.8	0.0			
								臨床検査学	0.5							0.5	0.0			
								臨床検査薬効評価学		0.6						0.0	0.6			
								計	1.4	0.6	0.2	0.0	0.0	0.0	0.0	1.6	0.6	0.0	1.1	
医療薬学科	天然薬物学	教授	あおき　しゅんじ 青木　俊二	男	50	2007/4/1	2007/4/1	薬学入門			0.1					0.1	0.0			大阪大学大学院 薬学研究科 博士後期課程退学 博士（薬学）
								薬用資源学AB	1.5							1.5	0.0			
								薬用資源学CD	1.5							1.5	0.0			
								天然薬物学AB	1.5							1.5	0.0			
								天然薬物学CD	1.5							1.5	0.0			
								天然薬物学実習AB					2.7			2.7	0.0			
								天然薬物学実習CD（ABと合同3回分を引いた数）					2.4			2.4	0.0			
								薬学概論	0.1							0.1	0.0			
								代替療法と看護		0.1						0.0	0.1			
								病院実務実習							0.4	0.0	0.0	0.4		
								薬局実務実習							0.4	0.0	0.0	0.4		
								計	6.1	0.1	0.1	0.0	5.1	0.0	0.8	11.3	0.1	0.8	6.5	
医療薬学科	臨床薬剤学	教授	あまの　まなぶ 天野　学	男	52	2013/4/1	2013/4/1	アカデミックリテラシー			0.2					0.2	0.0			岡山大学大学院 自然科学研究科 博士後期課程修了 博士（薬学）
								薬学入門			0.2					0.2	0.0			
								実務実習事前学習							5.5	0.0	0.0	5.5		
								医療安全管理		0.6						0.0	0.6			
								病院実務実習							0.7	0.0	0.0	0.7		
								薬局実務実習							0.7	0.0	0.0	0.7		
								計	0.0	0.6	0.4	0.0	0.0	0.0	6.9	0.4	0.6	6.9	7.4	

所属学科	所属講座等	職名	ふりがな 氏名	（性別）	（年齢）	就職年月日	現職就任年月日	授業科目 科目名	毎週授業時間数 講義 前期	講義 後期	演習 前期	演習 後期	実験・実習・実技 前期	実験・実習・実技 後期	実験・実習・実技 通年	計 前期	計 後期	計 通年	年間平均毎週授業時間数	最終学歴及び学位称号
医療薬学科	薬理学	教授	あやじき　かずひで 安屋敷　和秀	男	55	2009/4/1	2009/4/1	アカデミックリテラシー			0.2					0.2	0.0			滋賀医科大学大学院医学研究科博士課程退学 博士（医学）
								薬学入門			0.2					0.2	0.0			
								薬学概論	0.1							0.1	0.0			
								薬理学実習AB						2.7		0.0	2.7			
								薬理学実習CD						2.7		0.0	2.7			
								薬理学Ⅱ（循環器系等）		1.5						0.0	1.5			
								病院実務実習							0.4	0.0	0.0	0.4		
								薬局実務実習							0.4	0.0	0.0	0.4		
								計	0.1	1.5	0.4	0.0	0.0	5.4	0.8	0.5	6.9	0.8	4.5	
医療薬学科	薬物治療学	教授	いわさき　つよし 岩崎　剛	男	60	2008/4/1	2008/4/1	アカデミックリテラシー			0.2					0.2	0.0			信州大学医学部卒業 博士（医学）
								薬学入門			0.2					0.2	0.0			
								生理・解剖学実習AB					2.7			2.7	0.0			
								生理・解剖学実習CD（BIと合同3回分を引いた数）					2.4			2.4	0.0			
								薬学概論	0.1							0.1	0.0			
								薬物治療学Ⅰ（基礎と血液・造血器疾患等）	1.5							1.5	0.0			
								実務実習事前学習							5.3	0.0	0.0	5.3		
								薬物治療学Ⅲ（精神疾患等）	1.5							1.5	0.0			
								医療安全特論		0.1						0.0	0.1			
								薬物治療学Ⅳ（応用）		1.0						0.0	1.0			
								病院実務実習							0.4	0.0	0.0	0.4		
								薬局実務実習							0.4	0.0	0.0	0.4		
								計	3.1	1.1	0.4	0.0	5.1	0.0	6.1	8.6	1.1	6.1	11.0	
医療薬学科	免疫学	教授	うえだ　はるやす 上田　晴康	男	51	2008/4/1	2013/10/1	薬学入門			0.2					0.2	0.0			徳島大学大学院薬学研究科博士後期課程修了 博士（薬学）
								免疫学（含微生物学）		1.5						0.0	1.5			
								生物薬学実習AB						2.5		0.0	2.5			
								生物薬学実習CD						2.5		0.0	2.5			
								生理・解剖学実習AB					2.7			2.7	0.0			
								生理・解剖学実習CD（BIと合同3回分を引いた数）					2.4			2.4	0.0			
								免疫学Ⅱ（疾患と応用）	1.5							1.5	0.0			
								糖鎖生物学	0.8							0.8	0.0			
								病院実務実習							0.4	0.0	0.0	0.4		
								薬局実務実習							0.4	0.0	0.0	0.4		
								計	2.3	1.5	0.2	0.0	5.1	5.0	0.8	7.6	6.5	0.8	7.9	
医療薬学科	生化学	教授	おおかわら　ともみ 大河原　知水	男	52	2008/4/1	2012/4/1	アカデミックリテラシー			0.2					0.2	0.0			大阪大学大学院医学研究科退学 博士（医学）
								薬学入門			0.2					0.2	0.0			
								生物化学Ⅰ（物質生化学）		1.3						0.0	1.3			
								生物化学Ⅱ（分子生物学）	0.4							0.4	0.0			
								生物化学Ⅲ（代謝生化学）		1.5						0.0	1.5			
								生物薬学実習AB						2.5		0.0	2.5			
								生物薬学実習CD						2.5		0.0	2.5			
								生理・解剖学実習AB					2.7			2.7	0.0			
								生理・解剖学実習CD（BIと合同3回分を引いた数）					2.4			2.4	0.0			
								糖鎖創薬学	0.8							0.8	0.0			
								病院実務実習							0.4	0.0	0.0	0.4		
								薬局実務実習							0.4	0.0	0.0	0.4		
								計	1.2	2.8	0.4	0.0	5.1	5.0	0.8	6.7	7.8	0.8	8.1	

所属学科	所属講座等	職名	ふりがな 氏名	（性別）	（年齢）	就職年月日	現職就任年月日	授業科目										年間平均毎週授業時間数	最終学歴及び学位称号
								科目名	毎週授業時間数										
									講義		演習		実験・実習・実技			計			
									前期	後期	前期	後期	前期	後期	通年	前期	後期	通年	
医療薬学科	毒性学	教授	きよみや　けんいち 清宮　健一	男	54	2008/4/1	2008/4/1	薬学入門			0.2					0.2	0.0		
								衛生薬学実習AB					3.4			3.4	0.0		
								衛生薬学実習CD（AB と合同4回分を引いた数）					3.0			3.0	0.0		
								毒性学		0.8						0.0	0.8		北里大学大学院 薬学研究科 修士課程修了 博士（獣医学）
								医薬品安全性学	1.4							1.4	0.0		
								ペット医薬品学		0.8						0.0	0.8		
								病院実務実習							0.4	0.0	0.0	0.4	
								薬局実務実習							0.4	0.0	0.0	0.4	
								計	1.4	1.6	0.2	0.0	6.4	0.0	0.8	8.0	1.6	0.8	5.6
医療薬学科	薬物動態学	教授	くがわ　ふみひこ 九川　文彦	男	57	2008/4/1	2008/4/1	アカデミックリテラシー			0.2					0.2	0.0		
								薬学入門			0.1					0.1	0.0		
								薬学概論	0.2							0.2	0.0		
								薬物動態学Ⅰ（生体内運命）	1.0							1.0	0.0		大阪大学大学院 薬学研究科 博士後期課程修了 博士（薬学）
								薬剤・薬物動態学実習AB						2.4		0.0	2.4		
								薬剤・薬物動態学実習CD						2.4		0.0	2.4		
								医療英語	1.5							1.5	0.0		
								病院実務実習							0.4	0.0	0.0	0.4	
								薬局実務実習							0.4	0.0	0.0	0.4	
								計	2.7	0.0	0.3	0.0	0.0	4.8	0.8	3.0	4.8	0.8	4.7
医療薬学科	微生物学	教授	さいとう　あつこ 斎藤　あつ子	女	57	2009/4/1	2009/4/1	薬学入門			0.2					0.2	0.0		
								病原微生物学		1.5						0.0	1.5		
								衛生薬学実習AB					3.4			3.4	0.0		
								衛生薬学実習CD（AB と合同4回分を引いた数）					3.0			3.0	0.0		
								薬学概論	0.1							0.1	0.0		神戸大学大学院 医学研究科退学 博士（医学）
								感染症治療学	0.8							0.8	0.0		
								新興再興感染症	0.7							0.7	0.0		
								感染予防学		1.0						0.0	1.0		
								病院実務実習							0.4	0.0	0.0	0.4	
								薬局実務実習							0.4	0.0	0.0	0.4	
								計	1.6	2.5	0.2	0.0	6.4	0.0	0.8	8.2	2.5	0.8	6.2
医療薬学科	創薬化学	教授	たなか　あきと 田中　明人	男	53	2007/4/1	2007/4/1	薬学入門			0.1					0.1	0.0		
								有機化学Ⅰ（基礎とアルカン等）		1.5						0.0	1.5		
								物理化学実習AB					3.0			3.0	0.0		
								物理化学実習CD（AB と合同4回分を引いた数）					2.4			2.4	0.0		
								有機化学実習AB						2.4		0.0	2.4		大阪大学大学院 薬学研究科 修士課程修了 博士（薬学）
								有機化学実習CD						2.4		0.0	2.4		
								医薬品開発学	0.5							0.5	0.0		
								創薬化学	0.8							0.8	0.0		
								生物有機化学		0.8						0.0	0.8		
								病院実務実習							0.4	0.0	0.0	0.4	
								薬局実務実習							0.4	0.0	0.0	0.4	
								計	1.3	2.3	0.1	0.0	5.4	4.8	0.8	6.8	7.1	0.8	7.8

所属学科	所属講座等	職名	ふりがな 氏名	（性別）	（年齢）	就職年月日	現職就任年月日	授業科目 科目名	毎週授業時間数 講義 前期	講義 後期	演習 前期	演習 後期	実験・実習・実技 前期	実験・実習・実技 後期	実験・実習・実技 通年	計 前期	計 後期	計 通年	年間平均毎週授業時間数	最終学歴及び学位称号
医療薬学科	免疫学	教授	たなか としゆき 田中 稔之	男	52	2007/4/1	2007/4/1	アカデミックリテラシー			0.2					0.2	0.0			東北大学大学院 薬学研究科博士 後期課程修了 博士（薬学）
								薬学入門			0.5					0.5	0.0			
								生物薬学実習AB						2.5		0.0	2.5			
								生物薬学実習CD						2.5		0.0	2.5			
								免疫学Ⅰ（基礎と理論）		1.5						0.0	1.5			
								薬学概論	0.1							0.1	0.0			
								ゲノム科学と医薬品開発Ⅰ口基礎）	0.8							0.8	0.0			
								ゲノム科学と医薬品開発Ⅱ口応用）		0.8						0.0	0.8			
								病院実務実習							0.4	0.0	0.0	0.4		
								薬局実務実習							0.4	0.0	0.0	0.4		
								計	0.9	2.3	0.7	0.0	0.0	5.0	0.8	1.6	7.3	0.8	5.1	
医療薬学科	薬物治療学	教授	つじの たけし 辻野 健	男	54	2009/10/1	2009/10/1	アカデミックリテラシー			0.2					0.2	0.0			神戸大学大学院 医学研究科修了 博士（医学）
								薬学入門			0.2					0.2	0.0			
								生理・解剖学実習AB					2.7			2.7	0.0			
								生理・解剖学実習CD（Ⅱと合同3回分を引いた数）					2.4			2.4	0.0			
								薬物治療学Ⅱ（心臓・血管系疾患等）		1.5						0.0	1.5			
								リハビリテーション医学		0.1						0.0	0.1			
								実務実習事前学習							5.3	0.0	0.0	5.3		
								循環器系薬物治療学	0.8							0.8	0.0			
								診察法・診断学	0.8							0.8	0.0			
								薬物治療学Ⅳ（応用）		0.5						0.0	0.5			
								病院実務実習							0.4	0.0	0.0	0.4		
								薬局実務実習							0.4	0.0	0.0	0.4		
								計	1.6	2.1	0.4	0.0	5.1	0.0	6.1	7.1	2.1	6.1	10.7	
医療薬学科	有機化学	教授	みやべ ひでと 宮部 豪人	男	47	2007/4/1	2007/4/1	アカデミックリテラシー			0.2					0.2	0.0			大阪大学大学院 薬学研究科 博士後期課程修了 博士（薬学）
								薬学入門			0.1					0.1	0.0			
								有機化学Ⅱ（芳香族化合物等）AB	1.5							1.5	0.0			
								有機化学Ⅱ（芳香族化合物等）CD	1.5							1.5	0.0			
								有機化学Ⅲ（アミン等）		1.5						0.0	1.5			
								有機化学実習AB						2.4		0.0	2.4			
								有機化学実習CD						2.4		0.0	2.4			
								医薬品化学		1.5						0.0	1.5			
								病院実務実習							0.4	0.0	0.0	0.4		
								薬局実務実習							0.4	0.0	0.0	0.4		
								計	3.0	3.0	0.3	0.0	0.0	4.8	0.8	3.3	7.8	0.8	6.4	
医療薬学科	医薬品情報学	教授 （実務家）	もりやま まさひろ 森山 雅弘	男	55	2010/10/1	2010/10/1	アカデミックリテラシー			0.2					0.2	0.0			近畿大学大学院 薬学研究科修了 博士（医学）
								薬学入門			0.2					0.2	0.0			
								薬学概論	0.1							0.1	0.0			
								医薬品情報学	0.9							0.9	0.0			
								実務実習事前学習							5.8	0.0	0.0	5.8		
								病院実務実習							0.7	0.0	0.0	0.7		
								薬局実務実習							0.7	0.0	0.0	0.7		
								計	1.0	0.0	0.4	0.0	0.0	0.0	7.2	1.4	0.0	7.2	7.9	

所属学科	所属講座等	職名	ふりがな 氏名	（性別）	（年齢）	就職年月日	現職就任年月日	授業科目 科目名	毎週授業時間数 講義 前期	講義 後期	演習 前期	演習 後期	実験・実習・実技 前期	実験・実習・実技 後期	実験・実習・実技 通年	計 前期	計 後期	計 通年	年間平均毎週授業時間数	最終学歴及び学位称号
医療薬学科	生理学	教授	やまもと　さとし 山本　悟史	男	50	2007/10/1	2007/10/1	薬学入門			0.2					0.2	0.0			久留米大学大学院 医学研究科 博士課程修了 博士（医学）
								生理化学Ⅰ（細胞生理学）		0.8						0.0	0.8			
								生理化学Ⅱ（造血器系等の生理学）AB	1.5							1.5	0.0			
								生理化学Ⅱ（造血器系等の生理学）CD	1.5							1.5	0.0			
								生理・解剖学実習AB					2.7			2.7	0.0			
								生理・解剖学実習CD（ABと合同3回分を引いた数）					2.4			2.4	0.0			
								生理化学Ⅲ（神経系等の生理学）	1.5							1.5	0.0			
								病院実務実習							0.4	0.0	0.0	0.4		
								薬局実務実習							0.4	0.0	0.0	0.4		
								計	4.5	0.8	0.2	0.0	5.1	0.0	0.8	9.8	0.8	0.8	6.1	
医療薬学科	薬剤学 製剤科学	准教授	いとう　そういち 伊藤　壮一	男	63	2008/4/1	2008/4/1	アカデミックリテラシー			0.4					0.4	0.0			大阪大学大学院 薬学研究科 博士後期課程修了 博士（薬学）
								薬学入門			0.1					0.1	0.0			
								薬剤学Ⅰ（基礎）AB	1.5							1.5	0.0			
								薬剤学Ⅰ（基礎）CD	1.5							1.5	0.0			
								薬剤学Ⅱ（応用）		1.5						0.0	1.5			
								薬剤・薬物動態学実習AB						2.4		0.0	2.4			
								薬剤・薬物動態学実習CD						2.4		0.0	2.4			
								製剤科学		0.8						0.0	0.8			
								病院実務実習							0.4	0.0	0.0	0.4		
								薬局実務実習							0.4	0.0	0.0	0.4		
								計	3.0	2.3	0.5	0.0	0.0	4.8	0.8	3.5	7.1	0.8	6.1	
医療薬学科	物理化学	准教授	こうたに　しげる 甲谷　繁	男	46	2007/4/1	2007/4/1	アカデミックリテラシー			0.4					0.4	0.0			東京工業大学大学院 総合理工学研究科 修士課程修了 博士（理学）
								薬学入門			0.5					0.5	0.0			
								科学計算演習				1.5				0.0	1.5			
								物理化学Ⅰ（熱力学）		1.5						0.0	1.5			
								物理化学実習AB					3.0			3.0	0.0			
								物理化学実習CD（ABと合同4回分を引いた数）					2.4			2.4	0.0			
								物理化学Ⅱ（物質の変化）AB	1.5							1.5	0.0			
								物理化学Ⅱ（物質の変化）CD	1.5							1.5	0.0			
								物理化学Ⅲ（物質の構造）		1.5						0.0	1.5			
								病院実務実習							0.4	0.0	0.0	0.4		
								薬局実務実習							0.4	0.0	0.0	0.4		
								計	3.0	3.0	0.9	1.5	5.4	0.0	0.8	9.3	4.5	0.8	7.7	
医療薬学科	漢方医学	准教授	だい　つよし 戴　毅	男	45	2008/4/1	2008/4/1	薬学入門			0.2					0.2	0.0			兵庫医科大学大学院 医学研究科修了 博士（医学）
								漢方医学入門		0.8						0.0	0.8			
								生理・解剖学実習AB					2.7			2.7	0.0			
								生理・解剖学実習CD（ABと合同3回分を引いた数）					2.4			2.4	0.0			
								漢方治療学	0.8							0.8	0.0			
								漢方方剤学		0.8						0.0	0.8			
								臨床漢方治療学		0.8						0.0	0.8			
								病院実務実習							0.4	0.0	0.0	0.4		
								薬局実務実習							0.4	0.0	0.0	0.4		
								計	0.8	2.4	0.2	0.0	5.1	0.0	0.8	6.1	2.4	0.8	5.1	

所属学科	所属講座等	職名	ふりがな 氏名	（性別）	（年齢）	就職年月日	現職就任年月日	授業科目										年間平均毎週授業時間数	最終学歴及び学位称号
								科目名	毎週授業時間数										
									講義		演習		実験・実習・実技			計			
									前期	後期	前期	後期	前期	後期	通年	前期	後期	通年	
医療薬学科	微生物学	准教授	まえだ　たくや 前田　拓也	男	50	2007/4/1	2007/4/1	アカデミックリテラシー			0.4					0.4	0.0		
								薬学入門			0.2					0.2	0.0		
								衛生化学Ⅰ（環境衛生学）	1.5							1.5	0.0		
								微生物学	1.5							1.5	0.0		大阪大学大学院 工学研究科 博士後期課程修了 博士（工学）
								衛生化学Ⅱ（栄養・食品衛生学）		1.5						0.0	1.5		
								衛生薬学実習AB					3.4			3.4	0.0		
								衛生薬学実習CD(CDAB合同4回分を引いた数)					3.0			3.0	0.0		
								病院実務実習							0.4	0.0	0.0	0.4	
								薬局実務実習							0.4	0.0	0.0	0.4	
								計	3.0	1.5	0.6	0.0	6.4	0.0	0.8	10.0	1.5	0.8	6.6
医療薬学科	先端医療薬剤学	講師	うえだ　ひろき 上田　寛樹	男	43	2008/4/1	2008/4/1	アカデミックリテラシー			0.4					0.4	0.0		
								薬学入門			0.4					0.4	0.0		
								科学計算演習				1.5				0.0	1.5		
								物理化学実習AB					3.0			3.0	0.0		
								物理化学実習CD（ABと合同6回分を引いた数）					2.4			2.4	0.0		京都大学大学院 医学研究科 博士課程退学 博士（医学）
								チュートリアルAB			1.2					1.2	0.0		
								チュートリアルCD			1.2					1.2	0.0		
								先端医療薬剤学		0.8						0.0	0.8		
								病院実務実習							0.4	0.0	0.0	0.4	
								薬局実務実習							0.4	0.0	0.0	0.4	
								計	0.0	0.8	3.2	1.5	5.4	0.0	0.8	8.6	2.3	0.8	6.3
医療薬学科	臨床薬理学	講師	おおの　まさこ 大野　雅子	女	60	2010/4/1	2010/4/1	アカデミックリテラシー			0.2					0.2	0.0		
								薬学入門			0.1					0.1	0.0		
								科学計算演習				1.5				0.0	1.5		
								実務実習事前学習							5.7	0.0	0.0	5.7	大阪大学大学院 薬学研究科 博士後期課程修了
								処方解析演習			0.8					0.8	0.0		
								病院実務実習							0.7	0.0	0.0	0.7	博士（薬学）
								薬局実務実習							0.7	0.0	0.0	0.7	
								計	0.0	0.0	1.1	1.5	0.0	0.0	7.1	1.1	1.5	7.1	8.4
医療薬学科	社会薬学	講師	かつらぎ　さとこ 桂木　聡子	女	54	2010/4/1	2010/4/1	薬学入門			0.1					0.1	0.0		
								科学計算演習				1.5				0.0	1.5		
								薬学概論	0.1							0.1	0.0		武庫川女子大学 夜間大学院 臨床薬学科 修士課程修了 修士（薬学）
								コミュニティーファーマシー	1.5							1.5	0.0		
								セルフメディケーション		0.8						0.0	0.8		
								実務実習事前学習							5.9	0.0	0.0	5.9	
								病院実務実習							0.7	0.0	0.0	0.7	
								薬局実務実習							0.7	0.0	0.0	0.7	
								計	1.6	0.8	0.1	1.5	0.0	0.0	7.3	1.7	2.3	7.3	9.3

所属学科	所属講座等	職名	ふりがな 氏名	（性別）	（年齢）	就職年月日	現職就任年月日	授業科目											年間平均毎週授業時間数	最終学歴及び学位称号
								科目名	毎週授業時間数											
									講義		演習		実験・実習・実技			計				
									前期	後期	前期	後期	前期	後期	通年	前期	後期	通年		
医療薬学科	創薬化学	講師	しみず ただし 清水 忠	男	39	2008/4/1	2014/1/1	アカデミックリテラシー			0.4					0.4	0.0			北海道大学大学院 理学研究科 博士後期課程修了 博士（理学）
								薬学入門			0.4					0.4	0.0			
								有機化学Ⅰ（基礎とアルカン等）		1.5						0.0	1.5			
								物理化学実習AB					3.0			3.0	0.0			
								物理化学実習CD（ABと合同6回分を引いた数）					2.4			2.4	0.0			
								有機化学実習AB						2.4		0.0	2.4			
								有機化学実習CD						2.4		0.0	2.4			
								創薬化学	0.8							0.8	0.0			
								生物有機化学		0.8						0.0	0.8			
								病院実務実習							0.4	0.0	0.0	0.4		
								薬局実務実習							0.4	0.0	0.0	0.4		
								計	0.8	2.3	0.8	0.0	5.4	4.8	0.8	7.0	7.1	0.8	7.9	
医療薬学科	薬剤学 製剤科学	講師	なかの ひろあき 中野 博明	男	39	2008/4/1	2008/4/1	アカデミックリテラシー			0.2					0.2	0.0			大阪大学大学院 薬学研究科 博士後期課程修了 博士（薬学）
								薬学入門			0.4					0.4	0.0			
								物理化学実習AB					3.0			3.0	0.0			
								物理化学実習CD（ABと合同6回分を引いた数）					2.4			2.4	0.0			
								薬剤・薬物動態学実習AB						2.4		0.0	2.4			
								薬剤・薬物動態学実習CD						2.4		0.0	2.4			
								病院実務実習							0.4	0.0	0.0	0.4		
								薬局実務実習							0.4	0.0	0.0	0.4		
								計	0.0	0.0	0.6	0.0	5.4	4.8	0.8	6.0	4.8	0.8	6.2	
医療薬学科	微生物学	講師	ながの もとこ 長野 基子	女	45	2008/4/1	2008/4/1	アカデミックリテラシー			0.4					0.4	0.0			神戸大学大学院 医学研究科 博士課程修了 博士（医学）
								薬学入門			0.2					0.2	0.0			
								科学計算演習				1.5				0.0	1.5			
								公衆衛生学		1.1						0.0	1.1			
								公衆衛生学	1.1							1.1	0.0			
								公衆衛生学		1.5						0.0	1.5			
								衛生薬学実習AB					3.4			3.4	0.0			
								衛生薬学実習CD（ABと合同4回分を引いた数）					3.0			3.0	0.0			
								新興再興感染症	0.2							0.2	0.0			
								病院実務実習							0.4	0.0	0.0	0.4		
								薬局実務実習							0.4	0.0	0.0	0.4		
								計	1.3	2.6	0.6	1.5	6.4	0.0	0.8	8.3	4.1	0.8	7.0	
医療薬学科	薬物動態学	講師	のうねん しんぺい 南畝 晋平	男	37	2009/10/1	2009/10/1	アカデミックリテラシー			0.2					0.2	0.0			大阪大学大学院 薬学研究科 博士後期課程退学 博士（薬学）
								薬学入門			0.2					0.2	0.0			
								科学計算演習				1.5				0.0	1.5			
								臨床薬理学	1.5							1.5	0.0			
								薬剤・薬物動態学実習AB						2.4		0.0	2.4			
								薬剤・薬物動態学実習CD						2.4		0.0	2.4			
								薬物動態学Ⅱ（薬動学とTDM）		1.5						0.0	1.5			
								病院実務実習							0.4	0.0	0.0	0.4		
								薬局実務実習							0.4	0.0	0.0	0.4		
								計	1.5	1.5	0.4	1.5	0.0	4.8	0.8	1.9	7.8	0.8	5.7	

所属学科	所属講座等	職名	ふりがな 氏名	（性別）	（年齢）	就職年月日	現職就任年月日	授業科目											年間平均毎週授業時間数	最終学歴及び学位称号
								科目名	毎週授業時間数											
									講義		演習		実験・実習・実技			計				
									前期	後期	前期	後期	前期	後期	通年	前期	後期	通年		
医療薬学科	薬物動態学	講師	ふじの ひでき 藤野 秀樹	男	48	2008/4/1	2008/4/1	薬学入門			0.1					0.1	0.0			群馬大学大学院 工学研究科 博士前期課程修了 博士（工学）
								科学計算演習				1.5				0.0	1.5			
								薬物動態学Ⅰ（生体内運命）	0.5							0.5	0.0			
								放射化学		0.8						0.0	0.8			
								薬剤・薬物動態学実習AB						2.4		0.0	2.4			
								薬剤・薬物動態学実習CD						2.4		0.0	2.4			
								医薬品開発学	1.0							1.0	0.0			
								病院実務実習							0.4	0.0	0.0	0.4		
								薬局実務実習							0.4	0.0	0.0	0.4		
								計	1.5	0.8	0.1	1.5	0.0	4.8	0.8	1.6	7.1	0.8	5.2	
医療薬学科	毒性学	講師	みうら だいさく 三浦 大作	男	47	2008/4/1	2013/12/1	アカデミックリテラシー			0.4					0.4	0.0			大阪府立大学 農学部卒業 博士（医学）
								薬学入門			0.2					0.2	0.0			
								生物化学Ⅰ（物質生化学）		0.2						0.0	0.2			
								生物化学Ⅱ（分子生物学）	1.1							1.1	0.0			
								衛生薬学実習AB					3.4			3.4	0.0			
								衛生薬学実習CD（ABと合同4回分を引いた数）					3.0			3.0	0.0			
								薬理学実習AB						2.7		0.0	2.7			
								薬理学実習CD						2.7		0.0	2.7			
								医薬品安全性学	0.1							0.1	0.0			
								病院実務実習							0.4	0.0	0.0	0.4		
								薬局実務実習							0.4	0.0	0.0	0.4		
								計	1.2	0.2	0.6	0.0	6.4	5.4	0.8	8.2	5.6	0.8	7.7	
医療薬学科	臨床ゲノム薬理学	助教	いとう たかし 伊藤 崇志	男	36	2009/4/1	2009/4/1	アカデミックリテラシー			0.2					0.2	0.0			大阪大学大学院 薬学研究科 後期課程修了 博士（薬学）
								薬学入門			0.2					0.2	0.0			
								分析化学実習AB					1.5			1.5	0.0			
								分析化学実習CD（ABと合同9回分を引いた数）					2.1			2.1	0.0			
								チュートリアルAB			0.7					0.7	0.0			
								チュートリアルCD			0.7					0.7	0.0			
								病院実務実習							0.4	0.0	0.0	0.4		
								薬局実務実習							0.4	0.0	0.0	0.4		
								計	0.0	0.0	1.8	0.0	3.6	0.0	0.8	5.4	0.0	0.8	3.5	
医療薬学科	天然薬物学	助教	いわおか えみこ 岩岡 恵実子	女	37	2007/4/1	2007/4/1	アカデミックリテラシー			0.2					0.2	0.0			武庫川女子大学 大学院薬学研究科 修士課程修了 博士（薬学）
								薬学入門			0.1					0.1	0.0			
								有機化学実習AB						2.4		0.0	2.4			
								有機化学実習CD						2.4		0.0	2.4			
								天然薬物学実習AB					2.7			2.7	0.0			
								天然薬物学実習CD（CDと合同3回分を引いた数）					2.4			2.4	0.0			
								病院実務実習							0.4	0.0	0.0	0.4		
								薬局実務実習							0.4	0.0	0.0	0.4		
								計	0.0	0.0	0.3	0.0	5.1	4.8	0.8	5.4	4.8	0.8	5.9	

所属学科	所属講座等	職名	ふりがな 氏名	（性別）	（年齢）	就職年月日	現職就任年月日	授業科目										年間平均毎週授業時間数	最終学歴及び学位称号
								科目名	毎週授業時間数										
									講義		演習		実験・実習・実技			計			
									前期	後期	前期	後期	前期	後期	通年	前期	後期	通年	
医療薬学科	微生物学	助教	おおもり しほ 大森 志保 （西田）	女	39	2009/4/1	2009/10/1	アカデミックリテラシー			0.4					0.4	0.0		神戸大学大学院 医学系研究科 博士課程修了 博士（医学）
								薬学入門			0.2					0.2	0.0		
								科学計算演習				1.5				0.0	1.5		
								病原微生物学		0.2						0.0	0.2		
								衛生薬学実習AB					3.4			3.4	0.0		
								衛生薬学実習CD（ABと合同4回分を引いた数）					3.0			3.0	0.0		
								新興再興感染症								0.0	0.0		
								病院実務実習							0.4	0.0	0.0	0.4	
								薬局実務実習							0.4	0.0	0.0	0.4	
								計	0.0	0.2	0.6	1.5	6.4	0.0	0.8	7.0	1.7	0.8	5.2
医療薬学科	生化学	助教	これかね あつこ 是金 敦子	女	42	2007/4/1	2007/4/1	アカデミックリテラシー			0.6					0.6	0.0		大阪大学大学院 医学系研究科 博士課程修了 博士（医学）
								薬学入門			0.2					0.2	0.0		
								生物化学Ⅰ（物質生化学）		1.3						0.0	1.3		
								生物化学Ⅲ（代謝生化学）		1.5						0.0	1.5		
								生物薬学実習AB						2.5		0.0	2.5		
								生物薬学実習CD						2.5		0.0	2.5		
								生理・解剖学実習AB					2.7			2.7	0.0		
								生理・解剖学実習CD（ABと合同3回分を引いた数）					2.4			2.4	0.0		
								チュートリアルAB			0.7					0.7	0.0		
								チュートリアルCD			0.7					0.7	0.0		
								糖鎖創薬学	0.3							0.3	0.0		
								病院実務実習							0.4	0.0	0.0	0.4	
								薬局実務実習							0.4	0.0	0.0	0.4	
								計	0.3	2.8	2.2	0.0	5.1	5.0	0.8	7.6	7.8	0.8	8.5
医療薬学科	衛生化学	助教	さとう えりこ 佐藤 江利子	女	38	2007/4/1	2007/4/1	アカデミックリテラシー			0.4					0.4	0.0		大阪大学大学院 薬学研究科 博士後期課程修了 博士（薬学）
								薬学入門			0.2					0.2	0.0		
								衛生科学Ⅱ（栄養・食品衛生学）		1.5						0.0	1.5		
								生物薬学実習AB						2.5		0.0	2.5		
								生物薬学実習CD						2.5		0.0	2.5		
								衛生薬学実習AB					3.4			3.4	0.0		
								衛生薬学実習CD（ABと合同4回分を引いた数）					3.0			3.0	0.0		
								病院実務実習							0.1	0.0	0.0	0.1	
								薬局実務実習							0.1	0.0	0.0	0.1	
								計	0.0	1.5	0.6	0.0	6.4	5.0	0.2	7.0	6.5	0.2	7.0
医療薬学科	薬理学	助教	たなか こういち 田中 康一	男	45	2007/10/1	2007/10/1	アカデミックリテラシー			0.2					0.2	0.0		大阪大学大学院 薬学研究科 博士後期課程退学 博士（歯学）
								薬学入門			0.2					0.2	0.0		
								チュートリアルAB			0.7					0.7	0.0		
								チュートリアルCD			0.7					0.7	0.0		
								薬理学実習AB						2.7		0.0	2.7		
								薬理学実習CD						2.7		0.0	2.7		
								病院実務実習							0.4	0.0	0.0	0.4	
								薬局実務実習							0.4	0.0	0.0	0.4	
								計	0.0	0.0	1.8	0.0	0.0	5.4	0.8	1.8	5.4	0.8	4.4

所属学科	所属講座等	職名	ふりがな 氏名	（性別）	（年齢）	就職年月日	現職就任年月日	授業科目										年間平均毎週授業時間数	最終学歴及び学位称号
								科目名	毎週授業時間数										
									講義		演習		実験・実習・実技			計			
									前期	後期	前期	後期	前期	後期	通年	前期	後期	通年	
医療薬学科	生体分析化学	助教	つかもと　こうじ 塚本 効司	男	34	2007/4/1	2007/4/1	アカデミックリテラシー			0.2					0.2	0.0		大阪大学大学院 薬学研究科 博士後期課程修了 博士（薬学）
								薬学入門			0.1					0.1	0.0		
								分析化学実習AB					3.0			3.0	0.0		
								分析化学実習CD（ABと合同9回分を引いた数）					2.1			2.1	0.0		
								実務実習事前学習							5.3	0.0	0.0	5.3	
								病院実務実習							0.4	0.0	0.0	0.4	
								薬局実務実習							0.4	0.0	0.0	0.4	
								計	0.0	0.0	0.3	0.0	5.1	0.0	6.1	5.4	0.0	6.1	8.8
医療薬学科	有機化学	助教	よしおか　えいと 吉岡 英斗	男	36	2008/4/1	2008/4/1	アカデミックリテラシー			0.2					0.2	0.0		大阪大学大学院 薬学研究科博士 後期課程修了 博士（薬学）
								薬学入門			0.1					0.1	0.0		
								有機化学実習AB						2.4		0.0	2.4		
								有機化学実習CD						2.4		0.0	2.4		
								天然薬物学実習AB					2.7			2.7	0.0		
								天然薬物学実習CD（ABと合同3回分を引いた数）					2.4			2.4	0.0		
								病院実務実習							0.4	0.0	0.0	0.4	
								薬局実務実習							0.4	0.0	0.0	0.4	
								計	0.0	0.0	0.3	0.0	5.1	4.8	0.8	5.4	4.8	0.8	5.9

［注］　1　「所属学科」には、（　　）に兼担の学科名を記入してください。

2　「所属講座等」には、所属講座または研究室、センター名などを記入してください。

3　「授業科目」欄については、セメスター制の場合を例示していますが、通年制の場合、３学期制の場合等は、適宜、欄を修正して記入してください。

4　「毎週授業時間数」は、時間割編成上のいわゆるコマではなく、実質時間数を記入してください。（例：１コマ90分授業の場合の実質時間数は1.5時間）

5　１授業科目を複数の教員で担当する場合は、当該授業時間数を担当者数で除して毎週授業時間数を算出してください。（例：実習科目「□□□□」は

6　「年間平均毎週授業時間数」欄には、各専任教員ごとの前期と後期の担当授業時間の合計を２で割った年間平均の時間数を記入してください。

7　卒業研究は授業科目から除外して作成してください。

（基礎資料11）卒業研究の配属状況

5年生の在籍学生数　104名

6年生の在籍学生数　135名

	配属講座など	指導教員数	5年生 配属学生数	6年生 配属学生数	合計
1	中枢神経疾患発生機序の解明と治療薬開発研究	西山信好 田中康一	3	2	5
2	薬物の組織内通路	清宮健一 三浦大作	5	8	13
3	抗酸化酵素の構造機能相関	大河原知水 是金敦子	1	5	6
4	ゲノム薬理学	東純一 南畝晋平 伊藤崇志	9	12	21
5	動物を用いた循環器系作用薬に関する研究	安屋敷和秀 小渕修平	5	8	13
6	免疫応答の分子機構とその制御	田中稔之 上田晴康 大野喜也	8	9	17
7	薬物動態シミュレーション研究	九川文彦 森家　望	5	11	16
8	薬物相互作用の定量的予測に関する研究	藤野秀樹	3		14
9	難治性神経疾患の発生機序・治療薬の研究と漢方薬シーズの探索	山本悟史 戴　毅 小暮洋子	9	12	21
11	感染症の治療と防御を目標とした研究	斎藤あつ子 長野基子 大森志保	8	11	19
12	新規微生物制御技術に関する研究	前田拓也 佐藤江利子	6	7	13
13	蛍光イメージング（可視化計測）	前田初男 塚本効司	6	8	13
14	医療ユニバーサルデザイン				
15	医薬シーズ天然化合物の探索	青木俊二 岩岡恵実子	6	3	8
16	高分子を用いた製剤と特性解析	上田寛樹	3	4	7
17	新規有機合成法の開拓と医薬品合成への展開	宮部豪人 吉岡英斗	3	5	8
18	光触媒による機能性物質の創製	甲谷　繁	1	4	5
19	医薬品の物性と剤形に関わる研究	伊藤壮一 中野博明	6	8	14
20	医薬品の適正使用に関する研究	森山雅弘 天野学 大野雅子 桂木聡子 竹下治範	6	6	12
21	大学病院でのリウマチ診療	岩崎　剛 芝田宏美	4	4	8
22	心不全の病態解明	辻野　健 佐々木尚子	6	7	14
23	新規創薬テーマ探索＆創薬研究	田中明人 清水　忠	1	1	2
合　計			104	135	249

［注］　1　卒業研究を実施している学年にあわせ、欄を増減して作成してください。

2　指導教員数には担当する教員（助手を含む）の数を記入してください。

3　講座制をとっていない大学は、配属講座名を適宜変更して作成してください。

（基礎資料12）講義室等の数と面積

キャンパス	講義室等	室　数	総面積(㎡)（Ａ）	専用・共用の別	収容人員（総数）	利用学生総数（Ｂ）	利用学生１人当たり面積（㎡）（Ａ/Ｂ）	備　考
全学共通	講義室・演習室	17	2,487	共用	2,264	1,733	1.44	薬学部（学生数940） 看護学部（学生数419） リハビリテーション学部（学生数374）
	学生自習室	20	331	共用	120	1,733	0.19	薬学部（学生数940） 看護学部（学生数419） リハビリテーション学部（学生数374）
	コンピュータ室	3	551	共用	320	1,733	0.32	薬学部（学生数940） 看護学部（学生数419） リハビリテーション学部（学生数374）
	模擬薬局	2	566	専用	—	940	0.6	薬学部（学生数940）
	薬学実習室	4	1,304	専用	—	940	1.39	薬学部（学生数940）

１　６年制薬学教育において使用するキャンパスごとに記入してください。

［注］　２　全学で全ての施設を共用している場合は、「キャンパス」欄に「全学共通」と記入してください。

３　共有・全学共通の場合は備考欄にその学部名（学生数）を記載し、「利用学生総数（Ｂ）」欄にもその数を含めて記入してください。

４　「利用学生１人当たり面積」は、小数点第３位を四捨五入し、小数点第２位まで記入してください。

５　例示のように適宜行を追加して作成してください。

（基礎資料13）学生閲覧室等の規模

図書室（館）の名称	学生閲覧室 座席数（A）	学生収容 定員数（B）	収容定員に対する 座席数の割合(%) A／B＊100	その他の 自習室の名称	その他の 自習室の座席数	その他の 自習室の整備状況	備　考
図書室	408	1,664	24.5	グループ学習室 （20室）	120（1室6席）	図書館内ブラウジングゾーンに情報処理端末20台設置	
計	408	1,664	24.5	グループ学習室（20室）	120	図書館内ブラウジングゾーンに情報処理端末20台設置	

［注］　1　「学生収容定員（B）」には、当該施設を利用している全ての学部・大学院学生等を合計した学生収容定員数を記入してください。

2　「備考」欄には学生収容定員（B）の内訳を、学部・大学院等ごとに記入してください。

3　「その他の自習室の整備状況」欄には情報処理末端をいくつ設置しているか等を記載してください。

（基礎資料14）図書、資料の所蔵数及び受け入れ状況

図書館の名称	図書の冊数（数）		定期刊行物の種類（種類）		視聴覚資料の所蔵数（点数）	電子ジャーナルの種類（種類）	過去３年間の図書受け入れ状況			備考
	図書の冊数	開架図書の冊数(内)	内国書	外国書			平成25年度	平成24年度	平成23年度	
図書室	25,170	25,170	271	169	1,544	3,931	3,066	1,118	2,117	
計	25,170	25,170	271	169	1,544	3,931	3,066	1,118	2,117	

［注］ １　雑誌等ですでに製本済みのものは図書の冊数に加えても結構です。

２　開架図書の冊数（内）は、図書の冊数のうち何冊かを記入してください。

３　視聴覚資料には、マイクロフィルム、マイクロフィッシュ、カセットテープ、ビデオテープ、ＣＤ・ＬＤ・ＤＶＤ、スライド、映画フィルム、ＣＤ－ＲＯＭ等を含めてください。

４　電子ジャーナルが中央図書館で集中管理されている場合は、中央図書館にのみ数値を記入し、備考欄にその旨を注記してください。

５　視聴覚資料の所蔵数については、タイトル数を記載してください。

（基礎資料15）専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名　兵庫医療大学	講座名　薬理学	職名　教授	氏名　西山　信好

Ⅰ　教育活動

教育実践上の主な業績	年　月　日	概　　要
１　教育内容・方法の工夫 （授業評価等を含む）	平成10年6月～ 現在	授業終了前の学習内容確認テスト 課題（宿題） 授業開始時の宿題解説を学生に行わせる
２　作成した教科書、教材、参考書	平成6年 平成20年	カラーで学ぶ解剖生理学 わかりやすい　薬の効くプロセス
３　教育方法・教育実践に関する発表、講演等		なし
４　その他教育活動上特記すべき事項 （FDを含む）		なし

Ⅱ　研究活動

１．著書・論文等の名称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月（西暦でも可）	発行所、発表雑誌 （巻・号数）等の名称
Agmatine attenuates methamphetamine-induced hyperlocomotion and stereotyped behavior in mice	共著	2014	Behav Pharmacol vol.25 No2
The selective mu opioid receptor antagonist beta-funaltrexamine attenuates methamphetamine-induced stereotypical biting in mice	共著	2013	Brain Res vol. 1522
Straub tail reaction in mice treated with sigma1receptor antagonist in combination with methamphetamine	共著	2012	Brain Res vol. 1482
Pretreatment with nomifensine or nomifensine analogue 4-phenyl-1,2,3,4-tetrahydroisoquinoline augments methamphetamine-induced stereotypical behavior in mice	共著	2012	Brain Res vol. 1439
Histamine H3 receptor agonists decrease hypothalamic histamine levels and increase stereotypical biting in mice challenged with methamphetamine	共著	2012	Neurochem Res vol. 36 No10

２．学会発表（評価対象年度のみ）	発表年・月	学会名
Role of hydrogen peroxide and TRPA1 in visceral hyperalgesia in trinitrobenzene sulphate-induced colitis	2014.10.	Society for Nueoscience

Ⅲ　学会および社会における主な活動

平成6年４月～現在	日本薬理学会評議員

（基礎資料15）専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名　兵庫医療大学	講座名　生体分析化学	職名　教授	氏名　前田　初男

Ⅰ　教育活動

教育実践上の主な業績	年　月　日	概　　要
１　教育内容・方法の工夫 （授業評価等を含む）	平成25年4月～	分析化学Ⅰ，分析化学Ⅱ，無機錯体化学において出欠確認用小テストを実施し，学生の理解度をチェックした上，次の講義にて理解度の低い項目について再度詳細に説明し，理解度の向上を図っている。
２　作成した教科書、教材、参考書	平成19年10月	萩中　淳 編「ベーシック薬学教科書シリーズ 分析科学」，化学同人，pp.14-45，178-1206
	平成20年8月	前田初男 編著「薬学生のための計算実践トレーニング帳」，化学同人
	平成22年4月	門林宗男，前田初男 編著「薬学生・薬剤師のための処方解析トレーニング帳」，化学同人
	平成24年4月	門林宗男，前田初男 編著「薬学生・薬剤師のための薬剤面談トレーニング帳」，化学同人
３　教育方法・教育実践に関する発表、講演等	なし	
４　その他教育活動上特記すべき事項 （FDを含む）	平成20年４月～	薬学部の特色あるカリキュラムとしての自由科目「長期密着型ゼミナール」の企画立案，立ち上げ，運営について責任者として担当している．また，自身が担当する「医療ユニバーサルデザイン」ゼミナールの活動が評価され，平成２1年７月に”ひょうごユニバーサル社会づくり知事賞」を受賞した。

Ⅱ　研究活動

１．著書・論文等の名称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月（西暦でも可）	発行所、発表雑誌 （巻・号数）等の名称
（著書）Ishizaki Makiko, Maeda Hatsuo, Okamoto Ikuko, "Dark Gray Background Helps Cataract Patients Discriminate Each Ethical Tablet, to Work as a UD for Safer and Securer Medication"	共著	2014年3月	The Proceedings of The 4th International Conference for Universal Design in Fukuoka 2012, International Association for Universal Design
（論文）Ishizaki Makiko, Maeda Hatsuo, Okamoto Ikuko, "Establishment of Background Color to Discriminate among Tablets: Sharper and More Feasible with Color-weak Simulation as Access to Safe Medication"	共著	2014年10月	YAKUGAKU ZASSHI-JOURNAL OF THE PHARMACEUTICAL SOCIETY OF JAPAN, 134 (10),1081-1092.
（論文）Tsukamoto, Koji,Iwasaki, Shog, Isaji, Mani, Maeda, Hatsuo, "An anthracene-based Cd2+ fluorescent chemosensor with a 4,7-bis(2-hydroxyethyl)-9-hydroxy-1,4,7-triazanonyl group as a highly selective chelator to Cd2+ over Zn2+"	共著	2013年11月	TETRAHEDRON LETTERS, 54 (45), 5971-5973.
（論文）Ishizaki Makiko, Maeda Hatsuo, Okamoto Ikuko,"Establishment of the Background Color to Make Discrimination between the Domestic Ethical Tablets Sharper and More Feasible Based on Analysis of Their Color Distribution"	共著	2012年12月	YAKUGAKU ZASSHI-JOURNAL OF THE PHARMACEUTICAL SOCIETY OF JAPAN, 132(4), 507-515.
（論文）Tsukamoto Koji, Shinohara Yuka,Iwasaki Shogo, Maeda, Hatsuo, "A coumarin-based fluorescent probe for Hg2+ and Ag+ with an N'-acetylthioureido group as a fluorescence switch"	共著	2011年4月	CHEMICAL COMMUNICATIONS, 47 (17), 5073-5075.

２．学会発表（評価対象年度のみ）	発表年・月	学会名
（演題名）石崎真紀子，前田初男，高齢患者における安全・安心な服薬習慣の支援を目的とした処方薬専用服薬トレー"掌"の設計開発とそのユーザビリティー調査	2014年11月	第５３回 日本薬学会・日本薬剤師会・日本病院薬剤師会 中国四国支部学術大会 （広島）
（演題名）篠原悠夏，塚本効司，前田初男，高選択的水銀イオン蛍光プローブの開発	2015年3月	日本薬学会　第１３５年会 （神戸）
（演題名）塚本効司，島袋翔多，前田初男，ナフタルイミドを利用したカドミウムイオン蛍光プローブの開発とその蛍光応答メカニズムの解明	2015年3月	日本薬学会　第１３５年会 （神戸）

Ⅲ　学会および社会における主な活動	
平成23年4月～	神戸市立 六甲アイランド高校 スーパーサイエンスハイスクール事業 運営指導員
平成26年4月～	兵庫県 薬事審議会委員
平成26年4月～平成27年3月	兵庫県 丹波薬草産地再生事業 丹波薬草産地再生会議 検討委員

（基礎資料15）専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名　兵庫医療大学	講座名　天然薬物学	職名　教授	氏名　　青木　俊二

Ⅰ　教育活動

教育実践上の主な業績	年　月　日	概　　要
１　教育内容・方法の工夫 （授業評価等を含む）	平成１９年～現在	市販医薬品を教材に用いた授業 生薬・天然物が現在使用されている医薬品の多くに含有されていることを意外なほど学生が認識していないため、市販OTC医薬品のパッケージや薬局方などを積極的に用いて、現代における天然物の医薬品としての位置づけを理解させることで、学生の当該科目に対する学習意欲を向上させた。 各年次で行われる担当科目のアンケート結果では、講義のわかりやすさ、講義に対する熱意、プレゼンテーション資料の質などすべての項目について極めて良好な評価を得ている。
２　作成した教科書、教材、参考書	平成１９年～現在	自作プリント、ＰＣ示説装置用ファイル（薬用資源学、天然薬物学） 市販の生薬学の教科書は、従来のタキソノミー的分類に基づいたものが多く、またその内容も化学に偏ったものが多いことから薬学教育や国家試験の観点からは不十分と考え、それらに則した配付資料や示説ファイルを作成し、講義に用いた。また、学生の興味を喚起するために、実物の生薬標本や写真などを積極的に用いた。
３　教育方法・教育実践に関する発表、講演等		
４　その他教育活動上特記すべき事項 （FDを含む）	平成23年 平成20年～現在 平成21年～25年 平成22年～現在	薬剤師研修センター漢方薬・生薬認定薬剤師ビデオ集合研修会世話役 薬剤師研修センターが主催する漢方薬・生薬認定薬剤師のためのビデオ集合研修会の世話役を担当 兵庫県立明石南高校「薬学基礎講義」 兵庫県立明石南高校の総合学科講義「薬学基礎講義」の講師を年間4時間程度毎年担当。 私立百合学院高校「Step Time講義」 私立百合学院高校で行われている理科探究講義「Step Time講義」の講師を年間4時間程度毎年担当。 私立帝塚山学院高校で行われている医療系特別講義「創究講座・現代の医療」の講師を年間9時間程度毎年担当。

Ⅱ　研究活動

１．著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所、発表雑誌（巻・号数）等の名称
（著書）薬学生のための薬用植物学・生薬学テキスト	共著	平成21年2月	廣川書店
（著書）薬学生のための天然物科学テキスト	共著	平成21年3月	廣川書店
（論文）Capsaicin, a potential inhibitor of cholera toxin production in Vibrio cholerae.	共著	平成22年	FEMS Microbiol Lett., 306, 54-60 (2010)
（論文）Inhibition of virulence potential of Vibrio cholerae by natural compound.	共著	平成23年	Indian J Med. Res. 133, 232-239 (2011).
（論文）Design and synthesis of prostate cancer antigen-1 (PCA-1/ALKBH3)inhibitors as anti-prostate cancer drugs	共著	平成26年	Bioorganic & Medicinal Chemistry Letters 24 1071-1074 (2014)

２．学会発表（評価対象年度のみ）	発表年・月	学会名
（演題名）Ca2＋ imaging法を用いた天然由来の一次知覚ニューロン活性化物質の探索	2014年11月5日	第20回　天然薬物の開発と応用シンポジウム
（演題名）タケニグサ (Macleaya cordata) 由来のProstate Cancer Antigen-1 (PCA-1) 酵素阻害物質の探索	2014年3月28日	日本薬学会第134年会
（演題名）コウボク (Magnoliae Cortex) 由来のProstate Cancer Antigen-1 (PCA-1) 酵素阻害物質の探索	2014年3月28日	日本薬学会第134年会
（演題名）コウカ（紅花）由来の一次知覚ニューロン活性物質の探索	2013年3月28日	日本薬学会第133年会
（演題名）アスナロ(Thujopsis dolabrata)由来のProstate Cancer Antigen-1(PCA-1)酵素阻害物質	2012年3月29日	日本薬学会第132年会
（演題名）天然物由来の Prostate Cancer Antigen-1 (PCA-1) 酵素活性阻害物質の探索	2012年3月29日	日本薬学会第132年会

（演題名）一次知覚ニューロンに対するエボジアミンの薬理作用の検討	2012年3月15日	第85回　日本薬理学会年会
（演題名）イチョウ葉より単離したフラボノイド二量体の一次知覚ニューロン活性について	2012年10月20日	第62回　日本薬学会近畿支部総会
（演題名）オトギリソウ（ Hypericum erectum ）由来Prostate Cancer Antigen-1(PCA-1)酵素活性阻害物質の探索	2012年10月20日	第62回　日本薬学会近畿支部総会
（演題名）ボタンピ由来の一次知覚ニューロン活性化物質の探索	2012年10月20日	第62回　日本薬学会近畿支部総会
（演題名）天然物由来の Prostate Cancer Antigen-1 (PCA-1) 酵素活性阻害物質の探索	2012年11月2日	第19回　天然薬物の開発と応用シンポジウム
（演題名）ゴシュユの主成分エボジアミンによる一次知覚ニューロンの活性化	2011年8月28日	第28回　和漢医薬学会学術大会
（演題名）イチョウ葉における一次知覚ニューロン活性化物質の探索	2011年10月22日	第61回　日本薬学会近畿支部総会

Ⅲ　学会および社会における主な活動

平成19年4月～25年3月	日本生薬学会評議員
平成22年4月～現在	日本薬学会近畿支部委員
平成23年4月～25年3月	日本薬学会誌 Biol. Pharm. Bull 編集委員
平成23年4月～現在	日本生薬学会誌J. Nat. Med 編集委員
平成25年4月～現在	日本生薬学会関西支部長、日本生薬学会理事

（基礎資料15）専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名　兵庫医療大学	講座名　臨床薬学	職名　教授	氏名　天野 学

Ⅰ　教育活動

教育実践上の主な業績	年　月　日	概　　要
１　教育内容・方法の工夫 （現場薬剤師による医療安全の授業）	平成26年後期	「医療安全管理」において現場である製鉄記念広畑病院の薬剤師2名に授業を行なっていただいた。
（授業評価等を含む）	平成26年後期	授業評価は、3.6であった。しかしながら、シラバスに沿った内容であったかどうかとの評価は3.9であり、ほぼ行うべき内容は網羅されていたと考える。
２　作成した教科書、教材、参考書	平成25年5月 平成26年5月	実務実習事前学習教科書作成 実務実習事前学習教科書作成
３　教育方法・教育実践に関する発表、講演等	平成26年5月 平成26年5月 平成26年6月 平成26年9月	播磨薬剤師会　５月の薬剤師会研修会 特別講演 ポーアイ4大学による連携事業 特別講演 兵庫医療大学公開セミナー 特別講演 第11回 病薬連携セミナー（西宮）特別講演

Ⅱ　研究活動

１．著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所、発表雑誌（巻・号数）等の名称
（著書）消化性潰瘍	単著	平成23年7月	南山堂、薬物治療マネジメント 「薬局」vol.62 7月臨時増刊号
（論文）アンケート調査による簡易懸濁法でのチューブ詰まりの原因解析	共著	平成24年2月	医療薬学　38巻，第2号
（論文）糖尿病治療薬の簡易懸濁法への適応性に関する一考察	共著	平成25年12月	くすりと糖尿病　2巻，第2号
（論文）内用抗がん薬適正使用のための簡易懸濁法可否情報一覧表の作成	共著	平成25年12月	社会薬学　32巻，第2号
（論文）粉砕法による経管投与における薬剤量損失に対する簡易懸濁法の有用性についての検討	共著	平成26年4月	静脈経腸栄養 29巻，第4号

２．学会発表（評価対象年度のみ）	発表年・月	学会名
（演題名）経管投与時における安全な抗がん薬治療の推進に向けた簡易懸濁法の適応性評価	平成26年6月28日	第22回 クリニカルファーマシーシンポジウム
（演題名）抗がん薬の簡易懸濁法における曝露量に対する検討	平成26年9月28日	第23回日本医療薬学会年会

Ⅲ　学会および社会における主な活動

平成16年 4月～平成22年 8月	愛媛県病院薬剤師会雑誌編集委員
平成19年 1月～現在	簡易懸濁法研究会幹事
平成19年10月～平成22年 8月	松山CDE研修会世話人
平成24年 4月～平成26年 4月	兵庫県病院薬剤師会理事

（基礎資料15）専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名　兵庫医療大学	講座名　　薬理学	職名　教授	氏名　　安屋敷　和秀

Ⅰ　教育活動

教育実践上の主な業績	年　月　日	概　　要
1　教育内容・方法の工夫 （授業評価等を含む）	2009年4月 ～現在	教育内容：薬理学総論・神経疾患治療薬以外の薬理学を担当している。 方法の工夫：学習範囲を冊子体で作製し、開講時に学生に配布している。 授業評価：評価の低い項目について毎年改善を行なっている。
2　作成した教科書、教材、参考書		なし
3　教育方法・教育実践に関する発表、講演等		なし
4　その他教育活動上特記すべき事項 （FDを含む）	2009年4月 ～現在	毎年実施される授業に関するFDを行い、グループ討論を実施することで、授業の改善に努めている。

Ⅱ　研究活動

1．著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所、発表雑誌（巻・号数）等の名称
（論文）Obesity-induced cerebral hypoperfusion derived from endothelial dysfunction: one of the risk factors for Alzheimer's disease.	共著	2014年	BenthamScience, Curr Alzheimer Res.(11・8)
（論文）Involvement of renal sympathetic nerve overactivation in the progression of chronic kidney disease in rats.	共著	2013年	Lippincott Wiliam & Wilkins, J Cardiovasc Pharmacol. (63・1)
（論文）Neurogenic and endothelial nitric oxide regulates blood circulation in lingual and other oral tissues.	共著	2012年	Lippincott Wiliam & Wilkins, J Cardiovasc Pharmacol. (60・1)
（論文）Nitrergic nerves derived from the pterygopalatine ganglion innervate arteries irrigating the cerebrum but not the cerebellum and brain stem in monkeys.	共著	2012年	Nature Publishing Group, Hypertens Res.(35・1)
（論文）Contribution of nitric oxide in big endothelin-1-induced cardioprotective effects on ischemia/reperfusion injury in rat hearts.	共著	2011年	Lippincott Wiliam & Wilkins, J Cardiovasc Pharmacol. (57・5)

2．学会発表（評価対象年度のみ）	発表年・月	学会名
（演題名）5/6腎部分切除ラットにおけるアセチルコリンによる血圧下降の減弱	2013年10月	第36回日本高血圧学会総会
（演題名）生体位ラットにおけるアゴニストによる内皮依存性血圧下降のメカニズムとNOによる修飾	2013年6月	創薬・医療薬理　シンポジウム2013

Ⅲ　学会および社会における主な活動

1994年4月～現在	日本薬理学会・学術評議委員
2010年10月～2014年10月	日本薬理学会・代議員
2013年10月～2015年10月	日本高血圧学会・評議員

（基礎資料15）専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名　兵庫医療大学	講座名　薬物治療学	職名　教授	氏名　岩崎　剛

Ⅰ　教育活動

教育実践上の主な業績	年　月　日	概　要
1　教育内容・方法の工夫		
パワーポイント・視聴覚教材、前回授業の復習のための要約プリントを用いた教育	平成16年4月～現在	臨床医学の授業において、教科書や講義プリントを使った講義では学生に安心感を与え講義に対する集中力を無くす可能性がある。また、臨床現場の実際的なイメージを伝え難いため、パワーポイントを用いた視覚教材を用いて学生が講義の内容をよりイメージできるよう工夫している。また、講義プリントは前回授業の復習のための要約プリントとして配布している。これにより受動的で知識詰め込み式の授業が能動的で有機的に知識が獲得できる授業になった。
2　作成した教科書、教材、参考書		
わかりやすい血液疾患の手引き	平成5年1月	血液疾患を診断・治療のための手引きを各疾患ごとに提示し、わかりやすく解説した医学生のための教材
リウマチ膠原病チェックリスト	平成16年2月	リウマチ膠原病疾患を診断するための問診・診察・検査のチェックリストをわかりやすく解説した医学生・研修医を対象とした教材
リウマチ・アレルギー疾患を探る	平成17年4月	リウマチ・アレルギー疾患の典型的な症例を提示しその診断・治療・病態についてわかりやすく解説した医学生・研修医を対象とした教材
第ＸＩ章　膠原病および類縁疾患　p320-334 看護テキストNICE 疾病と治療Ⅱ　松田　暉　編集	平成22年4月	内科疾患を診断・治療のための手引きを各疾患ごとに提示し、わかりやすく解説した看護学生のための教材
門林宗男，前田初男 編著「薬学生・薬剤師のための薬剤面談トレーニング帳」，化学同人	平成24年4月	症例提示による薬学生・薬剤師のための薬剤面談トレーニングのための教材
第Ⅷ章　関節リウマチの治療　6.　新規開発治療 (3)スフィンゴシン1－リン酸受容体調節薬　最新関節リウマチ学　高崎芳成編集	平成26年4月	関節リウマチの診断・治療・病態について解説した医師、リウマチ専門医を対象とした教材
3　教育方法・教育実践に関する発表、講演等		なし
4　その他教育活動上特記すべき事項 （FDを含む）		岩崎　剛：リウマチ治療の進歩　―careからcureへ―日高医師会学術講演会、御坊、2008年7月21日 岩崎　剛：こんなに多い関節リウマチーでもいい治療法があるんですよー、兵庫医療大学オープンキャンパス、神戸、2008年8月10日 岩崎　剛：知っておきたい がんの基礎知識 ～がん とどう付き合うか～がん薬物治療法の目的、兵庫医療大学地域交流プロジェクト、神戸、2010年1月20日 岩崎　剛：職場における健康管理、日本銀行大阪支店新入職員健康講話、大阪、2014年4月1日

Ⅱ　研究活動

1．著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所、発表雑誌（巻・号数）等の名称
Tsunemi S, Iwasaki T, Kitano S, Matsumoto K, Takagi-Kimura M, Kubo S, Tamaoki T, Sano H. Molecular targeting of hepatocyte growth factor by an antagonist, NK4, in the treatment of rheumatoid arthritis.	共著	2013	Arthritis Res Ther. 2013 Jul 22;15(4):R75

Iwasaki T, Shibasaki S. Hepatocyte growth factor regulates immune reactions caused by transplantation and autoimmune diseases.	共著	2013	Yakugaku Zasshi. 2013;133(11):1159-67.
Azuma N, Katada Y, Kitano S, Sekiguchi M, Kitano M, Nishioka A, Hashimoto N, Matsui K, Iwasaki T, Sano H. Correlation between salivary epidermal growth factor levels and refractory intraoral manifestations in patients with Sjögren's syndrome.	共著	2013	Mod Rheumatol. 2013 Nov 5. [Epub ahead of print]
Shibasaki S, Tsunemi S, Kitano S, Sekiguchi M, Sano H, Iwasaki T. Differential regulation of c-Met signaling pathways for synovial cell function.	共著	2014	Springerplus. 2014 Sep 23;3:554. doi: 10.1186/2193
Seiji Shibasak, Miki Karasaki, Torbjörn Gräslund, Per-Åke Nygren, Hajime Sano and Tsuyoshi Iwasaki. Inhibitory effects of H-Ras/Raf-1-binding affibody molecules on synovial cell function.	共著	2014	AMB Express 2014, 4:82

２．学会発表（評価対象年度のみ）	発表年・月	学会名
Naoto Azuma, Yoshinori Katada, Sachie Kitano, Masahiro Sekiguchi, Masayasu Kitano, Aki Nishioka, Naoaki Hashimoto, Kiyoshi Matsui, Tsuyoshi Iwasaki, and Hajime Sano. Salivary epidermal growth factor in Sjögren's syndrome	2014	European League Against Rheumatism (EULAR) June 13, 2014, Paris.
Naoaki Hashimoto,*Toshihide Yamaoka, Masayasu Kitano, Tsuyoshi Iwasaki, Hajime Sano, Takenori Hashimoto. ANALYSIS OF WRIST JOINTS IN PATIENTS WITH SYSTEMIC SCLEROSIS USING MAGNETIC RESONANCE IMAGING	2014	European League Against Rheumatism (EULAR) June 13, 2014, Paris.
Masahiro Sekiguchi, Tsuyoshi Iwasaki, Seiji Shibasaki, Per-Åke Nygren, Torbjörn Gräslund, Hajime Sano. Affibody molecules inhibiting the interaction between Ras and Raf suppress the proliferation and the production of inflammatory mediators by synovial cells	2014	European League Against Rheumatism (EULAR) June 13, 2014, Paris.
Tsuyoshi Iwasaki, Masahiro Sekiguchi, Sachi Tsunemi, Seiji Shibasaki, Sachie Kitano, and Hajime Sano. Differential regulation of c-Met signal to synovial cell functions in rheumatoid arthritis.	2014	European League Against Rheumatism (EULAR) June 13, 2014, Paris.
Iwasaki T. Molecular targeting of hepatocyte growth factor receptor for the treatment of graft-versus-host disease and autoimmune diseases. Conference of Basic and Clinical Research of Immune diseases.	2014	Beijing University of Chinese Medicine. May 26, 2014 Beijing

Ⅲ　学会および社会における主な活動

平成8年４月～	日本内科学会認定医
平成13年4月～	日本血液学会指導医
平成13年10月～	日本リウマチ学会指導医
平成12年1月～	日本医師会認定産業医

（基礎資料15）専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名　兵庫医療大学	講座名　免疫学	職名　教授	氏名　上田晴康

Ⅰ　教育活動

教育実践上の主な業績	年　月　日	概　　要
１　教育内容・方法の工夫 （授業評価等を含む）		特になし
２　作成した教科書、教材、参考書		特になし
３　教育方法・教育実践に関する発表、講演等		特になし
４　その他教育活動上特記すべき事項 （FDを含む）	平成25年4月～	薬学部２年次において留年生クラス担任を担当し、空きコマを利用した勉強会などの学修サポートを実施した。

Ⅱ　研究活動

１．著書・論文等の名称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月（西暦でも可）	発行所、発表雑誌 （巻・号数）等の名称
（著書）なし			
（著書）なし			
（論文）Cisplatin-induced acute renal failure in mice is mediated by chymase-activated angiotensin-aldosterone system and interleukin-18.	共著	2013年6月	Eur.J.Pharmacol., 685, 149-155
（論文）Mizoribine protects against bleomycin-induced lung injury.	共著	2010年10月	Mod.Rheumatol., 20, 471-477
（論文）Role of macrophages in the development of pancreatic islet injury in spontaneously diabetic torii rats.	共著	2009年7月	Exp.Anim., 58, 383-394

２．学会発表（評価対象年度のみ）	発表年・月	学会名
（演題名）なし		
（演題名）なし		

Ⅲ　学会および社会における主な活動

	特になし

（基礎資料15）専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名　兵庫医療大学	講座名　生化学	職名　教授	氏名　大河原　知水

Ⅰ　教育活動

教育実践上の主な業績	年　月　日	概　　要
1　教育内容・方法の工夫 （授業評価等を含む）		生物化学Ⅰ、生物化学Ⅱ、生物化学Ⅲ、糖鎖創薬学を担当している。講義内容の一般のウエブサービス（ブログ）を活用し演習問題を閲覧可能とし、コメント欄を利用し質問の受け答えをしている。講義資料は印刷して配布すると同時に全てPDF化し、ウエブサービス経由でダウンロードによる取得を可能としている。
2　作成した教科書、教材、参考書	 平成23年2月 平成25年8月	生物化学Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、糖鎖創薬学講義資料 鈴木敬一郎、大河原知水、他編　集中講義生化学　（メディカルビュー社） 伊藤晃　薬学領域の生化学（第2版）廣川書店　分担執筆
3　教育方法・教育実践に関する発表、講演等	なし	
4　その他教育活動上特記すべき事項 （FDを含む）		教育支援室委員として、成績不良学生の教育の改善対策に取り組んでいる。

Ⅱ　研究活動

1．著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所、発表雑誌（巻・号数）等の名称
（著書）第3章なぜ活性酸素は身体に悪いのか（鈴木敬一郎編　活性酸素の本当の姿）	共著	2014年2月	有限会社ナップ（東京都）
（著書）運動と糖化反応と免疫（大野秀樹・木崎節子編著　運動と免疫）	共著	2009年9月	有限会社ナップ（東京都）’
（論文）Kizaki T, Maegawa T, Sakurai T, Ogasawara JE, Ookawara T, Oh-ishi S, Izawa T, Haga S, Ohno H."Voluntary exercise attenuates obesity-associated inflammation through ghrelin expressed in macrophages."	共著	2011年9月	Biochem Biophys Res Commun.30;413(3):454-9.
（論文）Korekane H, Korekane A, Yamaguchi Y, Kato M, Miyamoto Y, Matsumoto A, Hasegawa T, Suzuki K, Taniguchi N, Ookawara T."N-Glycosylation profiling of recombinant mouse extracellular superoxide dismutase produced in Chinese hamster ovary cells."	共著	2011年9月	Glycoconj J. ;28(3-4):183-96.
（論文）Yoshihara D, Fujiwara N, Ookawara T, Kato S, Sakiyama H, Yokoe S, Eguchi H, Suzuki K."Protective role of glutathione S-transferase A4 induced in copper/zinc-superoxide dismutase knockout mice."	共著	2009年9月	Free Radic Biol Med ;47(5):559-67.

（論文）Hitomi Y, Watanabe S, Kizaki T, Sakurai T, Takemasa T, Haga S, Ookawara T, Suzuki K, Ohno H."Acute exercise increases expression of extracellular superoxide dismutase in skeletal muscle and the aorta."	共著	2008年10月	Redox Rep;13(5):213-6.
（論文）			
２．学会発表（評価対象年度のみ）		発表年・月	学会名
（演題名）EC-SODの細胞内分布に対する酸化ストレス、一酸化窒素の		2008年5月	第8回日本NO学会学術集会
（演題名）			

Ⅲ　学会および社会における主な活動	
昭和63年より	日本生化学会会員
平成4年より	日本衛生学会会員・評議員（平成15年より）
平成20年4月より	コニカミノルタ（株）嘱託産業医

（基礎資料15）専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名　兵庫医療大学	講座名　毒性学	職名　教授	氏名　清宮 健一

Ⅰ　教育活動

教育実践上の主な業績	年　月　日	概　　要
1　教育内容・方法の工夫		
（記入式プリント）	平成21年9月～現在	パワーポイントに基づいた重要箇所の記入式プリントを作成している。板書に割かれる時間を授業に充てられ，視覚的，時間的にも学生の理解向上に役立っている。
（確認問題・宿題）	平成21年9月～現在	授業毎に，授業内容に関する確認問題（10問）を課し，提出と点数を成績に反映させている。授業の初めに，確認問題（前回）の各問題の正答率を示し，解説を行っている。
（学生による授業評価）	平成26年度	医薬品安全性学（4年次前期）：4.3/5.0．毒性学（3年次後期）：4.0/5.0．共に全ての質問項目（12項目）で全体平均値より上まった。
（同僚による授業評価）	平成25年8月21日	国家試験過去問演習（毒性学・医薬品安全性学）の同僚評価を受け、授業改善に繋がるコメントを受けた。
2　作成した教科書、教材、参考書		
	平成22年3月	清宮健一，腎臓と尿路の疾患，免疫疾患．「処方解析トレーニング帳」（門林宗男，前田初男編），化学同人，京都，pp.73 - 90，185 - 200.
	平成23年4月	清宮健一，化学物質の代謝・代謝的活性化．「コンパス衛生薬学」（鍛冶利幸，佐藤雅彦編），南江堂，東京，pp.219 - 246.
	平成24年4月	清宮健一，膀胱炎，糖尿病．「薬剤面談トレーニング帳」（門林宗男，前田初男 編），化学同人，京都，pp.43 - 74.
	平成25年3月	清宮健一，騒音・悪臭，土壌汚染と地下水汚染，廃棄物．「第5版　衛生薬学」（永沼章，姫野誠一郎，平塚明 編），丸善出版，東京，pp.340 - 348.
	平成25年8月	清宮健一，抗ウイルス薬．「図解　薬害・副作用学」（川西正祐，小野秀樹，賀川義之 編），南山堂，東京，pp.332 - 345.
3　教育方法・教育実践に関する発表、講演等		
4　その他教育活動上特記すべき事項		
（教務部長会）	平成25年12月	「第33回日本私立薬科大学協会教務部長会」（東京）に参加した。
	平成26年12月	「第34回日本私立薬科大学協会教務部長会」（金沢）に参加した。
（模擬患者・標準患者養成）	平成21年4月～現在	兵庫医療大学模擬患者の会を設立してSPの募集と養成を行っている。平成23年度からは、会の代表を務めている。
（認定実務実習指導薬剤師養成ワークショップ）	平成20年10月	「第22回薬剤師のためのワークショップ in 近畿」（神戸学院大学）に参加した。
（OSCE）	平成22年12月	武庫川女子大学で実施された「OSCE」に評価者として参加した。
	平成23年12月	武庫川女子大学で実施された「OSCE」に評価者として参加した。
	平成24年12月	武庫川女子大学で実施された「OSCE」に評価者として参加した。
	平成25年12月	摂南大学で実施された「OSCE」にモニターとして参加した。
	平成26年2月	摂南大学で実施された「OSCE」再試験にモニターとして参加した。

	平成26年12月	神戸学院大学で実施された「OSCE」に評価者として参加した。

Ⅱ　研究活動

１．著書・論文等の名称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月（西暦でも可）	発行所、発表雑誌 （巻・号数）等の名称
（論文）Detection of chromogranin A in the adrenal gland extracts of different animal species by an enzyme-linked immunosorbent assay using Thomsen-Friedenreich antigen-specific Amaranthus caudatus lectin.	共著	平成23年11月	Veterinary Immunology and Immunopathology, 144: 255 - 258
（論文） Spinal cord trauma in a cat, caused by ingestion of a splinter.	共著	平成24年2月	Journal of Feline Medicine and Surgery, 14: 155-157
（論文） A Case of Pancreatic Panniculitis in the Dog.	共著	平成24年10月	Japanese Journal of Clinical Pathology, 11: 21-23
（論文）知っておきたいがん の基礎知識ーがんとどう付き合うかー	共著	平成25年3月	J. Hyogo Univ. Health Sci., 1(1): 97 - 103
（論文）ナノマテリアルの健康影響	単著	平成25年6月	J. Antibact. Antifung. Age., 41(6): 325 - 332

２．学会発表（評価対象年度のみ）	発表年・月	学会名
（演題名）食の安全・安心について（化学物質、医薬品などによる食品汚染）	平成26年7月	第41回　日本毒性学会学術年会　市民公開セミナー
（演題名）		

Ⅲ　学会および社会における主な活動

平成17年4月～現在	日本薬理学会　評議員
平成19年4月～現在	日本獣医学会　評議委員
平成20年1月～現在	The Open Toxicology Journal　Editorial Board
平成22年1月～現在	日本毒性学会　J. Toxicol. Sci.誌　Editorial Board
平成24年9月～平成26年8月	日本薬理学会　代議員
平成25年1月～現在	日本毒性学会　評議員
平成26年7月～現在	日本毒性学会　Fund. Toxicol. Sci.誌　Associate Editor

（基礎資料15）専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名　兵庫医療大学	講座名　薬物動態学	職名　教授	氏名　九川　文彦

Ⅰ　教育活動

教育実践上の主な業績	年　月　日	概　　要
1　教育内容・方法の工夫 （授業評価等を含む）	平成21年4月～	薬物動態学Ⅰ（薬学部3年生前期必修）の講義においては、ハンドアウト別冊テキストを作成し、学生のノートテイキングの利便性を図る工夫をした。また、毎時間の終了時に、出席を兼ねた15分間の小テストを実施し、学生の理解度の向上を図る工夫をした。また、平成21年度後期からの「薬剤・薬物動態学実習」においては、薬物動態学Ⅰ、Ⅱの講義内容から重要な４項目を選んで、実習を行った。平成22年度からは「医療英語（薬学部4年前期必修）」の講義を行っているが、アメリカ合衆国で製作され放映された医療ドラマを字幕入りで鑑賞したり、アメリカの薬剤師資格試験の参考書を教材に取り入れるなどの工夫をした。授業評価は、概ね平均程度の学生評価を得ている。
2　作成した教科書、教材、参考書 （教科書のみを記す）	平成21年4月 平成22年2月 平成23年2月 平成23年3月 平成24年12月 平成25年4月 平成26年2月	「CBT対策と演習　薬剤学Ⅰ－薬物動態学－」薬学教育研究会編　廣川書店 「薬物動態学」栄田他　編　廣川書店 「NEWパワーブック生物薬剤学（第2版）金尾他編　廣川書店 「徹底解説　薬物動態の数学－微積分と対数、非線形－」九川文彦　編　廣川書店 「NEWパワーブック生物薬剤学（第2版　増補版）金尾他　編　廣川書店 「徹底解説　薬物動態の数学－微積分と対数、非線形－（第2版）」九川文彦　編　廣川書店 「薬物動態学（第2版）」栄田他　編　廣川書店
3　教育方法・教育実践に関する発表、講演等		該当なし
4　その他教育活動上特記すべき事項 （FDを含む）	平成20年4月～	平成20年4月～平成26年3月まで、兵庫医療大学薬学部薬剤師国家試験対策委員会委員長として、薬剤師国家試験対策に関わる一連の教育活動を行った。また平成21年度から平成23年度まで、兵庫医療大学薬学部実務実習事前教育における標準模擬患者の養成事業の責任者として、標準模擬患者の養成活動を行った。教育に関わるFD活動については、平成20年の兵庫医療大学着任以来、すべての活動に参加している。

Ⅱ　研究活動

1．著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所、発表雑誌（巻・号数）等の名称
（著書）徹底解説　薬物動態学の数学－微積分と対数、非線形（第2版）九川文彦　編著　他	共著	平成25年4月	株式会社　廣川書店
（著書）薬物動態学（第2版）栄田敏之編　他	共著	平成26年2月	株式会社　廣川書店
（論文）Nozomu Moriya, Hiromi Kataoka, Hideki Fujino, Jyun-ichi Nishikawa and Fumihiko Kugawa. Different expression patterns of hepatic cytochrome P450s during anaphylactic or lipopolysaccharide-induced inflammation	共著	平成26年2月	die Pharmazie vol 69, No2 p142-147, 2014

（論文）九川文彦　（ナブメトン＋ドキソルビシン）封入pH感受性リポソームを用いたMDR1発現HeLa細胞の生存性	単著	平成24年4月	医薬品相互作用研究　vol 36, No1, p47-54,2012
（論文）Fumihiko Kugawa, Shine-Od Dalkhuren, Akemichi Ueno, Kikuji Yamashita. Electron microscopic observation of apoptotic MCF-7 cells caused by clinically used 3 anticancer drugs	共著	平成24年10月	die Pharmazie vol 67, No 10, p862-869, 2014
２．学会発表（評価対象年度のみ）		発表年・月	学会名
（演題名）森家　望、中西祐貴、渡辺麻梨菜、九川文彦　Excel VBAを用いた関節リウマチ関連miRNAの標的遺伝子予測		平成26年3月	日本薬学会第134年会
（演題名）竹内直博、南畝晋平、加藤正樹、分野正貴、嶽北佳輝、奥川　学、九川文彦、木下利彦、東　純一　パロキセチンの薬理効果発現における個体差とDNAメチル化プロファイルとの関連		平成26年11月	第24回日本臨床精神神経薬理学会・第44回日本精神神経薬理学会合同年会

Ⅲ　学会および社会における主な活動

平成22年4月～	日本私立薬科大学協会　薬剤師国家試験問題検討委員会　薬剤学部会委員
平成22年4月～	日本薬学会近畿支部委員
平成25年9月～	Editorial Advisory Board of "Current Clinical Pharmacology" published bu Bentham Science Publishers, USA

（基礎資料15）専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名　兵庫医療大学	講座名　微生物学	職名　教授	氏名　斎藤　あつ子

Ⅰ　教育活動

教育実践上の主な業績	年　月　日	概　　要
1　教育内容・方法の工夫 穴埋め式講義教材の作成と活用 パワーポイントアニメーションの活用　など	 平成20年～26年 平成20年～26年	講義で聞いた内容の重要点を穴埋めしながら、講義を聴くことができるような、講義で用いるパワーポイントに対応した講義教材を準備し、集中して講義が聴講できるよう、また、アニメーションを活用して理解の助けのなるよう、工夫をしている。
2　作成した教科書、教材、参考書 病原微生物学の授業教材（穴埋め式教材） 衛生薬学（微生物学実験）の実習書作成 感染症治療学の授業教材（穴埋め式教材）	 平成20年～26年 平成21年～26年	アンケート調査などでの学生の意見を反映し、毎年講義教材を改訂している。
3　教育方法・教育実践に関する発表、講演等 該当無し		
4　その他教育活動上特記すべき事項 薬学部教育委員 薬学部教育委員長	 平成23年～25年 平成24年～25年	平成23年から薬学部教育委員として、平成24～25はか薬学部教育委員長として、教育活動に従事した。平成25年度からのカリキュラム改正、平成26年度からの全学の授業評価法の見直しなどに関して、中心的役割を担った。

Ⅱ　研究活動

1．著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所、発表雑誌（巻・号数）等の名称
（著書）寄生虫学研究 材料と方法 2012年度版 宇賀昭二、丸山治彦編　間接蛍光抗体法によル人獣共通感染症病原体*Babesia microti*の抗体検査	共著（分担執筆）	2012年6月	株式会社　三恵社
（論文）Efficacy of chloroquine plus primaquine treatment and pfcrt mutation in uncomplicated falciparum malaria patients in Rangamati, Bangladesh.	共著	2011年3月	Parasitology International 60, 341-346
（論文）Identification and characterization of a novel secreted antigen 1 of *Babesia microti* and evaluation of its potential use in enzyme-linked immunosorbent assay and immunochromatographic test	共著	2011年6月	Parasitology International 60, 119-125
（論文）Development of real-time PCR assay for differential detection and quantification for multiple *Babesia microti*-genotypes.	共著	2011年12月	Parasitology International 60, 403-409
（論文）Widespread distribution of *Trypanosoma (Herpetosoma) grosi* in Japanese field mice (Apodemus speciosus)	共著	2014年12月	Japanese Journal of Veterinary Parasitology 13, 67-73

2．学会発表（評価対象年度のみ）	発表年・月	学会名
（演題名）Babesiosis in wildlife and humans in Asia	2014年11月30日	The13th Asian Pacific Congress for Parasitic Zoonoses
（演題名）ヒトバベシア症発生国台湾のヒトバベシア症疫学調査結	2015年3月22日	日本寄生虫学会

Ⅲ　学会および社会における主な活動

日本寄生虫学会評議員／指名理事 日本寄生虫学会西日本支部大会開催	平成10年より日本寄生虫学会の評議員、平成24年より指名理事として、日本寄生虫学会活動に積極的に参画している。平成26年10月18日～19日には、第70回日本寄生虫学会西日本支部大会を開催した。
兵庫県健康対策協議会／健康づくり審議会専門委員（感染症対策専門委員会委員）	平成18年より現在に至るまで兵庫県健康対策協議会／平成23年より健康づくり審議会に改組の感染症対策専門委員会委員を務め、感染症の専門家として、県の感染症対策策定等に参画している。
神戸大学医学部／医学研究科 岡山大学医学部 和歌山県立医大　非常勤講師	平成21年より神戸大学医学部／医学研究科の非常勤講師（客員教授）、平成22年より和歌山県立医科大学の非常勤講師、平成26年には岡山大学医学部の非常勤講師を委嘱され、現在まで、これら大学医学部／医学科の微生物学／寄生虫学の講義の一部を担当している。

（基礎資料15）専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名　兵庫医療大学	講座名　創薬化学	職名　教授	氏名　田中明人

Ⅰ　教育活動

教育実践上の主な業績	年　月　日	概　　要
１　教育内容・方法の工夫 （授業評価等を含む）	平成25年度 ～平成26年度	新たに担当した有機化学1において、毎時間小テストを行い、予習復習の習慣付けを行った。
２　作成した教科書、教材、参考書		
３　教育方法・教育実践に関する発表、講演等		
４　その他教育活動上特記すべき事項 （FDを含む） （CBT） （OSCE） （就職支援）	 平成22年度 ～平成26年度 平成23年度 平成22年度 ～平成27年度 平成22年度 ～平成27年度	 CBTシステム委員長として、CBT運営を支えた 他校で行われたCBTにモニター員として参加した。 本学で実施されたOSCE評価者として参加した。 キャリアデザインセンター長として全学部のキャリア形成・就職支援を行った。

Ⅱ　研究活動

１．著書・論文等の名称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月（西暦でも可）	発行所、発表雑誌 （巻・号数）等の名称
（論文）S. Nakao, M. Mabuchi, T. Shimizu, Y. Itoh, Y. Takeuchi, M. Ueda, H. Mizuno, N. Shigi, I. Ohshio, K. Jinguji, Y. Ueda, M. Yamamoto, T. Furukawa, S. Aoki, K. Tsujikawa, A. Tanaka	共著	2014	Bioorganic & Medicinal Chemistry Letters 24 (2014) 1071?1074.
（論文） Mabuchi M, Shimizu T, Ueda M, Sasakawa Y, Nakao S, Ueda Y, Kawamura A, Tsujikawa K, Tanaka A	共著	2015	In Vivo, 29(1), 39-43 (2015)
（論文）Ayako Tsuchiya, Takeshi Kanno, Tadashi Shimizu, Syuhei Nakao, Akito Tanaka, Tomoyuki Nishizaki	共著	2014	Cell Physiol Biochem 33:300-309 (2014).
（論文）Ayako Tsuchiya, Takeshi Kanno, Tadashi Shimizu, Syuhei Nakao, Akito Tanaka, Chiharu Tabata, Takashi Nakano, Tomoyuki Nishizaki,	共著	2014	Cancer Letters 347(1), 123-128 (2014).
（論文）Ayako Tsuchiya, Takeshi Kanno, Hisao Nagaya, Tadashi Shimizu, Akito Tanaka, Tomoyuki Nishizaki,	共著	2014	Cell Physiol Biochem 33:1097-1105 (2014).

２．学会発表（評価対象年度のみ）	発表年・月	学会名
（演題名）固相担体AquaFirmusの改良研究（１）	2013年6月	第8回ケミカルバイオロジー学会
（演題名）ナフトピジル代謝物に着目した膀胱癌治療薬の創製	2014年11月	メディシナルケミストリー学会2014

Ⅲ　学会および社会における主な活動

平成17年4月～現在	日本薬学会　構造活性部会　常任幹事
平成23年4月～現在	日本薬学会　医薬化学部会　常任幹事
平成20年9月～平成26年3月	経済産業省　化学物質審議会委員
平成23年4月～現在	厚生労働省　薬事・食品衛生審議会専門委員

（基礎資料15）専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名　兵庫医療大学	講座名　免疫学	職名　教授	氏名　　田中　稔之

Ⅰ　教育活動

教育実践上の主な業績	年　月　日	概　　要
1　教育内容・方法の工夫 （授業評価等を含む）		「免疫学I」「ゲノム科学と医薬品開発I」において、コースマネジメントシステム（Moodle）を活用した授業を実施した。毎回の小テストや質問への回答等をWebを通じて行い、理解度の向上を図った。
2　作成した教科書、教材、参考書	平成24年11月 平成25年 3月	免疫学コア講義（第3版・南山堂）分担執筆 （編集：熊ノ郷・阪口・竹田・吉田） 標準生理学（第8版・医学書院）分担執筆 （監修：小沢・福田）
3　教育方法・教育実践に関する発表、講演等		なし
4　その他教育活動上特記すべき事項 （OSCE） （FD）	平成25年12月 平成26年12月 平成25年2月 平成26年3月	本学OSCEにおいて、ステーション5責任者を担当 神戸学院大学OSCEにおいて、評価者を担当 本学OSCEにおいて、ステーション5責任者を担当 神戸学院大学OSCEにおいて、評価者を担当 本学全学FDワークショップに参加 全体テーマ：授業評価をすることの意義を考える 本学全学FDワークショップ参加 全体テーマ：学習動機を高める

Ⅱ　研究活動

1．著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所、発表雑誌（巻・号数）等の名称
（論文）Umemoto E, Otani K, Ikeno T, Verjan Garcia N, Hayasaka H, Bai Z, Jang MH, Tanaka T, Nagasawa T, Ueda K, Miyasaka M.: Constitutive plasmacytoid dendritic cell migration to the splenic white pulp is cooperatively regulated by CCR7- and CXCR4-	共著	2012年5月	J. Immunol., 189:191-199
（論文） Bobbala D, Chen XL, Leblanc C, Mayhue M, Stankova J, Tanaka T, Chen YG, Ilangumaran S, Ramanathan S.: Interleukin-15 plays an essential role in the pathogenesis of autoimmune diabetes in the NOD mouse.	共著	2012年11月	Diabetologia, 55:3010-3020
（論文）Sekiguchi S, Kimura K, Chiyo T, Ohtsuki T, Tobita Y, Tokunaga Y, Yasui F, Tsukiyama-Kohara K, Wakita T, Tanaka T, Miyasaka M, Mizuno K, Hayashi Y, Hishima T, Matsushima K, Kohara M.: Immunization with a recombinant vaccinia virus that encodes nonstructural proteins of the hepatitis C	共著	2012年12月	PLoS One, 7:e51656
（論文）Bai Z, Cai L, Umemoto E, Takeda A, Tohya K, Komai Y, Veeraveedu PT, Hata H, Sugiura Y, Kubo A, Suematsu M, Hayasaka H, Okudaira S, Aoki J, Tanaka T, Albers HMHG, Ovaa H, Miyasaka M.: Constitutive lymphocyte transmigration across the basal lamina of high endothelial venules is regulated by the	共著	2013年3月	J. Immunol., 190:2036-2048
（論文）Umemoto E, Takeda A, Jin S, Luo Z, Nakahogi N, Hayasaka H, Lee CM, Tanaka T, Miyasaka M.: Dynamic changes in endothelial cell adhesion molecule nepmucin/CD300LG expression under physiological and	共著	2013年11月	PLOS One, 8:e83681
2．学会発表（評価対象年度のみ）		発表年・月	学会名

（演題名）Ohno Y, Tanaka T.: CD44-dependent signals and pro- and anti-inflammatory cytokines differentially regulate spheroid formation and maintenance of cancer stem-like cells in malignant mesothelioma cells.	2014年6月	MMCB2014 (The 22nd International Symposium on Molecular Cell Biology of Macrophages)
（演題名）大野喜也、田中稔之. CD44依存的なスフェロイド形成はactivin産生を介してALDH発現を亢進させる.	2014年7月	第23回日本がん転移学会学術集会・総会

Ⅲ　学会および社会における主な活動

平成13年1月～現在	日本免疫学会　評議員
平成15年6月～現在	日本がん転移学会　評議員
平成18年12月～平成22年4月	マクロファージ分子細胞生物学研究会　運営委員
平成20年1月～現在	日本癌学会　評議員
平成22年5月～現在	マクロファージ分子細胞生物学研究会　幹事
平成23年4月～現在	大阪府茨木市　環境保全対策専門指導委員
平成26年6月	第22回マクロファージ分子細胞生物学国際シンポジウム　主催
平成26年12月～現在	日本学術振興会　科学研究費委員会専門委員

（基礎資料15）専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名　兵庫医療大学	講座名　薬物治療学	職名　教授	氏名　辻野　健
Ⅰ　教育活動			
教育実践上の主な業績		年　月　日	概　　要
１　教育内容・方法の工夫			
	（授業評価アンケート研究会）	平成26年4月2日、平成27年1月8日	薬学部FD委員として、授業評価アンケート研究会（教員同士で授業評価アンケートを持ち寄り、その集計内容をもとに授業の改善法を話し合う会）を企画・実施した。自らも授業評価アンケート研究会に参加し、授業の改善に努めている。
	（授業評価）	平成26年前期	授業評価アンケート(5点満点)において、必修科目の診察法･診断学にて4.31点、選択科目の循環器系薬物治療学において4.28点と、全学平均の3.95点を上回る評価を得た。
２　作成した教科書、教材、参考書			
	（教科書）	平成21年6月1日	薬学教育モデル・コアカリキュラムに準拠した新しい教科書シリーズのベーシック薬学教科書シリーズの19.薬物治療学の分担著者として、循環器疾患における薬物治療について執筆した。担当ページ：pp55-110。
３　教育方法・教育実践に関する発表、講演等			なし。
４　その他教育活動上特記すべき事項			
	（全学ＦＤ委員）	平成24年3月、平成25年3月、平成26年3月	全学ＦＤ委員として全学ＦＤワークショップの企画・実施を行った。
		平成26年9月	全学ＦＤ委員として、自殺・自傷行為予防講演会を企画・実施した。
	（薬学部ＦＤ委員）	平成23年10月、平成25年3月、11月、12月、平成26年3月	薬学部ＦＤ委員として、薬学部ＦＤセミナーを企画・実施し、薬学部教員の教育力に貢献した。
	（ワークショップ参加）	平成25年10月	日本薬学会 第３回薬学教育者のための アドバンストワークショップに参加するとともに、その内容を薬学部FDセミナーで発表し、薬学部教員の教育力に貢献した。
	（薬学教育第3者評価）	平成26年1月	薬学教育評価機構第６回評価者研修会に参加し、外部評価者としての講習を受けた。
		平成26年1月	平成26年度評価申請大学説明会に出席した。
	（OSCE）	平成23年12月、平成24年12月、平成25年12月	OSCE委員として、本学OSCEに準備段階からかかわり、その適正な実施に貢献した。
		平成22年12月、平成23年12月、平成24年12月、平成25年12月、平成26年12月	OSCEの評価者として、本学、神戸薬科大学、武庫川女子大学薬学部のOSCE実施に貢献した。
	（国際交流）	平成25年11月、平成26年8月、平成27年3月	全学国際交流委員長、薬学部国際交流委員として薬学部生の短期海外研修（北京）の実施に貢献した。
Ⅱ　研究活動			

１．著書・論文等の名称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月（西暦でも可）	発行所、発表雑誌 （巻・号数）等の名称
（著書）これでわかる高血圧外来診療－はじめて外来に出る前に読む本	単著	平成22年3月	南江堂
（著書）NiCEシリーズ　疾病と治療Ⅰ　全身性/呼吸器系/循環器系/感染症/中毒/救急	共著	平成22年12月	南江堂
（論文）Intraleaflet haemorrhage is associated with rapid progression of degenerative aortic valve stenosis.	共著	平成23年4月	Oxford University Press, European Heart Journal vol.32 No.7
（論文）Superiority of long-acting to short-acting loop diuretics in the treatment of congestive heart failure　-The J-MELODIC Study-.	共著	平成24年4月	The Japanese Circulation Society, Circulation Journal vol.76 No.4
（論文）Atorvastatin ameliorates cardiac fibrosis and improves left ventricular diastolic function in hypertensive diastolic heart failure model rats.	共著	平成26年7月	Lippincott Williams & Wilkins, Journal of Hypertension vol.32 No.7
２．学会発表（評価対象年度のみ）		発表年・月	学会名
（演題名）Red cell distribution width is a marker of cardio-renal-anemia syndrome.		平成26年6月	Joint Meeting ESH-ISH Hypertension Athens 2014
（演題名）Increase in serum uric acid concentration after administration of low-dose thiazide diuretics was associated with decline in renal function.		平成26年6月	Joint Meeting ESH-ISH Hypertension Athens 2014

Ⅲ　学会および社会における主な活動	
平成17年6月～現在に至る	日本循環器学会近畿支部評議員
平成17年10月～現在に至る	日本高血圧学会評議員
平成20年2月～現在に至る	日本心不全学会評議員
平成21年6月～現在に至る	兵庫県社会保険診療報酬支払基金審査委員

（基礎資料15）専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名　兵庫医療大学	講座名　有機化学	職名　教授	氏名　　宮部　豪人

Ⅰ　教育活動

教育実践上の主な業績	年　月　日	概　　要
１　教育内容・方法の工夫 （授業評価等を含む）		学内の実施されている学生の授業アンケートをもとに、学部教員で話し合い、授業改善や教育効果の向上に努めている。
２　作成した教科書、教材、参考書	平成20年5月 平成22年10月 20日	①学生実習書　（兵庫医療大学薬学部）、 ②化学構造と薬理作用―医薬品を化学的に読む―　β-ラクタム系抗生物質(7.11)(184-194頁) 廣川書店
３　教育方法・教育実践に関する発表、講演等		無し
４　その他教育活動上特記すべき事項 （FDを含む）	平成21年3月 平成22年3月 平成23年3月 平成24年3月 平成25年3月 平成26年3月	毎年開催される学内FDに参加し、教育に関する講演を聞いた後、グループワークとしてテーマ問題解決に取り組んでいる。さらに、学部内FDにも参加し、教育の向上に努めている。

Ⅱ　研究活動

１．著書・論文等の名称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月（西暦でも可）	発行所、発表雑誌 （巻・号数）等の名称
（著書）Chapter 5: Pyran and Its Derivatives in "Heterocycles in Natural Product Synthesis"	共著	2011年8月	WILEY-VCH (pp.153-186)
（著書）Carbonyl and Imine Activation in "Comprehensive Organic Synthesis 2nd Edition, Volume 1."	共著	2014年6月	Elsevier (pp.751-769)
（論文）A Multicomponent Coupling Reaction Induced by Insertion of Arynes into C=O Bond of Formamide	共著	2011年7月	Angew. Chem. Int. Ed. Vol.50, No.29, pp.6638-6642
（論文）Polarity-Mismatched Addition of Electrophilic Carbon Radicals to an Electron Deficient Acceptor: Cascade Radical Addition-Cyclization-Trapping Reaction	共著	2012年9月	J. Org. Chem. Vol.77, No.19, pp.8588-8604
（論文）Straightforward Synthesis of Dihydrobenzofurans and Benzofurans from Arynes	共著	2013年8月	Org. Lett. Vol.15, No.15, pp.3938-3941

２．学会発表（評価対象年度のみ）	発表年・月	学会名
（演題名）Enantioselective Cascade Radical Addition-Cyclization-Trapping Reactions	平成23年8月	The 2nd Annual World Congress of Catalytic Asymmetric Synthesis-2011(Beijing, China)
（演題名）有機色素を触媒として用いた水中ラジカル反応	平成26年3月	日本薬学会第134年会(熊本)

Ⅲ　学会および社会における主な活動

平成14年4月～現在まで	日本薬学会近畿支部委員
平成14年4月～現在まで	日本薬学会全国薬系大学広報担当者（ファルマシア地区通信委員）
平成19年4月～平成19年3月	日本薬学会近畿支部幹事
平成20年12月～平成24年11月 平成26年12月～現在まで	日本学術振興会科学研究費委員会専門委員

（基礎資料15）専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名　兵庫医療大学	講座名　臨床薬剤学	職名　教授	氏名　森山雅弘

Ⅰ　教育活動

教育実践上の主な業績	年　月　日	概　　要
１　教育内容・方法の工夫 （授業評価等を含む）	平成22年4月～ 平成26年～	実務実習事前学習、医薬品情報学において、毎日の講義の最後に、その講義の内容に即した問題形式エクササイズを実施している。加えて、「質問・意見欄」を設けている。質問・意見があった時には、必ずその学生に回答すると共に、必要に応じて次回の講義時に追加解説などを実施している。 スモール・グループ・ディスカッションなどの授業では、その授業に対する自己評価と学生間の評価を取り入れ積極的な授業参加が得られるよう工夫している。
２　作成した教科書、教材、参考書	平成24年4月 平成23年～毎年 平成24年～	薬学生・薬剤師のための薬剤面談トレーニング帳の共同執筆，化学同人 実務実習事前学習のテキストを作成し、学内での実習時に利用している。 病院・薬局実務実習のしおりを編集し、学生・指導薬剤師・教員に配布している。
３　教育方法・教育実践に関する発表、講演等	平成24年10月	第22回日本医療薬学会年会において、2011年度に初めて実務実習が終了したのを機会に実習終了学生に対してアンケート調査を実施した。調査では学生の実務実習モデル・コアカリキュラムの一般目標に対する到達度評価の他、実習生活態度、他職種との連携などを調査し、検証し
４　その他教育活動上特記すべき事項 （FDを含む）	平成22年～	大学の主催するＦＤに毎回参加している。 薬学部OSCE委員会に所属し、平成23、24年度の2年間はOSCE委員長を務めた。 薬学部実務実習委員会に所属し、平成25年度から委員長を務めている。

Ⅱ　研究活動

１．著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所、発表雑誌（巻・号数）等の名称
（著書）薬学生・薬剤師のための　薬剤面談トレーニング帳	共著	平成24年	化学同人
（論文）口腔内崩壊性フィルム製剤の製剤特性に関する検討	共著	医薬品情報学	2015 in press
（論文）Polaprezinc attenuates cyclophosphamide-induced cystitis and related bladder pain in mice	共著	Journal of Pharmacological Sciences	2015 in press
（論文）			

２．学会発表（評価対象年度のみ）	発表年・月	学会名
（演題名）ポラプレジンクを使用した含嗽液の安定性と放射線性口腔粘膜炎に対する臨床評価	2014年8月	生体機能と創薬シンポジウム2014
（演題名）抗EGFR抗体薬投与患者における血清Mg濃度と血清Ca濃度との相関について	2015年3月	日本臨床腫瘍薬学会学術大会201

Ⅲ　学会および社会における主な活動

平成24年4月～平成26年5月	兵庫県病院薬剤師会　理事
平成26年6月～現在	兵庫県薬剤師会　理事
平成22年4月～現在	薬学教育協議会　近畿地区病院・薬局実務実習調整機構　大学委員

（基礎資料15）専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名　兵庫医療大学	講座名　生理学	職名　教授	氏名　山本 悟史

Ⅰ　教育活動

教育実践上の主な業績	年　月　日	概　　要
1　教育内容・方法の工夫		
（授業用冊子の工夫）	平成19年11月 ～現在	生理化学Ⅰ，生理化学Ⅱ，生理化学Ⅲ：授業で用いる講義資料は敢えて不完全なもの（文字や図の一部が抜けているもの）を配布し，授業を聞きながら完成させる方法をとることで，集中力と理解力の向上を図っている。
（国家試験演習の導入）	平成19年11月 ～現在	生理化学Ⅰ，生理化学Ⅱ，生理化学Ⅲ：毎回授業の最後に，授業範囲の国家試験問題に取り組む演習時間を設けることで，授業の振り返りを行い，理解度を深めさせている。
（中間試験の導入）	平成24年6月 ～現在	生理化学II,生理化学III（２単位科目）：授業コマ数の半分辺りで中間試験を実施しており，学期末にまとめて勉強することがないように工夫している。
（実習試験の導入）	平成24年7月 ～現在	生理・解剖学実習：実習試験を実施し，これを評価に加えることにより，実習に取り組む集中力と理解度の向上，自宅での復習を促している。
（確認試験の導入）	平成25年4月 ～現在	生理化学Ⅰ，生理化学Ⅱ，生理化学Ⅲ：毎回授業の最初に，前回授業範囲の知識がついていることを確認する目的で確認試験を実施し，結果を個人成績票の形でフィードバックしている．この試験は評価に反映されるため，講義への集中力が向上し，自宅学習の習慣がつくようなっている．毎回の試験結果はヒストグラムを掲示し，学生が自分の立ち位置がわかるように工夫している。
（学生による授業評価）	平成22年前期	生理化学II：3.3点，生理化学III：3.3点 / 4点
	平成22年後期	生理化学I：3.4点 / 4点満点
	平成23年前期	生理化学II：3.3点，生理化学III：3.3点 / 4点
	平成23年後期	生理化学I：3.4点 / 4点満点
	平成24年前期	生理化学II：3.5点，生理化学III：3.4点 / 4点
	平成24年後期	生理化学I：3.5点 / 4点満点
	平成25年前期	生理化学II：4.2点，生理化学III：4.5点 / 5点
	平成25年後期	生理化学I：3.8点 / 5点満点
	平成26年前期	生理化学II：4.2点，生理化学III：4.5点 / 5点
	平成26年後期	生理化学I：4.2点 / 5点満点
2　作成した教科書、教材、参考書		
	平成19年11月	兵庫医療大学薬学部　生理化学I講義冊子
	平成20年4月	兵庫医療大学薬学部　生理化学II講義冊子
	平成21年4月	兵庫医療大学薬学部　生理化学III講義冊子
	平成21年5月	兵庫医療大学薬学部　生理解剖学実習書
	平成22年3月	山本悟史，「薬学生・薬剤師のための処方解析トレーニング帳」門林宗男，前田初男 編著，化学同人，分担執筆：pp.125-142
	平成24年4月	山本悟史，「薬学生・薬剤師のための薬剤面談トレーニング帳」門林宗男，前田初男 編著，化学同人，分担執筆：pp.218-232
3　教育方法・教育実践に関する発表、講演等		

	平成21年8月	Kogure Y and Yamamoto S, Practical training in electrophysiology of the heart.IUPS teaching workshop. (2009年8月, 神戸)
４　その他教育活動上特記すべき事項 （ゼミナール）	平成20年４月～現在	特色あるカリキュラムとしての自由科目「長期密着型ゼミナール」のうち「医療コミュニケーション入門」を主宰。
（OSCE）	平成22年12月	OSCEステーション責任者
	平成23年12月	OSCE委員会 副委員長
	平成24年12月	OSCE委員会 副委員長
	平成25年12月	OSCE委員会 委員長
	平成26年12月	OSCE委員会 委員長

Ⅱ　研究活動

１．著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所、発表雑誌（巻・号数）等の名称
（論文）Yamamoto S, Kanno T, Yamada K, Yasuda Y, Nishizaki T: Dual regulation of heat-activated K+ channel in rat DRG neurons via alpha(1) and beta adrenergic receptors.	共著	平成21年5月	Life Sci., 85: 167-171
（論文）Yoshida N, Kobayashi K, Yu L, Wang S, Na R, Yamamoto S, Noguchi K, Dai Y: Inhibition of TRPA1 channel activity in sensory neurons by the glial cell line-derived neurotrophic factor family member, artemin.	共著	平成23年5月	Mol. Pain, 7: 41
（論文）Yu L, Wang S, Kogure Y, Yamamoto S, Noguchi K, Dai Y: Modulation of TRP channels by resveratrol and other stilbenoids.	共著	平成25年2月	Mol. Pain, 9: 3
（論文）Wang S, Dai Y, Kogure Y, Yamamoto S, Zhang W, Noguchi K: Etodolac activates and desensitizes transient receptor potential ankyrin 1	共著	平成25年12月	J. Neurosci. Res., 91(12): 1591-1598
（論文）Hao Y, Nagase K, Hori K, Wang S, Kogure Y, Fukunaga K, Kashiwamura S, Yamamoto S, Nakamura S, Li J, Miwa H, Noguchi K, Dai Y: Xilei san ameliorates experimental colitis in rats by selectively degrading proinflammatory mediators and promoting mucosal repair.	共著	平成26年7月	Evid. Based Complement Alternat. Med., 2014:569587

２．学会発表（評価対象年度のみ）	発表年・月	学会名
（演題名）Wang S, Iwaoka E, Kogure Y, Aoki S., Yamamoto S., Noguchi K., DAI Y: Evodiamine activates transient receptor potential V1 as a partial agonist.	平成26年11月	Society for Neuroscience, Annual Meeting 2014 (Washington)
（演題名）Kogure Y, Wang S, Tanaka K, Yamamoto S, Nishiyama N, Noguchi K, Dai Y: Role of hydrogen peroxide and TRPA1 in visceral hyperalgesia in trinitrobenzene sulphate-induced colitis.	平成26年11月	Society for Neuroscience, Annual Meeting 2014 (Washington)
（演題名）Hao Y, Wang S, Kogure Y, Yamamoto S, Miwa H, Noguchi K, Dai Y: TRPA1, but not TRPV1 contributes to the colonic motility-dependent visceral pain in rats.	平成26年11月	Society for Neuroscience, Annual Meeting 2014 (Washington)

Ⅲ　学会および社会における主な活動

平成３年４月～現在	日本生理学会会員（平成16年４月より評議員）
平成３年４月～現在	日本神経科学学会会員
平成14年６月～現在	米国神経科学学会会員
平成22年４月～現在	公私立大学実験動物施設協議会　記録編集委員会　委員

（基礎資料15）専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名　兵庫医療大学	講座名　薬剤学、製剤科学	職名　准教授	氏名　伊藤 壮一

Ⅰ　教育活動

教育実践上の主な業績	年　月　日	概　　要
1　教育内容・方法の工夫 （授業評価等を含む）	平成21年4月～	薬剤学I、薬剤学II、製剤科学において、毎回の講義の最後に授業アンケート（自由記載あり）を提出させている。目的は(1)出欠管理、(2)講義内容のキーワード毎に4段階で理解度を書かすことで講義内容を再認識させ、(3)理解度を確認すること、(4)声を出せない者の意見を吸い上げることである。理解度の低い項目は次回講義で再度説明を行い、自由記載欄へのコメントに対しては個別にメールで回答している。講義には教科書を用いているが、独自に編集したテキストを用いている。テキストは独自に作成した図を多用し、毎回、学生の理解度、学問の進歩、医療事故、新医薬品の上市などを考慮し改変を行っている。応用力の乏しい学生が多いので、物理化学的知識（薬剤I）がどのように医薬品製造・調剤・工業・食品産業に応用されているか、剤形（薬剤II）が薬効/薬理や薬物治療にどのように関連しているか、DDS（製剤科学）を理解する上で解剖生理、病態（時間治療も含めて）、患者の心、医療側の立場、製造側の立場を理解する必要性を解説している。毎回、宿題を課し、提出後、評価・間違いを訂正して返却し、提出率の悪い学生は呼び出して指導を行っている。
2　作成した教科書、教材、参考書	平成23年4月	最新製剤学第3版（廣川書店）
	平成24年4月	Newパワーブック物理薬剤学・製剤学（廣川書店）
3　教育方法・教育実践に関する発表、講演等		
4　その他教育活動上特記すべき事項 （FDを含む）		

Ⅱ　研究活動

1．著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所、発表雑誌（巻・号数）等の名称

2．学会発表（評価対象年度のみ）	発表年・月	学会名
（演題名）		

Ⅲ　学会および社会における主な活動

平成20年4月～平成23年3月	薬学教育協議会 病院・薬局実務実習近畿地区調整機構 大学小委員会 委員
平成20年4月～平成23年3月	薬学教育協議会 病院・薬局実務実習近畿地区調整機構 委員
平成20年4月～平成22年3月	兵庫県薬剤師会情報・広報部 委員
平成20年4月～現在に至る	大阪大学大学院薬学研究科招聘教員
平成20年4月～現在に至る	薬学教育協議会 薬剤学教科検討委員会 委員
平成22年4月～平成23年3月	日本私立薬科大學協会 薬剤師国家試験問題検討委員会（法規・制度・倫理部会）
平成23年4月～現在に至る	薬学教育協議会 日本薬局方教科担当教員会議 委員
平成24年4月～平成26年3月	日本私立薬科大學協会 薬剤師国家試験問題検討委員会（薬剤学部会）

（基礎資料15）専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名　兵庫医療大学	講座名　物理化学	職名　准教授	氏名　甲谷　繁
Ⅰ　教育活動			
教育実践上の主な業績		年　月　日	概　　要
１　教育内容・方法の工夫 （E-ラーニング演習＋筆記型課題演習）		平成21年4月 ～現在	２年次「物理化学Ⅱ」と「物理化学Ⅲ」の授業では、学生に宿題としてE-ラーニング演習と筆記型課題演習に取り組ませている。得られた結果から、学生の理解度を正確に確認・把握できるので、次回の講義で理解不足の箇所を補強するなどの対策がとれ、学生へのフィードバックにとても有効である。
（学生による授業評価）		平成26年度	物理化学Ⅰ（熱力学）　　平均3.69（5点満点） 物理化学Ⅱ（物質の変化）平均3.75（5点満点） 物理化学Ⅲ（物質の構造）平均3.84（5点満点）
２　作成した教科書、教材、参考書 物理化学講義テキスト（兵庫医療大学薬学部）		平成20年6月 ～現在	本学薬学生の学力レベルに合わせた物理化学講義テキスト（物理化学Ⅱと物理化学Ⅲの２コマ分、計約140ページ）を作成した。
わかりやすい物理化学　第二版（教科書） 担当ページ：ｐｐ.１９３－２３２ 担当部分：第10章　化学結合・分子構造と分子間相互作用 著者：中村和郎（編集者），甲谷繁（他11名）		平成22年9月	私立大学の薬学生にも十分に理解できる「わかりやすい物理化学　第二版」（廣川書店、編集：中村和郎）を共同執筆した。本書は、薬学教育モデルコアカリキュラムに準拠しており、薬学生が学ぶべき物理化学のSBOをほぼ網羅している。その中で私は、第１０章「化学結合・分子構造と分子間相互作用」を分担執筆した。
物理化学講義のビデオ（ＤＶＤ・動画）教材		平成23年4月 ～現在	物理化学ⅡとⅢの全３０回の講義をビデオで撮影し、編集後ＤＶＤメディア約１００枚に焼き、視聴を希望する学生に貸出している。
初学者向け物理化学補習教材（参考書兼問題集）		平成23年4月	数学、物理の苦手な初学者向けの物理化学の補習教材（参考書兼問題集）を作成した。この教材は、大学の物理化学の内容と、高校時の初歩的な指数・対数計算や微分・積分計算の解説を融合して組み合わせており、数学が苦手が学生でも手軽に利用して物理化学が理解できるよう工夫した。
科学計算演習　電離平衡の講義プリントおよび計算演習プリント		平成25年10月	平成25年度の科学計算演習（１年次）において、電離平衡（２コマ）を担当し、酸塩基平衡およびpHとpKaの関係に関する講義資料と計算演習プリントを作成した。
３　教育方法・教育実践に関する発表、講演等			該当なし
４　その他教育活動上特記すべき事項 （FDを含む） （指導薬剤師養成ワークショップ） 「第７０回薬剤師のためのワークショップin近畿」タスクフォース　（於 大阪大谷大学）		平成25年11月	日本薬剤師研修センターおよび病院・薬局実務実習近畿地区調整機構が主催するワークショップのタスクフォースとして、指導薬剤師の養成に関わる運営に参画した。

（CBT）モニター員	平成22年 9月,12月,2月 平成24年 9月,12月,2月	神戸学院大学にて実施されたCBT体験受験、CBT本試験、CBT追再試験において、薬学共用試験センターのモニター員として業務に従事した。
（OSCE）評価者	平成22年12月 ～平成26年12月	本学で実施された「OSCE」の評価者として参加した。

Ⅱ　研究活動

１．著書・論文等の名称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月（西暦でも可）	発行所、発表雑誌 （巻・号数）等の名称
（著書）S. Kohtani, E. Yoshioka, H. Miyabe Hydrogenation : Chap.12 Photocatalytic Hydrogenation on Semiconductor Particles (Ed. Iyad Karamé)	共著	2012年10月	INTECH
（論文）S. Kohtani, E. Yoshioka, K. Saito, A. Kudo, H. Miyabe: Photocatalytic Hydrogenation of Acetophenone Derivatives and Diaryl Ketones on Polycrystalline Titanium Dioxide	共著	2010年7月	Catal. Commun. 11(13), 1049-1053
（論文）S. Kohtani, E. Yoshioka, K. Saito, A. Kudo, H. Miyabe: Adsorptive and Kinetic Properties on Photocatalytic Hydrogenation of Aromatic Ketones upon UV Irradiated Polycrystalline Titanium Dioxide: Differences between Acetophenone and Its Trifluoromethylated Derivative	共著	2012年7月	J. Phys. Chem. C, 116 (33), 17705-17713
（論文）S. Kohtani, S. Nishioka, E. Yoshioka, H. Miyabe: Dye-sensitized photo-hydrogenation of aromatic ketones on titanium dioxide under visible light irradiation	共著	2014年1月	Catal. Commun., 15 (1), 61-65
（論文）S. Kohtani, S. Nishioka, E. Yoshioka, H. Miyabe: Kinetic study on photocatalytic hydrogenation of acetophenone derivatives on titanium dioxide	共著	2014年4月	Catal. Sci. Tech., 4, 1084-1091

２．学会発表（評価対象年度のみ）	発表年・月	学会名
（演題名）酸化チタン上での芳香族カルボニル化合物の光触媒的水素化反応	2014年7月	第33回光がかかわる触媒化学シンポジウム
（演題名）ローダミンBの励起一重項状態からの光誘起電子移動：パーフルオロアルキルラジカル有機反応への応用	2014年10月	光化学討論会
（演題名）色素増感酸化チタン光触媒による芳香族カルボニル化合物の可視光水素化反応	2014年10月	光化学討論会
（演題名）酸化チタン上で起こるフッ素化アセトフェノン誘導体の光水素化反応と光脱フッ素化反応に関する考察	2014年10月	光化学討論会

Ⅲ　学会および社会における主な活動

平成３年６月～現在	社団法人　日本化学会　正会員
平成９年５月～現在	社団法人　日本薬学会　正会員
平成９年５月～現在	光化学協会　正会員
平成１９年１０月～現在	社団法人　日本薬剤師会　正会員

(基礎資料15)専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名：兵庫医療大学	講座名　漢方医学	職名：准教授	氏名：戴　毅

Ⅰ　教育活動

教育実践上の主な業績	年　月　日	概　　要
1　教育内容・方法の工夫 （授業評価等を含む）	平成21年4月～	漢方医学入門、漢方治療学、漢方方剤学、臨床漢方治療学の科目責任者として講義担当している。生理解剖実習を担当している。講義において、穴埋めの講義資料を作成し、授業中学生の集中力を高める工夫をしている。さらに毎回講義後に復習問題を出題し、講義内容の要点をまとめ，学生の理解度の向上を図っている。
2　作成した教科書、教材、参考書	平成20年4月～	漢方医学入門（講義資料）を作成し、一般的に使われている教科書より重点・難点・ポイントなどをはっきり示した一方、臨床に役立つ内容、平易な文章表現、理解しやすい図表などを取り入れる工夫をした。
	平成22年4月～	漢方治療学、漢方方剤学、臨床漢方治療医学3科目の講義資料をそれぞれ作成し、一般的に使われている教科書より重点・難点・ポイントなどをはっきり示した一方、臨床に役立つ内容、平易な文章表現、理解しやすい図表などを取り入れる工夫をした。
	平成22年2月	人体の解剖・生理学(金芳堂)の「神経性調節と刺激の受容」部分を執筆。本書は、解剖学・生理学を学ぶ医療関連領域の学生が、人体の構造と機能の関連などの基礎知識はもちろん病態を含め、膨大な知識をより理解できるように簡潔にまとめたもの。本文中の図表などは大きく記載し、重要な専門用語には下線をひき一目でわかるよう工夫した。
3　教育方法・教育実践に関する発表、講演等	平成21年6月19日	戴　毅、夏秋優、野口光一、医学部4年生必修科目としての東洋医学教育導入の成果　―アンケート調査からの検討―、第60回日本東洋医学会学術総会、東京
	平成22年6月9日	芝田宏美、戴　毅、医学部4年生必修科目としての東洋医学教育導入の成果　第2報―アンケート調査からの検討―、第61回日本東洋医学会学術総会、名古屋
	平成26年12月13日	戴　毅、　薬学教育・研究における漢方の現状、「薬剤師のための漢方講座講演会」　神戸市
4　その他教育活動上特記すべき事項	平成20年4月	兵庫医科大学学生が選ぶベストティーチャー賞
（FDを含む）	平成23年4月～	全学FD委員会委員

Ⅱ　研究活動

1．著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所、発表雑誌（巻・号数）等の名称
（著書）　人体の解剖・生理学	共著	平成22年2月	金芳堂 出版
（著書）Neuroscience in the 21st Century --From Basic to Clinical	共著	平成24年	Springer 出版
（論文）Phospholipase C and protein kinase A mediate bradykinin sensitization of TRPA1: a molecular mechanism of inflammatory pain	共著	平成20年 5月	Brain 131(5),1241-51

（論文）Modulation of TRP channels by resveratrol and other stilbenoids	共著	平成25年 2月	Mol Pain 9,pp.3
（論文）Etodolac activates and desensitizes transient receptor potential ankyrin 1	共著	平成25年12月	J Neurosci Res 91(12),pp.1591-8
２．学会発表（評価対象年度のみ）		発表年・月	学会名
虎杖の主成分resveratrolによる疼痛関連受容体TRPA1チャネルの活性抑制		平成25年 6月	第64回日本東洋医学会学術総会(鹿児島)
レスベラトロールと他のスチルベン化合物によるTRPチャネル修飾		平成25年 7月	第35回日本疼痛学会(さいたま市)
Expression of colony-stimulating factors and their receptors in dorsal root ganglion and spinal cord after peripheral nerve injury		平成25年11月	43th annual meeting of neuroscience 2013 (San Diego, CA, U.S.A.)
Etodolac activates and desensitizes TRPA1		平成25年12月	第6回日本運動器疼痛学会(神戸市)
一次知覚神経培養細胞に対する抗がん剤の影響1		平成26年 3月	日本薬学会第134年会(熊本市)
一次知覚神経培養細胞に対する抗がん剤の影響2		平成26年 3月	日本薬学会第135年会(熊本市)
潰瘍性大腸炎モデル動物に対する中医薬シレイサンの薬理作用の検討		平成26年 3月	日本薬学会第136年会(熊本市)
TNBS誘発性大腸炎モデルラットの内臓痛発症メカニズムにおける過酸化水素の役割		平成26年 3月	日本薬学会第137年会(熊本市)

Ⅲ　学会および社会における主な活動

平成21年5月	文部科学省戦略的大学連携事業公開講座　講師
平成22年1月	文部科学省戦略的大学連携事業公開講座　講師
平成22年1月～	日本薬理学会　会員　（現在至る）
平成22年10月～	世界中医薬学会連合会消化器病専門委員会　常務理事　（現在至る）
平成23年10月	地域連携センター公開講座健康相談担当
平成26年1月～	日本薬学会 会員　（現在に至る）

（基礎資料15）専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名　兵庫医療大学	講座名　微生物学	職名　准教授	氏名　前田　拓也

Ⅰ　教育活動

教育実践上の主な業績	年　月　日	概　　要
1　教育内容・方法の工夫 （授業評価等を含む）	平成20年4月1日～	微生物学、衛生化学Ⅰ、衛生化学Ⅱにおいて、講義内容の理解を助ける演習プリントを作製、課題とし、学生の理解度を把握するとともに重要ポイントの再確認を行い、学力の定着を図っている。本演習プリントは、共用試験CBTや国家試験の対策も兼ねており、低学年のうちに、これらの試験を意識させ、馴れさせるように工夫
2　作成した教科書、教材、参考書	平成23年1月30日 平成25年11月1日	関水和久編著「やさしい微生物学」、廣川書店、担当箇所PP.79-85、 日本菌学会編集「菌類の辞典」、朝倉書店、担当箇所PP.603-605
3　教育方法・教育実践に関する発表、講演等		なし
4　その他教育活動上特記すべき事項 （FDを含む）	平成19年11月25日～	薬学共用試験OSCEトライアルに評価者で参加したほか、毎年、他学および本学のOSCEの評価者や運営等の業務に従事してきた。
	平成22年4月1日～	薬学部CBT対策委員会副委員長として、薬学共用試験CBTの対策、準備、運営等の業務に従事してきた。

Ⅱ　研究活動

1．著書・論文等の名称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月（西暦でも可）	発行所、発表雑誌 （巻・号数）等の名称
（論文）微生物制御の現状と課題	単著	2008年12月	ビルと環境（123号）
（論文）Bactericidal effect of HM-242, a novel disinfectant, against *Pseudomonas aeruginosa*	共著	2010年3月	Biocontrol Science（15巻・1号）
（論文）新規殺菌消毒剤HM-242の*Staphylococcus aureus*に対する殺菌特性並びに作用機序の解明	共著	2010年8月	防菌防黴（38巻・8号）
（論文）Role of mar operon in acquisition of resistance to quaternary ammonium compounds in *Escherichia coli*	共著	2012年9月	Journal of Food Science and Engineering（2巻・9号）
（論文）医食同源の源流に学ぶ　その③　生薬の国 古代中国に学ぶ・基礎編	共著	2014年年5月	食生活研究誌

2．学会発表（評価対象年度のみ）	発表年・月	学会名
（演題名）枯草菌栄養細胞と芽胞に対する高温消毒と薬剤消毒法の併用効果と細胞破壊作用	2014年9月	日本防菌防黴学会第41回年次大会（東京）
（演題名）抗菌物質と抗菌のメカニズム	2014年12月	平成26年度製造環境における微生物汚染とその対策に関する基礎講座（大阪）

Ⅲ　学会および社会における主な活動

平成17年6月～	日本防菌防黴学会評議員
平成17年6月～平成23年5月	日本防菌防黴学会広報委員
平成20年10月～平成21年9月	日本防菌防黴学会第36回年次大会委員
平成22年10月～平成23年5月	日本防菌防黴学会平成22年度受賞候補者選考委員
平成22年10月～平成23年9月	日本防菌防黴学会第38回年次大会委員
平成23年6月～	日本防菌防黴学会編集委員
平成23年10月～平成24年11月	日本防菌防黴学会平成23年度受賞候補者選考委員
平成24年6月～平成25年5月	日本薬学会薬学教育モデル・コアカリキュラム改訂に関する調査研究チーム委員

平成24年6月～	日本防菌防黴学会企画委員
平成24年6月～平成25年5月	日本防菌防黴学会平成24年度受賞候補者選考委員
平成24年12月～平成25年9月	日本防菌防黴学会第40回年次大会委員
平成25年6月～平成26年5月	日本防菌防黴学会平成25年度受賞候補者選考委員
平成26年5月～	日本防菌防黴学会創立40周年記念事業推進委員

（基礎資料15）専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名　兵庫医療大学	講座名　先端医療薬剤学	職名　講師	氏名　上田寛樹

Ⅰ　教育活動

教育実践上の主な業績	年　月　日	概　　要
1　教育内容・方法の工夫 （授業評価等を含む）	平成22年4月～	先端医療薬剤学にて、応用的内容を説明する際、基礎的な薬学・物理化学・生物学の説明に取り入れ、飛躍することなく理解しうるよう図っている。
2　作成した教科書、教材、参考書	平成22年9月 平成23年4月 平成26年4月	「先端医療薬剤学」に用いる講義資料を作成した。 「物理化学・分析化学実習」で使用する教科書の第3章（甲谷繁著）を改訂した。 「チュートリアル」に用いるPBL課題を作成した。
3　教育方法・教育実践に関する発表、講演等		
4　その他教育活動上特記すべき事項 （FDを含む）	平成22年3月 平成21年4月～ 平成24，25年12月	第1種放射線取扱主任者免状　取得 本学で実施されている模擬患者養成講座にタスクフォースとして参加 本学で実施されたOSCEにST責任者として参加

Ⅱ　研究活動

1．著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所、発表雑誌　（巻・号数）等の名称
（著書）			
（著書）			
（論文）			
（論文）			
（論文）			

2．学会発表（評価対象年度のみ）	発表年・月	学会名
（演題名）		
（演題名）		

Ⅲ　学会および社会における主な活動

なし	

（基礎資料15）専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名　兵庫医療大学	講座名　臨床薬理学	職名　講師	氏名　大野雅子

Ⅰ　教育活動

教育実践上の主な業績	年　月　日	概　　要
1　教育内容・方法の工夫 （授業評価等を含む）	平成22年～現在	実務実習事前学習では医療薬学から臨床薬学へのスパイラル学習を意識して教育しており、実技面でも臨床現場で活用できるように指導している。 処方解析演習は、処方と患者を的確に理解してチーム医療に参画することを目標に、臨床実習教授の協力の下、予習・復習課題やSGDを用いて実務実習直前に行っている。病院・薬局実務実習の自主課題として処方解析をさせることで、実務体験を科学的に考え国家試験に繋げる機会を与えている。1年次の科学計算演習では基礎薬学が臨床薬学にどのように繋がっていくかを示すよう工夫している。臨床薬効評価学、研究実習、チーム医療研修では、臨床研究の醍醐味と取り組み方を実例で学べるよう工夫している。
2　作成した教科書、教材、参考書	平成22年～現在 平成23年～現在	実務実習事前学習テキストおよび解説演習教材. 処方解析演習の演習教材およびSGD用患者シナリオ教材。
3　教育方法・教育実践に関する発表、講演等	平成24年10月	竹下治範, 重松誠, 大野雅子, 桂木聡子, 森山雅弘, 門林宗男. 長期実務実習終了学生に対する現状調査とその評価. 第22回日本医療薬学会年会（新潟）
4　その他教育活動上特記すべき事項 （FDを含む）	平成22年～現在	毎年開催している病院・薬局実務実習報告会（ポスター発表）の運営を主担当している。 担当の長期密着ゼミナールでは、薬剤師によるフィジカルアセスメントの意義を考え、基礎的な実技等に取り組む時間を設けている。 全学および薬学部FD活動には欠かさず参加し、低学力者教育、メンタルヘルス、ハラスメント防止、反転授業などについて見識を深めた。 OSCE実施委員会委員、SP養成タスクフォース、OSCEステーション責任者、薬学共用センターOSCEモニター員、実務実習委員会委員、実務実習先調整担当、実務実習連絡会担当、薬学部FD委員、他学OSCE評価者、等。

Ⅱ　研究活動

1．著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所、発表雑誌（巻・号数）等の名称
（著書）Ohno M,Yamamoto A, Ono A, Miura G, Funamoto M, Takemoto Y, Otsu K, Kouno Y, Tanabe T, Masunaga Y, Nonen S, Fujio Y, Azuma J: Influence of clinical and genetic factors on warfarin dose requirements among Japanese patients.	共著	平成21年11月	Eur J Clin Pharmacol, 65 (11) 1097-103
（著書）後藤信哉(編), 大野雅子 他（著）: そこが知りたい抗血栓療法	共著	平成23年9月	メジカルビュー社
（論文）Azuma J, Ohno M, Kubota R, Yokota S, Nagai T, Tsuyuguchi K, Okuda Y, Takashima T, Kamimura S, Fujio Y, Kawase I, and Pharmacogenetics-based tuberculosis therapy research group: NAT2 genotype guided regimen reduces isoniazid-induced liver injury and early treatment failure in the 6-month four-drug standard treatment of tuberculosis: A randomized controlled trial for pharmacogenetics-based therapy	共著	平成25年5月	Eur J Clin Pharmacol, 69 (5) 1091-1101

（論文）Ohno M, Yokota S, Azuma J, and Pharmacogenetics-based tuberculosis therapy research group： Therapeutic potential of the NAT2 genotype-guided dosing stratification of isoniazid in chemotherapy for tuberculosis.	共著	平成25年10月	Therapeutic Drug Monitoring, 35 (5) 710
（論文）Matsumoto T, Ohno M and Azuma J. Future of Pharmacogenetics-based therapy for tuberculosis： Therapeutic potential of the NAT2 genotype-guided dosing stratification of isoniazid in chemotherapy for tuberculosis.	共著	平成26年4月	Pharmacogenomics, 15 (5) 601-607
２．学会発表（評価対象年度のみ）		発表年・月	学会名
（演題名）朴 美姫、池本 憲彦、戸屋 成未、奥山 美結樹、畠山 和子、河崎 陽一、倉田 なおみ、清原 義史、駒田 富佐夫、大野 雅子、桂木 聡子、重松 誠、森山 雅弘、天野 学.　抗がん薬の簡易懸濁法における曝露量に対する検討		平成26年9月	第24回医療薬学会年会（名古屋）
（演題名）			

Ⅲ　学会および社会における主な活動	
平成19年４月～現在	日本臨床薬理学会評議員/社員
平成20年1月～現在	日本臨床薬理学会認定指導薬剤師（嘱託）
平成22年5月～現在	兵庫医療大学SP養成タスクフォース
平成22年7月～現在	近畿地区実務実習指導薬剤師養成ワークショップの運営員およびタスクフォース
平成23年3月～現在	薬学共用試験センター　OSCEモニター員

（基礎資料15）専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名　兵庫医療大学	講座名　社会薬学	職名　講師	氏名　桂木　聡子

Ⅰ　教育活動

教育実践上の主な業績	年　月　日	概　　要	
1　教育内容・方法の工夫　（現場講師の協力）	平成26年5月1日	ｺﾐｭﾆﾃｨｰﾌｧｰﾏｼｰ	常に現場に即した内容を外部講師を招くなどして取り入れている。
（学生の授業評価）	平成26前期	ｺﾐｭﾆﾃｨｰﾌｧｰﾏｼｰ	全体評価は3であった。
（授業評価等を含む）	平成26年5月1日	ｾﾙﾌﾒﾃﾞｨｹｰｼｮﾝ	常に具体的な医薬品を取り上げ、その情報を先渡しすることによる事前学習を促し自らが考えるような取り組みを行っている。
（学生の授業評価）	平成26後期	ｾﾙﾌﾒﾃﾞｨｹｰｼｮﾝ	全体評価は約4であった。
	平成26年5月1日	実務実習事前学習	特にコミュニケーション実習部分では、学生一人一人に合った指導を行えるように、外部の臨床に携わっている薬剤師の先生方に補助をお願いしたり、シナリオを学生のレベルに合わせて工夫をしている。
（同僚評価）	平成26年後期	実務実習事前学習	演習授業などで、お互いの授業内容などを検討しながら進めている。
2　作成した教科書、教材、参考書	平成26年5月1日	実務実習事前学習	コミュニケーションシナリオ
	平成26年5月1日	実務実習事前学習	実習のしおり
	平成26年5月1日	実務実習事前学習	ＳＰ養成本
3　教育方法・教育実践に関する発表、講演等	平成26年5月1日	神戸市薬剤師会理事会にて、実習受け入れ先の指導薬剤師の先生方に、大学での授業内容などについて講演する。	
4　その他教育活動上特記すべき事項	平成20～現在	全学FD委員会による教育評価の講習会を受る	
（FDを含む）	平成20年～現在	薬学部FD委員会による教育評価の講習会を受ける	
	平成20～現在	実務実習事前学習のお手伝いをお願いしている、ＳＰの養成講座を年4～5回行っている。	
	平成20～現在	ＯＳＣＥに協力頂くＳＰの養成講座を年3～4回行っている。	
	平成20～現在	当学のＯＳＣＥの評価者講習会を年3回行っている	
	平成20～現在	当学でのＯＳＣＥを毎年運営している。	
	平成20～現在	他学でのＯＳＣＥの評価者講習会に年1～2回参加している。	
	平成20～現在	他学でのＯＳＣＥに評価者として年1～2回参加している。	
	平成20～現在	実務実習指導者養成のためのワークショップにタスクホースとして年2～3回参加している。	
	平成20～現在	当学での実務実習指導薬剤師養成のためのワークショップを運営しタスクとしても参加している。	
	平成20～現在	実務家教員会議に年2～3回参加している	
	平成20～現在	コミュニケーション担当者会議に年2～3回参加している。	
	平成27年1月	医療安全認定臨床コミュニケーター養成研修会に参加した。	

Ⅱ　研究活動			
１．著書・論文等の名称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月（西暦でも可）	発行所、発表雑誌 （巻・号数）等の名称
（著書）摂食嚥下ケアが分かる本　食の楽しみを支えるために	共著	平成25年３月	株式会社エピック
（論文）地域薬局における院外処方せんへの対応	単著	平成21年10月	月刊薬事 Vol.51(No.11),33-37
（論文）抗インフルエンザ薬の服薬指導と、予防のためのアドバイス	単著	平成21年12月	調剤と情報 vol.15(No.13)、20-23
（論文）Shake table tests on clutter level of typical medicine shelves and contents subjected to earthquakes.	共著	平成23年3月	Earthquake Engineering and Structural Dynamics Vol.40,pp.1367-1386
（論文）災害リスクマネジメント地域薬局が担う役割とは	単著	平成25年4月	日本薬剤師会雑誌 第65(第4),25-29
２．学会発表（評価対象年度のみ）		発表年・月	学会名
（演題名）			
（演題名）			

Ⅲ　学会および社会における主な活動	
平成18年4月～現在	灘薬剤師会副会長
平成19年4月～現在	ＡＭＤＡ兵庫　副代表
平成20年4月～平成22年3月	一般社団法人　神戸市薬剤師会常務理事
平成21年4月～平成22年3月	一般社団法人　神戸市薬剤師会インフルエンザ対策本部　副本部長
平成22年4月～現在	ＪＩＣＡふれあいボランティア　フィットネス講師
平成22年4月～現在	西灘小学校学校薬剤師
平成22年4月～現在	神戸市新型インフルエンザ等特別委員会　委員
平成22年4月～現在	神戸市医療安全相談窓口連絡会　委員
平成22年4月～現在	日本武術太極拳連盟　特例公認一級審判
平成22年4月～現在	日本武術太極拳連盟　長剣公認Ｂ級指導員
平成23年4月～平成25年3月	兵庫県薬事審議会　委員
平成23年4月～平成25年3月	日本薬剤師会代議委員
平成23年4月～現在	一般社団法人　神戸市薬剤師会　副会長

（基礎資料15）専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名　兵庫医療大学	講座名　創薬化学	職名　講師	氏名　清水　忠
Ⅰ　教育活動			
教育実践上の主な業績		年　月　日	概　　要
1　教育内容・方法の工夫			
（有機化学講義における分子模型の導入）		平成25年10月～現在	多くの学生が苦手とする有機化学の3次元構造の学習において、授業内で学生自身が分子模型を組立てることで3次元構造の理解を促す取り組みを行っている。
（長期密着ゼミにおけるPBL形式学習の導入）		平成26年4月～現在	臨床論文の読み方のゼミを実施し、学生間でのPBL形式で論文の確認すべき点をまとめたチェックシートによりチェックする形式で論文を批判的に吟味する学習を実践した。
2　作成した教科書、教材、参考書			
		平成20年4月～現在	薬学部2年次「物理化学実習」実習テキストおよび補助資料
		平成20年10月～現在	薬学部2年次「有機化学実習」実習テキスト
3　教育方法・教育実践に関する発表、講演等			
4　その他教育活動上特記すべき事項			
（実務実習指導薬剤師養成）		平成21年11月22日～23日	第43回薬剤師のためのワークショップin近畿および厚生労働省による認定実務実習指導薬剤師養成のためのワークショップにおいてタスクフォースとして活動した。
		平成22年8月21日～22日	第48回薬剤師のためのワークショップin近畿および厚生労働省による認定実務実習指導薬剤師養成のためのワークショップにおいてタスクフォースとして活動した。
		平成23年3月12日～13日	第53回薬剤師のためのワークショップin近畿および厚生労働省による認定実務実習指導薬剤師養成のためのワークショップにおいてタスクフォースとして活動した。
		平成23年7月17日～18日	第54回認定実務実習指導薬剤師養成のためのワークショップ（薬学教育者ワークショップ）in 近畿においてタスクフォースとして活動した。
		平成23年10月9日～10日	第58回認定実務実習指導薬剤師養成のためのワークショップ（薬学教育者ワークショップ）in 近畿においてタスクフォースとして活動した。
		平成23年11月12日～13日	第59回認定実務実習指導薬剤師養成のためのワークショップ（薬学教育者ワークショップ）in 近畿においてタスクフォースとして活動した。
		平成24年4月29日～30日	第60回認定実務実習指導薬剤師養成のためのワークショップ（薬学教育者ワークショップ）in 近畿においてタスクフォースとして活動した。
		平成24年7月15日～16日	第61回認定実務実習指導薬剤師養成のためのワークショップ（薬学教育者ワークショップ）in 近畿においてタスクフォースとして活動した。

	平成24年9月22日～23日	第64回認定実務実習指導薬剤師養成のためのワークショップ（薬学教育者ワークショップ）in 近畿においてタスクフォースとして活動した。
	平成25年4月28日～29日	第66回認定実務実習指導薬剤師養成のためのワークショップ（薬学教育者ワークショップ）in 近畿においてタスクフォースとして活動した。
	平成25年7月14日～15日	第67回認定実務実習指導薬剤師養成のためのワークショップ（薬学教育者ワークショップ）in 近畿においてタスクフォースとして活動した。
	平成25年8月24日～25日	第69回認定実務実習指導薬剤師養成のためのワークショップ（薬学教育者ワークショップ）in 近畿においてタスクフォースとして活動した。
	平成25年11月16日～17日	第70回認定実務実習指導薬剤師養成のためのワークショップ（薬学教育者ワークショップ）in 近畿においてタスクフォースとして活動した。
	平成26年3月8日～9日	第71回認定実務実習指導薬剤師養成のためのワークショップ（薬学教育者ワークショップ）in 近畿においてタスクフォースとして活動した。
	平成26年5月3日～4日	第72回認定実務実習指導薬剤師養成のためのワークショップ（薬学教育者ワークショップ）in 近畿においてタスクフォースとして活動した。
	平成26年8月30日～31日	第73回認定実務実習指導薬剤師養成のためのワークショップ（薬学教育者ワークショップ）in 近畿においてタスクフォースとして活動した。
	平成26年11月8日～9日	第75回認定実務実習指導薬剤師養成のためのワークショップ（薬学教育者ワークショップ）in 近畿においてタスクフォースとして活動した。
（医療職・医療系学生へのPBL形式のEBM教育）	平成25年12月22日	第2回神戸大学Student CASP Workshop においてチューターとして活動した。
	平成26年6月8日	第8回神戸薬科大学Student CASP Workshop において、教育講演「EBM概論」およびチューターを担当した。
	平成26年7月6日	第2回近畿大学Student CASP Workshop において、教育講演「EBM概論」およびチューターを担当した。
	平成26年10月26日	第2回CASP関西 Workshop において、チューターを担当した。
	平成26年11月16日	第9回神戸薬科大学Student CASP Workshop において、教育講演「システマティックレビュー概論」およびチューターを担当した。
	平成27年3月8日	第1回兵庫医療大学Student CASP Workshop の主催、企画、運営、チューターを担当した。
（医療職・医療系学生への臨床文献検索実習教育）	平成25年7月27日	兵庫医療大学EBM文献検索ミニワークショップの主催、企画、運営を担当した。

	平成27年2月22日	兵庫医療大学臨床文献検索ワークショップの主催、企画、運営、教育講演「EBM概論」を担当した。
（薬剤師・薬学生への参加型化学構造式教育）	平成26年6月28日	滋賀県薬剤師会第8回医療薬学セミナーにおいて、ワークを用いて参加者に発表してもらう形式の教育講演「薬の構造式を楽しもう」を担当した。
	平成26年10月16日	堺市薬剤師会第１回医療薬学セミナーにおいて、ワークを用いて参加者に発表してもらう形式の教育講演「薬のカタチを楽しもう」を担当した。
（OSCE）	平成22年12月	兵庫医療大学第１回薬学教養試験OSCEにおいて、「無菌操作の実践」の課題のステーション責任者として、ステーションの企画、設営、運営を担当した。
	平成23年12月～平成26年12月	兵庫医療大学第１回薬学教養試験OSCEにおいて、評価者を担当した。
（学習成果基盤型教育）	平成27年11月22日～24日	第4回薬学教育者のためのアドバンストワークショップに参加し、学習成果基盤型教育に基づく学習カリキュラムの策定法およびパフォーマンスを評価するためのルーブリック評価の策定法・使用法を学習した。

Ⅱ　研究活動

１．著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所、発表雑誌（巻・号数）等の名称
（論文）Tadashi Shimizu, Takeshi Kanno, Akito Tanaka, Tomoyuki Nishizaki： α, β-DCP-LA Selectivity Activates PKC-ε and Stimulates Neurotransmitter Release with the Highest Potency among 4 Diastereomers.	共著	2011年2月	Cell. Physiol. Biochem. 2011, 27, 149-158.
（論文） Tadashi Shimizu, Masato Iizuka, Hiroko Matsukura, Daisuke Hashizume, Mikiko Sodeoka：Synthetic Route to Optically Pure Norcantharidin Analog NCA-01, a Highly Selective Protein Phosphatase 2B inhibitor, and Its Derivatives.	共著	2012年4月	Chem. Asian J. 2012, 7, 1221-1230.
（論文）Takeshi Kanno, Ayako Tsuchiya, Tadashi Shimizu, Syuhei Nakao, Akito Tanaka, Tomoyuki Nishizaki： Effects of Newly synthesized DCP-LA-phospholipids on protein kinase C and protein phospatases.	共著	2013年4月	Cell. Physiol. Biochem. 2013, 31, 555-564.
（論文） Ayako Tsuchiya, Takeshi Kanno, Tadashi Shimizu, Syuhei Nakao, Akito Tanaka, Tomoyuki Nishizaki： 4. DCP-LA-Phosphatidylinositol and Its Enantiomer Exhibit Different Bioactivities.	共著	2014年1月	Cell. Physiol. Biochem. 2014, 33, 300-309.
（論文）Miyuki Mabuchi, Tadashi Shimizu, Masahiro Ueda, Yuka Sasakawa, Syuhei Nakao, Yuko Ueda, Kazutake Tsujikawa, Akito Tanaka：Improving the Bioavailability and Anticancer Effect of the PCA-1/ALKBH3 Inhibitor HUHS015 Using Sodium Salt.	共著	2015年1月	In vivo 2015, 01-02;29(1):39-43.

２．学会発表（評価対象年度のみ）	発表年・月	学会名
（演題名）清水　忠、馬渕美雪、田中明人、西崎知之：光学活性な新規イノシトールリン脂質誘導体によるPKCサブタイプ活性化研究	平成26年10月25日	第107回近畿生理学談話会
（演題名）清水 忠, 長屋寿雄, 中川佑介, 馬渕美雪, 中尾周平, 平山聡子, 後藤章暢, 田中明人：ナフトピジル代謝物に着目した膀胱癌治療薬の創製	平成26年11月26日	第32回メディシナルケミストリーシンポジウム

Ⅲ　学会および社会における主な活動

なし。	

（基礎資料15）専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名　兵庫医療大学	講座名　微生物学	職名　講師	氏名　長野　基子

Ⅰ　教育活動

教育実践上の主な業績	年　月　日	概　　要
1　教育内容・方法の工夫 ・穴埋め式の講義配布資料の配布 ・講義での課題プリントの提供	平成20年～26年	講義では、学生が自ら重要なポイントを見出しやすいように課題を出し、提出させ、採点して返却している。書く力と考える力をつけさせるため、文章を記述させる問いかけを混ぜたり、課題について発表させたりしている。
2　作成した教科書、教材、参考書 ・公衆衛生学の講義配布資料 ・衛生薬学実習（微生物学実験）実習書／ビデオ	平成20年～26年 平成21年～26年	学生が課題プリントに書いてくる要望、講義内での反応、授業評価アンケートを参考に、講義内容や配布資料を逐次改訂している。講義で学んだ内容がニュースで取り上げられた際には、その記事を配布するなどして紹介している。
3　教育方法・教育実践に関する発表、講演等		なし。
4　その他教育活動上特記すべき事項 ・薬学部国家試験対策委員 ・薬学部OSCE対策委員 ・薬学部教育委員、時間割作成委員	平成21年～25年 平成22年～23年 平成25年～27	国家試験対策委員、教育委員として学生の学力向上および教員の国家試験対策に対する意識の向上に係る講義や講演会を企画したり、教員による国家試験対策講義の相互参観の機会を作ったりした。時間割作成委員として、学生が効率よく前向きに講義に臨めるような講義時間割の配置を工夫し整備した。

Ⅱ　研究活動

1．著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所、発表雑誌（巻・号数）等の名称
（論文）HCV replication suppresses cellular glucose uptake through down-regulation of cell surface expression of glucose transporters.	共著	2009年5月	J Hepatol, 50(5), 883-894.
（論文）Efficient production of infectious hepatitis C virus with adaptive mutations in cultured hepatoma cells.	共著	2009年7月	J Gen Virol, 90(Pt 7), 1681-1691.
（論文）Double-filtration plasmapheresis plus IFN for HCV-1b patients with non-sustained virological response to previous combination therapy: early viral dynamics.	共著	2010年1月	Intervirology, 53(1), 44-48.
（論文）Autoimmune thrombocytopenic purpura during pegylated interferon α treatment for chronic hepatitis C.	共著	2010年2月	Intern Med, 49(12), 1119-1122.
（論文）A transgenic mouse line with a 58-kb fragment deletion in chromosome 11E1 that encompasses part of the Fam20a gene and its upstream region shows growth disorder.	共著	2010年6月	Kobe J Med Sci, 55(4), E82-92.

2．学会発表（評価対象年度のみ）	発表年・月	学会名
（演題名）高知県のイノシシに寄生が認められたイノシシ特有のバベシア属原虫について	平成27年3月	第84回日本寄生虫学会大会
（演題名）ヒトバベシア症発生国台湾のヒトバベシア症疫学調査結果	平成27年3月	第84回日本寄生虫学会大会

Ⅲ　学会および社会における主な活動

関西看護医療大学　非常勤講師	平成25年より、関西看護医療大学の非常勤講師を委嘱され、「感染と免疫」の講義を担当している。
第70回日本寄生虫学会西日本支部大会事務局	平成26年18、19日に兵庫医療大学にて開催した学会の事務局を担当した。

（基礎資料15）専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名　兵庫医療大学	講座名　薬物動態学	職名　講師	氏名 南畝晋平

Ⅰ　教育活動

教育実践上の主な業績	年　月　日	概　　要
１　教育内容・方法の工夫 （授業評価等を含む）	平成21年4月 ～現在	板書のみでは内容が分かりにくく、板書の時間もかかるため、パソコンにより授業内容を動画で示すなどの工夫を行っている。これにより、学生の授業に対する理解がより向上した。
２　作成した教科書、教材、参考書		なし
３　教育方法・教育実践に関する発表、講演等		なし
４　その他教育活動上特記すべき事項 （FDを含む）	平成26年4月 ～現在	進級が危ぶまれる学生に対しての履修支援を行っている。具体的には、学生の苦手な教科、分からない部分を個別に指導している。

Ⅱ　研究活動

１．著書・論文等の名称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月（西暦でも可）	発行所、発表雑誌 （巻・号数）等の名称
（論文）Genetic variants in combination with early partial improvement as a clinical utility predictor of treatment outcome in major depressive disorder: the result of two pooled RCTs.	共著	2015年2月	Transl Psychiatry. 24;5:e513.
（論文）Polymorphisms of CYP2D6 gene and gefitinib-induced hepatotoxicity.	共著	2013年9月	Clin Lung Cancer. ;14(5):502-7.
（論文）Minimal dose for effective clinical outcome and predictive factors for responsiveness to carvedilol: Japanese chronic heart failure (J-CHF) study.	共著	2013年4月	Int J Cardiol. ;164(2):238-44.
（論文）5-HTTLPR rs25531A > G differentially influence paroxetine and fluvoxamine antidepressant efficacy: a randomized, controlled trial.	共著	2013年2月	J Clin Psychopharmacol. ;33(1):131-2.
（論文）Simple and accurate determination of CYP2D6 gene copy number by a loop-mediated isothermal amplification method and an electrochemical DNA chip.	共著	2010年4月	Clin Chim Acta. ;411(7-8):568-73.

２．学会発表（評価対象年度のみ）	発表年・月	学会名
（演題名）パロキセチン効果発現の個人差とセロトニントランスポーター遺伝子のメチル化との関連	2015年3月	日本薬学会第135年会
（演題名）パロキセチン反応性の個人差とセロトニントランスポーター（5-HTT）LPR多型との関連	2014年11月	第24回日本臨床精神神経薬理学会 第44回日本神経精神薬理学会 合同年会

Ⅲ　学会および社会における主な活動

（基礎資料15）専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名　兵庫医療大学	講座名	職名　講師	氏名　中野博明

Ⅰ　教育活動

教育実践上の主な業績	年　月　日	概　　要
１　教育内容・方法の工夫 （授業評価等を含む）		
徹底した文献調査による研究能力の開発	平成14年4月から	先行研究の徹底した文献調査を行い、行うべき実験を明確にしたうえで実験にとりかかるという訓練を行った。
英語力の涵養を目的としたセミナー発表	平成14年4月から	毎月、実験の報告の際には英語での発表を行い、ネイティブスピーカーの指導をうけた。
プログラミング言語の習得を目指した徹底した訓練	平成20年4月から	C言語、perl言語及びエクセルVBAを取り上げ、各言語能力検定試験合格を目指した特訓を行った。
数学力の能力向上を目的としたゼミの開講	平成21年4月から	高等学校の微分積分から大学数学での複素関数論に至るまでスムーズに理解できるようセミナーを行った。
論理的思考力の能力向上を目指したゼミの開講	平成23年4月から	長期密着ゼミとして、論理的思考力を涵養するためのさまざまな書籍・教材を用いてセミナーを行っている。
学力不良者を対象とした補習授業の実践	平成24年9月から	2年次学力不良者対策として、物理、化学及び物理化学の補習指導を行っている。(平成25年9月からは1年次学生も対象)
２　作成した教科書、教材、参考書		
量子科学の講義に使用する教材	平成16年6月から	量子科学の講義に使用する実習書を毎回作成し、学生からわかりやすいと好評を得た。
学生実習実習書及びビデオ教材	平成19年4月から	3年次に配当の学生実験について、教科書の作成及び理解をすすめるためにビデオ教材を作成した。
物理化学実習実習書及び副教材	平成20年4月から	2年次配当の物理化学実習実習書並びに理解を助けるための副教材(約60ページ)を作成し、非常に好評を得た。
物理化学実習実習書及び副教材(実習内容変更に伴う)	平成25年4月から	2年次配当の物理化学実習について、高等学校で物理を履修していない学生の理解を促すための副教材を作成した。
３　教育方法・教育実践に関する発表、講演等		
学生実習(薬学部配当科目)	平成16年5月から	実際のタンパク質X線結晶解析について、結晶化からデータ測定、構造決定まで一連の操作を行った。
基礎化学実験(工学部配当科目)	平成19年10月から	基本的な化学実験について実習及び講義を行い、大学担当部局及び学生からも好評を得た。
物理化学実習	平成20年4月から	ラングミュア吸着式を基に実験データの取扱いについても副教材を用いた実習及び講義を行い、好評を得た。
基礎実習	平成20年10月から	蛋白質の立体構造の物理・科学的な基礎について、講義を行い大学当局及び学生から好評を得た。
薬剤・薬物動態学実習	平成21年10月から	粉体の性質、溶出試験、崩壊試験など、製剤設計の基礎分野の実習を行い、学部及び学生からも好評を得た。
研究実習	平成23年4月から	蛋白質の立体構造解析についての実験を行い、実際に新規タンパク質結晶を析出させることに成功した。また、医薬品の製造技術に関わる研究テーマを設定し、研究をすすめており、徐々に研究成果が蓄積されつつある。
４　その他教育活動上特記すべき事項 （FDを含む）		
Physical Pharma Forum 世話人	平成23年4月から	第1回及び第2回大会を平成23年9月に行い盛況のうちに終了した。
日本結晶学会　編集委員	平成24年4月から	日本結晶学会の編集委員として精力的に活動した。

UK Journal of Pharmaceutical and Biosciences Editorial Board	平成26年3月まで 平成26年10月から	UKJPB誌の編集委員を務めている

Ⅱ　研究活動

１．著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所、発表雑誌（巻・号数）等の名称
（著書）徹底解説薬物動態の数学-微積分と対数、非	共著	2011年3月	廣川書店
（著書）タンパク質結晶の最前線	共著	2013年12月	シーエムシー出版
（論文）Structural and dynamic features of the MutT protein in the recognition of nucleotides with the mutagenic 8-oxoguanine base.	共著	2010年1月	J. Biol. Chem.
（論文）Deleting two C-terminalalpha-helices is effective to crystallize the bacterial ABC transporter Escherichia coli MsbA complexed with AMP-PNP.	共著	2010年2月	Acta Crystallogr D
（論文）Characterization of HIV-1 resistance to a fusion inhibitor, N36, derived from the gp41 amino-terminal heptad repeat.	共著	2010年8月	Biol Crystallogr
（論文）Exquisite structure and reaction mechanism of bacterial Pz peptidase A toward collagenous peptides-xray crystallographic structure analysis of pz peptidase A reveals differences from mammalian thimet oligopeptidase.	共著	2010年11月	J. Biol. Chem.
（論文）Structure basis for docking of peroxisomal membrane protein carrier Pex19p onto its receptor Pex3p	共著	2010年12月	EMBO.J.
（論文）Crystallization and preliminary X-ray crystallographic analysis of Pz peptidase B from Geobacillus collagenovorans MO-1.	共著	2012年12月	Acta Crystallographica, F

２．学会発表（評価対象年度のみ）	発表年・月	学会名
（演題名）塩化鉄を用いたビシクロラクタム環の構築	2014年9月	複素環化学討論会
（演題名）		

Ⅲ　学会および社会における主な活動

［注］　１　各教員ごとに最近６年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。

２　基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。

３　「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。

４　「Ⅱ 研究活動」は、最近６年間の代表的な著書・論文等、５つを記入してください。

５　「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

（基礎資料15）専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名　兵庫医療大学	講座名　薬物動態学	職名　講師	氏名　藤野　秀樹

Ⅰ　教育活動

教育実践上の主な業績	年　月　日	概　　要
1　教育内容・方法の工夫 （授業評価等を含む）	平成26年度前期、後期	開講科目の「科学計算演習」、「放射化学」及び「医薬品開発学」の授業評価アンケートの結果は薬学部開講科目の平均値以上であった。
2　作成した教科書、教材、参考書	平成22年2月	藤野秀樹、第7章医薬品開発に関する環境の変化、「医薬品開発論」（栄田敏之、原英彰、岡村昇　編）、廣川書店、東京、2010、pp115-126
3　教育方法・教育実践に関する発表、講演等	平成26年	天然核種の^{40}Kを用いた放射線教育を行い、一般を対象とした講演（大学連携セミナー）や放射線取扱主任者が集う部会（第55回放射線管理研究会）にてポスター発表を行った。これらの内容は担当科目の「放射化学」にて実演形式で紹介している。
4　その他教育活動上特記すべき事項 （放射線管理）	平成22年9月	RI実験センター放射線取扱主任者として選任され、放射線管理に従事している。毎年5月に原子力規制庁へ放射線管理状況報告書の作成及び3月に放射線業務従事者への放射線教育を開催している。
（FD活動）	平成21年3月～	毎年3月に本学にて開催されたFDセミナーに参加し、FDに関する諸問題について見識を深めた

Ⅱ　研究活動

1．著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所、発表雑誌（巻・号数）等の名称
（著書）薬物動態の専門でない方のための、薬物動態入門（第1講）	単著	平成25年11月	株式会社　情報機構
（著書）薬物動態の専門でない方のための、薬物動態入門（第2講）	共著	平成25年12月	株式会社　情報機構
（論文）Shinya Hosaka, Norie Murayama, Masahiro Satsukawa, Makiko Shimizu, Shotaro Uehara,Hideki Fujino, Kazuhide Iwasaki, Shunsuke Iwano,Yasuhiro Uno, and Hiroshi Yamazaki: Evaluation of 89 compounds for identification of substrates for cynomolgus monkey cytochrome P450 2C76, a new bupropion/nifedipine oxidase.	共著	平成27年1月	Drug Metab. Dispos., 43(1):27-33
（論文）藤野秀樹、塩化カリウムを用いた密度測定及び放射線教育への利用について	単著	平成26年6月	ISOTOPE NEWS, 722, 34-8
（論文）Masahiro Utoh, Norie Murayama,Yasuhiro Uno, Yui Onose, Shinya Hosaka, Makiko Shimizu, Kazuhide Iwasaki, Hiroshi Yamazaki: Monkey liver cytochrome P450 2C9 is involved in caffeine 7-N-demethylation to form theophylline	共著	平成25年12月	Xenobiotica, 43(12):1037-42

2．学会発表（評価対象年度のみ）	発表年・月	学会名
（演題名）塩化カリウムを用いた密度測定法及び放射線教育について	平成26年7月	第51回アイソトープ放射線研究発表会
（演題名）塩化カリウムを用いた新規密度測定法の構築	平成26年10月	第64回日本薬学会近畿支部大会

Ⅲ　学会および社会における主な活動

平成19年10月～平成22年3月	早稲田大学大学院先進理工学研究科　客員准教授
平成21年9月～現在	兵庫医療大学放射線取扱主任者として選任（RI実験センター長兼任）
平成26年12月～現在	第一種作業環境測定士（放射性物質）

（基礎資料15）専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名　兵庫医療大学	講座名　生化学	職名　講師	氏名　三浦　大作

Ⅰ　教育活動

教育実践上の主な業績	年　月　日	概　　要
1　教育内容・方法の工夫 （授業評価等を含む）	平成25年4月～ 平成26年4月～	医薬品安全性学講義及び衛生薬学実習において、教科書等にまだ収載されていない内容については、医薬品医療機器総合機構ウエブサイトを利用し、最新の情報を学習に取り入れている。 生物化学Iおよび生物化学IIにおいては、毎回の講義内容に基づいた学習課題を作成し、学習困難者に対しては課外時間に任意参加の指導を行い、履修者の底上げを図っている。
2　作成した教科書、教材、参考書	平成21年12月 平成25年4月～ 平成26年4月～	乾賢一編「薬物トランスポーター　活用ライブラリー　機能・輸送基質から創薬・臨床応用まで」、羊土社、pp. 180-182 衛生薬学実習（毒性学実験）テキスト、薬理学実習（鎮痛薬効力試験法）テキストの作成 医薬品安全性学（非臨床試験、医薬品医療機器総合機構の業務）講義資料の作成 生物化学I、生物化学II講義資料の作成
3　教育方法・教育実践に関する発表、講演等	なし	
4　その他教育活動上特記すべき事項 （FDを含む）	平成24年4月～	神戸市立六甲アイランド高校スーパーサイエンスハイスクール事業特別授業（食肉DNA鑑定）企画立案、講師

Ⅱ　研究活動

1．著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所、発表雑誌（巻・号数）等の名称
（著書）薬物トランスポーター　活用ライブラリー　機能・輸送基質から創薬・臨床応用まで	共著	平成21年12月	乾賢一編、羊土社、pp. 180-182
（論文）Yabuta N, Mukai S, Okamoto A, Okuzaki D, Suzuki H, Torigata K, Yoshida K, Okada N, Miura D, Ito A, Ikawa M, Okabe M, Nojima H., "N-terminal truncation of Lats1 causes abnormal cell growth control and chromosomal instability."	共著	平成25年1月	J Cell Sci., 126(Pt 2): 508-20.
（論文）Okamoto A, Torigata K, Sakurai MA, Okuzaki D, Fujii H, Ohmine T, Miura D, Kimura S, Yabuta N, Nojima H. "A simple and efficient method for the preparation of live leukocytes from peripheral blood using the LeukoCatch™ system."	共著	平成24年9月	Advances in Bioscience and Biotechnology, 3(5):630-642.
（論文）Okui S, Yamamoto H, Li W, Gamachi N, Fujita Y, Kashiwamura S, Miura D, Takai S, Miyazaki M, Urade M, Okamura H, Ueda H., "Cisplatin-induced acute renal failure in mice is mediated by chymase activated angiotensin-aldosterone system and interleukin-18."	共著	平成24年6月	Eur J Pharmacol., 685(1-3):149-55.
（論文）Miura D, Anzai N, Jutabha P, Chanluang S, He X, Fukutomi T, Endou H., "Human urate transporter 1 (hURAT1) mediates the transport of orotate."	共著	平成23年5月	J Physiol Sci., 61(3):253-7.

2．学会発表（評価対象年度のみ）	発表年・月	学会名
（演題名）久保大三郎、関まどか、中作光、竹谷侑記、三浦大作、清宮健一、マウス筋芽細胞由来C2C12細胞の文化過程におけるフェノフィブラートの細胞毒性	平成27年3月	日本薬学会　第135年会（神戸）
（演題名）関まどか、是枝明日香、三浦大作、清宮健一、MDR1発現LLC-PK1細胞におけるフェノフィブラート誘発細胞毒性の解析	平成27年3月	日本薬学会　第135年会（神戸）

Ⅲ　学会および社会における主な活動	
平成24年1月～	日本毒性学会　評議員
平成24年4月～	日本薬理学会　評議員
平成26年1月～	J. Toxicol. Sci. Editorial Board

（基礎資料15）専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名　兵庫医療大学	講座名　臨床ゲノム薬理学	職名　助教	氏名　伊藤崇志

Ⅰ　教育活動

教育実践上の主な業績	年　月　日	概　　要
1　教育内容・方法の工夫　（分析化学実習）	2013年4月1日～現在	薬学部2年次における分析化学実習では「電気泳動法」を担当している。電気泳動の原理を分かり易く解説している。また、分子量の予測を課題として課し、学生の計算力の向上にも努めている。
（チュートリアル）	2011年4月1日～現在	薬学部3年次のチュートリアルでは、学生グループの討論及びレポート作成について指導を行っている。話し合いを纏めるにあたり、個々の意見を尊重し、且つ、論理的に文章にする方法について指導している。
（長期密着ゼミナール）	2009年4月1日～現在	長期密着ゼミナールでは、東純一元教授とともに、「遺伝子に親しもう」と題したゼミを開講した。実験や講義、DVD鑑賞などを通じ、主に、遺伝子の機能、遺伝子の個人差への関与を理解できるよう指導した。
2　作成した教科書、教材、参考書		
基礎実習テキスト	2009年～2012年	「光の分光と吸光光度法」の章を担当。
分析化学実習テキスト	2013年～現在	「電気泳動法」の章を担当。
3　教育方法・教育実践に関する発表、講演等		なし。
4　その他教育活動上特記すべき事項 高校生を対象とした1日体験入学の手伝い	2012年3月19日 2013年3月27日 2013年8月11日 2014年3月26日	「下戸か上戸かを予見する」と題して、体験実習を実施した。

Ⅱ　研究活動

1．著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所、発表雑誌（巻・号数）等の名称
（著書）薬学生のための処方解析トレーニング	共著	2010年4月	化学同人
（著書） Cardiomyopathies - From Basic Research to Clinical Management	共著	2012年12月	InTech Open Access "Taurine Depletion-Related Cardiomyopathy in Animals"の章を担当。
（論文）Ito T, Schaffer SW, Azuma J. "The effect of taurine on chronic heart failure: actions of taurine against catecholamine and angiotensin II."	共著	2014年1月	Amino Acids, 46, 111-119
（論文） Ito T, Yoshikawa N, Inui T, Miyazaki N, Schaffer SW, Azuma J."Tissue depletion of taurine accelerates skeletal muscle senescence and leads to early death in mice."	共著	2014年9月	Plos One, 9, e107409
（論文）Ito T, Yoshikawa N, Schaffer SW, Azuma J. "Tissue taurine depletion alters metabolic response to exercise and reduces running capacity in mice."	共著	2014年12月	Journal of Amino Acids

2．学会発表（評価対象年度のみ）	発表年・月	学会名
（演題名）伊藤 崇志、東純一“タウリン欠乏マウスにおける加齢依存的な心繊維化の亢進”	2014年6月10－11日	第33回日本基礎老化学会（愛知）
（演題名）十川 依子, 伊藤 崇志, 東 純一“骨格筋における小胞体ストレスのmTOR/S6K1/リボソームS6蛋白経路への影響”	2014年8月29日	次世代を担う創薬・医療薬理シンポジウム2014（大阪）

（演題名）山本直，伊藤 崇志，東純一“トランスクリプトーム－パスウェイ解析を用いたタウリン欠乏マウス”の骨格筋老化促進に関わる分子の網羅的解析	2014年8月29日	次世代を担う創薬・医療薬理シンポジウム2014（大阪）
（演題名）Takashi Ito, Stephen W. Schaffer, Junichi Azuma “Tissue taurine deficiency accelerates skeletal muscle aging in mice.”	2014年5月21－24日	The 19th International Taurine Meeting (Krakow, Poland)
（演題名）伊藤崇志“心臓、骨格筋において組織タウリンは寿命と関連するか？”	2015年2月21－22日	第1回国際タウリン研究会日本部会（神戸）
（演題名）山本直、仲島慎太郎、伊藤崇志“組織タウリン欠乏による骨格筋老化促進に関わるメカニズムのトランスクリプトーム解析”	2015年2月21－22日	第1回国際タウリン研究会日本部会（神戸）
（演題名）伊藤崇志、篠原弓佳、諏訪由利香、山本直“組織タウリン欠乏による拡張型心筋症発症に関わるメカニズムのトランスクリプトーム解析”	2015年2月21－22日	第1回国際タウリン研究会日本部会（神戸）
（演題名）仲島慎太郎、谷絵理奈、伊藤崇志“骨格筋におけるタウリン欠乏によるリボソームS6リン酸化に関わるシグナルの解析”	2015年2月21－22日	第1回国際タウリン研究会日本部会（神戸）
（演題名）Takashi Ito, Yuki Hanahata, Toshihiro Iwasaku, Shinichi Hirotani, Tohru Masuyama, Takeshi Tsujino″Mechanisms for the acceleration of aging-dependent cardiac fibrosis by tissue taurine depletion″	2015年3月18－20日	第88回日本薬理学会年会（名古屋）
（演題名）本津美樹、篠原弓佳、諏訪由利香、十川依子、伊藤崇志“骨格筋におけるタウリンのmTORへの影響”	2015年3月25－28日	日本薬学会第135年会（神戸）
（演題名）山本直、仲島慎太郎、伊藤崇志“タウリン欠乏マウスの骨格筋老化促進に関わる分子のトランスクリプトーム解析”	2015年3月25－28日	日本薬学会第135年会（神戸）

Ⅲ　学会および社会における主な活動

平成25年3月～現在	日本薬学会薬理系薬学部会若手世話人会
平成26年8月～現在	国際タウリン研究会　理事、事務局担当
平成27年2月21日、22日	第1回国際タウリン研究会日本部会　実行委員

（基礎資料15）専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名　兵庫医療大学	講座名　天然薬物学	職名　助教	氏名　岩岡恵実子

Ⅰ　教育活動

教育実践上の主な業績	年　月　日	概　　要
１　教育内容・方法の工夫 （授業評価等を含む）	平成19年～現在	薬剤師育成に必要な基礎知識を習得するための有機化学実習および天然薬物学実習を行った。実験操作が安全かつスムーズに進むための諸準備や後片付け、また実習中は操作の具体的かつ詳細な説明を行い、本実習における学生の理解や実験中の安全確保に努めた。
２　作成した教科書、教材、参考書		なし
３　教育方法・教育実践に関する発表、講演等		なし
４　その他教育活動上特記すべき事項 （FDを含む）	平成26年～現在	履修支援員として、低学力者対策の勉強会に参加し、学生の理解を助けるよう努めた。

Ⅱ　研究活動

１．著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所、発表雑誌（巻・号数）等の名称
（論文）Oku H, Ogawa Y, Iwaoka E, Ishiguro K. Allergy-preventiv effects of chlorogenic acid and iridoid derivatives from flower buds of Lonicera japonica.	共著	平成23年	Biological & pharmaceutical bulletin.34(8),pp.1330-1333
（論文）Iwaoka E, Oku H, Iinuma M, Ishiguro K. Allergy-preventive effects of the flowers of Impatiens textori.	共著	平成22年	Biological & pharmaceutical bulletin 33 (4) 714-716
（論文）Iwaoka E, Oku H, Takahashi Y and Ishiguro K. Allergy-preventive effects of Hibiscus mutabilis 'versicolor' and a novel allergy-preventive flavonoid glycosid.	共著	平成21年	Biological & pharmaceutical bulletin 32 (2) 509-512
（論文）Iwaoka E, Mori T, Shimizu T, Hosoya K and Tanaka A. Improvement of monolithic solid material by utilization of spacer for identification of the target using affinity resins.	共著	平成21年	Bioorganic & medicinal chemistry letters 19 (5) 1469-1472
（論文）Iwaoka E, Oku H and Ishiguro K.Development of an in vivo assay method for evaluation of “oketsu” using hen-egg white lysozyme (HEL)-induced blood flow decrease.	共著	平成21年	Journal of Traditional Medicines 26 (3) 97-103

２．学会発表（評価対象年度のみ）	発表年・月	学会名
（演題名） アスナロ由来の腫瘍細胞選択的増殖抑制物質の探索 床次　純一郎１、寺田　友通１、岩岡　恵実子１、辻川　和丈２、青木　俊二１（１兵庫医療大薬、２阪大院薬）	2015年3月	日本薬学会第135年会
（演題名） コウボク由来のProstate Cancer Antigen-1 (PCA-1) 酵素阻害物質の探索 ○田鍋　絵里１、藤垣　俊介１、岩岡　恵実子１、田中　明人１、辻川　和丈２、青木　俊二１（１兵庫医療大薬、２阪大院薬）	2015年3月	日本薬学会第135年会

（演題名） Ca2＋ imaging法を用いた天然由来の一次知覚ニューロン活性化物質の探索 〇岩岡　恵実子、中口　未奈子、赤松　歩、藤垣　俊介、古川　愛佑美、戴　毅、青木　俊二（兵庫医療大薬）	2014年11月	第20回　天然薬物の開発と応用シンポジウム
（演題名） タケニグサ（Macleaya cordata）由来のProstate Cancer Antigen-1 (PCA-1) 酵素阻害物質の探索 〇吉川　茂男１、岩岡　恵実子１、田中　明人１、辻川　和丈2、青木　俊二１（１兵庫医療大薬、２阪大院薬）	2014年3月	日本薬学会第134年会
（演題名） コウカ（紅花）由来の一次知覚ニューロン活性物質の探索 〇赤松　歩、後藤　佳奈、岩岡　恵実子、古川　愛佑美、戴　毅、青木　俊二（兵庫医療大薬）	2013年3月	日本薬学会第133年会

Ⅲ　学会および社会における主な活動

平成24年度～	漢方薬・生薬研修会薬用植物園実習研修　講師

（基礎資料15）専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名　兵庫医療大学	講座名　免疫学	職名　助教	氏名　大野　喜也

Ⅰ　教育活動

教育実践上の主な業績	年　月　日	概　　要
1　教育内容・方法の工夫 （授業評価等を含む）	平成20年9月～	生物薬学実習、生理学解剖学実習：個別にディスカッションを行い、自らの考えを発言させることで、理解の定着および理解度の向上を図った。
2　作成した教科書、教材、参考書	平成20年9月～	「生物薬学実習」のなかで使用する実習テキストを担当教員と作製した。
3　教育方法・教育実践に関する発表、講演等		なし
4　その他教育活動上特記すべき事項		
（FD活動）	平成21年3月	本学で実施したFDセミナー　「兵庫医療大学の学士力」に参加した。
	平成22年3月	本学で実施したFDセミナー　「教育成果の測定と授業改善への活用」に参加した。
	平成23年3月	本学で実施したFDセミナー　「学士課程教育の質を保証するPDCAサイクルー学位授与方針を保証
	平成24年3月	本学で実施したFDセミナー　「学生の自学自習する態度を引き出す教育の在り方」に参加した。
	平成25年2月	本学で実施したFDワークショップ「授業評価することの意義を考える」に参加した。
	平成25年3月	平成24年度兵庫医療大学薬学部FDセミナー「大学生のこころ　－　彼らの心理的問題の性質と
	平成25年12月	本学で実施したFDセミナー　「Active learningとしてのチーム基盤型学習(TBL)」に参加した。
	平成26年3月	本学で実施したFDセミナー　「学習動機を高める」に参加した。
（OSCE）	平成22年12月	神戸学院大学および本学で開催されたOSCEに評価者として参加した。
	平成23年12月	神戸学院大学および本学で開催されたOSCEに評価者として参加した。
	平成24年12月	武庫川女子大学および本学で開催されたOSCEに評価者、運営者として参加した。
	平成25年12月	武庫川女子大学および本学で開催されたOSCEに評価者、運営者として参加した。
	平成26年12月	武庫川女子大学および本学で開催されたOSCEに評価者、運営者として参加した。
（薬剤師のためのワークショップ）	平成21年7月	「第35回薬剤師のためのワークショップ in 近畿」および「厚生労働省による認定実務実習指導薬剤師養成のためのワークショップ」に参加し、活動貢献賞を受賞した。

Ⅱ　研究活動

1．著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所、発表雑誌（巻・号数）等の名称
（著書）NIH3T3 cells overexpressing CD98 heavy chain resist early G1 arrest and apoptosis induced by serum starvation.	共著	2012年8月	cancer science, 103, 1460-6, 2012
（著書）Anti-tumor effect against human cancer xenografts by a fully human monoclonal antibody to a variant 8-epitope of CD44R1 expressed on cancer stem cells.	共著	2012年1月	ePLoS One, 7, e29728, 2012

（論文）Oncogenicity of L-type amino-acid transporter 1 (LAT1) revealed by targeted gene disruption in chicken DT40 cells: LAT1 is a promising molecular target for human cancer therapy	共著	2011年5月	Biochem Biophys Res Commun., 25, 649-55, 2011
（論文）Towards therapeutic antibodies to membrane oncoproteins by a robust strategy using rats immunized with transfectants expressing target molecules fused to green fluorescent protein.	共著	2011年1月	Cancer Science, 102, 25-35, 2011
（論文）Production and characterization of highly tumor-specific rat monoclonal antibodies recognizing the extracellular domain of human L-type amino-acid transporter 1	共著	2008年5月	Cancer Science, 99, 1000-7, 2008
２．学会発表（評価対象年度のみ）		発表年・月	学会名
（演題名）CD44依存的なスフェロイド形成はactivin産生を介してALDH発現を亢進させる		2014年7月	日本がん転移学会
（演題名）CD44-dependent signals and pro- and anti-inflammatory cytokines differentially regulate spheroid formation and maintenance of cancer stem-like cells in malignant mesothelioma cells		2014年6月	マクロファージ分子細胞生物学国際シンポジウム
（演題名）悪性中皮腫のスフェロイド形成と癌幹細胞様細胞におけるactivinの役割		2014年3月	日本薬学会
（演題名）TGFシグナルはALDH陽性癌幹細胞様スフェロド細胞の出現を制御する		2013年10月	日本がん転移学会
（演題名）HA-CD44 axis was required for formation of malignant mesothelioma spheroids and maintenance of CSC-like ALDHhigh cells		2013年8月	日本癌学会
Ⅲ　学会および社会における主な活動			
2014年6月	マクロファージ分子細胞生物学国際シンポジウム　事務局		

（基礎資料15）専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名　兵庫医療大学	講座名　　微生物学	職名　助教	氏名　大森　志保

Ⅰ　教育活動

教育実践上の主な業績	年　月　日	概　　要
１　教育内容・方法の工夫 （授業評価等を含む）		なし
２　作成した教科書、教材、参考書		なし
３　教育方法・教育実践に関する発表、講演等		なし
４　その他教育活動上特記すべき事項 （FDを含む）		なし

Ⅱ　研究活動

１．著書・論文等の名称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月（西暦でも可）	発行所、発表雑誌 （巻・号数）等の名称
（著書） ネズミと人のバベシア症	共著	平成２１年２月	Journal of Veterinary Medicine62(12),987-998頁(文永堂出版)
（著書） 遺伝子型特異的Babesia microtiのReal-Time PCR法による絶対的定量法	共著	平成２４年６月	寄生虫学研究　材料と方法　2012年版(株式会社　三恵社)
（論文） Development of real-time PCR assay for differential detection and quantification for multiple *Babesia microti*-genotypes	共著	平成２３年１２月	Parasitol Int. 60(4), 403-409
（論文）			
（論文）			

２．学会発表（評価対象年度のみ）	発表年・月	学会名
（演題名） 和歌山県の野生動物に寄生するバベシア属原虫の調査報告（まとめ）	平成２４年３月	第81回日本寄生虫学会大会
（演題名） ネズミバベシア（*Babesia microti*）の主要抗原探索を目的とした、神戸型及び大津型*B. microti* cDNA発現ライブラリーの作製	平成２４年１０月	第68回日本寄生虫学会西日本支部大会
（演題名） 神戸型および大津型*Babesia microti*の混合感染が両遺伝子型の*B.microti* の増殖に及ぼす影響	平成２４年１０月	第68回日本寄生虫学会西日本支部大会
（演題名） *B. microti*神戸株（神戸型）、梅山株（神戸型）、鉢巻株（大津型）のcDNA発現ライブラリーの作製とスクリーニングによる各株の主要抗原探索の試み	平成２５年３月	第82回日本寄生虫学会大会
（演題名） 兵庫県のマダニに寄生するバベシア属原虫の調査	平成２５年１０月	第69回日本寄生虫学会西日本支部大会
（演題名） 和歌山県に続き高知県のイノシシにも寄生が認められたバベシア属原虫について	平成２６年１０月	第70回日本寄生虫学会西日本支部大会

Ⅲ　学会および社会における主な活動

なし	

（基礎資料15）専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名　兵庫医療大学	講座名　生化学	職名　助教	氏名　是金 敦子

Ⅰ　教育活動

教育実践上の主な業績	年　月　日	概　　要
１　教育内容・方法の工夫		
（教育方法の工夫）	平成24年9月～	生物薬学実習のレポートを見直し、実習内容に関連する設問を設け、理解の手助けとした。
（学生による授業評価）	平成20年9月～	生物薬学実習独自アンケートを実施し、学生の理解の向上をはかった。
２　作成した教科書、教材、参考書		
	平成20年9月～	生物薬学実習実習書を実習担当教員と共に作成した。
	平成25年4月～	生物化学を中心とした勉強会を研究室学生向けに開催し、その教材を作成した。
	平成26年4月	チュートリアルの課題を担当教員と共に作成した。
３　教育方法・教育実践に関する発表、講演等	なし	
４　その他教育活動上特記すべき事項		
（OSCE）	平成20年8月	神戸薬科大学OSCEトライアルに参加した、
	平成21,24年12月	神戸学院大学OSCEに評価者として参加した。
	平成25年12月	本学OSCEに評価者として参加した。
	平成26年12月	神戸薬科大学OSCEに評価者として参加した。
（FD）	平成20～26年	本学FD講演会に継続的に参加し、医療教育の質の向上に関して研鑽を積んだ。
（薬学部の特色あるカリキュラム）	平成24年4月～	「長期密着型ゼミナール」を他の教員と担当し、学生に病気の発症を分子レベルで理解させ、外部のセミナーでは最先端の研究に触れさせた。
（アドバイザー制度）	平成20～26年	本学のアドバイザー制度にアドバイザーとして参加し、発達障害やメンタルヘルスの問題を抱える学生の対応を行った。

Ⅱ　研究活動

１．著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所、発表雑誌（巻・号数）等の名称
（論文）N-Glycosylation profiling of recombinant mouse extracellular superoxide dismutase produced in Chinese hamster ovary cells	共著	平成23年5月	Glycoconj Journal 28(3-4),183-196

２．学会発表（評価対象年度のみ）	発表年・月	学会名
（演題名）Extracellular Superoxide Dismutase (EC-SOD) の糖鎖構造解析	平成20年12月	第31回日本分子生物学会年会・第81回日本生化学会大会合同大会

Ⅲ　学会および社会における主な活動

なし	

（基礎資料15）専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名　兵庫医療大学	講座名　薬理学	職名　助教	氏名　田中康一

Ⅰ　教育活動		
教育実践上の主な業績	年　月　日	概　　要
1　教育内容・方法の工夫 （授業評価等を含む）	平成21年10月 ～現在	薬理学実習において学生の実習後の学習効果の向上を図るために実習に関連した項目についての自学自習課題を与えている。
2　作成した教科書、教材、参考書	平成21年10月 ～現在	兵庫医療大学薬学部薬理学実習テキストを分担執筆した。
3　教育方法・教育実践に関する発表、講演等	なし	
4　その他教育活動上特記すべき事項		
（OSCE）	平成21年4月	兵庫県薬剤師会館で実施された第30回薬剤師のためのワークショップin近畿に参加した。（H21年4月12・19日）
	平成21年12月 ～現在	神戸学院大学薬学部で実施された「OSCE」に評価者とした参加した。
	平成22年12月 ～現在	本学で実施された「OSCE」に学内運営スタッフとして参加した。
（FD）	平成19年12月 ～現在	第3回～のFDフォーラムに参加し、本学のFDに関する諸問題についての見識を深めた。
（4学部（1学年次対象）合同チュートリアル教育）	平成24年9月	神戸キャンパスにおいて兵庫医科大学第1年次生と本学第1学年次生を対象にした合同チュートリアルに薬学部教員からチューターとして参加した。
（4学部合同チーム医療演習（チュートリアル））	平成25年9月	西宮キャンパスにおいて兵庫医科大学第3年次生と本学第4学年次生を対象にした合同のチーム医療演習に薬学部教員からチューターとして参加した。
（オープンキャンパス）	平成20年8月～ 現在	本学で実施された「オープンキャンパス」に学内運営スタッフとして参加した。

Ⅱ　研究活動			
1．著書・論文等の名称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月（西暦でも可）	発行所、発表雑誌 （巻・号数）等の名称
（著書）認知症がよくわかる本 老々介護・認々介護に備える （松田 暉 監修）	共著	平成23年10月	エピック社
（論文）Junichi Kitanaka, Nobue Kitanaka, F. Scott Hall, George R. Uhl, Tomohiro Tatsuta, oshio Morita, Koh-ichi Tanaka, Nobuyoshi Nishiyama and Motohiko Takemura : Histamine H_3 receptor agonists decrease hypothalamic histamine levels and increase stereotypical biting in mice challenged with methamphetamine.	共著	平成23年10月	Neurochem. Res., 36 (10): 1824-1833

（論文）Junichi Kitanaka, Nobue Kitanaka, F. Scott Hall, George R. Uhl, Koh-ichi Tanaka, Nobuyoshi Nishiyama and Motohiko Takemura : Straub tail reaction in mice treated with r1 receptor antagonist in combination with methamphetamine.	共著	平成24年9月	Brain Res., 1482: 40-46
（論文）Junichi Kitanaka, Nobue Kitanaka, F. Scott Hall, George R. Uhl, Yuko Fukushima, Tatsuo Sawai, Kaname Watabe, Hitoshi Kubo, Hitoshi Takahashi, Koh-ichi Tanaka, Nobuyoshi Nishiyama, Tomohiro Tatsuta, Yoshio Morita and Motohoiko Takemura. :The selective mu opioid receptor antagonist beta-funaltrexamine attenuates methamphetamine-induced stereotypical biting in mice.	共著	平成25年7月	Brain Res., 1522: 88-98
（論文）Nobue Kitanaka, Junichi Kitanaka, F. Scott Hall, George R. Uhl, Kaname Watabe, Hitoshi Kubo, Hitoshi Takahashi, Koh-ichi Tanaka, Nobuyoshi Nishiyama and Motohiko Takemura : Agmatine attenuates methamphetamine-induced hyperlocomotion and stereotypical behavior in mice.	共著	平成26年4月	Behav. Pharmacol., 25(2): 158-165
２．学会発表（評価対象年度のみ）		発表年・月	学会名
（演題名）田中康一, 北中順惠, 北中純一, 山際友花, 糸井正二郎, 塚原飛央, 佐藤友昭, 竹村基彦, 馬場明道, 西山信好 : 酸化ストレスによる培養ア ストロサイトヌクレオシド輸送体の機能低下と細胞死との関係		平成26年6月	第9回トランスポーター研究会年会
（演題名）Nobue Kitanaka, Junichi Kitanaka, Yu Yoshinobu Sugimori, Kaname Watabe, Hitoshi Kubo, Hitoshi Takahashi, Koh-ichi Tanaka, Nobuyoshi Nishiyama and Motohiko Takemura : Aripiprazole inhibits methamphetamine-induced stereotypy in mice.		平成26年9月	Neuro2014 (The 37th Annual Meeting of the Japan Neuroscience Society)
（演題名）Junichi Kitanaka, Nobue Kitanaka, F. Scott Hall, George R. Uhl, Koh-ichi Tanaka, Nobuyoshi Nishiyama and Motohiko Takemura : Exogenous agmatine inhibits methamphetamine-induced stereotypy and hyperlocomotion in mice.		平成26年9月	Neuro2014 (The 37th Annual Meeting of the Japan Neuroscience Society)
（演題名）Koh-ichi Tanaka, Nobue Kitanaka, Junichi Kitanaka, Yuka Yamagiwa, Shyohjiroh Itoi, Tobio Tsukaharam, Tomoaki Sato, Motohiko Takemura, Akemichi Baba and Nobuyoshi Nishiyama : Relation with decrease of thymidine incorporation and cell death by oxidative stress in cultured astrocytes.		平成26年9月	Neuro2014 (The 37th Annual Meeting of the Japan Neuroscience Society)
（演題名）北中純一、北中順惠、田中康一、F.S. Hall、G.R. Uhl、渡部要、久保仁志、高橋仁、西山信好、竹村基彦 : 覚せい剤誘発常同行動に対するアグマチンの抑制効果：視床下部ヒスタミン含量変化 との関連		平成26年9月	第36回日本生物学的精神医学会・第57回日本神経化学会大会合同年会
（演題名）田中康一、北中順惠、北中純一、山際友花、糸井正二郎、塚原飛央、佐藤友昭、竹村基彦、馬場明道、西山信好 : メアストロサイトにおけるヌクレオシドトランスポーターの機能と過酸化水素による細胞死		平成26年10月	第36回日本生物学的精神医学会・第57回日本神経化学会大会合同年会
（演題名）北中純一、北中順惠、田中康一、F.S. Hall、G.R. Uhl、西山信好、竹村基彦 : メタンフェタミン誘発常同噛み行動に対するアグマチンの抑制効果と視床下部ヒスタミン含量変化		平成26年10月	日本ヒスタミン学会第18回学術集会
（演題名）北中順惠、北中純一、田中康一、西山信好、立田知大、守田嘉男、竹村基彦 : 覚せい剤誘発常同行動および報酬効果に対するHMT阻害薬の作用		平成26年10月	日本ヒスタミン学会第18回学術集会
（演題名）Nobue Kitanaka, Junichi Kitanaka, Scott Hall, Akira Koizumi, Minako Sumikawa, Soichiro Otaki, Hirotoshi Kuroiwa, Mei Fujii, Koh-ichi Tanaka, Nobuyoshi Nishiyama, George Uhl and Motohiko Takemura : A single administration of morphine induces memory impairment and reduced exploratory behavior in mice.		平成27年3月	The 88th Annual Meeting of The Japanese Pharmacological Society

（演題名）Junichi Kitanaka, Nobue Kitanaka, Masaru Kayama, Hironobu Sugimori, Koh-ichi Tanaka, Nobuyoshi Nishiyama and Motohiko Takemura : Pretreatment or post-treatment of aripiprazole attenuates methamphetamine-induced stereotypy in mice.	平成27年3月	The 88th Annual Meeting of The Japanese Pharmacological Society
（演題名）Koh-ichi Tanaka, Nobue Kitanaka, Junichi Kitanaka, Tobio Tsukahara, Tomoaki Sato, Motohiko Takemura, Akemichi Baba and Nobuyoshi : Regulation of Ca^{2+} on nucleoside transporter in cultured astrocytes by oxidative stress.	平成27年3月	The 88th Annual Meeting of The Japanese Pharmacological Society
（演題名）田中康一, 北中順惠, 北中純一, 塚原飛央, 佐藤友昭, 竹村基彦, 馬場明道, 西山信好 : 過酸化水素によるヌクレオシド輸送体のカルシウムイオンの調節	平成27年3月	第135回日本薬学会年会

Ⅲ　学会および社会における主な活動

平成20年4月～現在	日本薬理学会学術評議員
平成22年7月～現在	トランスポーター研究会幹事
平成22年9月～平成24年9月	日本薬理学会代議員
平成24年9月～平成26年9月	日本薬理学会代議員

（基礎資料15）専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名　兵庫医療大学	講座名　生体分析化学	職名　助教	氏名　塚本　効司

Ⅰ　教育活動

教育実践上の主な業績	年　月　日	概　　要
1　教育内容・方法の工夫 （授業評価等を含む）	平成22年4月～	分析化学実習において、実習項目終了後に小テストを課し、実習から学び取るべき知識や技術をどのくらい習得したかを確認した。習得度が低い事柄については再度詳細に説明し、理解度の向上を図っている。
2　作成した教科書、教材、参考書		なし。
3　教育方法・教育実践に関する発表、講演等		なし。
4　その他教育活動上特記すべき事項 （FDを含む）	平成24年4月～	低学力者支援活動の指導員として、留年生や仮進級生に対して補習や学習方法の指導等を行っている。

Ⅱ　研究活動

1．著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所、発表雑誌（巻・号数）等の名称
（論文）Hiroaki Ohno, Akinori Okano, Shohei Kosaka, Koji Tsukamoto, Miyo Ohata, Kotaro Ishihara, Hatsuo Maeda, Tetsuaki Tanaka, Nobutaka Fujii: Direct Construction of Bicyclic Heterocycles by Palladium-Catalyzed Domino Cyclization of Propargyl Bromides	共著	平成20年2月	Org. Lett. 10 (6), 1171-1174
（論文）Takehiko Yoshimitsu, Shoji Nojima, Masashi Hashimoto, Koji Tsukamoto, Tetsuaki Tanaka: Studies of the Asymmetric Total Synthesis of Clavilactone D by the 'Lariat' Cyclization Strategy	共著	平成21年9月	Synthesis (17), 2963-2969
（論文）Akinori Okano, Koji Tsukamoto, Shohei Kosaka, Hatsuo Maeda, Shinya Oishi, Tetsuaki Tanaka, Nobutaka Fujii, Hiroaki Ohno: Synthesis of Fused and Linked Bicyclic Nitrogen Heterocycles by Palladium-Catalyzed Domino Cyclization of Propargyl Bromides	共著	平成22年1月	Chem. Eur. J. 16 (28), 8410-8418
（論文）Koji Tsukamoto, Yuka Shinohara, Shogo Iwasaki and Hatsuo Maeda: A coumarin-based fluorescent probe for Hg^{2+} and Ag^{+} with an *N'*-acetylthioureido group as a fluorescence switch	共著	平成23年3月	Chem. Commun. 47 (17), 5073-5075
（論文）Koji Tsukamoto, Shogo Iwasaki, Mari Isaji, Hatsuo Maeda: An anthracene-based Cd^{2+} fluorescent chemosensor with a 4,7-bis(2-hydroxyethyl)-9-hydroxy-1,4,7-triazanonyl group as a highly selective chelator to Cd^{2+} over Zn^{2+}	共著	平成25年9月	Tetrahedron Lett. 54 (45), 5971-5973

2．学会発表（評価対象年度のみ）	発表年・月	学会名

（演題名）塚本効司，前田初男：高選択的カドミウムイオン蛍光プローブの開発	平成25年3月	日本薬学会第133年会(横浜)
（演題名）島袋翔多、塚本効司、前田初男：カドミウムイオンを高感度かつ高選択的に検出可能な蛍光プローブの開発	平成26年3月	日本薬学会第134年会(熊本)
Ⅲ　学会および社会における主な活動		
なし		

（基礎資料15）専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名　兵庫医療大学	講座名　臨床薬学	職名　助教	氏名　村上　雅裕

Ⅰ　教育活動

教育実践上の主な業績	年　月　日	概　　要
１　教育内容・方法の工夫 （授業評価等を含む）	平成26年10月～	実務実習事前学習において、調剤に必要な計算問題を集中的に実施する「計算演習」を取り入れ、OSCEや実務実習を視野に入れた計算力向上を図っている。
２　作成した教科書、教材、参考書		なし
３　教育方法・教育実践に関する発表、講演等		なし
４　その他教育活動上特記すべき事項 （FDを含む）		なし

Ⅱ　研究活動

１．著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所、発表雑誌（巻・号数）等の名称
（論文）Masahiro Murakami-Nakayam, Maho Tsubota, Saki Hiruma, Fumiko Sekiguchi, Kenji Matsuyama, Takeshi Kimura, Masahiro Moriyama, Atsufumi Kawabata.Polaprezinc attenuates cyclophosphamide-induced cystitis and related bladder pain in mice.	共著	2015年	Journal of Pharmacological Sciences(2015) in press
（論文）中山雅裕，濱田昌志，深津佳代，門林宗男，大野雅子，桂木聡子，天野学，森山雅弘．口腔内崩壊性フィルム製剤の製剤特性に関する検討.	共著	2015年	医薬品情報学(2015) in press
（論文）Hiroshi Doi, Masayuki Fujiwara, Hitomi Suzuki, Yasue Niwa, Masahiro Nakayama, Toshiyuki Shikata, Soichi Odawara, Yasuhiro Takada, Takeshi Kimura, Norihiko Kamikonya, Shozo Hirota. Polaprezinc reduces the severity of radiation-induced mucositis in head and neck cancer patients.	共著	2014年12月	Molecular and Clinical Oncology 479:381-386(2014)
（論文）Masahiro Nakayama, Masayuki Fujiwara, Takeshi Nakamura, Tsuyoshi Azuma, Sumio Matzno, Norihiko Kamikonya, Takeshi Kimura, Kenji Matsuyama, Atsufumi Kawabata. Stability of polaprezinc-containing oral rinse and its clinical effectiveness against radiotherapy-induced oral mucositis.	共著	2013年11月	Japanese Journal of Drug Informatics 15(3):133-138(2013)
（論文）中山雅裕，中村豪志，東剛史，志方敏幸，川畑篤史，松山賢治，冨士原将之，上紺屋憲彦，木村健.ポラプレジンク含嗽液の新たな基剤に関する検討.	共著	2013年3月	医薬品情報学 15(1):13-17(2013)

２．学会発表（評価対象年度のみ）	発表年・月	学会名
（演題名）昼馬佐紀，村上（中山）雅裕，坪田真帆，関口富美子，松山賢治，木村健，森山雅弘，川畑篤史．亜鉛含有製剤ポラプレジンクのcyclophosphamide誘起膀胱炎・膀胱痛に対する予防および治	2015年3月	第88回日本薬理学会年会（名古屋）
（演題名）村上（中山）雅裕，昼馬佐紀，坪田真帆，関口富美子，松山賢治，木村健，森山雅弘，川畑篤史.シクロホスファミド誘起膀胱炎マウスにおけるポラプレジンクの予防・治療効果.	2015年3月	日本薬学会第135年会（神戸）
（演題名）中山雅裕，中村豪志，東　剛史，松山賢治，森山雅弘，木村　健，川畑篤史．ポラプレジンクを使用した含嗽液の安定性と放射線性口腔粘膜炎に対する臨床評価.	2014年8月	生体機能と創薬シンポジウム2014（大阪）

（演題名）昼馬佐紀，中山雅裕，坪田真帆，関口富美子，松山賢治，木村　健，森山雅弘，川畑篤史．ポラプレジンクはcyclophosphamide誘起膀胱炎マウスにおける炎症症状および膀胱痛を抑制する．	2014年8月	生体機能と創薬シンポジウム2014（大阪）
Ⅲ　学会および社会における主な活動		
平成20年4月～平成26年6月	兵庫県病院薬剤師会　情報委員	
平成23年4月	東日本大震災　災害医療支援活動	

（基礎資料15）専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名　兵庫医療大学	講座名　有機化学	職名　助教	氏名　吉岡　英斗
Ⅰ　教育活動			
教育実践上の主な業績		年　月　日	概　　要
1　教育内容・方法の工夫			
有機化学実習におけるスモールグループディスカッションを通じた実習内容の理解の支援		平成20年10月から現在まで	有機化学実習では、単に実験操作を行うだけにならないように、ディスカッションに重点を置いた指導を行っている。毎回、実習の始めに、講義室を利用してその日の実習内容や実験操作を説明し、十分理解させた後、実習を開始するようにしている。さらに、実習の最後に教員とのディスカッションを行い、それを終えた班から帰宅させるようにしている。特に、未知検体の同定を行う実習では、いくつかの確認試験から得られる実験結果をもとに、物理化学的性質を含めた知識を総動員しての考察が必要な内容であるため、実習終了まで複数回のディスカッションを繰り返し、未知検体が何かを、学生自らが見出せるように導いている。
天然薬物学実習における実習内容の理解の支援		平成21年5月から現在まで	分野をまたぐ知識習得を前提として、エバポレーターの原理や減圧蒸留・分留について説明をしたり、NMRの原理やチャートの判別について解説したり、担当教員の1人として積極的に指導を行っている。また、実習の最後にディスカッションが行われるが、平成24年度からは、私もディスカッションに加わり、学生の復習、実習レポート作成の助けになるよう努めている。
課外の少人数学習支援		平成20年4月から現在まで	長期密着ゼミナールとして、主に3年生以上を対象に10名程度の学生と課外演習・実習を毎週木曜日に行っている。演習は、薬剤師国家試験の過去問題を基本に、簡単な択一式問題から数工程の反応を学ぶ応用問題まで、有機化学を理解するために有効だと考えられる問題を出題している。難問に関しては、次週までの宿題とし、自己学習を行わせるように工夫している。長密ゼミは少人数であるので、気さくな雰囲気を心掛けつつ、個々の学生の解答状況を見ながら問題解説を行い、学生自ら解答するように心掛けている。実際に参加する学生の学力には違いがあるので、低学力者にも役立つ内容になるように、前後期の講義の内容にある程度沿うように心掛けている。また、余裕のある希望学生には、簡単な実習を通して、研究室の雰囲気を体験してもらっている。
2　作成した教科書、教材、参考書			有機化学実習書の作成と改訂を行っている。初年度は、他の化学系の先生方と協力し、新たに本学の有機化学実習書を作成した。基本操作（分液操作、蒸留、TLC）、種々の有機反応、機器分析（IR、NMR）、未知検体の同定など、有機化学の知識を全体的に広く含む実習書を作成し

学生実習書（兵庫医療大学薬学部）	平成20年5月から現在まで	た。未知検体の同定では、種々の医薬品を未知検体として用い、日本薬局方に記載されている定性反応などをもとにその化学的性質から医薬品の構造式を推定させることに力点を置いた。また、実習書に関しては、日本薬局方の改訂に伴う対応、学生の意見や理解度の反映、1年次カリキュラム変更に伴う新たな項目の追加、章末問題の更新など、毎年改訂を行っている。
３　教育方法・教育実践に関する発表、講演等		なし。
４　その他教育活動上特記すべき事項		
OSCE関連	平成21年3月	本学実施のOSCEトライアル（平成21年3月14日）に評価者として参加した。
	平成21、22、24、25、26年各12月	他大学実施のOSCE（平成21年12月20日、平成22年12月12日、平成24年12月23日、平成25年12月15日、平成26年12月21日）に評価者として参加した。
	平成22、23年12月	本学実施のOSCE（平成22年12月26日、平成23年12月25日）に評価者として参加した。
	平成24年12月から現在まで	本学実施のOSCE（平成24年12月24日、平成25年12月1日、平成26年12月7日）にOSCE運営者として、計画、設置、運営に携わっている。
実務実習関連	平成26年8月	「第73回認定実務実習指導薬剤師養成のためのワークショップ」に参加し、薬学教育の問題とその対応などについてスモールグループディスカッションを通じて議論した。
アドバイザー（新入生支援）	平成20年4月から平成25年3月まで	本学の新入生支援として、薬・看護・リハビリテーション学部横断の少人数グループでの大学生活を支援した。
外国人学生の日本での活動支援	平成20年10月から平成22年3月まで	宮部教授の指導のもと、中国からの留学生（肯特夫）の研究活動と日本語、有機化学教育について指導を行い、他大学の大学院博士前期課程への進学を支援した。
	平成21年4月から平成22年3月まで	宮部教授の指導のもと、中国からの留学生（Sachuronggui）の研究活動と日本語、有機化学教育について指導を行い、他大学の研究生としての移籍を支援した。
	平成22年4月から平成23年3月まで	宮部教授の指導のもと、中国からの留学生（王欣）の研究活動と日本語、有機化学教育について指導を行い、他大学の大学院博士前期課程への進学を支援した。

Ⅱ　研究活動

１．著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所、発表雑誌（巻・号数）等の名称
（著書） Photocatalytic Hydrogenation on Semiconductor Particles S. Kohtani, E. Yoshioka, H. Miyabe	共著	2012年10月	Hydrogenation. Ed. Karame, I., INTECH: Croatia, Chap. 12, pp 291-308, 2012.
（論文） [4+2] Cycloaddition of intermediates generated from arynes and DMF E. Yoshioka, H. Tamenaga, and H. Miyabe	共著	2014年2月	Tetrahedron Lett., 2014, 55 (8), 1402-1405.

（論文） Straightforward Synthesis of Dihydrobenzofurans and Benzofurans from Arynes E. Yoshioka, H. Tanaka, S. Kohtani, and H. Miyabe	共著	2013年7月	Org. Lett., 2013, 15 (15), 3938-3941.
（論文） Polarity-Mismatched Addition of Electrophilic Carbon Radicals to Electron Deficient Acceptor: Cascade Radical Addition-Cyclization-Trapping Reaction E. Yoshioka, S. Kohtani, K. Sawai, Kentefu, E. Tanaka, and H. Miyabe	共著	2012年9月	J. Org. Chem., 2012, 77 (19), 8588-8604.
（論文） A Multicomponent Coupling Reaction Induced by Insertion of Arynes into the C=O Bond of Formamide E. Yoshioka, S. Kohtani, and H. Miyabe	共著	2011年5月	Angew. Chem. Int. Ed., 2011, 50 (29), 6638-6642.

２．学会発表（評価対象年度のみ）	発表年・月	学会名
（演題名） ベンザインのC=O二重結合への挿入反応を基盤とした多成分連結反応の開発【シンポジウム「有機合成化学の若い力」、招待講演】 ○吉岡 英斗、宮部豪人	2015年3月	日本薬学会第135年会（神戸 中央区）
（演題名） 酸化チタン上で起こるフッ素化アセトフェノン誘導体の光水素化反応と光脱フッ素化反応に関する考察 ○甲谷 繁、黒川 拓哉、吉岡 英斗、宮部豪人	2014年10月	2014年光化学討論会（札幌 中央区）
（演題名） ローダミンBの励起一重項状態からの光誘起電子移動： パーフルオロアルキルラジカル有機反応への応用 吉岡 英斗、○甲谷 繁、寺中 孝久、深澤 拓也、長井 豊和、中川 僚太郎、竹本 佳司、宮部豪人	2014年10月	2014年光化学討論会（札幌 中央区）
（演題名） 色素増感酸化チタン光触媒による芳香族カルボニル化合物の可視光水素化反応 ○甲谷 繁、西岡早希、森みづ穂、吉岡 英斗、宮部豪人	2014年10月	2014年光化学討論会（札幌 中央区）
（演題名） ベンザインとホルムアミドとの〔２＋２〕型反応を基盤とした多成分連結反応 ○吉岡 英斗、田中 秀和、爲永浩史、甲谷 繁、宮部豪人	2014年10月	第64回日本薬学会近畿支部総会大会（京都 山科区）
（演題名） 塩化鉄を用いたビシクロラクタム環の構築 ○吉岡 英斗、池田 朋子、井元 勇希、吉川 知宏、中野 博明、甲谷 繁、宮部豪人	2014年9月	第44回複素環化学討論会（札幌 中央区）

Ⅲ　学会および社会における主な活動	
	なし。

（基礎資料15）専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名　兵庫医療大学	講座名　漢方医学	職名　助教	氏名　王　勝蘭

Ⅰ　教育活動

教育実践上の主な業績	年　月　日	概　要
１　教育内容・方法の工夫 （授業評価等を含む）		なし。
２　作成した教科書、教材、参考書		なし。
３　教育方法・教育実践に関する発表、講演等		なし。
４　その他教育活動上特記すべき事項 （FDを含む）		なし。

Ⅱ　研究活動

１．著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所、発表雑誌　（巻・号数）等の名称
（論文）Yoshida N, Kobayashi K, Yu L, Wang S, Na R, Yamamoto S, Noguchi K, Dai Y. Inhibition of TRPA1 channel activity in sensory neurons by the glial cell line-derived neurotrophic factor family member,	共著	平成23年5月	Mol Pain.　27;7:41.
（論文）Wang S, Dai Y, Kobayashi K, Zhu W, Kogure Y, Yamanaka H, Wan Y, Zhang W, Noguchi K. Potentiation of the P2X3 ATP receptor by PAR-2 in rat dorsal root ganglia neurons, through protein kinase-dependent mechanisms, contributes to inflammatory pain.	共著	平成24年8月	Eur J Neurosci. 36(3):2293-301.
（論文）Yu L, Wang S, Kogure Y, Yamamoto S, Noguchi K, Dai Y. Modulation of TRP channels by resveratrol and other stilbenoids.	共著	平成25年2月	Mol Pain. 15;9(1):3.
（論文）Wang S, Dai Y, Kogure Y, Yamamoto S, Zhang W, Noguchi K. Etodolac activates and desensitizes transient receptor potential ankyrin 1.	共著	同　年12月	J Neurosci Res.91(12):1591-8.
（論文）Hao Y, Nagase K, Hori K, Wang S, Kogure Y, Fukunaga K, Kashiwamura S, Yamamoto S, Nakamura S, Li J, Miwa H, Noguchi K, Dai Y. Xilei san ameliorates experimental colitis in rats by selectively degrading proinflammatory mediators and promoting	共著	平成26年7月	Evid Based Complement Alternat Med.

２．学会発表（評価対象年度のみ）	発表年・月	学会名
（演題名）Etodolac activates and desensitizes TRPA1	平成25年12月	日本運動器疼痛学会
（演題名）Evodiamine activates transient receptor potential V1 as a partial agonist	平成26年11月	Society for Neuroscience

Ⅲ　学会および社会における主な活動

平成25年1月～現在	日本薬理学学会会員
平成25年7月～平成26年7月	日本運動器疼痛学会会員
平成26年6月～現在	Society for Neuroscience 会員